

平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書

町有地整備に伴う遺跡発掘調査

平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書

2015. 3

岩手県洋野町教育委員会



平内Ⅱ遺跡 調査区全景とその周辺



I号竖穴住居跡 炭化材出土状況



Pit13(主柱穴)内
底面付近遺物出土状況



炭化材（炭3・炭4）



炭化材（炭17・炭18・炭19）

C区 1号竖穴住居跡

平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書

町有地整備に伴う遺跡発掘調査

序

洋野町は岩手県の最北端に位置し、北は青森県三戸郡階上町、西は軽米町、南は久慈市、東は太平洋に接し、海と高原に囲まれた自然豊かな町です。平成18年1月1日、旧種市町と旧大野村が合併して洋野町が誕生しました。

町内には現在203ヵ所の遺跡が登録されています。先人の残したこれらの文化遺産を保護し、保存していくことは私たち町民に課せられた重大な責務であります。

本報告書は、町有地整備に伴う平内Ⅱ遺跡の埋蔵文化財調査の報告をまとめたものです。この調査の結果が今後この地域の歴史を解明する上で、いささかでもお役に立てれば幸いです。また、本書が関係者はもちろん、広く町民の方々に活用され、埋蔵文化財に対する理解と保護に多少なりとも寄与されることを願っております。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書作成にあたり、多大なご助言ご協力をいただきました関係者の方々に厚く御礼を申し上げます。

平成27年3月

洋野町教育委員会

教育長　麦澤　正剛

例　　言

1. 本報告書は、岩手県九戸郡洋野町種市平内地区内第43地割100-17ほかに所在する、平内Ⅱ遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
2. 本遺跡の調査は、町有地整備に伴う事前の緊急発掘調査であり、緊急雇用創出事業を導入し、野外調査作業並びに室内整理作業を洋野町地域活動交流センターに委託し実施した。
3. 本遺跡の岩手県遺跡台帳の遺跡番号はIF48-0017である。
4. 調査主体者 洋野町教育委員会
担当者 千田政博
5. 調査指導 岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課
6. 資料の分析、鑑定については下記の方々、機関に依頼した。（順不同・敬称略）
遺跡の地質調査：日本地質学会会員 松山力
石器の石材鑑定：花崗岩研究会（代表：矢内桂三）
遺構等の自然科学分析：パリノ・サーヴェイ株式会社
7. 遺跡等の依頼原稿について執筆者の氏名は、文頭に記載してある。
8. 第Ⅳ章並びに付編を除き本報告書の執筆・編集・構成は千田政博が担当した。
9. 野外調査、室内整理作業及び本報告書の作成等に際しては、下記の方々、機関からご指導、ご助言、ご協力を賜った。記して感謝申し上げます。（五十音順、敬称略）
青森県埋蔵文化財調査センター、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、八戸市埋蔵文化財センターは川穂文館、市川健夫、伊藤航、井上雅孝、亨坪祐樹、小久保拓也、齊藤慶史、柴田知仁、杉山陽亮、田中美穂、千葉啓祐、藤田直行、船場昌子、村木淳、森淳、横山寛剛
10. 野外調査においては、次の方々にご協力いただいた。（五十音順、敬称略）
安藤七夫、一郷勝、一郷真知子、大村富吉、大村富男、川口トセ、北澤ユミ、小林ムツ子、坂本このみ、鶴山祐子、流田喜男、田高石太郎、鶴野隆、田中セイ、天満隆、中村茂樹、長根信勝、泥津茂男、野口小枝子、野田一、濱道千枝子、東山ウタ子、東山ユウ子、東山良子、日影達造、日當岩次郎、村山京子、村山レイ、山崎ユリ、林郷ユリ
11. 遺構実測作図、室内整理、報告書作成にあたって、次の機関にご協力いただいた。（五十音順、敬称略）
磯谷秀子、一郷真知子、上野かづ子、金濱美雄子、北野津佳代子、黒坂恵子、坂本恵美子、佐藤美津子、下田麗花、門口智美、土畠直美、西山美子、橋本主太
12. 土層の観察は「新版標準土色帖」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財團法人日本色彩研究所色票監修 33版）を用いた。
13. 座標点の測量及び空中写真撮影は、次の機関に委託した。
座標点の測量：株式会社藤森測量設計
空中写真撮影：水沢ラジコン
14. 出土した石器の実測図作成の一部を次の機関に委託した。
株式会社ラング
15. 調査で得られた出土遺物や整理に関わる諸記録等については、洋野町教育委員会で保管、管理している。
16. 引用・参考文献については文末に収めた。

目 次

序
例 言
目 次
凡 例

本 文

I. 調査に至る経緯.....	2
II. 調査の概要.....	2
1. 野外調査について.....	2
2. 室内整理作業について.....	3
III. 洋野町内の遺跡.....	4
IV. 遺跡の土層序.....	15
1. 調査区の位置と地形・地質.....	15
2. 遺跡の層序.....	15
V. 検出された遺構と遺物.....	23
1. A区.....	23
2. B区.....	27
3. C区.....	64
VI. 遺構外出土遺物.....	90
1. 土器.....	90
2. 土製品.....	91
3. 石器.....	91
4. 石製品.....	93
5. その他.....	93
VII. 調査のまとめ.....	141
1. 遺構と遺構内出土遺物.....	141
2. 遺構外出土遺物.....	143
3.まとめ.....	143
付編	
平内 II 遺跡の自然科学分析.....	150
写真図版.....	183
報告書抄録.....	260

表

第1表 町内の遺跡一覧 (1).....	10	第3表 土器観察表 (8).....	128
第1表 町内の遺跡一覧 (2).....	11	第3表 土器観察表 (9).....	129
第1表 町内の遺跡一覧 (3).....	12	第3表 土器観察表 (10).....	130
第1表 町内の遺跡一覧 (4).....	13	第3表 土器観察表 (11).....	131
第1表 町内の遺跡一覧 (5).....	14	第4表 土製品観察表.....	132
第2表 道構一覧表 (1).....	117	第5表 石器観察表 (1).....	133
第2表 道構一覧表 (2).....	118	第5表 石器観察表 (2).....	134
第2表 道構一覧表 (3).....	119	第6表 石製品観察表 (1).....	134
第2表 道構一覧表 (4).....	120	第5表 石器観察表 (3).....	135
第3表 土器調査表 (1).....	121	第5表 石器観察表 (4).....	136
第3表 土器調査表 (2).....	122	第5表 石器観察表 (5).....	137
第3表 土器観察表 (3).....	123	第5表 石器観察表 (6).....	138
第3表 土器観察表 (4).....	124	第5表 石器観察表 (7).....	139
第3表 土器調査表 (5).....	125	第6表 石製品観察表 (2).....	140
第3表 土器調査表 (6).....	126	第7表 その他観察表.....	140
第3表 土器観察表 (7).....	127		

図 版

第1図 遺跡位置図.....	1	第34図 BK 2号溝跡.....	62
第2図 町内の遺跡.....	9	第35図 CK 造構配置図	63
第3図 土層対比図.....	19	第36図 CK 1号堅穴住居跡 (1).....	65
第4図 調査区周辺の地形とグリッド配置図.....	21	第37図 CK 1号堅穴住居跡 (2).....	66
第5図 BK 造構配置図	22	第38図 CK 1号堅穴住居跡 (3).....	67
第6図 AK 溝状上坑TP57～TP59 造構内出土物遺物.....	24	第39図 CK 1号堅穴住居跡出土遺物 (1).....	68
第7図 AK 集石	25	第40図 CK 1号堅穴住居跡出土遺物 (2).....	69
第8図 BK 造構配置図	26	第41図 CK 1号堅穴住居跡出土遺物 (3).....	70
第9図 BK 1号屋外炉	27	第42図 CK 1号堅穴住居跡出土遺物 (4).....	71
第10図 BK 1号屋外炉出土遺物.....	28	第43図 CK 2号堅穴住居跡 (1).....	73
第11図 BK 2号屋外炉.....	29	第44図 CK 2号堅穴住居跡 (2).....	74
第12図 BK 2号屋外炉出土遺物.....	30	第45図 CK 2号堅穴住居跡 (3).....	75
第13図 BK 土坑SK56・SK57	32	第46図 CK 2号堅穴住居跡出土遺物 (1).....	76
第14図 BK 土坑SK58～SK60	33	第47図 CK 2号堅穴住居跡出土遺物 (2).....	77
第15図 BK 土坑SK61～SK64	34	第48図 CK 2号堅穴住居跡出土遺物 (3).....	78
第16図 BK 溝状上坑TP60～TP61	44	第49図 CK 土坑SK65	79
第17図 BK 溝状上坑TP62～TP65	45	第50図 CK 溝状上坑TP116～TP119	84
第18図 BK 溝状上坑TP66～TP69	46	第51図 CK 溝状上坑TP120～TP123	85
第19図 BK 溝状上坑TP70～TP73	47	第52図 CK 溝状上坑TP124～TP127	86
第20図 BK 溝状上坑TP74～TP77	48	第53図 CK 溝状上坑TP128～TP132	87
第21図 BK 溝状上坑TP78～TP81	49	第54図 CK 溝状上坑TP133～TP137	88
第22図 BK 溝状上坑TP82～TP85	50	第55図 CK 造構内出土遺物	89
第23図 BK 溝状上坑TP86～TP89	51	第56図 CK 造構外出土遺物 土器1～33	94
第24図 BK 溝状上坑TP90～TP93	52	第57図 CK 造構外出土遺物 土器34～53	95
第25図 BK 溝状上坑TP94～TP97	53	第58図 CK 造構外出土遺物 土器54～81	96
第26図 BK 溝状上坑TP98～TP100	54	第59図 CK 造構外出土遺物 土器82～92	97
第27図 BK 溝状上坑TP101～TP103	55	第60図 CK 造構外出土遺物 土器93～112	98
第28図 BK 溝状上坑TP104～TP106	56	第61図 CK 造構外出土遺物 土器113～133 土製品134～135	99
第29図 BK 溝状上坑TP107～TP110	57	第62図 CK 造構外出土遺物 石器136～151	100
第30図 BK 溝状上坑TP111～TP113	58	第63図 CK 造構外出土遺物 石器152～158	101
第31図 BK 溝状上坑TP114～TP115	59	第64図 CK 造構外出土遺物 石器159～166	102
第32図 BK 造構内出土遺物	60	第65図 CK 造構外出土遺物 石器167～171	103
第33図 BK 1号溝跡	61	第66図 CK 造構外出土遺物 石器172～180	104

第67回	遺構外出土遺物	石器181~186	105	第75回	遺構外出土遺物	石器221~226	113
第68回	遺構外出土遺物	石器187~191	106	第76回	遺構外出土遺物	石器227~231	114
第69回	遺構外出土遺物	石器192~195	107	第77回	遺構外出土遺物	石器232~235	115
第70回	遺構外出土遺物	石器196~200	108	第78回	遺構外出土遺物	石器236~237	116
第71回	遺構外出土遺物	石器201~207	109	第79回	平成11~13年度・平成23~25年度 全遺構配置図	石製品238~240 その他241	116 145~148
第72回	遺構外出土遺物	石器208~213	110				
第73回	遺構外出土遺物	石器214~217	111				
第74回	遺構外出土遺物	石器218~220	112				

写 真 図 版

写真図版 1	道路沿景・近景	184	写真図版 39	C 区 1号堅穴住居跡 (1)	222
写真図版 2	A 区 調査区全景	185	写真図版 40	C 区 1号堅穴住居跡 (2)	223
写真図版 3	A 区 調査区近景	186	写真図版 41	C 区 1号堅穴住居跡 (3)	224
写真図版 4	A 区 深掘土層序	187	写真図版 42	C 区 1号堅穴住居跡 (4)	225
写真図版 5	A 区 溝状土坑TP57~TP59	188	写真図版 43	C 区 1号堅穴住居跡出土遺物 (1)	226
写真図版 6	A 区 2号集石 溝状土坑遺構内出土遺物	189	写真図版 44	C 区 1号堅穴住居跡出土遺物 (2)	227
写真図版 7	B 区 調査区全景	190	写真図版 45	C 区 1号堅穴住居跡出土遺物 (3)	228
写真図版 8	B 区 調査区近景	191	写真図版 46	C 区 2号堅穴住居跡 (1)	229
写真図版 9	B 区 深掘土層序	192	写真図版 47	C 区 2号堅穴住居跡 (2)	230
写真図版 10	B 区 1号屋外炉・2号屋外炉 (1)	193	写真図版 48	C 区 2号堅穴住居跡 (3)	231
写真図版 11	B 区 1号屋外炉・2号屋外炉 (2) 1号屋外炉出土遺物	194	写真図版 49	C 区 2号堅穴住居跡出土遺物 (1)	232
写真図版 12	B 区 2号屋外炉出土遺物	195	写真図版 50	C 区 2号堅穴住居跡出土遺物 (2)	233
写真図版 13	B 区 土坑SK56~SK59	196	写真図版 51	C 区 土坑SK65 溝状土坑TP116~TP117	234
写真図版 14	B 区 土坑SK60~SK63	197	写真図版 52	C 区 溝状土坑TP118~TP120	235
写真図版 15	B 区 土坑SK64 溝状土坑TP60~TP61	198	写真図版 53	C 区 溝状土坑TP121~TP123	236
写真図版 16	B 区 溝状土坑TP62~TP64	199	写真図版 54	C 区 溝状土坑TP124~TP126	237
写真図版 17	B 区 溝状土坑TP65~TP67	200	写真図版 55	C 区 溝状土坑TP127~TP129	238
写真図版 18	B 区 溝状土坑TP68~TP70	201	写真図版 56	C 区 溝状土坑TP130~TP132	239
写真図版 19	B 区 溝状土坑TP71~TP73	202	写真図版 57	C 区 溝状土坑TP133~TP135	240
写真図版 20	B 区 溝状土坑TP74~TP76	203	写真図版 58	C 区 溝状土坑TP136~TP137	241
写真図版 21	B 区 溝状土坑TP77~TP79	204	写真図版 59	C 区 遺構内出土遺物	242
写真図版 22	B 区 溝状土坑TP80~TP82	205	写真図版 60	遺構外出土遺物 上器 1~33	243
写真図版 23	B 区 溝状土坑TP83~TP85	206	写真図版 61	遺構外出土遺物 上器 34~53	244
写真図版 24	B 区 溝状土坑TP86~TP88	207	写真図版 62	遺構外出土遺物 上器 54~81	245
写真図版 25	B 区 溝状土坑TP89~TP91	208	写真図版 63	遺構外出土遺物 上器 82~92	246
写真図版 26	B 区 溝状土坑TP92~TP94	209	写真図版 64	遺構外出土遺物 上器 93~113	247
写真図版 27	B 区 溝状土坑TP95~TP97	210	写真図版 65	遺構外出土遺物 上器 114~133	248
写真図版 28	B 区 溝状土坑TP98~TP100	211	写真図版 66	遺構外出土遺物 石器 136~158	249
写真図版 29	B 区 溝状土坑TP101~TP103	212	写真図版 67	遺構外出土遺物 石器 159~177	250
写真図版 30	B 区 溝状土坑TP104~TP106	213	写真図版 68	遺構外出土遺物 石器 178~187	251
写真図版 31	B 区 溝状土坑TP107~TP109	214	写真図版 69	遺構外出土遺物 石器 188~193	252
写真図版 32	B 区 溝状土坑TP110~TP112	215	写真図版 70	遺構外出土遺物 石器 194~198	253
写真図版 33	B 区 溝状土坑TP113~TP115	216	写真図版 71	遺構外出土遺物 石器 199~205	254
写真図版 34	B 区 1号溝跡・2号溝跡	217	写真図版 72	遺構外出土遺物 石器 206~216	255
写真図版 35	B 区 遺構内出土遺物	218	写真図版 73	遺構外出土遺物 石器 217~227	256
写真図版 36	C 区 調査区全景	219	写真図版 74	遺構外出土遺物 石器 228~235	257
写真図版 37	C 区 調査区近景	220	写真図版 75	遺構外出土遺物 石器 236~237	258
写真図版 38	C 区 深掘土層序 1号堅穴住居跡・2号堅穴住居跡	221			

凡　　例

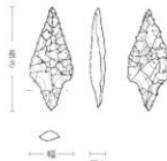
1. 遺構図版の縮尺は、竪穴住居跡・屋外炉・土坑・溝状土坑・溝1/60、集石1/10である。
2. 本書で使用する遺構表示記号は下記による。
SI：竪穴住居跡 SK：土坑 TP：溝状土坑 SX：屋外炉 SD：溝跡
3. 遺構の番号については、同遺跡で平成11年度から平成13年度まで行われた本発掘調査の調査報告である「平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書」（種市町埋蔵文化財調査報告書第1集・平成15年度刊行）並びに「平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書」（洋野町埋蔵文化財調査報告書第1集・平成24年度刊行）にて報告した遺構番号に継続して付したものである。
4. 遺構層位は、土層対比図にはローマ数字、各遺構覆土等に算用数字を使用した。
5. 本報告書に収載した遺構実測図に付した方位は、国家座標第X系による座標北を示す。
6. 掲載した地形図（遺跡位置図）は、国土地理院発行の50,000分の1の地形図、町内の遺跡ドット図には25,000分の1の洋野町管内図を複写して使用した。
7. 遺構写真図版は縮尺不定である。掲載順は遺構図版と同様である。
8. 遺物写真については、土器1/3、土製品2/3、剥片石器2/3、礫石器1/3及び1/6、石製品2/3とした。掲載順は遺物図版と同様である。
9. 株式会社ラングに委託し作成した実測図は下記のとおりである。
 - (1) 遺構出土石器 1号竪穴住居跡出土石器NoSI1-23～SI1-37、2号竪穴住居跡出土石器NoSI2-14～SI2-28
 - (2) 遺構出土石器 No137、140、142～145、147、148、156、157、159、165、167、169、171、173、175
10. 遺物図版の縮尺は、土器実測図1/3、土器拓影図1/3、土製品実測図2/3、剥片石器実測図2/3、礫石器実測図1/3及び1/6、石製品実測図2/3及び1/6とした。
11. 遺構、遺物で使用したスクリーントーンの用例は下図に示したとおりである。
12. 遺構一覧表中の規模の（ ）は残存値（一部が調査区外等へ延びる遺構の場合の測定値を含む）、< >は推定値である。遺物観察表中の法量についても同じく残存値は（ ）、推定値は< >で表示した。

〈遺　物〉

〈遺構図版　スクリーントーン用例〉



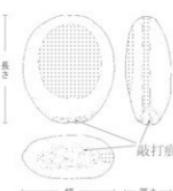
焼土



〈遺物図版　スクリーントーン用例〉



掠面





第1図 遺跡位置図

I. 調査に至る経緯

平内II遺跡は、本町事業である町有地整備に伴い、発掘調査を実施することとなったものである。調査に至る経緯は昭和48年度に遡り、旧種市町において農村地域工業導入促進法に基づく農村地域工業導入実施計画の策定に係り、当該地である平内地区（計画地区）が指定されたことに始まる。その後昭和54年度に町勢発展計画、昭和61年度に総合発展計画、そして平成8年度には第二次総合発展計画に盛り込まれ、実施計画が進められてきた。平成3年から平成4年まで平内農工団地水量調査（電気探査・ボーリング調査）を行い、平成4年度に工業団地整備について町長決裁を得たことから、用地交渉を開始した。平成9年度において用地の取得に目次が立つたことから、平内工業団地整備基本計画を策定し、平成10年度において特別会計を設け、工業団地造成に向かって実施設計に着手した。

しかし平成10年6月、埋蔵文化財について指摘があり、埋蔵文化財の所在の有無について種市町長から種市町教育長에게照会がなされた。岩手県遺跡台帳によると、当該地は文化財保護法による周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、当町では遺跡詳細分布調査を行っておらず多くの遺漏があると思われ、また当該計画区域は面積が広大であり、工業団地基本図から見ると、今まで知られていない遺跡が存在する可能性があるため、同年7月、岩手県教育委員会事務局文化課により、試掘調査が必要であると指導を受けた。これにより造成予定地を便宜的に国道45号線側から西へA・B・C・Dの4つの区に区切り、岩手県教育委員会事務局文化課の指導の下、同年11月19日～12月15日にかけて試掘調査を行い、当該地は全域埋蔵文化財包蔵地であることが確認され、平内II遺跡として岩手県遺跡台帳に登録された。これを受け翌11年4月、町企画開発課との協議で、造成工事は用地西側から開始したいとの要望でD区から調査を開始することになった。同年5月、D区の範囲確認調査を行い、6月28日よりD区の一部本調査を開始した。翌平成12年度はD区の本調査を行い、平成13年度はD区の一部とC区の一部の調査を行ったが、平成13年度をもって発掘調査が中断し、平成17年度に特別会計が廃止され、平内工業団地造成は中止となつた。

その後平成23年度に町有地整備に係る埋蔵文化財発掘調査を再び行うこととなり、平成23年度はC区の一部の調査を行つた。平成23年度調査の発掘調査報告書は平成24年度に刊行済み（平野町埋蔵文化財発掘調査報告書第1集「平内II遺跡発掘調査報告書」）である。

平成24年度はA区とB区の約半分の発掘調査を行い、平成25年度はB区の残りの部分とC区の発掘調査を行つた。本書はその調査報告書である。

II. 調査の概要

1. 野外調査について

平成11年度に平内工業団地整備に係る発掘調査に着手する際、調査地が南北方向520m、東西方向600mの広範囲に及ぶことから、全体を共通の座標でカバーするために平面直角座標X系にのせて区画を設定したものであるが、日本測地系成果値で設定したため前回報告では日本測地系成果値の座標値であった。本報告では世界測地系成果の座標値を当てはめたグリッド配置図を作成した。区画原点は第X系X = 47820.000m, Y = 72100.000mで、この原点から東方及び北方へ一辺20mの大区画を設定した。区画名は南北方向のXラインにはAからZまでの26文字のアルファベットを順に与え、東西方向のYラインには0から30までの算用数字を付した。グリッド設定のために設置した基準点の成果値は以下の通りである。

基準点1 X=48220.000 Y=72580.000 H=30.809 (A区)

基準点2 X=48260.000 Y=72600.000 H=25.933 (A区)

基準点3 X=48180.000 Y=72520.000 H=34.411 (B区)

基準点4 X=48220.000 Y=72500.000 H=33.467 (B区)

基準点5 X=48020.000 Y=72280.000 H=40.355 (C区)

A区は北東方向に傾斜する丘陵地形で、標高差は6m以上あり、斜面下方は丘陵上から流れ込んだと思われる黒色土が厚く堆積している。平成10年度に行った試掘調査に基づき、遺物量が希少であることから重機を使用して表土を取り除き遺構確認を行った。

B区は起伏が少なくほぼ平坦で、南西端が傾斜する丘陵地形である。調査前の当区は赤松の木が高い密度で植林されていたため、岩手県教育委員会が平成10年度に行った試掘調査では、南東側の一部しか行えなかったことから、試掘の未調査の部分について手振りによる試掘調査を行なった。遺物量が希少であることから重機を使用して表土を取り除き遺構確認を行った。

C区もほぼ起伏のない平坦面で、平成13年度に行った試掘調査では、一部が水田整備に伴い削平されていることが確認され、また、遺物量が希少であることから重機を使用して表土を取り除き遺構検出を行った。遺構の検出においては、調査面積が広く斜面地形も含むため堆積状況が異なっており、本報告書の第IV章遺跡の土層序において掲載されている松山力氏が区分した土層対比図の第IV層～VI層（19頁第3図）を行った。

遺構の精査については、堆積土層の観察用セクションベルトを4分割または2分割を基本として設定し、土層の堆積状況の確認や記録を行い完掘した。遺構内堆積土は上位から下位に算用数字を付し、土層観察の注記は標準土色帖に取り記録した。遺構内堆積土層断面の実測は簡易造り方測量で行い、遺構の平面実測についても1m×1mのメッシュに区切り簡易造り方測量で行った。実測図の縮尺の基準は1/20とし、集石のみ1/5として作成した。遺構配置図は株式会社CUBICの「遺構実測支援システム（遺構くん）」を用いてトータルステーションによる測量で作成した。遺構の名称は野外調査で検出順に仮称番号を設定し、室内整理作業において新たに番号を付け登録した。

野外調査での写真撮影は遺構、遺物の検出状況や出土状況に応じて適宜行うこととし、35mmカメラ2台（モノクローム・カラーリバーサル）を主に使用し、補助・記録用としてデジタルカメラを使用した。調査の終盤段階で6×7カメラ2台（モノクローム・カラーリバーサル）による俯瞰写真撮影を行い、調査区直上の全景写真を航空写真撮影（デジタルカメラ）業務委託として行った。

2. 室内整理作業について

室内整理作業は、野外調査終了後、遺物整理作業、報告書編集作業を行った。遺物については、水洗後注記作業を行い、各グリッド、遺構毎の仕分け、接合、復元の順に進めた。土器類は報告書掲載用のものを選別後、登録作業、実測、折影図作成、トレース、写真撮影を行った。石器類は器種毎に登録し、実測、トレース、撮影を行い、遺物図版、遺物写真図版を作成した。

野外調査で作成した図面は、原図の標高等の確認、断面図の点検をし、必要に応じて第2原図を作成した。その後トレース作業を行い、遺構図版を作成した。そして遺構図版、遺物図版、遺構・遺物写真図版の図版組を行った。

また、これらの作業と併行し出土遺物の計測、石器の石材鑑定、自然科学分析等を行い、原稿を執筆した。

III. 洋野町内の遺跡

洋野町内に所在する遺跡は、平成26年（2014）4月現在、岩手県遺跡台帳によると203遺跡が登録されている。前回の報告（平成24年度）では登録が193箇所であったが、八戸久慈自動車道整備に伴う試掘調査により新規発見遺跡が追加された。

町内遺跡詳細分布調査は、旧種市町が行った平成16年度（2004）の角浜・伝吉・平内・麦沢（姥沢地区）地区の調査のみである。町内遺跡詳細分布調査の調査計画では町内を6地区に分けて実施する予定であったが、調査はそのうちの1地区しか実施されておらずほとんどが未調査である。旧大野村分についても実施しておらず、町内には未発見の遺跡が多く所在するとみられる。なお、旧種市町分については、岩手大学草間俊一教授により昭和30年（1955）から昭和36年（1961）にかけて踏査と発掘調査が行われ、昭和38年（1963）に「種市の歴史（原稿一中世）種市町諸遺跡の調査報告」として種市町役場から刊行されているものの、本発掘調査の事例が極めて少なく町内の遺跡の様相については不明な部分が多い。

旧石器時代の遺跡の登録はないが「角川日本地名大辞典3」によると、旧石器遺物出土遺跡として鉄山遺跡（大谷鉄山か？）、有家遺跡（上のマッカ遺跡か？）が紹介されている。和座川上流の河岸段丘上に立地する鉄山遺跡から石刀・剥片・敲石が出土し、海岸段丘上に立地する有家遺跡から石斧・剥片が出土し、いずれも高館火山層最上部から発見されたとある。しかし、遺跡の名称は現在登録されているものに該当せず詳細は不明である。

縄文時代の遺跡数は151遺跡を数える。草創期の遺跡はないが、平内II遺跡より約9キロ離れた青森県三戸郡階上町平内地区にある瀧端遺跡からは爪形文土器などが出土している。また、階上町に隣接する八戸市南郷区黄櫻遺跡、洋野町に隣接する軽米町馬場野II遺跡でも草創期の土器が出土しているので、町内からも出土する可能性がある。

早期の遺跡としてゴッソー遺跡（20）、大平遺跡（32）、大宮I遺跡（48）、大宮II遺跡（47）などがある。大宮遺跡は、昭和36年（1961）に草間教授により発掘された遺跡で、A・B・Cの3地区に分けて調査が行われ報告されている。A・B遺跡からは貝殻文土器が出土しており、特にB遺跡からは腹部に貝殻条痕、口唇部に貝殻腹縫文の土器が出土している。草間教授は、岩手県で初めて復元された貝殻文の尖底土器であり、発見されたことは多大な成果であると報告している。ゴッソー遺跡は（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（以下岩文振理文に略称する）による平成6年度（1994）の本発掘調査で、遺構には伴わないが日計式土器、魚骨回転文土器、寺の沢式土器などが出土している。

前期の遺跡として千敷平遺跡（4）、平内I遺跡（5）、ゴッソー遺跡（20）、上のマッカ遺跡（43）、藤好沢遺跡（52）などがある。ゴッソー遺跡は早期一晩期の縄文土器が出土しているが、前期初頭の遺物量が多く、特に平成6年度（1994）の岩文振理文による本発掘調査で出土したコンバス文土器や押型文土器は、岩手県で初めての出土と考えられる。同遺跡もやはり昭和36年（1961）に草間教授により発掘された遺跡で、縄文時代前期の土器を中心にして縄文早期、弥生時代の土器、土師器片を採取したとの報告がある。同遺跡では縄文土器の他に弥生土器片・土師器片・須恵器片、近世の遺物も出土している。なお、上のマッカ遺跡は昭和36年（1961）草間教授の調査により、貝塚が存在する可能性が指摘されている。

中期の遺跡として角川日I遺跡（3）、千敷平遺跡（4）、北ノ沢I遺跡（163）などがある。特に千敷平遺跡は開拓時に石棒が多数出土し、配石・集石の様なものも見られたと伝えられている。

後期の遺跡として平内II遺跡（65）の他、たけの子遺跡（21）、上岡谷遺跡（31）、長板遺跡（39）、上のマッカ遺跡（43）、石倉遺跡（56）、上水沢II遺跡（92）などがある。上岡谷遺跡は採取された遺物から平内II遺跡と同時期と考えられる。上水沢II遺跡は平成12年（2000）に岩文振理文により本発掘調査が行われ、堅穴住居跡13棟、住居状の遺構4棟、土坑36基、柱穴状土坑158基、焼土遺構9基、埋設土器遺構1カ所が検出された。堅

穴住居跡は縄文時代前期、後期、弥生時代のものが発見されているが、縄文時代後期のものが11棟と最も多い。出土した遺物は縄文土器・弥生土器、石器、土製品、アスファルト塊などが発見されている。

晩期の遺跡としてたけの子遺跡（21）、大平遺跡（32）、戸類家遺跡（61）、田ノ沢遺跡（63）、ニサクドウ遺跡（58）などがある。特にたけの子遺跡は町内で晩期を代表する遺跡である。昭和36年度岩手県遺跡台帳作成調査において、戦争中開墾の際に多数の土器が出土し、現在は植林されており包含層は良好で重要な遺跡であるとの報告がある。洋野町立種市歴史民俗資料館収蔵の考古資料の多くはこの遺跡からの出土である。戸類家遺跡は昭和32年（1957）に慶應大学江坂輝彌氏により発掘調査が行われており、土器、石器の他に土偶が出土している。この土偶は現在慶應義塾大学考古学研究室に収蔵されている。また、昭和7年（1932）には岩手県史跡名勝天然記念物調査会委員であった小田島祿郎氏が同町を訪れており、田ノ沢遺跡、八木貝塚の出土遺物が岩手県立博物館に収蔵されている。

なお、貝塚遺跡としてホックリ貝塚（33）、八木貝塚（37）、小子内貝塚（40）、黒マッカ貝塚（41）がある。ホックリ貝塚からは岩手県で初めて縄文時代の製塙土器が出土しており、久慈市の大芦I遺跡で平成9年（1997）に発見されるまで、製塙土器が発見された県内唯一の遺跡であった。海岸付近に位置する同貝塚は、昭和24年（1949）に行われた造船所の建設工事によりほぼ埋没したといわれるが、製塙遺跡であった可能性がある。洋野町の故玉沢重作氏により製塙土器が発見され、その後岡山大学名脇教授近藤義郎氏が、芹沢長介氏、伊東信雄氏、江坂輝彌氏から情報を得て昭和35年（1960）同遺跡を調査し、土器の検討を行っている。このほか縄文時代の製塙土器は、ゴッソー遺跡の平成12年度（2000）の岩文振理文による本發掘調査でコンテナ約1箱分出土している。洋野町立種市歴史民俗資料館には、たけの子遺跡で採取された縄文時代の製塙土器片が多数収蔵されている。また、平成16年度の種市町内遺跡詳細分布調査において、南平内I遺跡（182）より製塙土器片が晩期の縄文土器とともに発見された。同遺跡は現在の汀線まで約150mの距離であるが、時代によっては汀線付近であった可能性もある。被熱した礫は採取できず炉が存在したかは不明で、残存状況も良くないため詳細は不明であるが、製塙を行った遺跡であることも考えられる。現在のところ町内で縄文時代の製塙土器が発見された遺跡は4遺跡を数える。

弥生時代の遺跡として荒巣遺跡（9）、大平遺跡（32）、大宮I遺跡（48）、大宮II遺跡（47）、上水沢II遺跡（92）などがある。上水沢II遺跡では弥生時代後期の堅穴住居跡が1棟発掘され、土器がコンテナ約1箱分出土している。先述した大宮遺跡について昭和36年（1961）の草間教授の調査では、大宮C遺跡（1区）から弥生土器片が採取され、岩泉町の赤穴遺跡と類似するとの報告がある。その他出土地不明の弥生土器片や大型壺などが、洋野町立種市歴史民俗資料館収蔵資料として数点収蔵されている。

古墳時代の遺跡については集落遺跡の確認はないが、袖山遺跡（38）において、劍型の石製模造品が表面採取されている。同品もまた故玉沢重作氏により発見されたもので、長さ4.2cm、最大幅1.5cm、厚さは最大4mm、重さは約4gで色調は暗緑灰色である。全体的に丁寧に研磨されていて、頭部には2mm四方の穿孔があり、鏽が表現されている。袖山遺跡は標高約50mの海岸段丘上に立地し、現況は山林などになっていて、主な時代は縄文時代であるが、石製模造品の他には該期の遺物は発見されていない。昭和28年（1953）に東北大學伊東信雄教授が東北地方の石製模造品の集成を行い発表した「東北地方に於ける石製模造品の分布とその意義」により同品が紹介され知られるようになった。石製模造品もまた岩手県で初めて発見され、昭和58年（1983）に一戸町馬場平遺跡から劍型の石製模造品が発見されるまで県内唯一のものであった。

奈良・平安時代の遺跡として、横手遺跡（7）、大久保遺跡（22）、黒マッカ遺跡（41）、城内遺跡（11）、ニサクドウ遺跡（58）などがある。城内遺跡からは8世紀代と考えられる土師器の長胴甕、球胴甕、瓶、土師器壺が出土している。また、草間教授の報告書によるとニサクドウ遺跡で土製支脚、土師器壺が出土した。また、同書によると遺跡名は不明であるが、角浜地区で須恵器の長頸瓶が出土したとの報告もある。

なお、二十一平遺跡（69）では古代（平安時代）の製塙土器が出土している。同遺跡は岩手県と青森県境を流

れる二十一川の南側の汀線付近に位置する。海岸整地に伴う重機の掘削により遺跡の存在が明らかになり、平成15年度（2003）に新規登録された。製塩土器片、土製支脚片が多量に散布し、被熱したような円礫もみられた。現在までにコンテナで約5箱分が採取されている。遺跡の立地、発見された遺物の状況から製塩を行った可能性が高いが、保存状況は重機の掘削により一部破壊されていると考えられる。町内には绳文時代や古代の製塩土器を伴う遺跡が多く存在することが予想され、今後製塩遺跡の発見や製塩土器の資料の増加が見込まれる。

中世の遺跡として中世城館跡の分布調査が昭和59年（1984）に岩手県教育委員会により行われている。旧種市町には16ヶ所、旧大野村では12ヶ所の計28遺跡が登録されているが、ほとんどが城主など詳細が不明である。

種市の域内地区には種市の居城である種市城が所在する。種市は中世～近世初期に当地方を領有していた三戸南部氏（後の盛岡南部氏）の家臣である。『南御藩参考諸家系図』（以後系図）によれば、種市中務（実名不詳）が三戸南部氏24代晴政から種市村、蛇口村（蛭米町）ならびに傍村賜り種市村に居住したとある。およそ16世紀半ば頃と推測されるが、それ以前のことは不明である。『奥南旧指録』には、三戸南部氏25代晴繼の股肱の臣として中務が久慈備前らと名を連ねており、三戸南部氏の有力家臣であったとみられる。系図によると、種市中務の長男光徳は同じく中務と称した。光徳は三戸南部氏26代信直（初代盛岡藩主）から種市村ならびに傍村に600石を賜ったとある。天正19年（1591）の九戸政実の乱の際、『聞老遺事』によれば信直に属し、18人の部下と鉄砲三挺、弓三張で参陣している。また、2代盛岡藩主利直の時に起きた慶長5年（1600）の岩崎合戦では、部下18人と参陣している。なお、系図には光徳の妻は根城南部氏（後の遠野南部氏）18代八戸政宗の弟新田政盛の娘であることが記されている。

その後光徳の長男孫三郎が家督を継いだ。『聞老遺事』によれば大阪夏の陣に出陣している。光徳と孫三郎父子は、初代盛岡藩主信直、二代盛岡藩主利直父子に仕え活躍した家臣であったが、孫三郎は3代盛岡藩主重直の時、罪ありということで禄を没収され、慶安2年（1649）に没している。

光徳の次男吉広は系図によれば、天正15年（1587）に初代盛岡藩主信直から閉伊口村（久慈市）を賜り住んでいたが、天正17年（1589）に蛇口村に替地を賜り、蛇口氏に姓を変えている。

岩手県道跡台帳には、平時居住していた平城の種市城跡（16）と非常時用に立てこもったとされる山城の種市城跡（17）が登録されている。平城の種市城はJR八戸線種市駅より西へ約9kmに所在し、平城跡は現在でも馬場屋敷、的場、神楽屋敷など当時の名残と思われる地名が存在する。そこから南西へ約1kmに山城の種市城が位置する。

天正18年（1590）に豊臣秀吉の朱印状により初代盛岡藩主信直が「南部内七郡」を安堵されると、八戸・九戸地方一帯は信直が直接支配することとなり、寛永4年（1627）に根城南部氏が伊達氏に対する備えを理由に遠野へ転封されると盛岡藩の直轄地になった。八戸には八戸城代が配置され、さらに八戸地方には八戸代官、九戸郡には久慈代官を派遣し支配にあたったようである。

寛文4年（1664）9月、3代盛岡藩主重直が跡継ぎを決めないままに死去した。同年11月、幕府は重直の次弟の重信と末弟の直房を呼び、盛岡藩10万石のうち8万石を重信に盛岡藩を相続させ、残り2万石を直房に与え、新規に一藩をおこさせる処置を取った。寛文5年（1665）2月、盛岡藩より領地の配分が行われ、八戸を居城とし、三戸郡41カ村、九戸郡38カ村、志和郡4カ村、都合83カ村が付与された。八戸藩は、各村の支配のため通制という行政区画を用い、三戸郡には八戸郷・名久井郷・長苗代郷、九戸郡には蛭米郷・久慈郷、志和郡には志和の行政区を設定し、各通には代官所を配置した。種市は八戸郷、大野は久慈郷に属していた。

八戸藩の主な産業は、商業、林業、漁業、製塩業、鉄産業、造船業などがあり、特に製鉄業は原料である砂鉄と燃料の薪炭材が豊富であったため盛んに行われた。製鉄に関する史料は八戸藩の藩庁の日記である目付所日記、勘定所日記、民間の史料では晴山家文書、瀬沢家文書、西町屋（石橋）文書などがあり、様相を知ることができる。製鉄の中心地は大野で、鉄山会所として日払所がおかれて、鉄山支配人が詰めて生産方を指揮した。天保

9年（1838）には大野の鉄山として玉川山、金取山、葛柄山、水沢山、大谷山、川井山、瀧山の七山があった。晴山家文書の天保8年（1837）「寛政年中より拾書」は鉄山支配人の経緯が記されているが、晴山文史郎から安永7年（1778）に祖父晴山吉三郎へ受け継がれ、その後敷入の支配人を経て、享和2年（1802）からは飛騨の浜谷（屋）茂八郎が引き継いだ。そして、文政6年（1823）には鉄山は藩営となり、石橋徳右衛門が支配人に就任して、その下支配人に父晴山吉三郎が就いた。さらに天保5年（1834）の百姓一揆後は、軽米の瀬澤円右衛門が支配人を命じられ、天保9年（1838）からは江戸の美濃屋宗（惣）三郎（家臣名金子丈右衛門）へと移って行った経過が記されている。

近世の遺跡として岩手県遭跡台帳に、製鉄関連の遺跡が17ヶ所（旧種市町分15ヶ所、旧大野村の2ヶ所）登録されている。製鉄関連の遺跡の調査については、岩手県教育委員会の製鉄関連遺跡の詳細分布調査において、旧種市町は5ヶ所の新規発見、旧大野村は35ヶ所の新規発見の遺跡が報告されている。また、元野田村教育長田村栄一郎氏によるたたら遺跡の踏査によると、旧種市町は鉄山跡12ヶ所の他、密鉄場跡や鍛冶場跡など15ヶ所、旧大野村は鉄山跡42ヶ所と鍛冶場跡の調査結果報告がある。

なお、平成16年度に旧種市町教育委員会が行った種市の角浜・伝吉・平内・麦沢地区の遺跡詳細分布調査において、鉄滓などを採取した9ヶ所を製鉄関連の遺跡として新規登録したが、時代は不明としたものの、ほとんどが近世の製鉄関連の遺跡であるとみられる。その遺跡詳細分布調査では、旧種市町168.55km²の内8.2%にあたる13.92km²の範囲から9ヶ所の新規発見があった他、鉄滓が採取されたとの聞き取り情報があつたものの確認できなかった場所が数ヶ所あった。洋野町内では鉄滓などが採取される遺跡が少なくとも60ヶ所以上にのぼり、未発見のものも含めると相当数になるとみられる。今後製鉄関連の詳細な町内全域の分布調査を行い、整理と製鉄関連遺跡分布図の作成、遺跡の登録作業が必要となる。

その他、近世の遺跡として町指定史跡の有家台場（46）がある。目付所日記によると、八戸藩では幕府から異国船警戒の命を受けて、寛政3年（1791）に鉄砲臺・目付御用掛を任命し、異国船の警戒に当たらせたようである。寛政5年（1793）の中里覚右衛門書き上げの「堅場」には「大堅」として鮫村、麦生、「小堅」として八太郎浦、湊浦、小船渡浦、有家浦、中野浦の名があげられている。藩の日記などには異国船の出没の記録がいくつかあるが、目付所日記によると文政8年（1825）有家浦の沖合15里に異国船一隻が近寄り、伝馬船二隻を出して上陸の様子をみせたので、弓・鉄砲衆など計34人の藩士が同日に派遣されたことが記されている。その後、安政元年（1854）八太郎・湊場尻・館鼻・爐越・鮫・小船渡・有家・久慈湊に台場が築かれ、有家にも陣屋堅の役人が任命された。有家台場の現況は、八戸線の建設工事などで破壊されているものの、保存状況は概ね良好で、盛土構造の一部が残存している。

製鉄以外の金・銀・銅・鉛鉱山のいわゆる非鉄鉱業について八戸藩の日記類に僅かにみられるが、盛岡藩領に比べ八戸藩領内には大きな金山ではなく、小規模な金山がいくつかあるのみであったようである。梅内家文書の慶安2年（1649）の「砂金採取運上金請取状」によると、沢尻、雪畠、小手沢、野そうけ山に金山があったことが記されている。岩手県遭跡台帳には金山跡として小手野沢金山（14）、ノゾウケ金山（23）の2遺跡が登録されている。

＜引用・参考文献＞

- 草間俊一 1963 『種市の歴史（原始一中世）種市町諸遺跡の調査報告』 種市町役場
角川書店 1985 『角川 日本地図大辞典3 岩手県』
田村栄一郎 1987 『みちのくの砂金まいづら』
伊東信雄 1953 「東北地方に於ける石製模造品の分布とその意義」『歴史第6輯』 東北史学会
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1996 『ゴツゴー遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第238集
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001 『ゴツゴー遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第357集

- (B) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2002 『上水沢II遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第391集
- 岩手県教育委員会 1986 『岩手県中世城館分布調査報告書』 岩手県文化財報告書第82集
- 岩手県教育委員会 1998 『岩手の貝塚』 岩手県文化財調査報告書第102集
- 岩手県教育委員会 2006 『岩手の製鉄遺跡』 岩手県文化財調査報告書第122集
- 種市町教育委員会 2004 『平内II遺跡発掘調査報告書』 種市町埋蔵文化財調査報告書第1集
- 種市町教育委員会 2005 『種市町内遺跡詳細分布調査報告書I』 種市町埋蔵文化財調査報告書第2集
- 洋野町教育委員会 2013 『平内II遺跡発掘調査報告書』 洋野町埋蔵文化財調査報告書第1集
- 種市町立歴史民俗資料館 1985 『種市町の土器・石器』 種市町の文化財(1)
- 種市町立歴史民俗資料館 2004 『種市町立歴史民俗資料館収蔵資料図録I 考古編』
- 洋野町 2006 『種市町史第六巻史編(上)』 洋野町史編さん委員会
- 大野村 2006 『大野村誌 第二巻 史料編I』 大野村誌編さん委員会



第2図 町内の遺跡

No.	遺跡コード	遺跡名	ふりがな	位置	所在地	時代	種別	出土遺構・遺物	備考
1	1937-1266	奥畠	かどのはま	樺市 樺山第 42 地割	調文	製布地	調文土器	別記中 1. 調査実施 (平成 23 年度)	
2	1937-2296	伝吉 I	でんきひいじ	樺市 樺山第 43 地割	調文・古代	散布地	調文土器 (早・盛期), 磁石器	別記中 2. 伝吉源から名前, 遺跡の名前 (古墳時代)	
3	1938-1086	奥川日 I	かどひかのひ	樺市 樺山第 39 地割	調文	散布地	調文土器 (前半・中期), 磁石器	別記中 3. 奥川日 (古墳時代), 磁石器 (古墳時代)	
4	1947-2224	千鶴平	せんじだいら	樺市 樺山第 48 地割	調文	集落跡	調文土器 (前半・後期), 磁石器	別記中 4. 千鶴平 (古墳時代), 磁石器 (古墳時代)	
5	1948-0120	平内 I	ひらないうち	樺市 樺山第 34 地割	調文	散布地	調文土器 (前・中期), 刻片	別記中 5. 平内 (古墳時代), 磁石器 (古墳時代)	
6	1949-1276	御船	みふね	樺市 樺山第 28 地割	中世	城郭跡	城跡 (城壁)	昭和 59 年度調査	
7	1949-2224	俄手	おとて	樺市 樺山第 24 地割	調文・古代	散布地	調文土器 (後期), 土器群	調査実施 (平成 23 年度)	
8	1948-2283	トチの木	とちのき	樺市 樺山第 31 地割	調文	散布地	調文土器 (後・盛期)		
9	1950-0220	東原	あひらま	樺市 樺山第 39 地割	調文・衛生	集落跡	調文土器 (中世), 作生土器	昭和 59 年度調査 (八幡原より名前変更 (平成 12 年度))	
10	1950-0270	八幡變形 (八幡えいげ)	はちまんうだて	樺市 樺山第 61 地割	中世	城郭跡	城跡, 家跡	別記中 6. 八幡變形 (八幡えいげ) (古墳時代)	
11	1957-0986	境内	じょうご	樺市 樺山第 58 地割	調文・古代	墓葬跡	土器群, 骨軸, 士器群	昭和 59 年度調査 (八幡原より名前変更 (平成 12 年度))	
12	1957-0229	荒尾敷留 (船夷地)	あらわしきだて	樺市 樺山第 59 地割	中世	城郭跡	城跡 (城壁)	昭和 59 年度調査	
13	1957-0684	野柳村	のりやむら	樺市 樺山第 60 地割	中世	城郭跡	草創, 墓碑, 墓穴	昭和 59 年度調査	
14	1957-0309	小手野沢山	こてのさわざわさん	樺市 樺山第 33 地割	近世	金銀鉱脉跡	石用	小手野山 (金山より名前変更 (平成 12 年度))	
15	1957-0317	土塙西	どばしだて	樺市 樺山第 34 地割	中世	城郭跡	城跡, 保謹跡	昭和 59 年度調査	
16	1957-1923	樺山城 (平城)	たねひらじょう	樺市 樺山第 60 地割	中世	城郭跡	城跡	昭和 59 年度調査	
17	1958-2033	樺山城 (山城)	たねひらじょう	樺市 樺山第 60 地割	中世	城郭跡	城跡, 平場		
18	1958-0024	小手野沢山	こてのさわざわ	樺市 樺山第 34 地割	中世	城郭跡	城跡, 平場	昭和 59 年度調査	
19	1958-0109	板橋段	いたばしだて	樺市 樺山第 21 地割	中世	城郭跡	城跡, 墓碑	昭和 59 年度調査	
20	1958-0241	ゴツモー	ごつもー	樺市 樺山第 18 地割	調文	集落跡	調文土器 (早・盛期), 骨灰盒, 磁石器, 陶土器, 作生土器, 士器	別記中 7. 平成 8 年度 (平成 12 年度), 本郷地区・新規発見 (平成 12 年度)	
21	1958-1006	たけの子	たけのこ	樺市 樺山第 21 地割	調文	散布地	調文土器 (後・後期), 骨灰盒		
22	1958-1363	大久保	おおくぼ	樺市 樺山第 19 地割	調文・古代	散布地	調文土器 (前・後期), 磁石器		
23	1958-0156	ノゾクケ余山	のそくけいさん	樺市 樺山第 10 地割	近世	金銀鉱脉跡	石用		
24	1958-0300	小手野沢 (タツコ)	こがよまだて	樺市 樺山第 29 地割	中世	城郭跡		昭和 59 年度調査	
25	1962-1131	和田窓	わだまど	樺市 樺山第 21 地割	中世	城郭跡	草創, 墓碑, 平場	昭和 59 年度調査	
26	1967-2146	大谷鉄山	おおやしつざん	樺市 樺山第 13 地割	近世	製鉄関連	鉄洋		
27	1969-1044	西の指	にしのさし	樺市 樺山第 8 地割	調文・中世	城郭跡	新規発見, 調査	調文土器 (後期), 石器, 平場	
28	1969-1137	辰戸鉱	しむといへで	樺市 樺山第 2 地割	中世	城郭跡	草創, 墓碑, 平場	昭和 59 年度調査	
29	1969-2013	西の指跡	にしのさしのあと	樺市 樺山第 1 地割	中世	城郭跡	土器, 墓碑, 平場	昭和 59 年度調査	
30	1969-2020	西脇の岡	にしだのおか	樺市 樺山第 7 地割	調文	散布地	調文土器 (後期), 石器, 士器		
31	1969-2041	上岡谷	かみおかのや	樺市 樺山第 1 地割	調文	散布地	調文土器 (後期)		
32	1969-2280	大平	おおひだいら	樺市 樺山第 2 地割	調文・衛生	集落跡	調文土器 (早・盛期), 作生土器		
33	1969-2283	オツリケ山屋	ほくくなかいひや	樺市 樺山第 3 地割	調文・古代	古墳	調文土器, 葵輪, 製陶工房, カキ, ハリ		
34	1977-0301	穂氏鉱山	ほそじきょうざん	樺市 樺山第 14 地割	近世	製鉄関連	鉄洋		
35	1977-1027	糞川鉱山	こごりがわいへつざん	樺市 樺山第 73 地割	近世	製鉄関連	鉄洋		
36	1977-0123	小手の鉱山	おだのくわいへつざん	樺市 樺山第 3 地割	近世	製鉄関連	鉄洋		
37	1979-0511	八木山屋	やぎやまや	樺市 樺山第 1 地割	調文	古墳	調文土器 (後期), 石器		
38	1979-0173	袖山	そでやま	樺市 樺山第 1 地割	調文・古墳	集落跡	調文土器 (後・後期), 石製造店 (古墳時代)		
39	1979-1245	表阪	ひょうさか	樺市 小字内面 1 地割	調文	散布地	調文土器 (後・後期)		
40	1979-1258	小字内屋	おこないや	樺市 小字内面 5 地割	調文	古墳	豪の磁器, 鉄洋, カフ, ハリ		
41	1979-2244	黒マッカ山屋	くろまっかやまや	樺市 有家第 3 地割	調文・古代	古墳	調文土器 (後期), 石器, 土器群		
42	1989-0229	高折戸	たかおりど	樺市 有家第 2 地割	調文	集落跡	調文土器 (後期), 石器		
43	1989-0140	上のマッカ	うえのまっか	樺市 有家第 1 地割	調文	集落跡	調文土器 (前・後期), 石器, 士器	調査実施 (平成 23 年度)	
44	1989-0263	有家駅	うりやえき	樺市 有家第 5 地割	中世	城郭跡	草創, 墓碑	昭和 59 年度調査・新規発見 (平成 23 年度)	
45	1989-1153	芦毛渡跡山	あしらわたりてつきざん	樺市 小野第 7 地割	近世	製鉄関連	鉄洋		

第 1 表 町内の遺跡一覧 (1)

46	1600-0036	有室台場	うろだいば	種市	中野第8地割	近世	船台跡	土器	昭和59年度調査
47	1600-0096	大宮Ⅲ	おおみやⅢ	種市	中野第2地割	調文・伴生	假面地	調文土器(早期)、伴生土器	
48	1600-1008	大宮Ⅰ	おおみやⅠ	種市	中野第2地割	調文・伴生	集落跡	調文(早・前・後期)、石碑、伴生土器	
49	1600-1062	長柄屋	ながねや	種市	中野第2地割	調文	假面地	調文土器	
50	1600-2004	中野松(松田・船舟町)	なかのまつ	種市	中野第4地割	中世	城郭跡	單孔、複孔(鐵鑄)	昭和59年度調査
51	1600-0005	船舟屋	ふなぶねや	種市	中野第11地割	調文	集落跡	調文土器	副圈變瓦(平成23年度)
52	1600-0006	藤井武	ふじよしわ	種市	中野第7地割	調文	集落跡	調文土器(前・後期)、石刀	
53	1600-1072	アリス森	あるみや	種市	中野第29地割	調文・伴生	假面地	調文土器(後期)、調文帶狀陶葉、假面地 (後期)、石器	別記参考、高須賀村の名称、新 田代地の古名、中野第29地割、中野第29 地ノ井頭祭祭神社(御殿・各種 変更した点)
54	矢番	やば	—	—	—	—	—	—	
55	1600-0194	内蔵器	うちらきん	種市	中野第24地割	調文	假面地	調文土器(中期)、砾石	別記参考、副圈變瓦(平成23年度)
56	1600-0105	石倉	いしくら	種市	中野第27地割	調文・古代	集落跡	調文土器(後期)、砾石、磚瓦、 土器	別記参考、副圈變瓦(平成23年度)
57	1600-2023	櫛町	くしつまち	種市	中野第20地割	調文	假面地	石棒	
58	1600-1338	ニサクドウ	にさくどう	種市	中野第42地割	調文・古代	假面地	調文土器(後期)、土師器、支輪	
59	1602-2323	高麗Ⅰ	たかくわい	種市	中野第21地割	調文	假面地	調文土器	
60	1602-2279	高麗Ⅱ	たかくわい	種市	中野第21地割	調文	集落跡	調文土器(中・後期)	
61	1600-0042	戸脇家	とわきや	種市	中野第11地割	調文	假面地	調文土器(後期)、土偶	
62	1600-2113	河山	わらわいやま	種市	中野第6地割	調文	假面地	調文土器	
63	1600-2337	田ノ沢	たのさわ	種市	中野第7地割	調文	假面地	調文土器(後期)	
64	1600-0178	山長地	さんぢょうぢ	種市	有室第8地割	調文	假面地	調文土器	
65	1600-0017	平内里	ひらうち	種市	中野第43地割	調文・近世	假面地	調文土器(中世末～後期前葉)、 石器、骨器、平内里(15世紀～16世紀)、 15世紀後半到達、新田代地	別記参考、寺、塔、平内里(15世紀～16世紀)、 15世紀後半到達、新田代地(平内里)
66	1679-0119	大瀬	おおせ	種市	中野第2地割	調文	集落跡	調文土器、石器	
67	1600-1108	館	たて	種市	中野第5地割	調文	集落跡	調文土器(中期)	
68	1600-0330	人沢	ひとざわ	種市	中野第46地割	調文	假面地	調文土器	平成13年度新規整査
69	1600-0098	二十一平	じゅういちひら	種市	中野第41地割	古代	製鐵遺跡	製鐵土器、土製火葬、土器	別記参考、平成13年度新規整査、 副圈變瓦(平成23年度)
70	1600-2161	美川Ⅰ	みかわⅠ	種市	中野第13地割	調文	假面地	調文土器(平期)	
71	1600-2026	美川Ⅱ	みかわⅡ	種市	中野第14地割	調文	假面地	調文土器(前期)	
72	1600-1116	西場	にば	種市	中野第7地割	調文	假面地	調文土器	平成16年度新規整査、副圈變瓦 (平成23年度)
73	1600-0314	八森	はちもり	種市	有室第1地割	調文	假面地	調文土器	平成16年度新規整査、副圈變瓦 (平成23年度)
74	1600-2118	西田畠	にしだたば	大野	大野第20地割	調文	假面地	調文土器	
75	1600-0127	西田	にしだ	大野	大野第23地割	調文	假面地	調文土器(後期)、石器	
76	1600-0144	西田Ⅰ	にしだⅠ	大野	大野第26地割	調文	假面地	調文土器(後期)、石器	
77	1600-1082	明戸町	めいどまち	大野	大野第29地割	中世	城郭跡	單孔、土器、鐵鋤、平壠	昭和59年度調査
78	1607-2106	黄の瀬	きののせ	大野	大野第36地割	可窓	製陶窯跡	陶片	
79	1607-2306	西山殿(板舟町)	にしじんだん	大野	大野第49地割	中世	遺跡	鐵鋤、草鞋?	昭和59年度調査
80	1600-2284	牛船(板舟町)	うしふね(ばんしゆまち)	大野	大野第10地割	中世	遺跡	鐵鋤、平壠	昭和59年度調査
81	1606-0272	たてひら殿	たてひらぢや	大野	大野第13地割	中世	遺跡	鐵鋤、鐵鍬、平壠	昭和59年度調査
82	1606-0307	長柄	ながね	大野	大野第27地割	調文	假面地	調文土器(前・後期)、石器	
83	1606-1200	帆舟森森	ほりふね	大野	大野第10地割	中世	城郭跡	鐵鋤、鐵鍬、平壠	昭和59年度調査
84	1606-2228	帆舟武Ⅱ	ほりふねむすけⅡ	大野	大野第4地割	調文	假面地	石器、罐	
85	1606-2249	橋岸沢Ⅰ	はしあなざⅠ	大野	大野第5地割	調文	假面地	罐、石器	
86	1606-2316	大野沢	おおのざ	大野	大野第3地割	中世	遺跡	平壠	昭和59年度調査
87	1600-0032	ひともっこう	ひともっこう	大野	大野第49地割	中世	遺跡	單孔、鐵鍬、平壠、塑穴	昭和59年度調査
88	1607-2055	金ヶ沢	かながさわ	大野	大野第10地割	調文	假面地	調文土器(前期)	
89	1606-1298	阿子木殿	あこぎだん	大野	阿子木第4地割	中世	城郭跡	單孔、鐵鍬、平壠	昭和59年度調査
90	1607-0160	高森Ⅱ	たかもりⅡ	大野	大野第5地割	調文	假面地	調文土器	
91	1607-2061	上木沢Ⅰ	じょうぎざわⅠ	大野	木沢第5地割	調文	假面地	調文土器	

第1表 町内の遺跡一覧 (2)

92	JH07-2108	上水沢Ⅱ	かみみさきまに	大野	水沢第7地割	調文・作生	墓葬地	岡立上原（「～後期」）、作生上原（上野山、上野）、アスファルト道路	昭和40年、平成12年度本發調査
93	JH07-2106	上水沢Ⅲ	かみみさきわざさん	大野	水沢第7地割	調文	敷布地	調文土器	
94	JH07-2204	高森Ⅰ	たかもりひとい	大野	水沢第7地割	調文	敷布地	調文土器	
95	JH07-2272	上水沢Ⅳ	かみみさきわよしん	大野	水沢第7地割	調文	敷布地	調文土器	
96	JH07-2275	上水沢V（駒ヶ原）	かみみさきわよご	大野	水沢第7地割	中世	塗跡地	単孔	昭和19年度調査
97	JH07-2288	下水沢Ⅰ	しもみさきよしむら	大野	水沢第7地割	調文	敷布地	鋤片	
98	JH07-2294	上水沢Ⅵ	かみみさきわよく	大野	水沢第7地割	調文	敷布地	調文土器	
99	JH08-0002	道内	つづみない	大野	大野第33地割	調文	敷布地	調文土器	
100	JH08-0129	日向Ⅰ	ひなたいむ	大野	大野第33地割	古代	敷布地	土師器	
101	JH08-0186	下高森Ⅰ	しもたかしもいまい	大野	高森第11地割	調文	敷布地	調文土器	
102	JH08-0221	日向Ⅱ	ひなたむ	大野	河子木第9地割	調文	敷布地	調文土器	
103	JH08-0225	阿子木	あこぎ	大野	河子木第12地割	調文	敷布地	調文土器	
104	JH08-1108	下高森Ⅱ	しもたかしむまに	大野	高森第11地割	調文	敷布地	調文土器	
105	JH08-1156	船舟Ⅰ	ふぞうだいの	大野	高森第11地割	中世	塗跡地	平塗、單孔	昭和19年度調査
106	JH08-1199	上高森Ⅰ	かみたかしもいまい	大野	高森第11地割	調文	敷布地	調文土器	
107	JH08-1225	二ツ原	ふたつわら	大野	河子木第18地割	調文	敷布地	調文土器	
108	JH08-1254	下高森Ⅲ	しもたかしまさる	大野	河子木第18地割	古代	敷布地	土師器	
109	JH08-1272	下高森Ⅳ	しもたかししまる	大野	高森第9地割	調文	敷布地	調文土器	
110	JH08-1375	二ツ原Ⅰ	ふたつわらかく	大野	河子木第12地割	調文	敷布地	調文土器	
111	JH08-1398	高森Ⅰ	たかよしもひとい	大野	河子木第12地割	調文	敷布地	調文土器	
112	JH08-2039	森森Ⅰ	もりもりわざさん	大野	高森第4地割	調文	敷布地	調文土器	
113	JH08-2072	大渡Ⅳ	おおわたりよしん	大野	高森第1地割	調文	敷布地	調文土器	
114	JH08-2601	大渡V（駒ヶ原）	おおわたりよご	大野	高森第1地割	平世	塗跡地	単孔、複孔	昭和19年度調査
115	JH08-2611	船舟Ⅱ	ふぞうだいの	大野	高森第4地割	中世	塗跡地	単孔、複孔	昭和19年度調査
116	JH08-2117	岡口Ⅰ	おかぐちいち	大野	高森第3地割	調文	敷布地	調文土器	
117	JH08-2127	岡口Ⅱ	おかぐちに	大野	高森第2地割	調文	敷布地	調文土器	
118	JH08-2140	上高森Ⅱ	かみたかしむまに	大野	高森第3地割	調文	敷布地	調文土器	
119	JH08-2194	上高森Ⅲ	かみたかしまさる	大野	高森第5地割	調文	敷布地	調文土器	
120	JH08-2211	上高森Ⅳ	かみたかししまる	大野	高森第7地割	調文	敷布地	調文土器	
121	JH08-2209	作栄Ⅰ	いわきよひいち	大野	作栄	調文	敷布地	調文土器	
122	JH08-2287	作栄Ⅲ	いわきよかきん	大野	作栄	調文	敷布地	調文土器	
123	JH08-2298	作栄Ⅳ	いわきよのよん	大野	高森第7地割	調文	敷布地	調文土器	
124	JH08-2301	作栄Ⅴ	いわきよかご	大野	高森第5地割	調文	敷布地	調文土器	
125	JH08-2204	作栄Ⅵ	いわきよかく	大野	高森第7地割	調文	敷布地	調文土器	
126	JH08-2218	高森森Ⅲ	たかよしもひわらに	大野	河子木第12地割	調文	敷布地	調文土器（後期）、単	
127	JH08-2222	作栄Ⅶ	いわきよかなな	大野	作栄	調文	敷布地	調文土器	
128	JH08-2233	作栄Ⅷ	いわきよかはち	大野	作栄	調文	敷布地	調文土器	
129	JH08-2327	作栄Ⅸ	いわきよかくゆう	大野	作栄	調文	敷布地	調文土器	
130	JH08-2231	作栄Ⅹ	いわきよかくとう	大野	作栄	調文	敷布地	調文土器	
131	JH08-2372	作栄Ⅺ	いわきよかくゆういか	大野	作栄	調文	敷布地	調文土器	
132	JH08-2280	作栄Ⅻ	いわきよかくゆうに	大野	高森第7地割	調文	敷布地	調文土器	
133	JH08-1622	高森森Ⅳ	たかよしよひわざさん	大野	河子木第12地割	調文	敷布地	石鏡	
134	JH08-1651	高森森Ⅴ	たかよしよひわざさん	大野	河子木第12地割	調文	敷布地	調文土器	
135	JH08-2071	作栄Ⅺ	いわきよかくわい	大野	高森第7地割	調文	敷布地	調文土器	
136	JH17-0140	上水沢Ⅲ	かみみさきわかな	大野	水沢第3地割	調文	敷布地	調文土器（初期）	
137	JH17-0218	下水沢Ⅱ	しもみさきまに	大野	水沢第9地割	調文	敷布地	調文土器	

第1表 町内の遺跡一覧(3)

138	JF17-0296	金間部Ⅰ	かなまらいも	大野	水沢第 12 地剖	近世	製鉄関連	輪の貝口、鉄洋	
139	JF17-0297	金間部Ⅱ	かなまらに	大野	水沢第 12 地剖	漢文・古代・古代	製鉄場	調文土器、土器群、要水池	
140	JF17-0337	大瀬Ⅰ	おおせたりいも	大野	水沢第 10 地剖	調文	製鉄場	調文土器	
141	JF17-0338	大瀬Ⅱ	おおせたりに	大野	水沢第 10 地剖	調文	製鉄場	調文土器	
142	JF17-1622	牛平Ⅰ	おいたいりいも	大野	水沢第 2 地剖	調文	製鉄場	調文土器	
143	JF17-1624	牛平Ⅱ	おいたいに	大野	水沢第 2 地剖	調文	製鉄場	調文土器	
144	JF17-2890	青葉坂Ⅱ	あおはなたに	大野	水沢第 14 地剖	調文	製鉄場	調文土器（後期）	
145	JF17-2932	青葉坂	あおはなた	大野	水沢第 12 地剖	調文	製鉄場	調文土器、石器	
146	JF18-0002	人瀬Ⅱ	おねたりさん	大野	神島第 2 地剖	調文	製鉄場	調文土器	
147	JF18-0105	新島開拓地Ⅰ	おないしまかいたくち	大野	神島第 2 地剖	調文	製鉄場	調文土器	
148	JF18-0106	新島開拓地Ⅱ	おないしまかいたくち	大野	作業	調文	製鉄場	調文土器	
149	JF18-0116	新島開拓地	おないしまかいたくちさん	大野	神島第 7 地剖	調文	製鉄場	調文土器	
150	JF18-1032	大田	おいた	大野	水沢第 11 地剖	調文	製鉄場	調文土器	
151	JF18-1261	麻平山Ⅰ	たいながやまいも	種谷	種谷第 4 地剖	調文	製鉄場	石井	別記番2、平成 23 年度新規発見
152	JF18-1262	麻平山Ⅱ	たいながやまに	種谷	種谷第 4 地剖	調文	製鉄場	調文土器、鍔器	別記番2、平成 23 年度新規発見
153	JF18-2001	角川谷Ⅱ	かくがわに	種谷	種谷第 10 地剖	調文	製鉄場	調文土器	別記番2、平成 23 年度新規発見
154	JF17-2343	角川Ⅱ	ののたは	種谷	種谷第 42 地剖	調文	製鉄場	調文土器（後期）	別記番2、平成 23 年度新規発見
155	JF22-2356	桜花Ⅰ	さくはなし	種谷	種谷第 43 地剖	調文	製鉄場	調文土器	別記番2、平成 23 年度新規発見
156	JF20-0003	桜花Ⅱ	さくはなし	種谷	種谷第 43 地剖	調文	製鉄場	調文土器（後期）	別記番2、平成 23 年度新規発見
157	JF22-2357	桜花Ⅲ	さくはなさん	種谷	種谷第 43 地剖	調文	製鉄場	調文土器	別記番2、平成 23 年度新規発見
158	JF17-2397	桜花Ⅳ	さくはなよん	種谷	種谷第 43 地剖	調文	製鉄場	調文土器、石井、鍔石、鍔器	別記番2、平成 23 年度新規発見
159	JF17-2398	松吉谷Ⅱ	でうきに	種谷	種谷第 43 地剖	調文	製鉄場	調文土器（前期）、石器	別記番2、平成 23 年度新規発見
160	JF17-0229	松吉Ⅱ	でうきちさん	種谷	種谷第 44 地剖	調文	製鉄場	調文土器	別記番2、平成 23 年度新規発見
161	JF17-0228	松吉Ⅲ	でうきちよん	種谷	種谷第 44 地剖	不明(近世)?	製鉄関連	鉄洋	別記番2、平成 23 年度新規発見
162	JF17-0216	松吉Ⅳ	でうきこ	種谷	種谷第 44 地剖	不明(近世)?	製鉄関連	鉄洋	別記番2、平成 23 年度新規発見
163	JF17-0340	北ノ沢Ⅰ	きたのさわいも	種谷	種谷第 45 地剖	調文	製鉄場	調文土器（中期）、石井、鍔石器、石井、鍔石	別記番2、平成 23 年度新規発見
164	JF17-0333	北ノ沢Ⅱ	きたのさわに	種谷	種谷第 45 地剖	調文・古代	製鉄場	調文土器、土器器	別記番2、平成 23 年度新規発見
165	JF17-0128	北ノ沢Ⅲ	きたのさわちさん	種谷	種谷第 45 地剖	調文	製鉄場	調文土器	別記番2、平成 23 年度新規発見
166	JF17-0290	北ノ沢Ⅳ	きたのさわよん	種谷	種谷第 45 地剖	調文・古代	製鉄場	調文土器（後期）、土器器	別記番2、平成 23 年度新規発見
167	JF17-0344	北ノ沢Ⅴ	きたのさわご	種谷	種谷第 45 地剖	不明(近世)?	製鉄関連	鉄洋	別記番2、平成 23 年度新規発見
168	JF17-0340	北ノ沢Ⅵ	きたのさわくろ	種谷	種谷第 45 地剖	不明(近世)?	製鉄関連	鉄洋	別記番2、平成 23 年度新規発見
169	JF17-0237	北ノ沢Ⅶ	きたのさわな	種谷	種谷第 45 地剖	不明(近世)?	製鉄関連	鉄洋	別記番2、平成 23 年度新規発見
170	JF17-0296	北ノ沢Ⅷ	きたのさわはち	種谷	種谷第 45 地剖	不明(近世)?	製鉄関連	鉄洋	別記番2、平成 23 年度新規発見
171	JF17-1236	北ノ沢Ⅸ	きたのさわくろ	種谷	種谷第 45 地剖	不明(近世)?	製鉄関連	鉄洋	別記番2、平成 23 年度新規発見
172	JF17-1136	北ノ沢X	きたのさわくろ	種谷	種谷第 45 地剖	不明(近世)?	製鉄関連	鉄洋	別記番2、平成 23 年度新規発見
173	JF18-0190	北平内Ⅰ	きたひらなないも	種谷	種谷第 28 地剖	調文	製鉄場	調文土器、石井、鍔器	別記番2、平成 23 年度新規発見
174	JF18-0127	北平内Ⅱ	きたひらなないに	種谷	種谷第 28 地剖	調文	製鉄場	調文土器、土器器	別記番2、平成 23 年度新規発見
175	JF18-0123	北平内Ⅲ	きたひらなないさん	種谷	種谷第 28 地剖	調文	製鉄場	調文土器	別記番2、平成 23 年度新規発見
176	JF18-0123	北平内Ⅳ	きたひらなないよん	種谷	種谷第 28 地剖	調文	製鉄場	調文土器（後期）、鉄片	別記番2、平成 23 年度新規発見
177	JF18-0110	北平内V	きたひらないご	種谷	種谷第 28 地剖	調文・古代	製鉄場	調文土器（後・前期）、調文土器	別記番2、平成 23 年度新規発見
178	JF18-0142	北平内VI	きたひらないごく	種谷	種谷第 28 地剖	調文	製鉄場	調文土器、石井、鍔石	別記番2、平成 23 年度新規発見
179	JF18-0138	北平内	きたひらない	種谷	種谷第 28 地剖	調文	製鉄場	調文土器（早・中期）、石井、鍔石	別記番2、平成 23 年度新規発見
180	JF18-0174	平内Ⅳ	ひらないさん	種谷	種谷第 28 地剖	調文・古代	製鉄場	調文土器（前中期）、石井、鍔石器	別記番2、平成 23 年度新規発見
181	JF18-0197	平内V	ひらないご	種谷	種谷第 28 地剖	調文	製鉄場	調文土器（前中期）、石井、鍔器	別記番2、平成 23 年度新規発見
182	JF18-1208	平内Ⅵ	みなんひらないいち	種谷	種谷第 22 地剖	調文	製鉄場	調文土器（後期）、製造土器	別記番2、平成 23 年度新規発見
183	JF18-1119	平内Ⅶ	みなんひらないいに	種谷	種谷第 22 地剖	調文	製鉄場	調文土器、鉄片	別記番2、平成 23 年度新規発見

第1表 町内の遺跡一覧(4)

184	IF49-1126	西平内Ⅲ	みなみひらないさん	福山	福山第22地割	調文	敷石地	調文土器、石斧	別記番2、平成23年度新規発見
185	IF49-0041	西平内Ⅰ	にじひらないさん	福山	福山第27地割	調文	敷石地	調文土器（後期）、石斧、刮片	別記番2、平成23年度新規発見
186	IF49-1040	西平内Ⅱ	にじひらないに	福山	福山第27地割	調文	敷石地	調文土器（前期）、鐵石	別記番2、平成23年度新規発見
187	IF49-1113	東平内Ⅰ	ひがしひらないさん	福山	福山第34地割	調文	敷石地	調文土器、石斧、鐵石、櫛器、刮片	別記番2、平成23年度新規発見
188	IF49-1029	東平内Ⅲ	ひがしひらないに	福山	福山第34地割	調文	敷石地	調文土器	別記番2、平成23年度新規発見
189	IF49-1080	東平内Ⅳ	ひがしひらないさん	福山	福山第34地割	調文（直便か？）	敷石地	調文土器（後期）、石斧、石刀	別記番2、平成23年度新規発見
190	IF47-1290	延武I	うばさわいのち	福山	福山第47地割	調文	敷石地	調文土器（後期）、石斧、石刀	別記番2、平成23年度新規発見
191	IF47-1288	延武II	うばさわいのよ	福山	福山第47地割	調文・古代	敷石地	調文土器、石斧、石刀器	別記番2、平成23年度新規発見
192	IF47-1360	延武III	うばさわいさん	福山	福山第47地割	調文	敷石地	調文土器（前・後期）、竹籠器、石斧、石刀、刮片	別記番2、平成23年度新規発見
193	IF47-1382	延武IV	うばさわいよん	福山	福山第47地割	調文	敷石地	調文土器（中期）、竹籠器、竹炭スクリーン、刮片	別記番2、平成23年度新規発見
194	IF49-1197	鹿川区	みなみひわしり	福山	福山第28地割	調文	敷石地	調文土器、石器	平成25年度新規発見
195	IF49-2128	サンニヤI	さんみにやいち	福山	福山第25地割	調文	敷石地	調文土器	平成25年度新規発見
196	IF50-0288	北面難	きたおひなま	福山	福山第17地割	調文	敷石地	調文土器、石器	平成25年度新規発見
197	IF50-1554	南面難Ⅱ	みなみおひなま	福山	福山第15地割	調文	集落跡	調文土器（後期）、石器	平成25年度新規発見
198	IF50-1209	南面難Ⅰ	みなみおひなま	福山	福山第15地割	調文	敷石地	調文土器、石器	平成25年度新規発見
199	IF50-1199	鬼戸	しづかべ	福山	福山第5地割	調文	敷石地	調文土器、石器	平成25年度新規発見
200	IF50-2273	小州ノ沢	こだののさわ	福山	福山第5地割	調文	敷石地	調文土器	平成25年度新規発見
201	IF50-1217	奥丸木	みなみぎや	福山	福山第1地割	調文（直便か？）	敷石地	調査開通 貝口、鹿骨	平成25年度新規発見
202	IF50-1263	下向	しもむかへ	福山	中野第1地割	調文	敷石地	縄文穴	平成25年度新規発見
203	IF50-2223	中野境内	なかのじょうない	福山	中野第1地割	調文	敷石地	縄文穴	平成25年度新規発見

備考欄の「文献」について、それぞれ次のように略した。

岩手県種市町教育委員会 2004 『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』 岩手県種市町埋蔵文化財調査報告書第1集は、「別記番1」

岩手県種市町教育委員会 2005 『種市町内遺跡詳細分布調査報告書1』

岩手県種市町埋蔵文化財調査報告書第2集は、「別記番2」

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1996・2001 『ゴゾー遺跡発掘調査報告書』

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第238集・第357集は、「別記番3」

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2001 『上水沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書』

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第391集は、「別記番4」

岩手県洋野町教育委員会 2013 『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』 岩手県洋野町埋蔵文化財調査報告書第1集は、「別記番5」

第1表 郷内の遺跡一覧(5)

IV. 遺跡の土層序

日本地質学会会員 松山 力

1. 調査区の位置と地形・地質

平内Ⅱ遺跡は、洋野町平内の太平洋岸、大谷地集落の南西方約1km付近から約500m付近まで広がる遺跡で、今回の調査はその北東部で行われた。

平成24年度調査区を含む平内Ⅱ遺跡周辺の地形・地質については、平成16年度報告書（2004、種市町教委）と、平成25年度報告書（2013、洋野町教委）に詳述しているので、参照されたい。

遺跡の地形面は、平成25年度報告書記載の松山試験案に従えば、平内Ⅱ遺跡の南西部は川尻段丘、中部は種市段丘への遷移斜面、北東部（今回の調査区）は種市段丘にあたる。

調査区のうち、B区とC区のJ10グリッド付近は標高33～40mで起伏の目立たない平坦面、A区は種市段丘が北東方に舌状に張り出した段丘全面の傾斜地で、南東側斜面下に谷状に入り込む面高度20～10mの大谷地段丘に近接している。

遺跡の基盤岩は白亜紀の火成岩類と推定され、その上に段丘堆積物が載っている。発掘によって確認された段丘堆積物は、高館火山灰層（種市火山灰層）の最上部とその上の八戸火山灰層（十和田八戸火山灰層）で、八戸火山灰層の上を黒色土類（腐植土、クロボク）が覆っている。

2. 遺跡の層序

今回の調査では、A区の⑩地点（V25グリッド）、⑪地点（I25グリッド）、B区の⑫地点（U24グリッド）、⑬地点（T20グリッド）、⑭地点（Q22グリッド）、⑮地点（L17グリッド）、⑯地点（R17グリッド）、C区の⑯地点（J10グリッド）の8ヶ所で、高館火山灰層最上部まで深掘りして土・地層の層序を確認し、上から下へⅠ層からIX層までの9層に区分した。このうち、Ⅰ層からⅥ層までがおもに黒色～褐色土などの腐植土層類、Ⅶ層が火山灰・軽石密集塊と腐植土塊の混合層、Ⅷ層が八戸火山灰層、IX層が高館火山灰層である。以下は、おもに深掘りされた8ヶ所とその周囲の記載で、各層の厚さの記載は各グリッド内で確認されたものである。

第3図は、深掘りされた8つのグリッド壁に現れた土層の一部を20cm幅で示した柱状断面对比図である。各グリッドの腐植土（Ⅰ～Ⅵ層）の厚さは、⑩地点が223～235cm、⑪地点が88～114cm、⑫地点が44～94cm、⑬地点が115～140cm、⑭地点が80～90cm、⑮地点が36～64cm、⑯地点が20～60cm、⑯地点が106～132cmとなっている。

なお、⑯地点と⑯地点では、現代に入ってからの整地によるものか、Ⅱ～Ⅴ層が欠如していた。

（1）Ⅰ層

Ⅰ層は耕作土を含む表土にあたり、A区では厚さ5～19cmの黒色（10YR1.7/1～2/1）土層で、粘性に乏しい。B区では厚さが10～63cmで、Ⅰa層・Ⅰb層の2層にわけられるところがある。Ⅰa層は厚さが32～60cmの黒褐色土層（10YR2.2～2/3）で粘性に乏しいが、下部に粘性にやや富んで締まっているところがある。灰白色～黄色系色調の砂粒大火山灰の混合が目立ち、粒径2～4mmの浅黄橙色（10YR8/3）～黄橙色（10YR8/8）軽石粒が散在（0.1%以下）している。下部に径最大14×12mm、普通8×2～32mmの黄橙色（10YR8/6）火山灰塊が散在するところがある。Ⅰb層は厚さが0～5cmの黒褐色（10YR2/2～2/3）土層で、粒径9×10mmや8×16mmの黄褐色（10YR5/6）あるいは径1～6cmのにぶい黄褐色（10YR5/4）土塊（砂粒大軽石質火山灰が目立つ）などを含むところがある。C区でのⅠ層の厚さは⑯地点で18～46cmであった。

(2) II層

II層は、厚さ10～40cmの黒色(10YR2/1)砂質土層で粘性に乏しい。粒径が砂粒大～3mmの黄橙色(10YR8/6)～浅黄橙色(10YR8/4)の軽石粒が含まれる(1～2%)が、その一部は十和田B降下火山灰に含まれる軽石粒に相当する。II層は⑦地点と⑧地点とその周辺部では欠如している。

(3) III層

III層は、普通は厚さ6～40cmの黒色(10YR2/1)～黒褐色(10YR2/3～3/1～3/2)土層で粘性に乏しい。レンズ状に薄くなり消滅するところもある。中揮軽石に当たる砂粒～小礫の大軽石・軽石質火山灰粒やその密集塊が混合していることで特徴付けられる土層である。

⑨地点のIII層の中位には、径1.5×2cm～6×9cmの黄橙色(10YR8/6)～明黄褐色(10YR7/6)の中揮軽石塊(軽石粒と火山砂の密集塊)が14～45cm間隔で断続し、ところどころに径1cm以下の火山灰塊や火山灰粒を含んで色調がやや明るく、にぶい黄褐色や暗褐色を呈するところがある。

全域的にも、中揮軽石起源の砂粒～小礫(粒径2～4mm)の大粒黄橙色(10YR8/4)～黄橙色(10YR8/6～8/8)あるいはにぶい黄橙色(10YR6/3～6/4)火山灰・軽石粒が1～5%程度混合し、ところどころに、中揮軽石・火山灰塊が土壤化した径数～十数cmの褐色(10YR4/6)塊状土塊に漸移するところや、径数cm以内の褐色(10YR4/6)化した火山灰塊が集まる部分、あるいは20～50×80～110mmの暗褐色(10YR3/3)～にぶい黄褐色(10YR4/3)などの腐植土混じり火山灰塊が混じる(10%)ところがある。

(4) IV層

IV層は、南部軽石降下以降の土層で、B区の南西部の⑦地点と⑧地点の深掘り周辺では欠如している。またA区の斜面部では厚さを増し、⑨地点で3層に区分された。

⑩地点と⑪地点とその周囲のIV層は厚さ2～23cmの黒褐色(10YR3/1)～暗褐色(10YR3/3)土層で、⑩地点ではところにより南部軽石塊が断続、あるいは南部軽石由来の粒径5～7mmの浅黄橙色(10YR8/4)～黄橙色(10YR8/6)軽石粒(南部軽石)がやや密に(1～7%)混入している。

⑫地点では粒径1～3mm(最大8mm)の灰白色(10YR8/1～8/2)～浅黄橙色(10YR8/3～8/4)軽石粒が散らばり(0.5～1%)、また暗褐色(10YR3/3)土塊がまだら状に断続している。

⑬地点のIV層はIV-a層～IV-c層の3層に分けられた。

IV-a層は厚さ24～44cmのシルト状黒色(10YR2/1)土層で粘性に富んでいる。粒径1～4mmの黄橙色(10YR8/6～8/8)～明黄褐色(10YR7/6)の火山灰・軽石粒が中・下程にやや密(2%程度)に上部にややまばら(1%以下)に混じっている。

IV-b層は厚さ20～42cmのシルト状黒褐色(10YR3/1)土層で粘性に富んでいる。粒径1～8mmの黄橙色(10YR8/6)～明黄褐色(10YR7/6)の火山灰・軽石粒が密集する南部軽石塊が断続している。一部に八戸火山灰起源と思われる径2×3.5cm～3.5×6cm程度の灰白色(10YR8/2)～浅黄橙色(10YR8/3～8/4)火山灰・軽石粒塊が混じっている。

IV-c層は厚さ14～30cmの黒褐色(10YR3/2)土層で粘性に乏しい。南部軽石起源の粒径1～10mmの黄橙色(10YR8/6～8/8)～明黄褐色(10YR7/6)や、にぶい黄橙色(10YR7/2)～灰白色(10YR8/2)～浅黄橙色(10YR8/3～8/4)火山灰・軽石粒が密(5～30%)に含まれている。また、径6×10cm～8×12cmの明黄褐色(10YR7/6)～黄橙色(10YR8/6～8/8)の軽石密集塊が30～60cm程度の間隔で断続している。

(5) V層

V層は普通、厚さ4～60cmの黒褐色(10YR3/2～2/3)土層で、A区では安定的な堆積状態で比較的厚い土層であるが、B区では比較的薄くてところどころでレンズ状に消滅する。

A区のV層は13～53cmの黒褐色(10YR3/2)～暗褐色(10YR3/3～3/4)土層で、やや硬く縮まっている。砂

粒大的火山灰粒が含まれる(1~2%)ほか、粒径2~6mm(最大10mm)の灰白色(10YR8/1~8/2)~浅黄橙色(10YR8/3~8/4)~黄橙色(10YR8/6~8/8)火山灰・軽石粒がところにより密(2~7%)に、ところによりまとまっている。

B区のV層は、⑩地点付近では33~60cmと厚いが、全体としては0~22cmと薄い黒褐色(10YR2/3)~黒褐色(10YR3/2)土層で、やや粘性に乏しい。

(6) VI層

安定的な堆積状態の⑨地点と⑩地点付近では、粒径2~10mmの灰白色~浅黄橙色(10YR8/1~8/4)軽石粒がやや多量(2~5%)に混入している。⑪地点付近では、径4×7cm~8×12cmの塊状火山灰塊や、立木跡を充填したと思われる棒状火山灰塊が、10~50cm間隔で断続していた。

B区では、にぶい黄褐色(10YR4/3)火山灰塊が断続する部分がある。また、粒径2~15mmの浅黄橙色(10YR8/3~8/4)~黄橙色(10YR8/6~7.5YR8/8~7/8)軽石粒が多量(2~15%)に混じる火山灰塊、にぶい黄褐色(10YR4/3)~暗褐色(10YR3/3)火山灰塊、径2~4mmの浅黄橙色(10YR8/3~8/4)~黄橙色(10YR8/6~8/8)軽石粒が混じる(2~5%)褐色(10YR4/6)土塊、粒径2~10mmの橙色(7.5YR7/6~6/6)~黄橙色(10YR7/8)軽石粒の密集塊などの集合層となっているところが多い。

例えば⑨地点では、厚さ0~22cmの粘性に乏しい黒褐色(10YR2/3)土層であるが、土層中には、下層から吹き上がるような積乱雲状~横にたなびく乱雲状の形状の、にぶい黄褐色(10YR5/3)や褐色(10YR4/6)の火山灰塊が断続し、火山灰塊中には粒径2~8mmの浅黄橙色(10YR8/3~8/4)~黄橙色(10YR8/8)軽石粒が散在(1~2%)している。

また⑩地点では、厚さ0~16cmのやや粘性に乏しい黒褐色(10YR3/2)土層で、褐色(10YR4/4)~暗褐色(10YR3/3)の火山灰塊が断続的に混合。火山灰塊には粒径2~8mmの浅黄橙色(10YR8/4)~黄橙色(10YR8/6~8/8)軽石粒が散在(1~2%)している。

⑪地点付近では、間隙を黄褐色(10YR5/6)火山灰が充填する粒径2~12mmの浅黄橙色(10YR8/3~8/4)、黄橙色(10YR8/6~8/8)、明緑灰色(5G7/1~10G7/1)、緑灰色(10G6/1)などの色調の軽石粒の密集(2~30%)塊や、しまって硬いにぶい黄橙色(10YR6/4)砂質火山灰塊、にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土塊、もろく崩れやすい褐色(10YR1/6)砂質土塊など、多様な土塊の集合層となっている。

⑪地点~⑫地点のVI層は下位のVII層の層相に似ていてVII層の上位に載ることから、VII層の再堆積部と思われる。

(7) VII層

VII層はほぼ水平な平坦面上に分布し、東部の斜面部には見られない。

VII層は厚さが普通3~55cmの土層で、基質はにぶい黄褐色(10YR4/3)~暗褐色(10YR3/4)の原植土層であるが、全体としてみれば、これらの土塊と下位の八戸火山灰層(HP)のVIII層ないしはその上部の火山灰層に由来する火山灰塊~軽石密集塊との混合層で、上位の⑨地点~⑩地点のVII層同様、火山灰塊~軽石密集塊は下層から立ち上がるようなキノコ型~積乱雲状~柱状、あるいは横にたなびく乱雲状~板状など、様々な形状で混合している(第3図)。

火山灰塊や軽石密集塊の特徴と混じり方は多様である。

⑪地点は、にぶい黄褐色(10YR4/3)の火山灰塊が断続する部分と、粒径2~15mmの浅黄橙色(10YR8/3~8/4)~黄橙色(10YR8/6~7.5YR8/8~7/8)軽石粒が多量(2~15%)に混じる火山灰の部分がある。⑫地点は、粒径2~4mmの浅黄橙色(10YR8/3~8/4)~黄橙色(10YR8/6~8/8)軽石粒が混じる(2~5%)褐色(10YR4/6)土塊が混合(40%)している。⑪地点は、粒径が砂粒大~10mmの橙色(7.5YR7/6~6/6)~黄橙色(10YR7/8)軽石粒の密集塊が、にぶい黄褐色(10YR4/3)~暗褐色(10YR3/3)火山灰塊と混合している。

⑫地点は、軽石多含の明黄褐色(10YR6/6)火山灰塊と暗褐色(10YR3/3)土塊の混合層で、火山灰塊には粒径

2～10mmの浅黄橙色(10YR8/4)～黄橙色(10YR8/6)～浅黄橙色(7.5YR8/6)～黄橙色(7.5YR8/8)、橙色(7.5YR7/6)などの軽石粒が多量に含まれる。暗褐色土塊には、粒径2～5mmの浅黄橙色(7.5YR8/6)～黄橙色(7.5YR8/8～7/8)の軽石粒がやや多量に(1～5%)含まれている。**◎**地点は**◎**地点とほぼ同様であるが、さらに径4×6cm～15×18cm程度の軽石粒密集塊が加わっている。軽石粒密集塊の軽石粒は砂粒大～径15mm浅黄橙色(10YR8/3～8/4)～黄橙色(10YR8/6～8/8、7.5YR7/8)～橙色(7.5YR6/8)。軽石粒で構成されている。**◎**地点の**VII**層は、やや趣を異にし、下位の**VIIa**層の上部の火山灰層から上方へ、腐食の度合いが増すように、土色も明色から暗色へ遷移する部分である。

VII層は、ところによっては褐色(10YR4/6)土塊が混合する(最大40%)にぶい黄褐色(10YR4/3)～褐色(10YR4/4)あるいはにぶい黄褐色(10YR4/3)～暗褐色(10YR3/3)の火山灰質土層で、粘性に乏しく、粒径が砂粒大～10mmの黄橙色(10YR8/6～8/8)火山灰・軽石粒や、浅黄橙色(7.5YR8/6)～黄橙色(10YR8/6～8/8、7.5YR7/8)の軽石粒が混じて(1～5%)いる。

(8) **VIII**層(八戸火山灰層)

厚さ25～68cm、降下相の八戸火山灰層(HP)で、軽石層と火山灰層の互層である。大池ら(大池・松山・七崎(1970)や中川(1972))は、下位から上位へ、I～VIの6層にわけているが、本報告では逆順に、上位から下位へ、**VIIa**層～**VIII**層の6層に分ける。

VIIa層は厚さ2～16cmのにぶい黄橙色(10YR6/4)～黄褐色(10YR5/6)～明黄褐色(10YR6/6)軽石層で、粒径2～15mmの灰白色(10YR8/2)～浅黄橙色(10YR8/3～8/4)～黄橙色(10YR8/6～8/8、7.5YR7/8)～橙色(7.5YR6/8)軽石粒が密集し、隙間を黄橙色(7.5YR7/8～10YR8/6～8/8)～橙色(7.5YR6/8)および灰白色(10YR8/1～8/2)軽石質砂状火山灰が充填している。大池らのHP VI層に相当する。

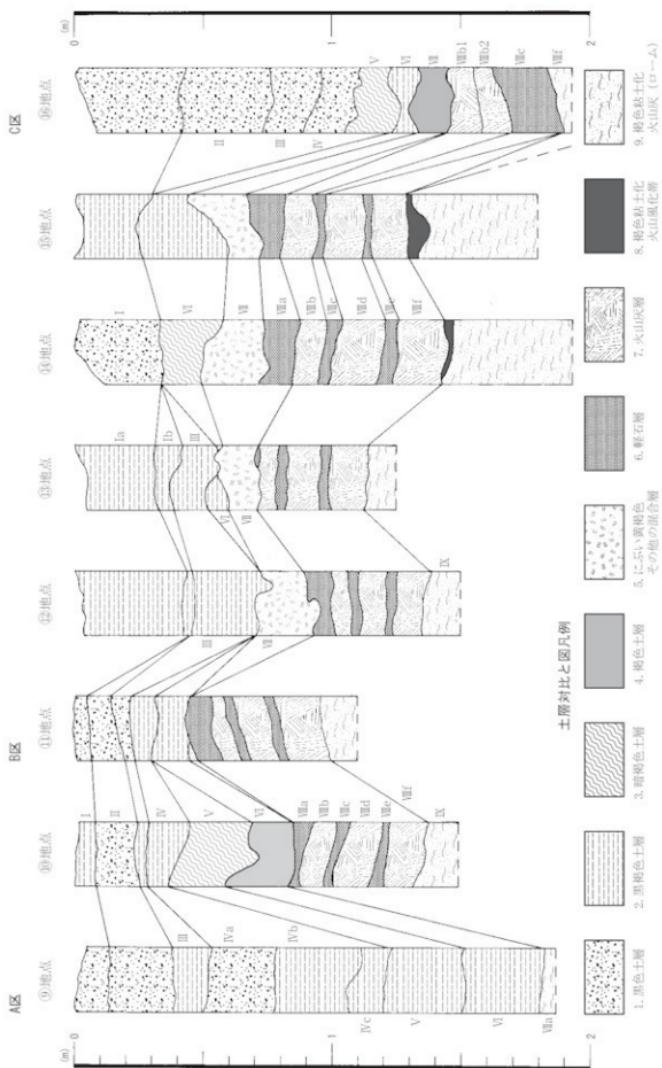
VIIb層は厚さ1～18cmの黄褐色(10YR5/8)～明黄褐色(10YR6/6～6/8)砂質火山灰層で締まって硬い。粒径2～15mm(最大30mm)の灰白色(10YR8/1～8/2)～浅黄橙色(10YR8/3～8/4)～黄橙色(10YR8/6～8/8、7.5YR7/8)～明黄褐色(10YR6/8)軽石粒や黄色(2.5Y5/1)軽石粒などが、ところによりまばら(1～2%)にところにより密(5～7%)に、あるいはその中間程度(2～5%)に含まれている。**VIIb**層はところにより上下に分かれれる。例えば**◎**地点の上部は粒径2～14mmの灰白色(10YR8/1)～浅黄橙色(10YR8/4)軽石粒が散らばる明黄褐色(10YR6/8)砂粒大火山灰層であるが、下部は黄褐色(10YR5/6)砂粒大粘土化火山灰層で、上部を**VIIb1**層、下部を**VIIb2**層とした。**VIIb**層は、大池らのHP V層に相当する。

VIIc層は厚さ1～11cmのよく締まって硬い黄褐色(10YR5/6)～にぶい黄橙色(10YR6/4)～明黄褐色(10YR6/6)軽石層で、粒径2～30mmの灰白色(10YR8/1～8/2)～浅黄橙色(10YR8/3～8/4)～黄橙色(10YR8/6～8/8～7.5YR7/8)明褐色(7.5YR5/6)～橙色(7.5YR6/6～6/8)軽石粒が密集(30～50%)し、隙間を砂質火山灰が充填している。大池らのHP IV層に相当する。

VId層は厚さ5～30cmの締まって硬い明黄褐色(10YR6/6～7/6)火山灰層で、粒径2～10mmの灰白色(10YR7/1～8/1～8/2)～浅黄橙色(10YR8/3～8/4)～黄橙色(7.5YR7/8)～橙色(5YR6/6～6/8～7/8)が混じって(1%以下)いる。大池らのHP III層に相当する。

VIE層は厚さ2～10cmの締まって硬いにぶい黄橙色(10YR7/3)～明黄褐色(10YR6/6)軽石層で、粒径2～22mmの灰白色(10YR8/1～8/2)～浅黄橙色(10YR8/3～8/4)～黄橙色(10YR8/6～8/8～7/8～7.5YR7/8)～明黄褐色(10YR7/6)軽石粒が密集(10～30%)し、隙間を砂質火山灰が充填している。大池らのHP II層に相当する。

VIf層は厚さ3～24cmで、ところによりシルト状あるいは、ところにより上部(2/3)がシルト状で、下部が砂状の明黄褐色(10YR7/6～6/6)～にぶい黄橙色(10YR7/4)火山灰層である。粒径2～15mmの浅黄橙色(10YR8/3～8/4)～黄橙色(10YR8/6)～明黄褐色(10YR7/6)～橙色(7.5YR6/6～6/8)軽石粒が中部にやや密に散在(0.5



～2%）するほか、下半部に2～5mmのにぶい黄橙色（10YR7/4）～明黄褐色（10YR7/6）軽石粒が列状に並ぶ部分が1～2層認められる。大池らのHP I層に相当する。

(9) IX層

八戸市周辺の高館火山灰層に当たるにぶい橙色（7.5YR6/4）～橙色（7.5YR6/6）粘土状風化火山灰層で、上限部1～2cmほどは肉眼的には黒みを増して褐灰色（7.5YR6/1）粘土層に漸移した、いわゆる風化帯となっている。この部分が八戸火山灰降下直前（約1万5千年前）の地表面にある。

IX層は後期更新世の、いわゆるローム層を主とした風成層（おもに、粘土化火山灰と砂質火山灰で構成）で、それぞれに特徴を異にする粘土化軽石・スコリア層を数枚以上、十和田湖近接地では十数枚も挟んでいる。遺跡では八戸火山灰層の直下に接するが、その最上部数十cm以内の層相を確認するにとどめた。

主な引用・参考文献と付言

大池昭二・松山 力・七崎 修、1970、八戸平原地区地質調査報告書、東北農政局計画部

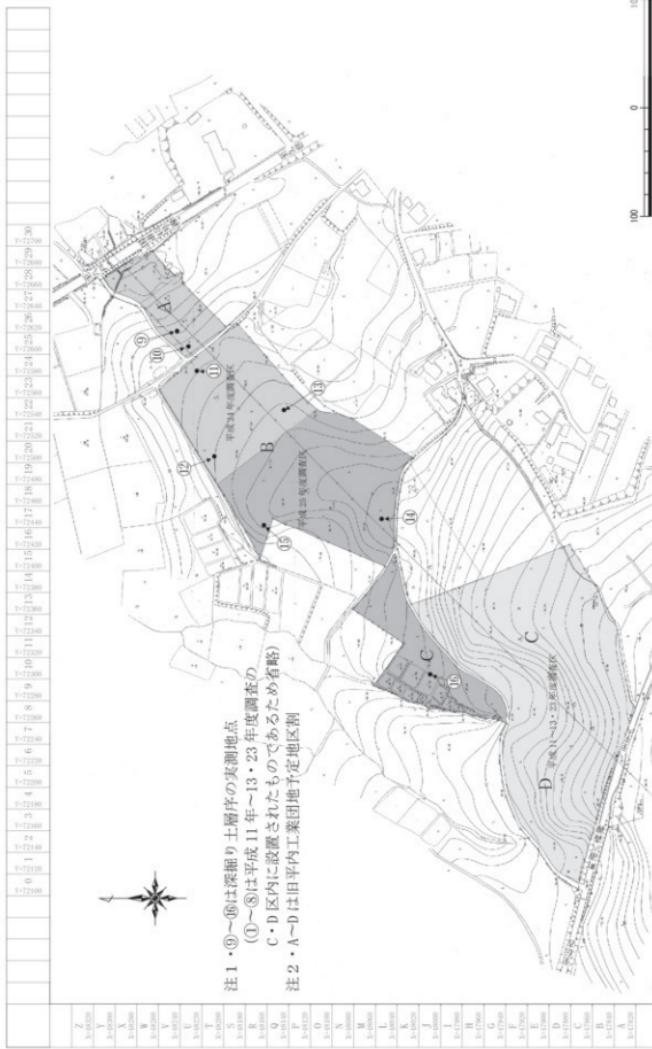
中川久夫、1972、青森県の第四系、第二部、青森県

松山 力、2004、平内II遺跡発掘調査報告書、第1集、p4～15、岩手県種市町教育委員会

松山 力、2013、平内II遺跡発掘調査報告書、第1集、p14～20、岩手県洋野町教育委員会

*1. 段丘、火山噴出物。その年代等の詳細は、2013、平内II遺跡発掘調査報告書の本文（p17）と主な引用・参考文献を参照されたい。

*2. 土色の觀察に当たっては、各土層の平均的な色調サンプルを農林水産省農林水産技術会議事務局監修による「新版標準色帖1995年後期版」の色票と対比して行い、土層の色にもっとも近い色票の色の名称と記番号を記載した。



注1 ①～⑯は深掘り土層序の実測地点
(①～⑧は平成11年～13年度調査の
C・D区内に設置されたものであるため省略)
注2・A-Dは日平内工業団地予定地区割

第4図 調査区周辺の地形とグリッド配置図



第5図 A区 遺構配置図

V. 検出された遺構と遺物

1. A 区

A区では溝状土坑（陥し穴状遺構）3基、集石1基が検出された。

なお、凡例においても記述したが、土坑、溝状土坑、集石の番号については、前回報告の洋野町埋蔵文化財調査報告書第1集「平内 II 遺跡発掘調査報告書」に継続して付した番号である。

（1）溝状土坑

TP57溝状土坑（第6図、写真図版5）

U25 グリッド南東側に位置し、等高線に対して平行する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-42°-Wを示す。規模は開口部で長軸360cm×短軸76cm、底部で長軸384cm×短軸14cm、深さは中央部で82cmを測る。開口部の長軸両端の比高差は10cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側は両壁ともオーバーハンジで立ち上がる。短軸側北東壁は開口部付近に段が形成され、南西壁は開口部付近と中央付近に段が形成される。短軸断面はT字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。5層に分層され、黄褐色土、黒褐色土を主体とする。図示はしないが、遺構内堆積土第1層より繩文土器片2点、第2層より1点、第4層より2点出土している。

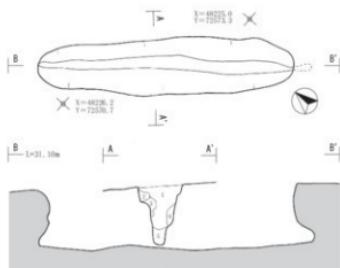
TP58溝状土坑（第6図、写真図版5）

U25 南東側、U26 グリッド南西側からT25 グリッド北東側に跨り位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-37°-Eを示す。規模は開口部で長軸350cm×短軸58cm、底部で長軸320cm×短軸8cm、深さは中央部で87cmを測る。開口部の長軸両端の比高差は47cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。短軸側南東壁の開口部付近に段が形成される。短軸断面形は、南東壁側はT字状、北西壁側はU字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。5層に分層され、黒色土、黒褐色土を主体とする。遺構内堆積土第1層より繩文土器片9点、第2層より2点、第3層より1点出土している。そのうち3点を掲載した。TP58-1とTP58-3は深鉢形土器の口縁部片、TP58-2は深鉢形土器の胴部片である。（第6図、写真図版6）

TP59溝状土坑（第6図、写真図版5）

T26 グリッド北西側、U26 グリッド南西側に位置し、等高線に対して平行する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-65°-Wを示す。規模は開口部で長軸413cm×短軸66cm、底部で長軸446cm×短軸16cm、深さは中央部で111cmを測る。開口部の長軸両端の比高差は13cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側は両壁とともにオーバーハンジして立ち上がる。短軸断面形は、北東壁側はU字状、南西壁はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。8層に分層され、黒色土、黒褐色土を主体とする。遺構内堆積土第1層より繩文土器片2点、第2層より1点、堆積土中（層位不明）より1点出土している。そのうち2点を掲載した。TP59-1は深鉢形土器の口縁部片、TP59-2は深鉢形土器の胴部片である。（第6図、写真図版6）

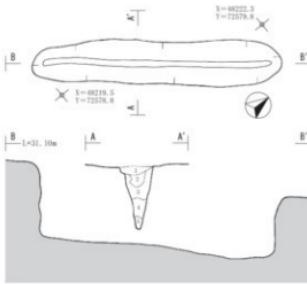
TP57



TP57

- 1 10YR2/1 黒色土 粘性中 繋まり密 草根入る
- 2 10YR5.4 黑褐色土 粘性強 繋まり密 石炭入る
- 3 10YR5.6 黑褐色土 粘性強 繋まり密
- 2 10YR3/1 黑褐色土 粘性強 繋まり密
- 10YR5.6 黄褐色土 植小粒~中粒 3%混入
- 10YR7/6 明黄褐色土 植小粒 3%混入
- 3 10YR6/1 黑褐色土 粘性強 繋まり密 草根入る
- 10YR7.6 明黄褐色土 植小粒 5%混入
- 4 10YR2/2 黑褐色土 粘性強 繋まり中 草根入る
- 5 10YR6/8 明黄褐色土 粘性強 繋まり密 草根入る
- 6 10YR5/6 黄褐色土 单人ブロック上方に混入

TP58

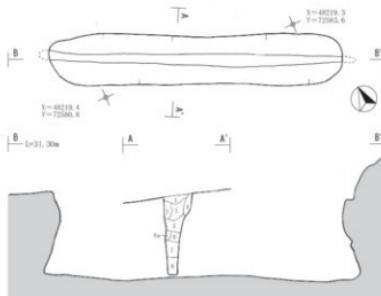


TP58

- 1 10YR1.7/1 黒色土 粘性中 繋まり密 草根入る
- 2 10YR5/8 黄褐色土 植小粒 5%混入
- 2 10YR2/2 黑褐色土 粘性強 繋まり密 草根入る
- 3 10YR7/8 黄褐色土 植小粒 1%混入
- 4 10YR2/3 黑褐色土 粘性強 繋まり密 草根入る
- 5 10YR5/9 黄褐色土 植小粒 2%混入
- 4 10YR2/1 黑褐色土 粘性中 繋まり密 草根入る
- 10YR6/8 明黄褐色土 植小粒 2%混入
- 5 10YR2/3 黑褐色土 粘性強 繋まり密 草根入る
- 5 10YR5/8 黄褐色土 植小粒~中粒 10%混入

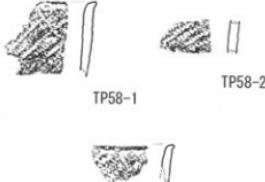
0 1:60 (遺物図) 2m

TP59

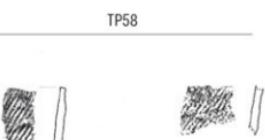


- 1 10YR1.7/1 黒色土 粘性強 繋まり密で密 草根入る 10YR 7/6 明黄褐色土 植小粒 3%混入
- 2 10YR2/1 黑褐色土 粘性強 繋まり密で密 草根入る
- 10YR6/8 明黄褐色土 + 10YR7/8 黄褐色土 植小粒~小粒 7%混入
- 3 10YR3/2 黑褐色土 粘性強 繋まり密 草根入る 10YR7/8 黄褐色土 植小粒 3%混入
- 4 10YR2/1 黑褐色土 粘性強 繋まり密 草根入る 10YR7/8 黄褐色土 植小粒 3%混入
- 5 10YR2/1 黑褐色土 粘性強 繋まり密 草根入る 10YR7/8 黄褐色土 植小粒 3%混入
- 6 10YR6/8 明黄褐色土 粘性強 繋まり密 草根入る
- 6a 10YR3/3 黄褐色土 粘性強 繋まり中 草根入る
- 7 10YR3/1 黑褐色土 粘性強 繋まり中 草根入る
- 10YR6/8 明黄褐色土 植小粒 1%混入 10YR8/9 明黄褐色土 植小粒下方方に混入
- 8 10YR3/2 黑褐色土 粘性強 繋まり中 10YR6/8 明黄褐色土 植小粒 3%混入

TP58



TP58-3



TP59

0 1:3 (遺物図) 10cm

第6図 A区溝状土坑TP57～TP59 遺構内出土遺物

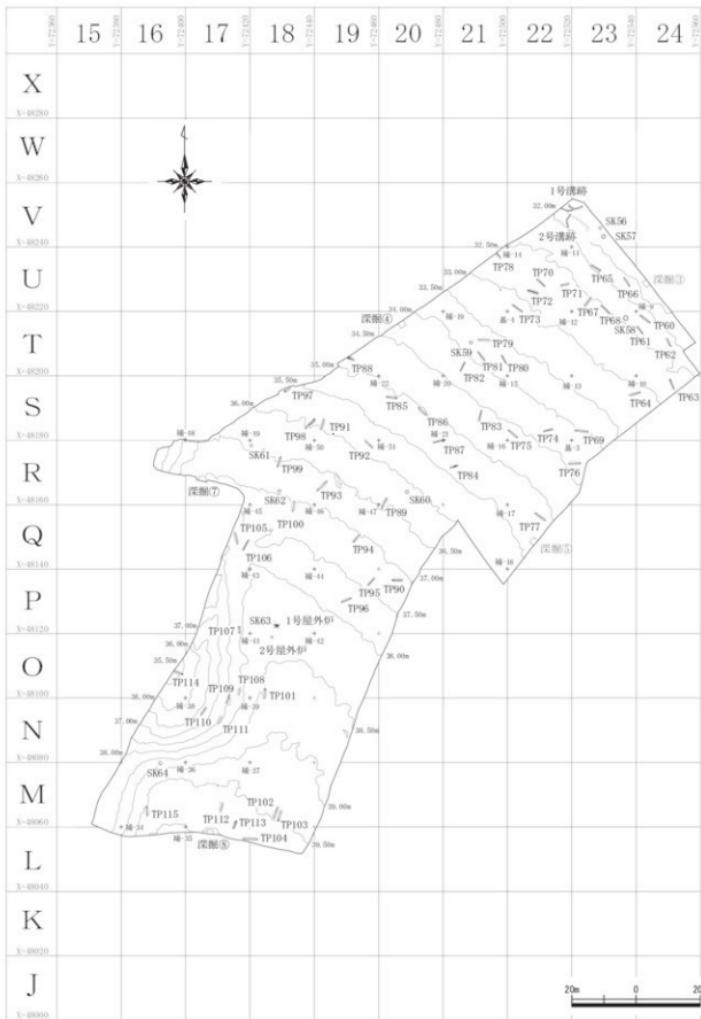
(2) 集石

2号集石 (第7図、写真図版6)

A区の斜面下方、V-27グリッド西側に位置する。直線距離にして約150cmの中に13個の亜角礫が配されている。砂岩の礫が多くを占め、ほとんどの礫が褐色に変色している。湧水のため検出のみで、トレンチの設置等は行えなかった。



第7図 A区 集石



第8図 B区 遺構配置図

2. B 区

B 区では屋外炉 2 基、土坑 9 基、溝状土坑（陥し穴状遺構）56 基、溝跡 2 条が検出された。

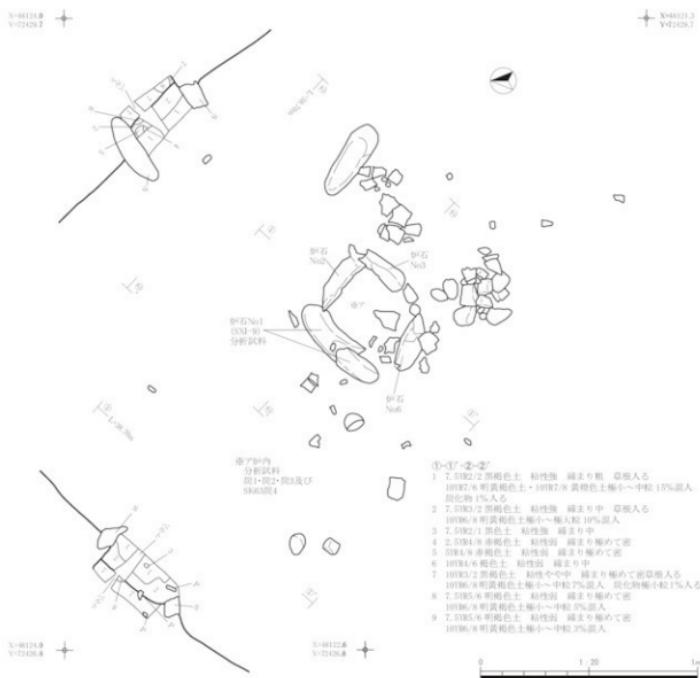
（1）屋外炉

1号屋外炉（第9図、写真図版10）

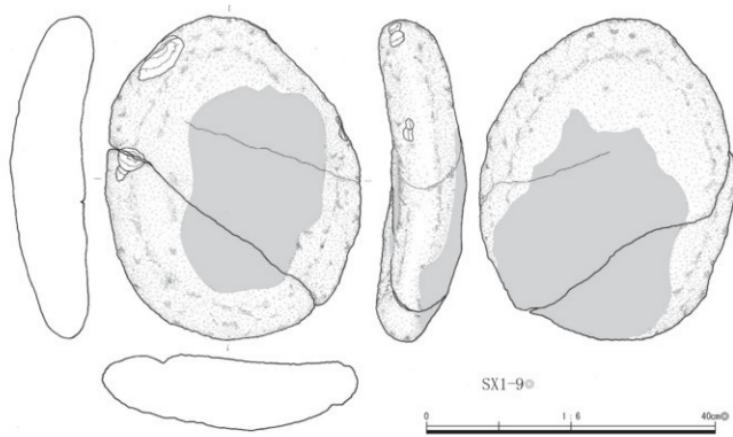
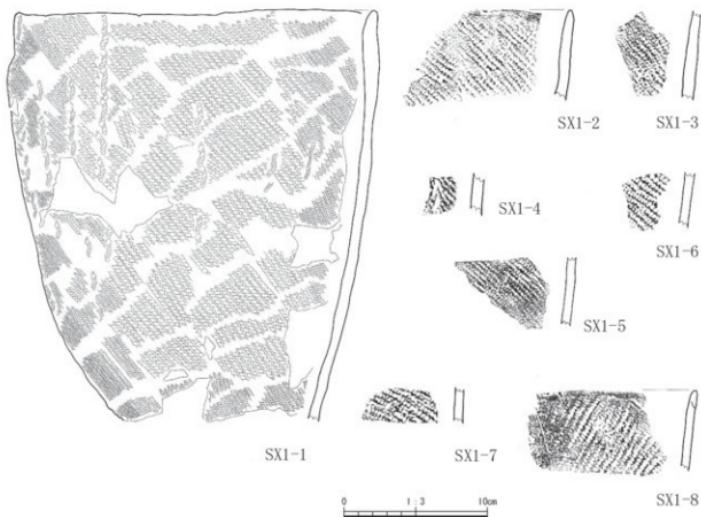
P18 グリッドに位置する。平面形は方形で、規模は長軸 56 cm、短軸 51 cm である。4 個の大型の板状、角状の礫を横長に「ロ」字状に置いて据え、隙間に小礫を配している。No.1 の炉石は花崗岩で、その他の主な炉石の石質は No.2 がチャート、No.3 は砂岩、No.6 はアブライトである。

No.2～6 の炉石は全体的に被熱し赤変している。炉内の堆積土は 6 層に分層した。炉内堆積土中に焼土ブロックの混入は確認できたが、火床面の広がりと被熱の深さは確認できなかつた。

出土遺物は、炉の内外から織文土器片（SXI-1～SXI-8）、No.1（SXI-9）の炉石に転用された石皿がある。石皿は長さ 44.3 cm、幅 35.4 cm、厚さ 11.0 cm、重量 24.2 kg の大型のものである。（第10図、写真図版11）



第9図 B区 1号屋外炉



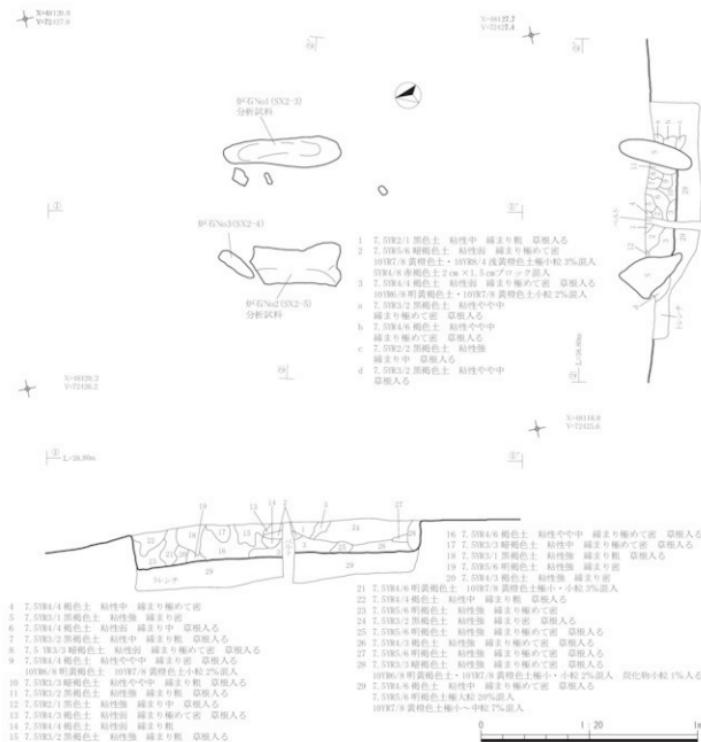
第10図 B区 1号屋外炉出土遺物

2号屋外炉（第11図、写真図版10・11）

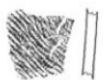
018グリッドに位置する。植林された木根撤去後に検出された。炉石Na1 (SX2-3) の長さ54.9cm、幅32.5cm、厚さ11.8cm、重量34.4kgの花崗閃緑岩の大型の石皿転用の礎と、炉石Na2 (SX2-4) の長さ41.5cm、幅33.3cm、厚さ16.2cm、重量24.6kgの大型の花崗岩の礎を、39cmの間隔で平行に配置し、Na2の礎の北側に炉石Na2の長さ18.8cm、幅14.0cm、厚さ5.0cm、重量1.8kgの小型の礎を斜交するように配置している。

炉全体の規模は長軸74cm、短軸55cmである。Na2の炉石は被熱により赤変している。炉内の長軸側、短軸側にトレンチを設定し、断面の観察を行った。焼土ブロックの確認はされたが、火床面の広がりと被熱の深さは確認できなかつた。

出土遺物は炉内から繩文土器片1点 (SX2-1)、炉外から繩文土器片1点 (SX2-2)、炉石に転用された石皿 (SX2-3)、二次加工の痕跡がある礎 (SX2-4) がある。(第12図、写真図版12)



第11図 B区 2号屋外炉

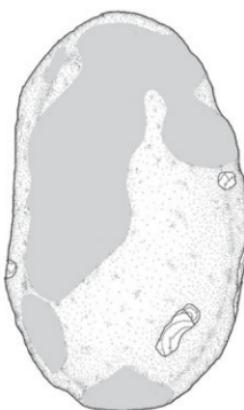
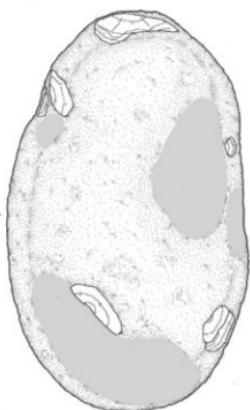


SX2-1



SX2-2

0 1 3 10mm



SX2-3◎



SX2-4◎



第 12 図 B 区 2 号屋外炉出土遺物

0 1 6 30mm

(2) 土坑

SK56土坑（第13図、写真図版13）

V23グリッド南側に位置する。平面形は円形で、規模は開口部で長径92cm×短径74cm、底部で長径82cm×短径68cm、深さは中央部で30cmを測る。底面は平坦である。底部から壁は、長径側、短径側とも外傾気味に立ち上がり開口部へ至る。短径断面形は長方形で、全体の掘り方は円筒形を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。4層に分層され、黒色土、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

SK57土坑（第13図、写真図版13）

V23グリッド南側に位置する。平面形は円形で、規模は開口部で長径112cm×短径104cm、底部で長径108cm×短径104cm、深さは中央部で38cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。底部から壁はオーバーハングして立ち上がり、内傾しながら開口部へ向かい、開口部付近で外反する。全体の掘り方はフラスコ型を呈する。堆積土は11層に分層され、黒色土、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

SK58土坑（第14図、写真図版13）

T23グリッド北東側に位置する。平面形は円形で、規模は開口部で長径164cm×短径148cm、底部で長径163cm×短径152cm、深さは中央部で120cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。底部から壁は、北壁、南壁、西壁は内傾して立ち上がり段を形成する。東壁は内湾して立ち上がり、開口部付近で屈曲あるいは強く外反し開口部へ至る。全体の掘り方はフラスコ型を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。29層に分層され、黒色土、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

SK59土坑（第14図、写真図版13）

T21グリッド中央に位置する。平面形は円形で、規模は開口部で長径106cm×短径105cm、底部で長径84cm×短径76cm、深さは中央部で38cmを測る。底面は平坦である。底部から壁は北壁、東壁、西壁は外傾して立ち上がり、南壁はほぼ直に立ち上がり開口部へ至る。堆積土は自然堆積であるかは不明である。4層に分層され、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

SK60土坑（第14図、写真図版14）

R20グリッド南側に位置する。平面形は円形で、規模は開口部で長径112cm×短径105cm、底部で長径82cm×短径72cm、深さは中央部で43cmを測る。底面はほぼ平坦である。底部から壁は外傾して立ち上がり、開口部へ至る。短径断面形は逆台形を呈する。9層に分層され、黒色土、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

SK61土坑（第15図、写真図版14）

R18グリッド北西側隅に位置する。平面形は円形で、規模は開口部で長径67cm×短径63cm、底部で長径109cm×短径90cm、深さは最深部で32cmを測る。底面は平坦である。底部から壁は内傾して立ち上がり、開口部付近で直あるいは外傾する。全体の掘り方はフラスコ型を呈する。19層に分層され、黒褐色土を主体とする。遺構内堆積土第1層より繩文土器片1点出土している。SK61-1は深鉢形土器の胴部片である。（第32図、写真図版35）

SK62土坑（第15図、写真図版14）

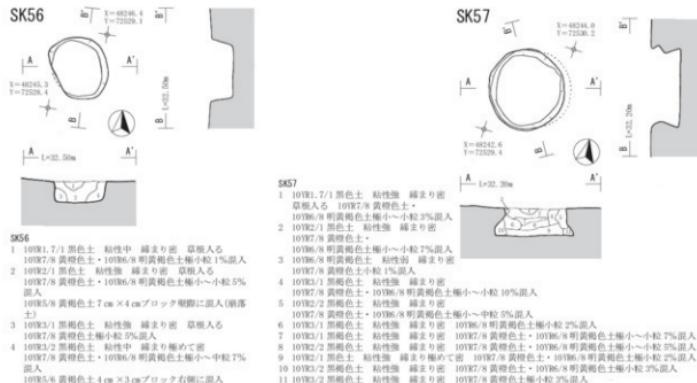
R18グリッド南側に位置する。平面形は円形で、規模は開口部で長径118cm×短径100cm、底部で長径77cm×短径68cm、深さは中央部で27cmを測る。底面は凹凸がみられる。底部から壁は外傾して立ち上がり開口部へ至る。短径断面形は逆台形を呈する。10層に分層され、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

SK63土坑（第15図、写真図版14）

018グリッド南側に位置し、等高線に対して斜交する。平面形は長楕円形で、長軸方向はN-6.5°-Wを示す。規模は開口部で長軸107cm×短軸45cm、底部で長軸103cm×短軸43cm、深さは中央部で8cmを測る。1号屋外炉を検出した時点での、本遺構のプランが確認できたので、本遺構を切って屋外炉が構築されたものと考えられる。炉石の撤去後に精査を行った。底面は平坦である。底部から壁は直に立ち上がる。短軸断面形は長方形を呈する。堆積土は1層で、にぶい黄褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

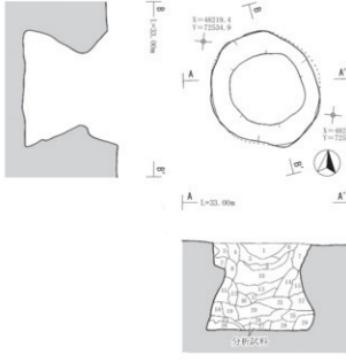
SK64土坑（第15図、写真図版15）

M16グリッド北側、N16グリッド南側に跨り位置する。平面形は円形で、規模は開口部で長径108cm×短径102cm、底部で長径104cm×短径90cm、深さは中央部で52cmを測る。開口部の長径両端の比高差は17cm、短径両端の比高差は8cmを測る。底面は平坦である。底部から壁は西壁、東壁とともに直に立ち上がり開口部へ至る。北壁はオーバーハングして立ち上がり外傾しながら開口部へ至る。南壁は内湾して立ち上がり、開口部付近で外反する。短径断面形は長方形を呈する。8層に分層され、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。



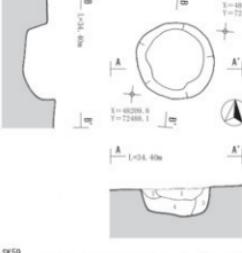
第13図 B区 土坑SK62・SK57

SK58



- 16 10YR3.1 黑褐色土 粘性強 締まり極めて硬 小～大粒 5%混入
17 10YR3.1 黑褐色土 粘性強 緩りや極めて密 草根入る 10YR6.6 明黄色土 中粒 2%混入
18 10YR2.2 黑褐色土 粘性強 緩りや中等 草根入る 10YR6.6 黄褐色土・10YR6.6 明黄色土細小～大粒 5%混入
19 10YR2.2 黑褐色土 粘性強 緩りや中等 草根入る 10YR6.6 黄褐色土・10YR6.6 明黄色土細小～大粒 2%混入
20 10YR2.2 黑褐色土 粘性強 締まり極めて密 草根入る 10YR6.6 黄褐色土細小～大粒 5%混入
21 10YR2.2 黑褐色土 粘性強 緩りや中等 草根入る 10YR6.6 黄褐色土細小～大粒 2%混入
22 10YR3.1 黑褐色土 粘性強 緩りや中等 草根入る 10YR6.6 黄褐色土細小～大粒 2%混入
23 10YR2.2 黑褐色土 粘性強 緩りや中等 草根入る 10YR6.6 黄褐色土細小～大粒 5%混入
24 10YR2.2 黑褐色土 粘性強 締まり極めて密 草根入る 10YR6.6 黄褐色土細小～大粒 7%混入
25 10YR3.2 黑褐色土 粘性強 緩りや中等 草根入る 10YR6.6 黄褐色土細小～大粒 3%混入 10YR6.6 黄褐色土 6 cm × 2 cm ブロック左側に混入
26 10YR4.1 黄褐色土 粘性強 締まり極めて密 草根入る 10YR6.6 黄褐色土・10YR6.6 明黄色土細小 2%混入
27 10YR2.2 黑褐色土 粘性強 緩りや中等 草根入る 10YR7.8 黄褐色土・10YR6.6 明黄色土細小 2%混入
28 10YR2.2 黑褐色土 粘性強 締まり極めて密 草根入る 10YR6.6 黄褐色土細小～大粒 2%混入 10YR6.6 明黄色土 4 cm × 2 cm ブロック左側に混入
29 10YR2.2 黑褐色土 粘性強 締まり極めて密 草根入る 10YR6.6 明黄色土細小～大粒 5%混入

SK59

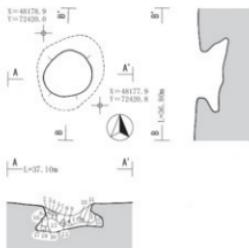


SK60



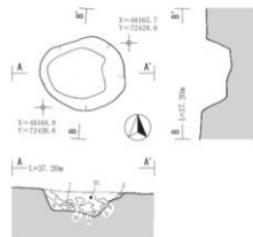
第14図 B区 土坑SK58～SK60

SK61



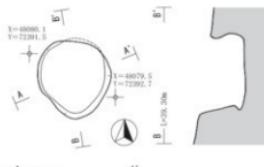
- 1 10YR2 / 黑褐色土 粘性強 繼まり極めて密 草根入る
- 2 10YR6.6 明黄色土・10YR7.8 黄褐色土極小・大粒10%混入
- 3 10YR4 / 白色土 粘性強 繼まり極めて密 草根入る
- 4 10YR6.6 黄褐色土 粘性弱 繼まり極めて密 小粒7%混入
- 5 10YR6.6 黄褐色土 粘性弱 繼まり極めて密 小粒7%混入
- 6 10YR3.5 黄褐色土 粘性強 繼まり極めて密 小粒7%混入
- 7 10YR3.5 黄褐色土 粘性強 繼まり極めて密 小粒3%混入
- 8 10YR4 / 3.5 黃褐色土 粘性強 繼まり極めて密 草根入る
- 9 10YR5.6 黄褐色土 粘性強 繼まり極
- 10 10YR5.2 黄褐色土 粘性強 繼まり極
- 11 10YR5.6 黄褐色土 粘性強 繼まり極めて密 草根入る
- 12 10YR5.6 黄褐色土 粘性強 繼まり極 草根入る
- 13 10YR5.6 黄褐色土 粘性強 繼まり極
- 14 10YR5.2 黄褐色土 粘性強 繼まり極めて密 草根入る
- 15 10YR5.6 / 黄褐色土 粘性強 繼まり極めて密 小粒2%混入
- 16 10YR5.6 黄褐色土 粘性強 繼まり極めて密 小粒2%混入
- 17 10YR5.6 黄褐色土 粘性強 繼まり極めて密 草根・木根入る
- 18 10YR5.6 黄褐色土 粘性強 繼まり極 草根入る
- 19 10YR6.6 黄褐色土 粘性強 繼まり極 (埋山か?)

SK62



- 1 10YR2 / 黑褐色土 粘性強 繼まり極めて密 草根入る
- 2 10YR6.6 黄褐色土・10YR6.6 明黄色土・10YR7.8 黄褐色土 極小~大粒7%混入
- 3 10YR5 / 黑褐色土 粘性強 繼まり極めて密 草根入る
- 4 10YR6.6 黄褐色土 粘性強 繼まり極めて密 小粒10%混入
- 5 10YR6.6 黄褐色土 粘性強 繼まり極めて密 小粒7%混入
- 6 10YR6.6 / 6.6 明黄色土・10YR7.8 黄褐色土極小~大粒5%混入
- 7 10YR7.8 黄褐色土極小・小粒2%混入
- 8 10YR5 / 黑褐色土 粘性強 繼まり極めて密
- 9 10YR5.6 黄褐色土 粘性強 繼まり極めて密
- 10 10YR5.6 黄褐色土 粘性強 繼まり極めて密 小粒2%混入
- 11 10YR5.6 黄褐色土 粘性強 繼まり極めて密 小粒2%混入
- 12 10YR5.6 黄褐色土 粘性強 繼まり極めて密 草根入る
- 13 10YR5.6 黄褐色土 粘性強 繼まり極
- 14 10YR5.2 黄褐色土 粘性強 繼まり極
- 15 10YR5.6 / 黄褐色土 粘性強 繼まり極めて密 草根入る
- 16 10YR5.6 黄褐色土 粘性強 繼まり極めて密 小粒2%混入
- 17 10YR5.6 黄褐色土 粘性強 繼まり極めて密 小粒2%混入
- 18 10YR5.6 黄褐色土 粘性強 繼まり極 草根入る
- 19 10YR6.6 黄褐色土 粘性強 繼まり極 (埋山か?)

SK64



- 1 10YR2 / 黑褐色土 粘性強 繼まり極 草根入る
- 2 10YR6.6 黄褐色土・10YR6.6 明黄色土・10YR7.8 黄褐色土極小~大粒5%混入 化物大粒1粒入る
- 3 10YR5 / 黑褐色土 粘性強 繼まり極めて密 草根入る
- 4 10YR6.6 黄褐色土 粘性強 繼まり極めて密 木根入る
- 5 10YR7.8 黄褐色土 粘性強 繼まり極めて密 草根入る
- 6 10YR6.6 明黄色土極小・小粒2%混入
- 7 10YR5.6 黄褐色土 粘性強 繼まり極めて密
- 8 10YR5.6 黄褐色土 粘性強 繼まり極めて密 草根入る
- 9 10YR5.6 黄褐色土 粘性強 繼まり極めて密 小粒2%混入
- 10 10YR5.6 黄褐色土 粘性強 繼まり極めて密 小粒2%混入
- 11 10YR5.6 黄褐色土 粘性強 繼まり極めて密 草根入る
- 12 10YR5.6 黄褐色土 粘性強 繼まり極
- 13 10YR5.2 黑褐色土 粘性強 繼まり極 草根・木根入る
- 14 10YR6.6 黄褐色土 粘性強 繼まり極めて密 木根入る
- 15 10YR6.6 黄褐色土・10YR7.8 黄褐色土極小~大粒7%混入
- 16 10YR5 / 黑褐色土 粘性強 繼まり極めて密
- 17 10YR5.6 黄褐色土 粘性強 繼まり極 草根入る
- 18 10YR5.6 / 6.6 明黄色土・10YR7.8 黄褐色土極小~大粒7%混入
- 19 10YR5.6 黄褐色土 粘性強 繼まり極めて密 草根入る

0 1.60 2m

第15図 B区 土坑SK61~SK64

(3) 溝状土坑

TP60溝状土坑（第16図、写真図版15）

T24グリッド北西側に位置し、等高線に対して平行する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-53°-Wを示す。規模は開口部で長軸399cm×短軸72cm、底部で長軸409cm×短軸11cm、深さは中央部で90cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側は両壁ともオーバーハングして立ち上がる。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。7層に分層され、黒色土、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP61溝状土坑（第16図、写真図版15）

T24グリッド北西側隅に位置し、等高線に対して平行する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-38°-Wを示す。規模は開口部で長軸324cm×短軸48cm、底部で長軸278cm×短軸6cm、深さは中央部で98cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側北西壁の開口部付近に段がみられる。短軸断面形は、北東壁はややT字状、南西壁はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。4層に分層され、黒色土、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP62溝状土坑（第17図、写真図版16）

T24グリッド中央に位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-28.5°-Wを示す。規模は開口部で長軸303cm×短軸49cm、底部で長軸276cm×短軸8cm、深さは中央部で106cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面はほぼ平坦である。長軸側南東壁の底部付近はオーバーハングしている。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。5層に分層され、黒色土、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP63溝状土坑（第17図、写真図版16）

S24グリッド北側に位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-23°-Wを示す。規模は開口部で長軸346cm×短軸50cm、底部で長軸329cm×短軸11cm、深さは中央部で94cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側北西壁の開口部付近はオーバーハングしている。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。5層に分層され、黒色土、黒褐色土、暗褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP64溝状土坑（第17図、写真図版16）

S23グリッド東側、S24グリッド西側に跨り位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-76°-Eを示す。規模は開口部で長軸372cm×短軸70cm、底部で長軸338cm×短軸8cm、深さは中央部で110cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側東壁の中央付近はオーバーハングしている。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。4層に分層され、黒色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP65溝状土坑（第17図、写真図版17）

U23グリッド北西側に位置し、等高線に対して平行する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-60°-Wを示す。規模は開口部で長軸366cm×短軸55cm、底部で長軸354cm×短軸12cm、深さは中央部で92cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は若干回凸がみられる。短軸側北東壁は開口部付近に段が形成される。短軸断面形は、南西壁はややY字状、北東壁はT字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。8層に分層され、黒色土、暗褐色土、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP66溝状土坑（第18図、写真図版17）

E23グリッド東側に位置し、等高線に対して平行する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-33°-Wを示す。規模は開口部で長軸350cm×短軸71cm、底部で長軸334cm×短軸8cm、深さは中央部で113cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面はほぼ平坦である。短軸側北東壁の開口部付近に段が形成される。短軸断面形は、北東壁はT字状、南西壁はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。7層に分層され、黒褐色土、黒色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP67溝状土坑（第18図、写真図版17）

E23グリッド南東側に位置し、等高線に対して直交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-36°-Eを示す。規模は開口部で長軸359cm×短軸69cm、底部で長軸336cm×短軸17cm、深さは中央部で110cmを測る。開口部の長軸両端の比高差は17cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。8層に分層され、黒色土、黒褐色土、暗褐色土、明黄褐色土を主体とする。遺構内堆積土第6層より繩文土器片1点出土している。TP67-1は深鉢形土器の胴部片である。（第32図、写真図版35）

TP68溝状土坑（第18図、写真図版18）

E23グリッド南側、T23グリッド北側に跨り位置し、等高線に対して平行する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-45°-Wを示す。規模は開口部で長軸390cm×短軸56cm、底部で長軸393cm×短軸12cm、深さは中央部で97cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側は両壁ともオーバーハングして立ち上がる。短軸側北東壁は中央や上方に段を形成する。短軸断面形は、南西壁はY字状、北東壁はT字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。7層に分層され、黒色土、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP69溝状土坑（第18図、写真図版18）

S23グリッド南西側に位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-83.5°-Wを示す。規模は開口部で長軸440cm×短軸70cm、底部で長軸432cm×短軸14cm、深さは中央部で164cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側西壁はオーバーハングして立ち上がる。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。10層に分層され、黒褐色土、明黄褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP70溝状土坑（第19図、写真図版18）

E22グリッド中央に位置し、等高線に対して平行する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-47.5°-Wを示す。規模は開口部で長軸346cm×短軸53cm、底部で長軸336cm×短軸12cm、深さは中央部で102cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面はほぼ平坦である。短軸側北西壁は中央付近に軽い段が形成される。短軸断面形は、北東壁はT字状、南西壁はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。8層に分層され、黒色土、黒褐色土、黄褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP71溝状土坑（第19図、写真図版19）

E22グリッド東側に位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-73°-Eを示す。規模は開口部で長軸282cm×短軸72cm、底部で長軸256cm×短軸10cm、深さは中央部で98cm、最深部は130cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦であるが北東方向に傾斜し、底面の比高差は36cmを測る。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。6層に分層され、黒色土、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP72溝状土坑（第19図、写真図版19）

U22グリッド南西側に位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-73°-Wを示す。規模は開口部で長軸366cm×短軸102cm、底部で長軸314cm×短軸8cm、深さは中央部で119cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。7層に分層され、黒色土、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP73溝状土坑（第19図、写真図版19）

U22グリッド南西側、T22グリッド北西側に跨り位置し、等高線に対して平行する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-54°-Wを示す。規模は開口部で長軸404cm×短軸50cm、底部で長軸374cm×短軸13cm、深さは中央部で124cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。8層に分層され、黒色土、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP74溝状土坑（第20図、写真図版20）

S22グリッド南側に位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-77°-Eを示す。規模は開口部で長軸298cm×短軸57cm、底部で長軸288cm×短軸14cm、深さは中央部が最深部で70cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は中央部に窪みがある。長軸側北壁は中央付近で内湾する。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。3層に分層され、黒色土、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP75溝状土坑（第20図、写真図版20）

S22グリッド南西側に位置し、等高線に対して平行する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-53°-Wを示す。規模は開口部で長軸367cm×短軸62cm、底部で長軸354cm×短軸6cm、深さは中央部で68cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側北西壁はオーバーハングして立ち上がる。短軸側北東壁は開口部付近で段を形成する。短軸断面形はT字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。5層に分層され、黒色土、暗褐色土、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP76溝状土坑（第20図、写真図版20）

R23グリッド西側、R22グリッド東側に跨り位置し、等高線に対して直交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-88°-Eを示す。規模は開口部で長軸376cm×短軸92cm、底部で長軸396cm×短軸13cm、深さは中央部で130cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側は両壁ともオーバーハングして立ち上がる。短軸断面形は、北壁はY字状、南壁はU字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。5層に分層され、黒色土、黒褐色土、明黄褐色土を主体とする。遺構内から出土遺物はない。

TP77溝状土坑（第20図、写真図版21）

Q22グリッド北側に位置し、等高線に対して平行する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-54.5°-Wを示す。規模は開口部で長軸406cm×短軸78cm、底部で長軸406cm×短軸10cm、深さは中央部で128cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側北西壁はオーバーハングして立ち上がる。短軸側北東壁は開口部付近で段を形成する。短軸断面形は、北東壁はT字状、南西壁はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。6層に分層され、黒褐色土、明黄褐色土を主体とする。遺構検出面より織文土器片12点、遺構内堆積土第1層より1点出土している。そのうち4点を掲載した。TP77-1・TP77-2は深鉢形土器の口縁部片、TP77-3・TP77-4は深鉢形土器の胴部片である。（第32図、写真図版35）

TP78溝状土坑（第21図、写真図版21）

T21グリッド北東側に位置し、等高線に対して平行する。長軸北東側は調査区外へ延びる。平面形は細長楕円形と推定され、長軸方向はN-37.5°-Wを示す。規模は開口部で長軸残存242cm×短軸50cm、底部で長軸残存176cm×短軸10cm、深さは中央部で98cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。5層に分層され、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP79溝状土坑（第21図、写真図版21）

T21グリッド中央に位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-86°-Wを示す。規模は開口部で長軸370cm×短軸79cm、底部で長軸366cm×短軸5cm、深さは中央部で106cmを測る。開口部の長軸両端の比高差は16cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側東壁はオーバーハングして立ち上がる。短軸側北壁は開口部付近で段を形成する。短軸断面形は、北壁はT字状、南壁はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。9層に分層され、黒色土、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP80溝状土坑（第21図、写真図版22）

T21グリッド南西側に位置し、等高線に対して平行する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-32.5°-Wを示す。規模は開口部で長軸294cm×短軸48cm、底部で長軸320cm×短軸9cm、深さは中央部で88cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側は両壁ともオーバーハングして立ち上がる。短軸断面形は、北東壁はY字状、南西壁はT字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。9層に分層され、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP81溝状土坑（第21図、写真図版22）

T21グリッド南側に位置し、等高線に対して平行する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-38.5°-Wを示す。規模は開口部で長軸377cm×短軸64cm、底部で長軸346cm×短軸14cm、深さは中央部で125cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。6層に分層され、黒褐色土、黒色土、明黄褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP82溝状土坑（第22図、写真図版22）

T21グリッド南西側に位置し、等高線に対して直交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-26.5°-Eを示す。規模は開口部で長軸345cm×短軸47cm、底部で長軸337cm×短軸8cm、深さは中央部で120cmを測る。開口部の長軸両端の比高差は15cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。短軸断面形は、北西壁はU字状、南東壁はややY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。8層に分層され、黒褐色土、明黄褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP83溝状土坑（第22図、写真図版23）

S21グリッド中央に位置し、等高線に対して直交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-11.5°-Eを示す。規模は開口部で長軸354cm×短軸56cm、底部で長軸338cm×短軸13cm、深さは中央部で118cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側北壁は僅かにオーバーハングして立ち上がる。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。9層に分層され、黒褐色土、黄褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP84溝状土坑（第22図、写真図版23）

R21グリッド西側に位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-74°-Eを示す。規模は開口部で長軸282cm×短軸58cm、底部で長軸255cm×短軸6cm、深さは中央部で106cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。短軸側南壁は開口部付近で段を形成する。短軸断面形は北壁はY字状、南壁はT字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。4層に分層され、黒色土、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP85溝状土坑（第22図、写真図版23）

S20グリッド北西側に位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-85°-Wを示す。規模は開口部で長軸352cm×短軸63cm、底部で長軸338cm×短軸4cm、深さは中央部で92cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。4層に分層され、黒色土、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP86溝状土坑（第23図、写真図版24）

S20グリッド東側に位置し、等高線に対して平行する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-45.5°-Wを示す。規模は開口部で長軸346cm×短軸82cm、底部で長軸317cm×短軸4cm、深さは中央部で101cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は若干凹凸がみられる。長軸側北西壁はオーバーハングして立ち上がる。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。4層に分層され、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP87溝状土坑（第23図、写真図版24）

R20グリッド北東側、S21グリッド南西側に跨り位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-78°-Eを示す。規模は開口部で長軸400cm×短軸40cm、底部で長軸411cm×短軸9cm、深さは中央部で109cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側は両壁ともオーバーハングして立ち上がる。短軸側南壁は開口部付近で段を形成する。短軸断面形は、北壁はU字状、南壁はT字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。5層に分層され、黒色土、黄褐色土、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP88溝状土坑（第23図、写真図版24）

T19グリッド南側に位置し、等高線に対して平行する。長軸北側は調査区外へ延びる。平面形は細長楕円形と推定され、長軸方向はN-66.5°-Wを示す。規模は開口部で長軸残存226cm×短軸74cm、底部で長軸残存214cm×短軸8cm、深さは中央部で114cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。短軸側は両壁とも中央や上方で段を形成する。短軸断面形はT字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。7層に分層され、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP89溝状土坑（第23図、写真図版25）

Q20グリッド北西側、R20グリッド南西側に跨り位置し、等高線に対して直交する。平面形は細長楕円形で長軸方向はN-26.5°-Eを示す。規模は開口部で長軸376cm×短軸90cm、底部で長軸366cm×短軸20cm、深さは中央部で178cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。短軸側は両壁とも開口部付近で段を形成する。短軸断面形はT字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。12層に分層され、黒色土、黒褐色土、明黄褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP90溝状土坑（第24図、写真図版25）

P20 グリッド北西側に位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-88°-Eを示す。規模は開口部で長軸322cm×短軸80cm、底部で長軸332cm×短軸26cm、深さは中央部で86cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側は両壁ともオーバーハングして立ち上がる。短軸側は両壁とも開口部付近で段を形成する。短軸断面形はT字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。7層に分層され、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP91溝状土坑（第24図、写真図版25）

S19 グリッド南西側に位置し、等高線に対して直交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-16°-Eを示す。規模は開口部で長軸356cm×短軸79cm、底部で長軸328cm×短軸12cm、深さは中央部で111cmを測る。開口部の長軸両端の比高差は26cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。11層に分層され、黒色土、黒褐色土、暗褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP92溝状土坑（第24図、写真図版26）

R19 グリッド北東側に位置し、等高線に対して平行する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-45.5°-Eを示す。規模は開口部で長軸353cm×短軸63cm、底部で長軸324cm×短軸9cm、深さは中央部で107cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。短軸側は両壁とも開口部付近で段を形成する。短軸断面形はT字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。6層に分層され、黒色土、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP93溝状土坑（第24図、写真図版26）

R19 グリッド南西側に位置し、等高線に対して直交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-46°-Eを示す。規模は開口部で長軸418cm×短軸86cm、底部で長軸458cm×短軸5cm、深さは中央部で128cmを測る。開口部の長軸両端の比高差は19cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側は両壁ともオーバーハングして立ち上がる。短軸南北西壁は中央や上方に段を形成する。短軸断面形はT～Y字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。9層に分層され、黒褐色土を主体とする。遺構検出面より縄文土器片4点、石器1点が出土している。そのうち1点を掲載した。TP93-1は深鉢形土器の胴部片である。（第32図、写真図版35）

TP94溝状土坑（第25図、写真図版26）

Q19 グリッド中央に位置し、等高線に対して直交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-40.5°-Eを示す。規模は開口部で長軸304cm×短軸55cm、底部で長軸292cm×短軸11cm、深さは中央部で106cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。9層に分層され、黒褐色土、明黄褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP95溝状土坑（第25図、写真図版27）

P19 グリッド北東側に位置し、等高線に対して直交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-42°-Eを示す。規模は開口部で長軸324cm×短軸48cm、底部で長軸286cm×短軸8cm、深さは中央部で94cmを測る。開口部の長軸両端の比高差は12cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。短軸断面形は、南東壁はU字状、北西壁はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。12層に分層され、明黄褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP96溝状土坑（第25図、写真図版27）

P19グリッド中央に位置し、等高線に対して直交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-65°-Eを示す。規模は開口部で長軸353cm×短軸66cm、底部で長軸320cm×短軸7cm、深さは中央部で98cmを測る。開口部の長軸両端の比高差は13cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。7層に分層され、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP97溝状土坑（第25図、写真図版27）

S18グリッド北側に位置し、等高線に対して直交する。北壁の一部が調査区外へ延びる。平面形は長楕円形と推定されるが一部調査区外のため全体のプランが不明である。長軸方向はN-49°-Eを示す。規模は開口部で長軸残存268cm×短軸101cm、底部で長軸211cm×短軸15cm、深さは中央部で147cm、最深部152cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。11層に分層され、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP98溝状土坑（第26図、写真図版28）

S18グリッド南東側、S19グリッド南西側に跨り位置し、等高線に対して直交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-44.5°-Eを示す。規模は開口部で長軸116cm×短軸74cm、底部で長軸442cm×短軸57cm、深さは中央部で111cm、最深部145cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は両側に落ち込み状の凹みがみられる。長軸側は両壁ともオーバーハングして立ち上がる。短軸側は両壁とも中央下方が括れる。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。20層に分層され、黒褐色土、暗褐色土、明黄褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP99溝状土坑（第26図、写真図版28）

R18グリッド北側に位置し、等高線に対して直交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-18°-Eを示す。規模は開口部で長軸45cm×短軸62cm、底部で長軸340cm×短軸14cm、深さは中央部で103cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側は両壁ともやオーバーハング気味に立ち上がる。短軸側は両壁とも中央付近に段が形成される。短軸断面形はT字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。11層に分層され、黒色土、黒褐色土を主体とする。遺構内堆積土第4層より繩文土器片1点出土している。TP99-1は深鉢形土器の胴部片である。（第32図、写真図版35）

TP100溝状土坑（第26図、写真図版28）

Q18グリッド北側、R18グリッド南側に跨り位置し、等高線に対して直交する。平面形は長楕円形で、長軸方向はN-7°-Eを示す。規模は開口部で長軸317cm×短軸123cm、底部で長軸323cm×短軸16cm、深さは中央部で152cmを測る。開口部の長軸両端の比高差は14cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側は両壁ともオーバーハングして立ち上がる。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。9層に分層され、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP101溝状土坑（第27図、写真図版29）

O18グリッド南西側隅に位置し、等高線に対して平行する。平面形は長楕円形で、長軸方向はN-7°-Eを示す。規模は開口部で長軸317cm×短軸115cm、底部で長軸294cm×短軸22cm、深さは中央部で125cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側は両壁とも開口部付近で軽い段を形成する。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。11層に分層され、黒褐色土、褐色土、明黄褐色土、黃褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP102溝状土坑（第27図、写真図版29）

M18グリッド南側に位置し、等高線に対して直交し、TP103の北西に並列する。平面形は細長楕円形と推定され、長軸方向はN-21.5°-Eを示す。規模は開口部で長軸残存350cm×短軸82cm、底部で長軸387cm×短軸13cm、深さは中央部で137cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側南西壁はオーバーハングして立ち上がる。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。11層に分層され、黒褐色土、暗褐色土、明黃褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP103溝状土坑（第27図、写真図版29）

M18グリッド南側に位置し、等高線に対して直交し、TP102の南東に並列する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-17°-Eを示す。規模は開口部で長軸347cm×短軸78cm、底部で長軸348cm×短軸7cm、深さは中央部で127cmを測る。開口部の長軸両端の高差は18cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側南西壁はオーバーハングして立ち上がり、開口部付近で段を形成する。短軸断面形はY字状を呈する。6層に分層され、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP104溝状土坑（第28図、写真図版30）

L17グリッド北東側、L18グリッド北西側に跨り位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-86.5°-Wを示す。規模は開口部で長軸412cm×短軸88cm、底部で長軸488cm×短軸15cm、深さは中央部で142cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側は両壁ともオーバーハングして立ち上がる。短軸側は両壁とも中央上方で段を形成する。短軸断面形はT字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。18層に分層され、黒褐色土、明黃褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP105溝状土坑（第28図、写真図版30）

Q17グリッド東側に位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-12.5°-Wを示す。規模は開口部で長軸398cm×短軸89cm、底部で長軸342cm×短軸17cm、深さは中央部で120cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。短軸側は両壁とも開口部付近で段を形成する。短軸断面形はT字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。6層に分層され、暗褐色土を主体とする。遺構検出面上より織文土器片5点、遺構内堆積土第1層より2点、第2層より6点、第4層より3点出土している。そのうち7点を掲載した。TP105-1は深鉢形土器の口縁部片、TP105-4は遺構検出面、遺構内堆積土第2層・第4層の個体と接合した深鉢形土器の底部片、それ以外は深鉢形土器の胴部片である。（第32図、写真図版35）

TP106溝状土坑（第28図、写真図版30）

Q17グリッド東側に位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-30°-Eを示す。規模は開口部で長軸370cm×短軸32cm、底部で長軸364cm×短軸12cm、深さは中央部で57cm、最深部88cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側北東壁はオーバーハングして立ち上がる。短軸断面形はU字状を呈する。3層に分層され、黒褐色土、褐色土、黄褐色土を主体とする。遺構内堆積土第1層より織文土器片1点、第2層より1点出土している。TP106-1は深鉢形土器の口縁部片、TP106-2は深鉢形土器の胴部片である。（第32図、写真図版35）

TP107溝状土坑（第29図、写真図版31）

P17グリッド南東側隅に位置し、等高線に対して平行する。平面形は長楕円形で、長軸方向はN-6°-Wを示す。規模は開口部で長軸240cm×短軸94cm、底部で長軸167cm×短軸17cm、深さは中央部で78cm、最深部87cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。短軸断面形はV字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。5層に分層され、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP108溝状土坑（第29図、写真図版31）

017グリッド南東側に位置し、等高線に対して平行する。平面形は長楕円形で、長軸方向はN-12.5°-Eを示す。規模は開口部で長軸247cm×短軸91cm、底部で長軸199cm×短軸7cm、深さは中央部で140cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。8層に分層され、黒色土、明黄褐色土、褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP109溝状土坑（第29図、写真図版31）

N17グリッド北側、017グリッド南側に跨り位置し、等高線に対して平行する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-18.5°-Eを示す。規模は開口部で長軸281cm×短軸67cm、底部で長軸253cm×短軸8cm、深さは中央部で115cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。短軸側は両壁とも中央で段を形成する。短軸断面形はT字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。11層に分層され、黒褐色土、黄褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP110溝状土坑（第29図、写真図版32）

N17グリッド北西側に位置し、等高線に対して平行する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-37°-Eを示す。規模は開口部で長軸253cm×短軸73cm、底部で長軸323cm×短軸10cm、深さは中央部で117cmを測る。開口部の短軸両端の比高差は9cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側は両壁ともオーバーハンジで立ち上がる。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。11層に分層され、黒色土、黒褐色土、褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP111溝状土坑（第30図、写真図版32）

N17グリッド北側に位置し、等高線に対して平行する。平面形は長楕円形で、長軸方向はN-23.5°-Eを示す。規模は開口部で長軸284cm×短軸104cm、底部で長軸201cm×短軸41cm、深さは中央部で111cmを測る。開口部の長軸両端の比高差は18cm、短軸両端の比高差は14cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦で、他の溝状土坑と比べ底部面積は広めである。短軸断面形は逆台形を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。7層に分層され、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP112溝状土坑（第30図、写真図版32）

M17グリッド南側に位置し、等高線に対して直交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-9°-Eを示す。規模は開口部で長軸315cm×短軸98cm、底部で長軸242cm×短軸16cm、深さは中央部で148cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。9層に分層され、黒褐色土を主体とする。遺構検出面より繩文土器片が3点出土している。そのうち1点を掲載した。TP112-1は深鉢形土器の口縁部片である。（第32図、写真図版35）

TP113溝状土坑（第30図、写真図版33）

M17グリッド南東側、L17グリッド北東側に跨り位置し、等高線に対して直交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-23°-Eを示す。規模は開口部で長軸270cm×短軸84cm、底部で長軸277cm×短軸15cm、深さは中央部で127cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側は両壁ともオーバーハンジして立ち上がり、南西壁中央付近で段を形成する。短軸側は両壁とも中央で段を形成する。短軸断面形はT字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。8層に分層され、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

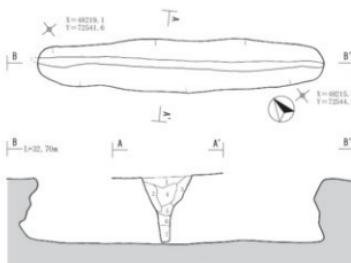
TP114溝状土坑（第31図、写真図版33）

016グリッド東側に位置し、等高線に対して直交する。長軸西側は調査区外へ延びる。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-68.5°-Wを示す。規模は開口部で長軸残存302cm×短軸83cm、底部で長軸残存316cm×短軸14cm、深さは中央部で130cm、最深部は151cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦であるが、南東側には軽い凹みがみられる。長軸側南東壁は開口部付近で段を形成する。短軸断面形はY字状を呈する。27層に分層され、黒褐色土、暗褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP115溝状土坑（第31図、写真図版33）

M16グリッド南側に位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-5.5°-Wを示す。規模は開口部で長軸312cm×短軸102cm、底部で長軸312cm×短軸10cm、深さは中央部で131cmを測る。開口部の長軸両端の比高差は16cm、短軸両端の比高差は8cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側北壁はオーバーハングして立ち上がる。短軸断面形はY-T字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。13層に分層され、黒褐色土、褐色土を主体とする。遺構検出面より縄文土器片4点出土している。TP115-1～TP115-4は深鉢形土器の胴部で、TP115-1には沈線がみられる。（第32図、写真図版35）

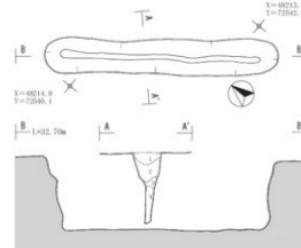
TP60



TP60

- 1 10VR1/7/1 黒色土 粘性強 繰まり極めて密 草根・木根入る
10VR7/8 黄褐色土層小2%混入
- 2 10VR3/3 黒褐色土 粘性強 繰まり極めて密 草根入る
10VR3/4 黑褐色土 粘性強 繰まり中程度 草根入る
10VR3/5 黑褐色土 粘性強 繰まり極めて密 草根入る
10VR7/8 黄褐色土層小2%混入
- 3 10VR2/1 黒色土 粘性強 繰まり密 草根・木根入る
10VR7/8 黄褐色土層小2%混入
- 4 10VR2/7 黑褐色土 粘性強 繰まり密 草根・木根入る
10VR6/8 明黄褐色土層小2%混入
- 5 10VR3/2 黑褐色土 粘性強 繰まり中 10VR6/8 明黄褐色土層混入
- 6 10VR3/2 黑褐色土 粘性強 繰まり中 10VR6/8 明黄褐色土層混入
- 7 10VR4/4 黄色土 粘性強 繰まり粗

TP61



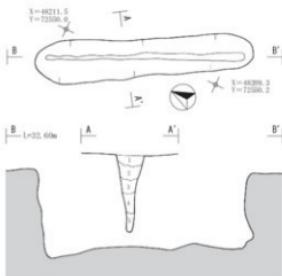
TP61

- 1 10VR1/7/1 黒色土 粘性強 繰まり極めて密 草根入る
10VR7/8 黄褐色土・10VR6/8 明黄褐色土層小~中粒3%混入
- 2 10VR3/3 黑褐色土 粘性強 繰まり極めて密 草根入る
10VR7/8 黄褐色土・10VR6/8 明黄褐色土層小~中粒 5%混入
- 3 10VR3/1 黑褐色土 粘性強 繰まり中程度 草根入る
10VR6/8 明黄褐色土層小2%混入
- 4 10VR3/3 黑褐色土 粘性強 繰まり密 草根入る
10VR6/8 明黄褐色土層小2%混入

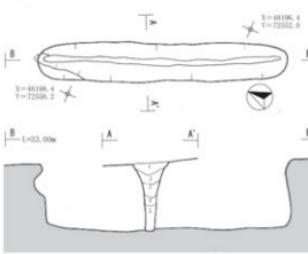


第16図 B区 溝状土坑 TP60・TP61

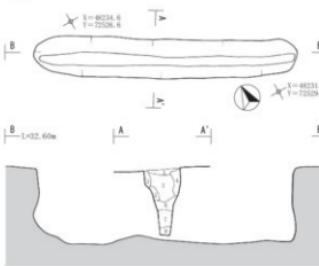
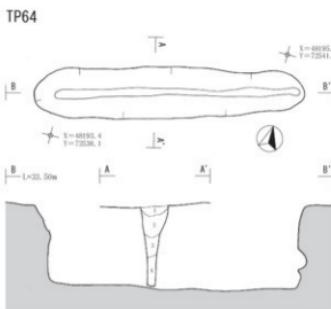
TP62



TP63



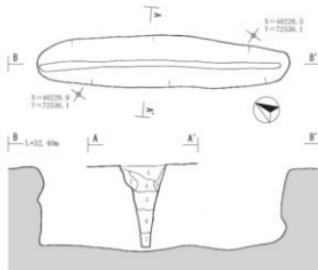
TP65



0 1 60 2m

第17図 B区溝状土坑TP62~TP65

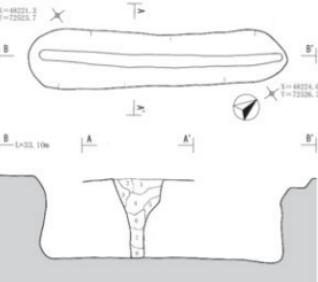
TP66



TP66

- 10W1/7.1 黒色土・粘性強 繰まり極めて密 草根入る
- 10W6/8 明黄褐色土 小粒 1%混入
- 10Y2/4 塗褐色土 8 cm × 5 cm ブロック若干に混入
- 10Y2/3 黄褐色土 8 cm × 5 cm ブロック若干に混入
- 10Y2/3 黄褐色土 9 cm × 7 cm ブロック下方に混入
- 10Y2/1 黄褐色土 粘性強 繰まり密 草根入る
- 10Y2/7 黄褐色土・10Y6/8 明黄褐色土極小～大粒 5%混入
- 10Y6/8 明黄褐色土 6 cm × 3 cm ブロック下方に混入
- 10Y2/1 黄褐色土 粘性強 繰まり密
- 10Y2/7 黄褐色土・10Y6/8 黄褐色土極小～大粒 5%混入
- 10Y6/8 明黄褐色土 6 cm × 3 cm ブロック混入
- 10Y2/2 黄褐色土 粘性強 繰まり密
- 10Y6/8 明黄褐色土 極小～中粒 2%混入
- 10Y2/3 黄褐色土 粘性強 繰まり密
- 10Y6/8 明黄褐色土 極小～中粒 5%混入

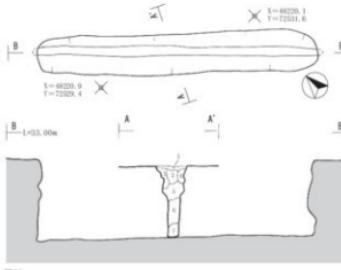
TP67



TP67

- 10W1/7.1 黒色土・粘性中 繰まり極めて密 草根入る
- 10Y6/8 明黄褐色土 小粒 1%混入
- 10Y2/2 黄褐色土 粘性中 繰まり極めて密
- 10Y2/7 黄褐色土 極小～中粒 5%混入
- 10Y2/3 黄褐色土 粘性中 繰まり極めて密 草根入る
- 10Y2/7 黄褐色土 小粒 5%混入
- 10Y2/1 黑色土 粘性強 繰まり極めて密
- 10Y2/8 明黄褐色土 10 cm × 5 cm × 3 cm ブロック混入
- 10Y6/8 黄褐色土 小粒～中粒 1%混入
- 10Y2/3 黄褐色土 小粒 5%混入
- 10Y2/1 黑色土 粘性強 繰まり極めて密
- 10Y2/8 明黄褐色土 小粒 5%混入

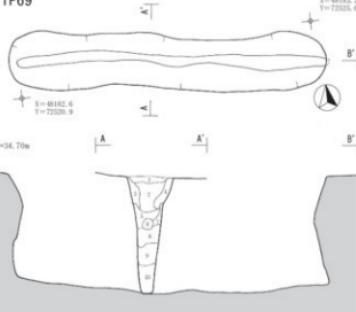
TP68



TP68

- 10W1/7.1 黒色土・粘性強 繰まり密
- 10Y6/1 黑色土・粘性強 繰まり中
- 10Y2/2 黑色土・粘性強 繰まり密 草根入る
- 10Y6/8 明黄褐色土 小粒 1%混入
- 10Y2/3 黄褐色土 8 cm × 5 cm ブロック下方に混入
- 10Y2/1 黑色土 粘性強 繰まり密 草根入る
- 10Y4/4 黑色土 4 cm × 4 cm ブロック下方に混入
- 10Y2/1 黑色土 粘性強 繰まり密 草根入る
- 10Y6/8 明黄褐色土 小粒～中粒 2%混入
- 10Y2/3 黄褐色土 7 cm × 4 cm ブロック上方に混入
- 10Y2/4 黄褐色土 粘性強 繰まり密

TP69



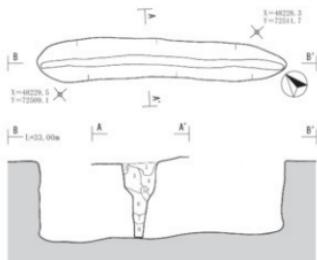
TP69

- 10W1/7.1 黒色土・粘性中 繰まり極めて密 草根入る
- 10Y6/8 明黄褐色土 小粒 1%混入
- 10Y2/1 黑色土 粘性強 繰まり密 草根入る
- 10Y2/7 黄褐色土・10Y6/3に沿う 黄褐色土 4 cm × 3 cm ブロック混入 10Y2/2 黑褐色土 小粒～中粒 5%混入
- 10Y6/8 明黄褐色土 10 cm × 4 cm × 8 cm × 4 cm × 6 cm × 5 cm ブロック混入
- 10Y2/1 黑褐色土 粘性強 繰まり密 草根入る
- 10Y6/6 黄褐色土・10Y6/8 明黄褐色土 小粒～中粒 10%混入
- 10Y2/1 黑色土 粘性強 繰まり密 草根入る
- 10Y2/7 黄褐色土・10Y6/8 明黄褐色土 小粒～中粒 10%混入
- 10Y2/3 黑褐色土 粘性強 繰まり密
- 10Y6/8 明黄褐色土 粘性中 繰まり中
- 10Y6/8 明黄褐色土 粘性中 繰まり密 草根入る
- 10Y2/1 黑色土 粘性強 繰まり密 草根入る
- 10Y2/7 黄褐色土 小粒 5%混入
- 10Y2/3 黄褐色土 粘性中 繰まり密 草根入る
- 10Y6/8 明黄褐色土 粘性中 繰まり密 草根入る
- 10Y2/1 黑色土 粘性強 繰まり密 10Y2/3 黄褐色土 4 cm × 4 cm ブロック混入
- 10Y2/2 黑色土 粘性強 繰まり密 10Y2/7 黄褐色土 小粒 5%混入

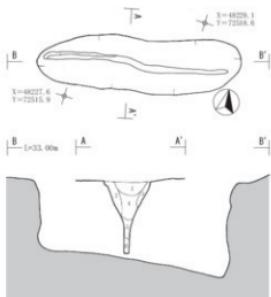
第 18 図 B 区 溝状土坑 TP66～TP69

0 1.60 2m

TP70



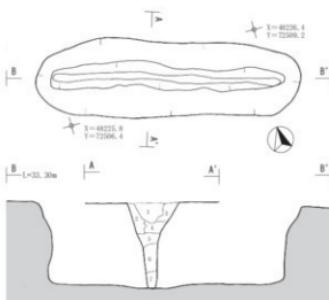
TP71



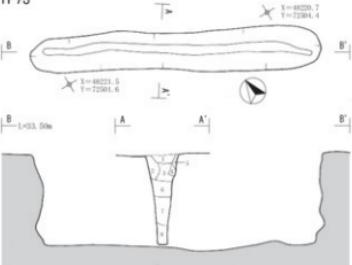
TP70

- 10YR 7/1 黒褐色土・粘性強 繰まり極めて密 草根入る
- 10YR 7/8 黄褐色土・10YR 6/8 明黄褐色土 極小～中粒 2%混入
- 2 10YR 1/ 黑褐色土・粘性強 繰まり密 草根入る
- 3 10YR 7/ 黑褐色土・粘性強 繰まり中
- 3 10YR 7/ 黑褐色土・10YR 6/8 黄褐色土・10YR 6/8 明黄褐色土 極小～中粒 7%混入
- 4 10YR 1/ 黑褐色土・粘性強 繰まり中
- 10YR 7/ 黑褐色土・10YR 6/8 黄褐色土・10YR 6/8 明黄褐色土 極小～中粒 10%混入
- 10YR 6/ 黄褐色土・粘性強 繰まり中
- 10YR 6/ 黄褐色土・粘性弱 繰まり極めて密
- 6 10YR 2/ 黑褐色土・粘性強 繰まり中
- 10YR 7/ 黑褐色土・10YR 6/8 明黄褐色土 極小～中粒 3%混入
- 10YR 6/ 黄褐色土・粘性強 繰まり中
- 10YR 6/ 黄褐色土・粘性強 繰まり中
- 7 10YR 2/ 黑褐色土・粘性強 繰まり中
- 10YR 6/ 明黄褐色土 5cm × 7cm ブロック右側面に混入(崩落土)
- 8 10YR 1/ 黑褐色土・粘性強 繰まり粗 10YR 6/8 明黄褐色土 極小～中粒 2%混入
- 10YR 6/ 黄褐色土 1cm × 4cm ブロック中央に混入

TP72

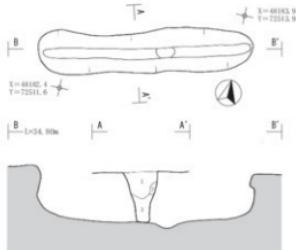


TP73



第19図 B区溝状土坑TP70～TP73

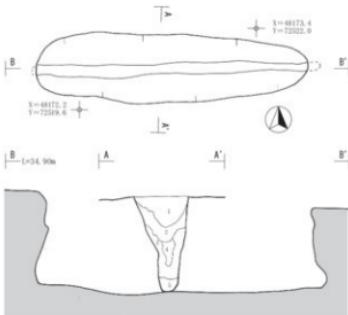
TP74



TP74

- 1 10YR2/1 黒色土 粘性中 繰まり極 密根入る
10YR6/8 明黄褐色土・10YR7/6 明黄褐色土・10YR7/8 黄褐色土
小～中粒10%混入
- 2 10YR2/2 黒褐色土 粘性中 繰まり中
10YR6/8 明黄褐色土・10YR7/6 明黄褐色土・10YR7/8 黄褐色土
小～中粒10%混入
10YR6/8 明黄褐色土 4cm×6cm×1.5cmブロック混入
- 3 10YR2/1 黑色土 粘性強 繰まり粗
10YR6/8 明黄褐色土・10YR7/6 明黄褐色土・10YR7/8 黄褐色土
小～中粒5%混入
10YR6/8 明黄褐色土 9cm×3cm×7cm×2cm×2cm×1.5cm
×3cm×3cm ブロックと 10YR7/8 黄褐色土 4cm×3cm ブロック混入
- 4 10YR2/1 黑色土 粘性強 繰まり粗
10YR6/8 明黄褐色土・10YR7/6 明黄褐色土・10YR7/8 黄褐色土
小～中粒5%混入
- 5 10YR2/1 黑色土 粘性強 繰まり粗

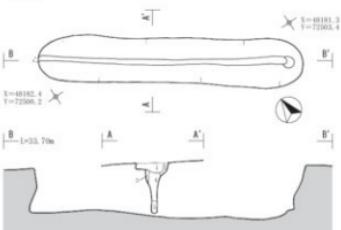
TP76



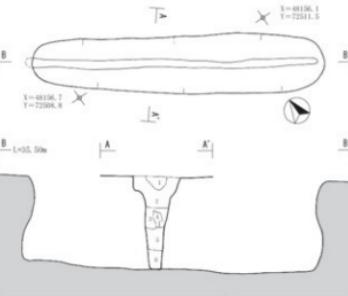
TP76

- 1 10YR1/7 黑色土 粘性強 繰まり極めて密 草根入る
10YR6/8 明黄褐色土・10YR7/6 明黄褐色土・10YR7/8 黄褐色土
小～中粒2%混入
- 2 10YR6/8 黄褐色土 粘性強 繰まり中
10YR6/8 明黄褐色土・10YR7/6 明黄褐色土・10YR7/8 黄褐色土
小～中粒10%混入
- 3 10YR6/8 明黄褐色土 粘性中やや中 繰まり極めて密
- 4 10YR2/1 黑色土 粘性強 繰まり粗
- 5 10YR2/1 黑色土 粘性強 繰まり粗

TP75

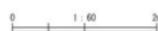


TP77

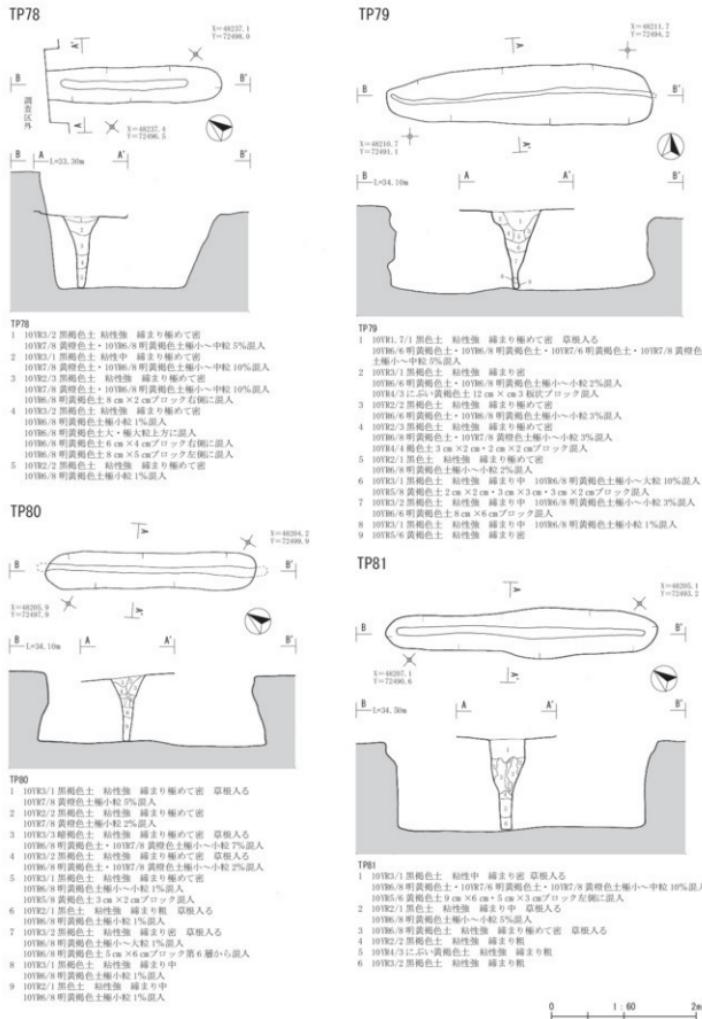


TP77

- 1 10YR2/1 黑褐色土 粘性中 繰まり極 密根入る
10YR6/8 明黄褐色土・10YR7/6 黄褐色土
小～中粒2%混入
- 2 10YR2/2 黑褐色土 粘性強 繰まり粗 草根入る
10YR6/8 明黄褐色土・10YR7/6 明黄褐色土・10YR7/8 黄褐色土
小～中粒10%混入
- 3 10YR6/8 黄褐色土 粘性強 繰まり中
10YR7/6 明黄褐色土・10YR7/8 黄褐色土
小～中粒10%混入
- 4 10YR2/1 黑色土 粘性強 繰まり粗 草根入る
10YR6/8 明黄褐色土・10YR7/6 明黄褐色土・10YR7/8 黄褐色土
小～中粒7%混入
- 5 10YR2/1 黑色土 粘性強 繰まり極めて密 草根入る
10YR6/8 黄褐色土小～中粒10%混入

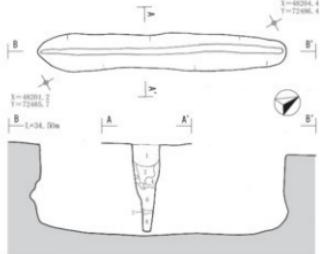


第 20 図 B 区 溝状土坑 TP74～TP77

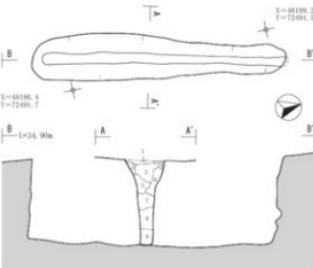


第21図 B区 溝状土坑 TP78~TP81

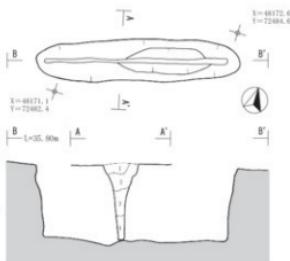
TP82



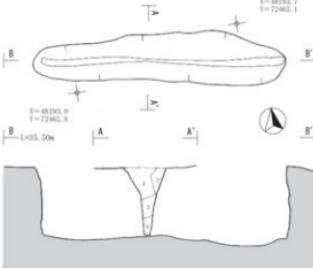
TP83



TP84

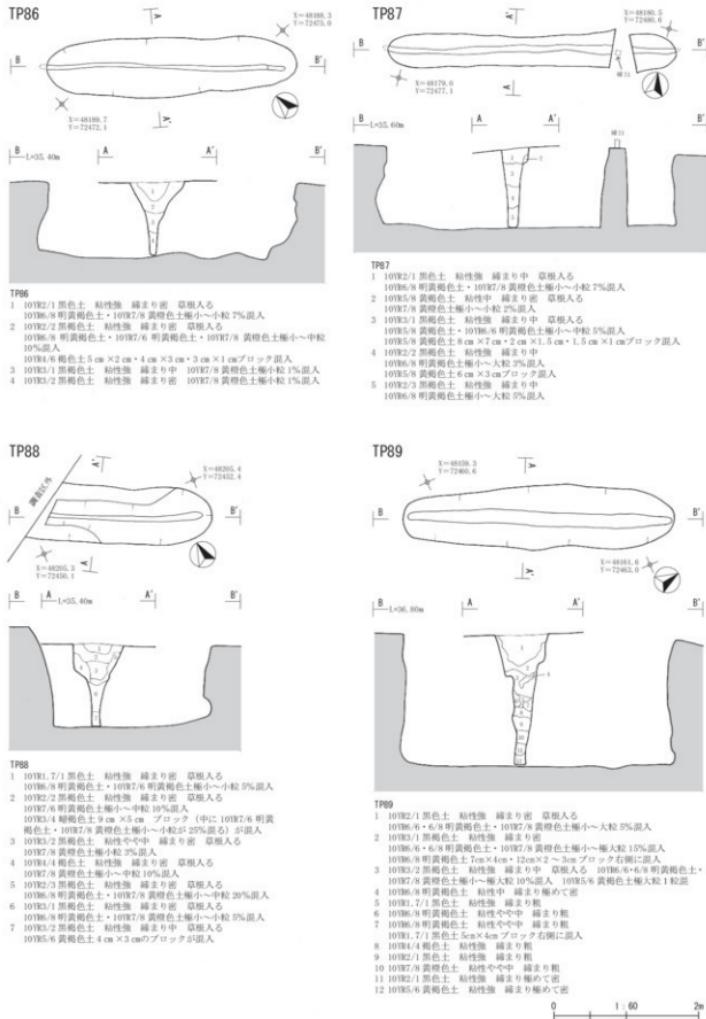


TP85

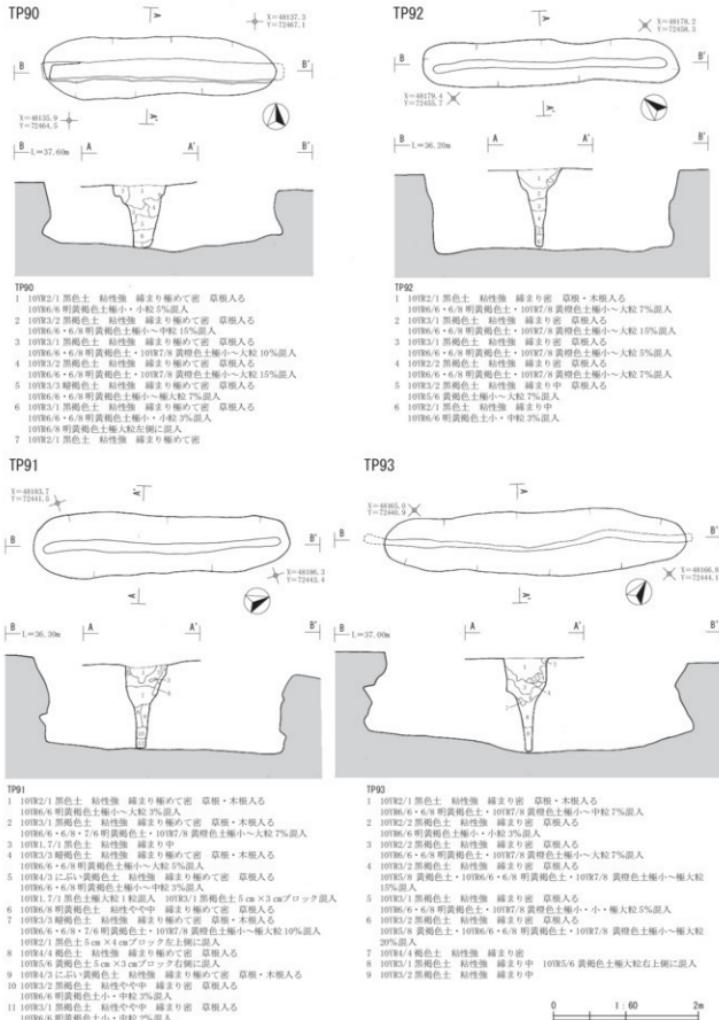


第 22 図 B 区 溝状土坑 TP82～TP85

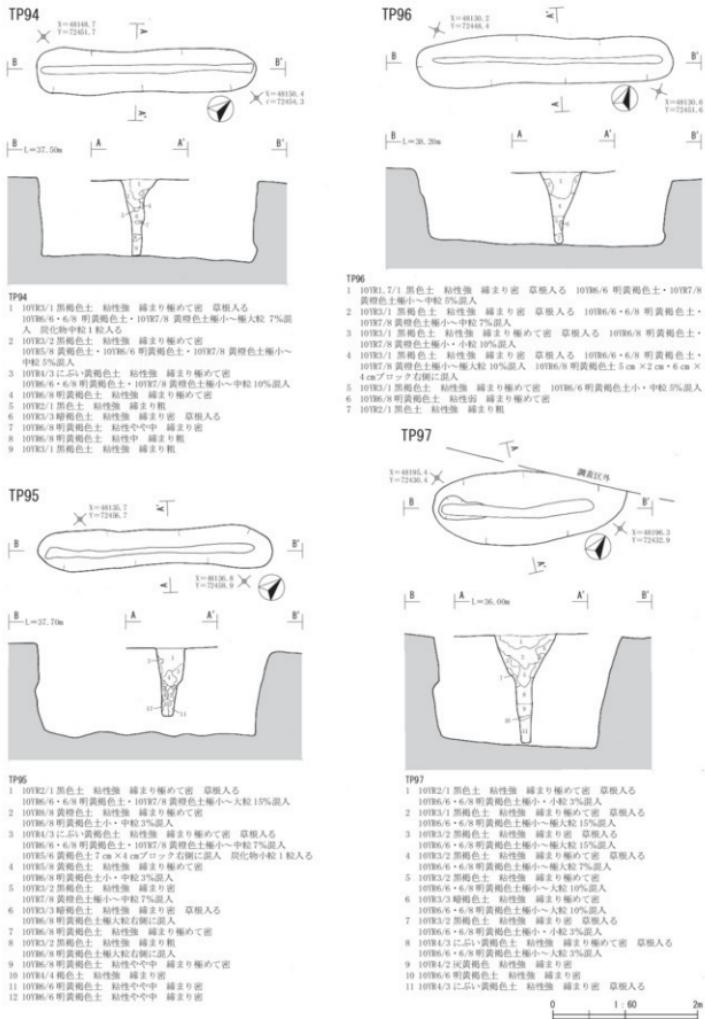
0 1.60 2m



第23図 B区 溝状土坑 TP86～TP89

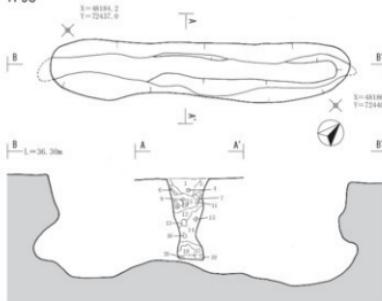


第 24 図 B 区 溝状土坑 TP90 ~ TP93

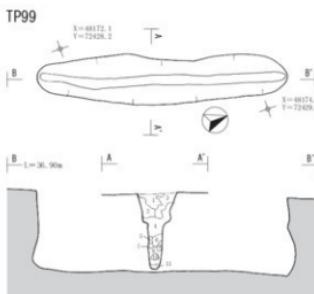


第25図 B区溝状土坑 TP94～TP97

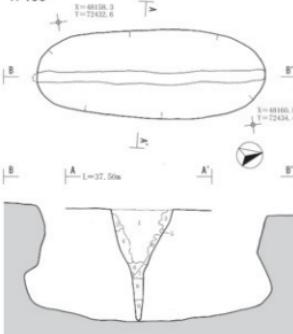
TP98



TP99



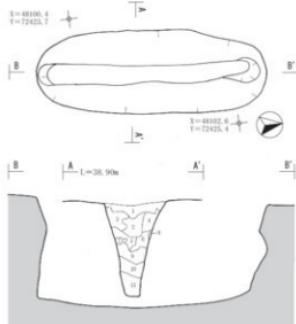
TP100



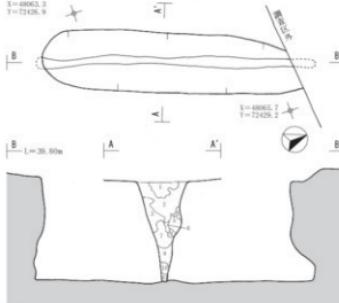
0 1:60 2m

第26図 B区 溝状土坑TP98～TP100

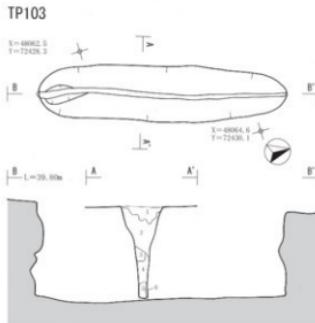
TP101



TP102

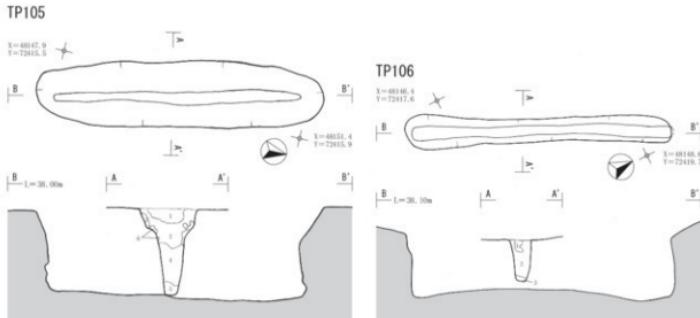
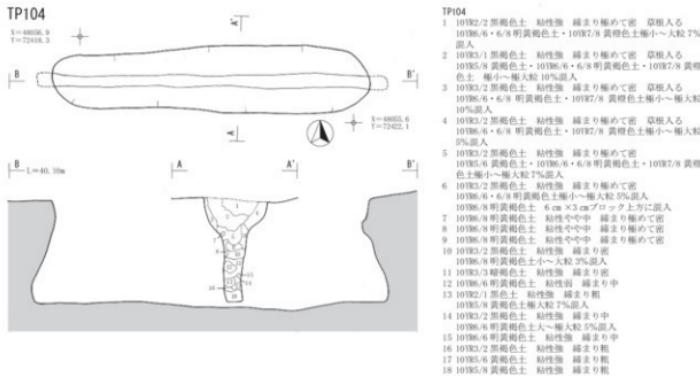


TP103



0 1 60 2m

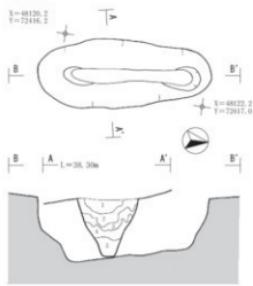
第27図 B区 溝状土坑 TP101～TP103



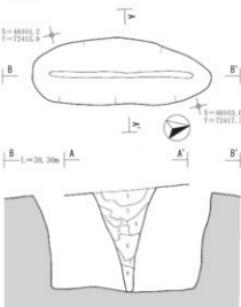
第28図 B区 溝状土坑 TP104～TP106



TP107



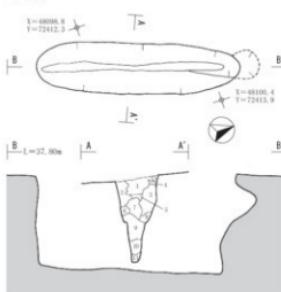
TP108



TP107

- 10YR1/1黒褐色土 粘性強 繊毛り極めて密 草根入る
- 10YR6/8明黄褐色土・10YR7/8黄褐色土土極小~大粒2%混入
- 10YR2/2黒褐色土 粘性強 繊毛り極めて密 草根入る
- 10YR6/8明黄褐色土・10YR7/8黄褐色土土極小~中粒・大粒10%混入
- 10YR2/1黒褐色土 粘性強 繊毛り極めて密 草根入る
- 10YR7/8黄褐色土土極小~大粒2%混入
- 10YR6/6黄褐色土 粘性強 繊毛り密 草根入る
- 10YR5/6黄褐色土 粘性強 繊毛り密 草根入る

TP109



TP108

- 10YR1/7/1黒色土 粘性強 繊毛り密 草根入る
- 10YR6/8明黄褐色土・10YR7/8黄褐色土土極小・小粒2%混入
- 10YR2/1黒色土 粘性強 繊毛り極めて密 草根入る
- 10YR6/8明黄褐色土・10YR7/8黄褐色土土極小・大粒2%混入
- 2 10YR2/1黒色土 粘性強 繊毛り極めて密 草根入る
- 3 10YR6/8明黄褐色土・10YR7/8黄褐色土土極小・大粒2%混入
- 4 10YR4(3-2)・黄褐色土 粘性強 繊毛り密 草根入る
- 10YR6/8明黄褐色土・10YR7/8黄褐色土土極小・大粒2%混入
- 5 10YR6/8明黄褐色土 粘性強 繊毛り極めて密 草根入る
- 7 10YR6/8明黄褐色土 粘性強 繊毛り中 草根入る
- 8 10YR4/6黒色土 粘性強 繊毛り中 草根入る
10YR5/8黄褐色土4cm×3cmブロック混入

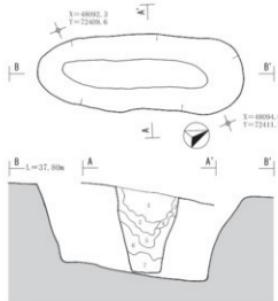
TP110



第29図 B区溝状土坑 TP107～TP110

0 1 60 2m

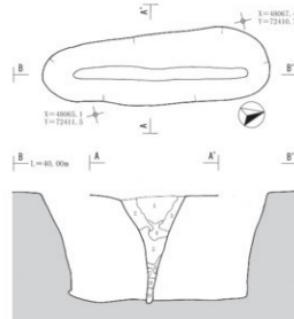
TP111



TP111

- 1 10TR2/1 黒色土 粘性強 繰まり極めて密 草根入る 10TR6/6・6/8明黄褐色土・10TR7/8 黄褐色土層小~中粒粗15%混入
- 2 10TR3/1 黑褐色土 粘性強 繰まり極めて密 10TR6/6・6/8明黄褐色土・10TR7/8 黄褐色土層小~中粒粗20%混入
- 3 10TR3/2 黑褐色土 粘性強 繰まり極めて密 10TR6/6・6/8明黄褐色土層小~中粒粗25%混入
- 4 10TR3/2 黑褐色土 粘性強 繰まり極めて密 草根入る 10TR6/6・6/8明黄褐色土層小~中粒粗15%混入
- 5 10TR3/2 黑褐色土 粘性強 繰まり極めて密 草根入る 10TR6/6・6/8明黄褐色土・10TR7/8 黄褐色土層小~中粒粗15%混入
- 6 10TR4/3(2) 黄褐色土 粘性強 繰まり極めて密 10TR6/6・6/8明黄褐色土 10TR6/8明黄褐色土3cm×2.5cm・5cm×3cm・4cm×2.5cm・6cm×2cm・4cm×3cm プロツク右側に混入
- 7 10TR5/6 黄褐色土 粘性強 繰まり極めて密

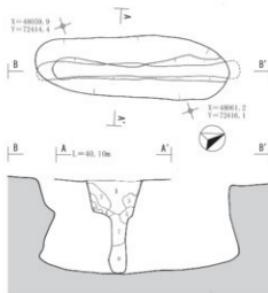
TP112



TP112

- 1 10TR2/1 黒色土 粘性強 繰まり極めて密 草根入る 10TR6/8明黄褐色土・10TR7/8 黄褐色土層小~中粒粗15%混入
- 2 10TR3/1 黑褐色土 粘性強 繰まり極めて密 草根入る 10TR6/8明黄褐色土・10TR7/8 黄褐色土層小~中粒粗10%混入
- 3 10TR3/1 黑褐色土 粘性強 繰まり極めて密 草根入る 10TR6/8明黄褐色土・10TR7/8 黄褐色土層小~中粒粗10%混入
- 4 10TR3/1 黑褐色土 粘性強 繰まり極めて密 草根入る 10TR6/8明黄褐色土・10TR7/8 黄褐色土層小~中粒粗10%混入
- 5 10TR3/2 黑褐色土 粘性強 繰まり極めて密 10TR6/6明黄褐色土・10TR7/8 黄褐色土層小~中粒粗10%混入
- 6 10TR3/2 黑褐色土 粘性強 繰まり極めて密
- 7 10TR4/6 黄褐色土 粘性強 繰まり中
- 8 10TR5/6 黄褐色土 粘性強 繰まり中
- 9 10TR3/1 黑褐色土 粘性強 繰まり中 草根入る

TP113



TP113

- 1 10TR2/1 黒色土 粘性強 繰まり極めて密 草根入る 10TR6/6明黄褐色土・10TR7/8 黄褐色土層小~中粒粗5%混入
- 2 10TR3/1 黑褐色土 粘性強 繰まり密 草根入る 10TR6/6明黄褐色土・10TR7/8 黄褐色土層小~中粒粗10%混入
- 3 10TR3/3 黄褐色土 粘性強 繰まり極めて密 草根入る 10TR6/8明黄褐色土・10TR7/8 黄褐色土層小~中粒粗10%混入
- 4 10TR3/2 黑褐色土 粘性強 繰まり極めて密 草根入る 10TR6/8明黄褐色土・10TR7/8 黄褐色土層小~中粒粗10%混入
- 5 10TR3/2 黑褐色土 粘性強 繰まり極めて密 草根入る 10TR6/8明黄褐色土・10TR7/8 黄褐色土層小~中粒粗20%混入
- 6 10TR6/8明黄褐色土 粘性弱 繰まり極めて密 (張り詰ぎなし)
- 7 10TR6/8明黄褐色土 粘性強 繰まり極めて密 10TR6/9明黄褐色土・10TR7/8 黄褐色土層小~中粒粗10%混入
- 8 10TR5/6 黄褐色土 粘性強 繰まり密 草根入る

0 1 60 2m

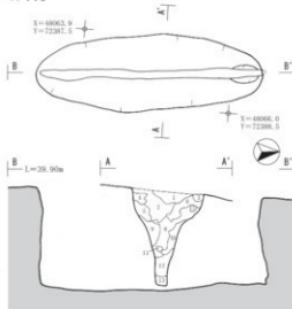
第30図 B区 溝状土坑 TP111～TP113

TP114 B-B'

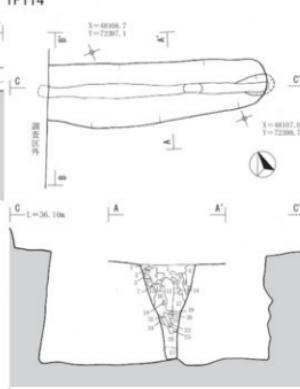
TP114 A-A

- 1) 10YE2/1黒葉色・粘性葉 繭まり葉 茎草根人 10TB6-6/黄褐色土色・10TB6-6/黄褐色土色・10TB6-6/黄褐色土色・10TB7-6/黒褐色土色・小15%混入人
2) 10YE2/2黒葉色・粘性葉 繭まり葉 茎草根人 10TB7-6/黒褐色土色・小15%混入人
3) 10YE2/3黒葉色・粘性葉 繭まり葉 中 10TB6-6/6-3/6 黄褐色土色・小12-22%混入人
4) 10YE2/4黒葉色・粘性葉 繭まり葉 中 10TB6-6/6-3/6 黄褐色土色・10TB6-6/明黃褐色土色・小15%混入人
5) 10YE2/5黒葉色・粘性葉 繭まり葉 中 10TB6-6/6-3/6 黄褐色土色・10TB7-6/黒褐色土色・4cm×3cm×2cm フラット上人
6) 10YE2/6黒葉色・粘性葉 繭まり葉 中 10TB6-6/6-3/6 黄褐色土色・10TB7-6/明黃褐色土色・10TB7-6/黄褐色土色・10TB7-6/明黃褐色土色
7) 10YE2/7黒葉色・粘性葉 繭まり葉 篦子 10TB6-6/6-3/6 黄褐色土色
8) 10YE2/8黒葉色・粘性葉 繭まり葉 篦子 10TB6-6/6-3/6 黄褐色土色・小15%混入人
9) 10YE2/9黒葉色・粘性葉 繭まり葉 篦子 10TB6-6/6-3/6 黄褐色土色・小15%混入人
10) 10YE2/10黒葉色・粘性葉 繭まり葉 篦子 10TB6-6/6-3/6 黄褐色土色・小15%混入人
11) 10YE2/11黒葉色・粘性葉 繭まり葉 篦子 10TB6-6/6-3/6 黄褐色土色・小15%混入人
12) 10YE2/12黒葉色・粘性葉 繭まり葉 篦子 10TB6-6/6-3/6 黄褐色土色・小15%混入人
13) 10YE2/13黒葉色・粘性葉 繭まり葉 篦子 10TB6-6/6-3/6 黄褐色土色・小15%混入人
14) 10YE2/14黒葉色・粘性葉 繭まり葉 篦子 10TB6-6/6-3/6 黄褐色土色・小15%混入人
15) 10YE2/15黒葉色・粘性葉 繭まり葉 篦子 10TB6-6/6-3/6 黄褐色土色・小15%混入人

JP115

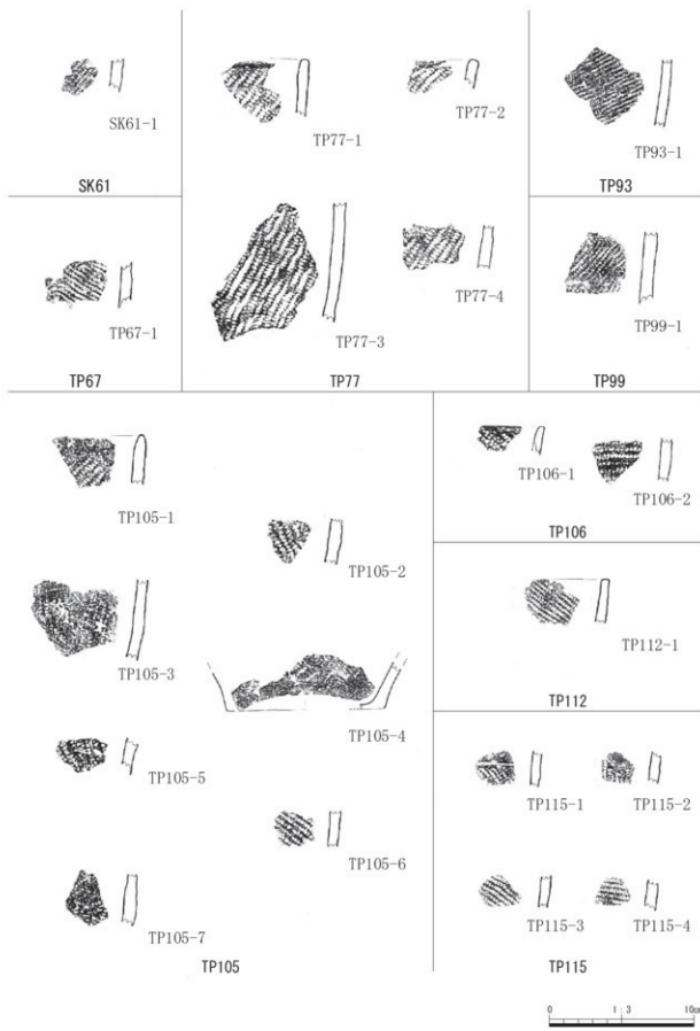


TP114



TP115

第31図 B区 滝状土坑 TP114・TP115



第32図 B区 遺構内出土遺物

(4) 溝跡

1号溝跡（第33図、写真図版34）

V22グリッド東側、V23グリッド西側に跨り位置し、西側は調査区外へ延びる。長さは698cm以上である。また、東端から30cmの地点でY字状に枝分かれして北西方向に200cm延びる。検出面、セクションでの観察では切り合ひの確認はできなかった。上幅は32cm~54cm、深さは24cm~36cmである。底面はほぼ平坦である。底部から壁は、直あるいは外傾して立ち上がり開口部へ至る。セクションの断面形は、長方形あるいは逆台形を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。セクションAは5層、セクションBは3層、セクションCは4層、セクションDは11層に分層され、黒色土、黒褐色土、暗褐色土、明黄褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

A-A'

- 1 10YR2/1 黒色土 粘性地 繰まり極めて密 10YR7/8 黄褐色土・10YR6/8 明黄褐色土・土塊小粒2%混入
- 2 10YR2/1 黑褐色土 粘性地 繰まり極めて密 10YR7/8 黄褐色土・10YR6/8 明黄褐色土・土塊小粒2%混入
- 3 10YR2/2 黑褐色土 粘性地 繰まり極めて密 10YR7/8 黄褐色土・10YR6/8 明黄褐色土・土塊小粒2%混入
- 4 10YR3/2 黑褐色土 粘性地 繰まり極めて密 10YR6/8 明黄褐色土・土塊小粒混入
- 5 10YR6/8 明黄褐色土 粘性地 繰まり極めて密 10YR7/8 黄褐色土・土塊小粒3%混入

[A] L=32.60

[A']

[B] L=32.60m [B']

[C]

B-B'

- 1 10YR2/1 黑褐色土 粘性地 繰まり密 10YR7/8 黄褐色土・土塊小粒1%混入
- 2 10YR6/2 黑褐色土 粘性地 繰まり極めて密 10YR7/8 黄褐色土・10YR6/8 明黄褐色土・土塊小粒2%混入 10YR6/8 明黄褐色土 10cm×5cmブロック中央に混入
- 3 10YR3/2 黑褐色土 粘性地 繰まり極めて密 10YR7/8 黄褐色土3%混入

L=32.60m

[C] L=32.60m [C']

C-C'

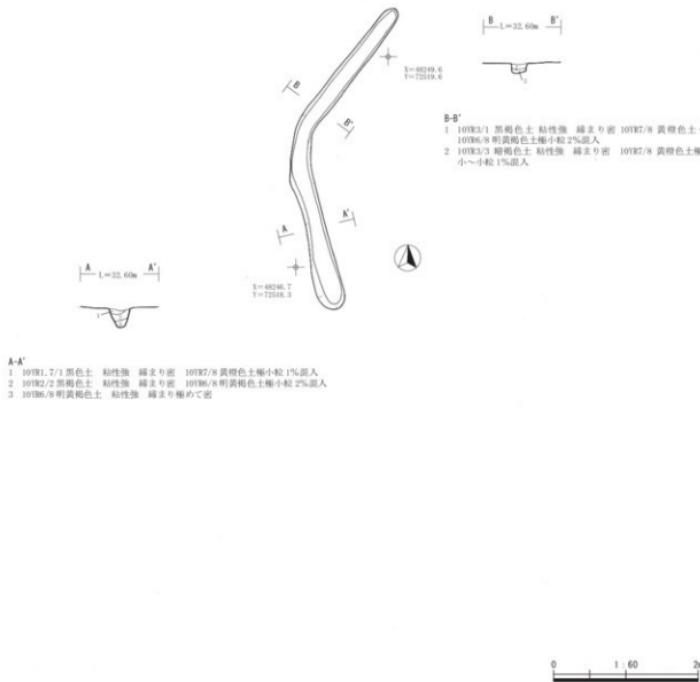
- 1 10YR2/1 黑褐色土 粘性地 繰まり密 草根入 10YR7/8 黄褐色土・土塊1%混入
- 2 10YR2/2 黑褐色土 粘性地 繰まり極めて密 土塊入
- 3 10YR6/8 明黄褐色土 粘性地 中・繰まり極めて密 草根入
- 4 10YR3/3 暗褐色土 粘性地や中 繰まり中 草根・木根入

0 1 60 2m

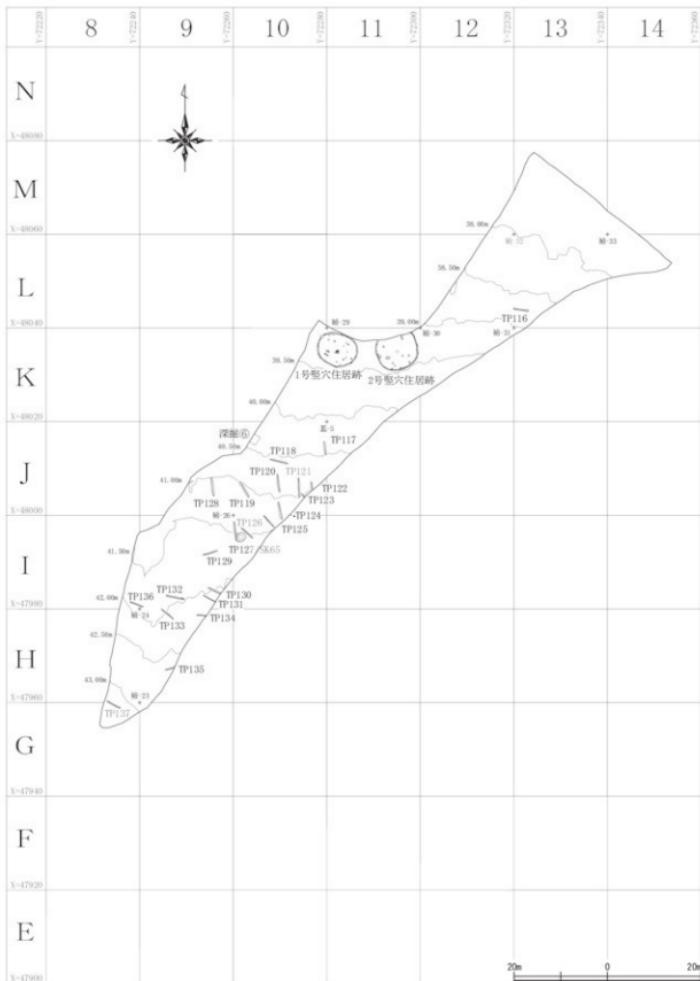
第33図 B区 1号溝跡

2号溝跡（第34図、写真図版34）

V22グリッド東側、V23グリッド境付近に位置する。平面形は「く」の字状で、長さは南北方向に459cm、上幅は26cm～28cm、深さは12cm～22cmを測る。底面はほぼ平坦である。底部から壁は、直あるいは外傾して立ち上がり開口部へ至る。セクションの断面形は、長方形あるいは逆台形を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。セクションAは3層、セクションBは2層に分層され、黒色土、黒褐色土、明黄褐色土、暗褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。



第34図 B区 2号溝跡



第35図 C区 遺構配置図

3. C 区

C 区では弥生時代の竪穴住居跡が2棟、土坑が1基、溝状土坑（陥し穴状遺構）が22基検出された。

(1) 竪穴住居跡

1号竪穴住居跡（第36～38図、写真図版39～42）

K10 グリッドとK11 グリッドに跨り位置する。規模は、北西一南東8.80m×北東一南西7.02m、床面積44.02m²、平面形は梢円形である。底面は地山を床面とし、壁はやや外傾しながら立ち上がり、壁の高さは北西壁で最大28cmである。4層に分層され、堆積土は自然堆積の様相を示す。

住居跡内ではピットが18基検出された。主住穴はPit2・8・10・13と考えられ、堆積土は黒色土、黒褐色土を主体とする。Pit10に隣接するPit11は開口部の規模や深さの数値は近いが、覆土が黄褐色土を主体としており、Pit2・8・10・13とは様相が異なる。なおPit13の底面付近には炭化材が検出されている。

壁周溝は住居壁際を全周している。周溝幅は14cm～40cm、深さは10cm～40cmである。また周溝内ピットの規模は、長径13cm～48cm、深さは2cm～30cmである。

住居中央に石圓炉を検出した。重機による表土除去の際に円形に配置された炉石の半分を破壊したとみられ、半円形に配された状態で検出された。長さ20cm～30cmの砂岩の角錐を多用している。炉内中央には甕の胴～底部片が出土し、底部の検出状況から理設ではなく据置きであったとみられ、その周辺にも別個体の甕の破片が出土した。火床面は52cm×30cmである。

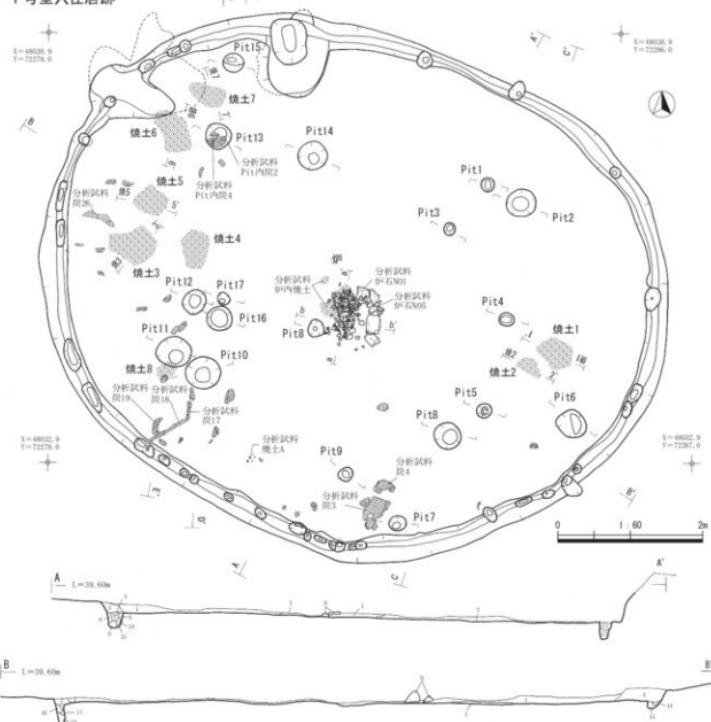
床面から地床炉として使用されたものも含まれているとみられる焼土の痕跡が8ヶ所確認された。規模は長軸29cm～70cm、短軸20cm～51cm、厚さが3cm～8cmを測る。

焼失住居であったとみられ、構築材と考えられる炭化材が検出されており、南壁付近では板状のものが検出されている。

出土遺物は、弥生時代前期の土器及び石器が出土している。土器はSII-1～SII-6が炉の内部から、SII-7～SII-22は堆積土から出土したものである。SII-1は炉内中央で出土した甕、SII-2～SII-4はその周辺から出土した甕で、SII-2・SII-3は同一個体であるとみられる。SII-4の甕は口縁部が無文で胴部との間に平行沈線が巡る。SII-7は口縁部が無文で、外面口唇部直下に沈線が巡る。口縁部、胴部の外面の剥落が著しく、胴部の外面は炭化微粒物が付着する。SII-8・SII-9は同一個体とみられ、小型の甕で口縁部が無文で胴部との間に沈線が施文される。SII-9の外面には炭化微粒物が多量に付着する。SII-10～SII-13は口縁部に平行沈線が施文される。土器片SII-10の内面には沈線が施文される。SII-11・SII-12は同一個体とみられ、高坏の器形と考えられる。SII-15は口唇部に指捺圧痕がみられる。

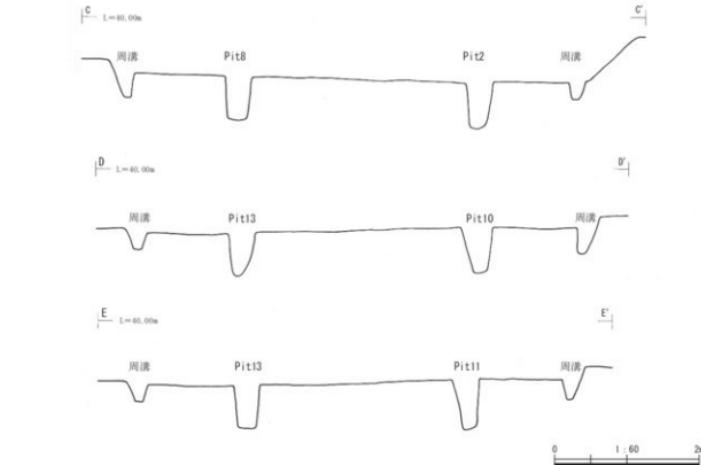
石器は石鏃（SII-23）、尖頭器（SII-24）、スクレーパー（SII-25）、ビエスエスキーウ（SII-26）、二次加工剥片（SII-27～SII-29）、微細剥離片（SII-30）、剥片（SII-31）、磨石（SII-32）、敲磨石（SII-33～SII-35）、穂器（SII-36・SII-37）が出土している。SII-24は床面、その他は堆積土中から出土したものである。SII-24の尖頭器は片面調整で、腹面側に二次加工が施されている。SII-25のスクレーパーはサイドスクレーパーの欠損品で、素材剥片の左辺部、両面に直線状の刃部が作り出されている。SII-26のビエスエスキーウはほぼ全面両極打法による剥離痕で占められ、上下両極端部に潰れがみられる。SII-32の磨石は円錐の全面が磨かれている。SII-35の敲磨石は磨石の破損品の一端を打ち欠き整形し、敲石として再利用されたものと考えられる。その他図示はしないがフレーク・チップ類が48点出土している。（第40～42図、写真図版44・45）

1号堅穴住居跡

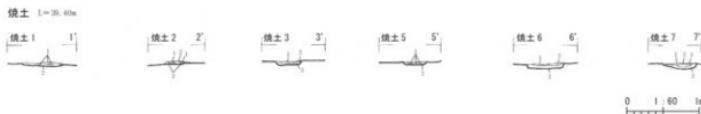


- A-A'・B-B'**
- 1 10YR2/1 黑色土 粘性土 糙まり密 草根入る 10YR6/6-6/明黄褐色土細小・小粒2%混入 10YR4/4 黄褐色土 10 cm × 4 cm × 3 cm × 2 cm × 2 cm ブロック
 - 2 10YR2/3 黑褐色土 5 cm × 3 cm ブロック 10YR6/6 黄褐色土2 cm × 1.5 cm ブロック混入
 - 3 10YR2/1 黑褐色土 粘性土 糙まり密 草根入る 10YR6/6 明黄褐色土細小3%混入
 - 4 10YR1/1 黑色土 粘性土 糙まり密 草根入る 10YR6/6-6/8 明黄褐色土細小～極大粒7%混入
 - 5 10YR2/2 黑褐色土 粘性土 糙まり密 草根入る 10YR6/6 黄褐色土細小・中粒5%混入
 - 6 10YR2/1 黑褐色土 粘性土 糙まり密 草根入る 10YR7/3 明黄褐色土細小・中粒3%混入
 - 7 10YR5/5 黄褐色土 粘性土 糙まり密 草根入る 10YR8/2 黄褐色土細小・小粒2%混入
 - 8 10YR2/1 黑色土 粘性土 糙まり密 草根入る 10YR8/3 黄褐色土細小1%混入
 - 9 10YR2/3 黑褐色土 粘性土 糙まり密 草根入る 10YR8/4 黄褐色土 10YR6/6 明黄褐色土細小・中粒2%混入
 - 10 10YR2/1 黑褐色土 粘性土 糙まり密 草根入る 10YR6/6 黄褐色土細小・中粒2%混入
 - 11 10YR4/3-2 黑褐色土 粘性土 中 糙まり密 草根入る 10YR6/6-6/8 黄褐色土細小・小粒10%混入
 - 12 10YR2/1 黑褐色土 粘性土 糙まり密 滤てて滤 10YR6/7 明黄褐色土 10YR8/4 黄褐色土細小2%混入
 - 13 10YR2/2 黑褐色土 粘性土 糙まり密 中 草根入る 10YR6/5 黄褐色土 10YR6/6 明黄褐色土 10YR7/8 明黄褐色土細小～大粒18%混入
 - 14 10YR2/1 黑褐色土 粘性土 糙まり密 草根入る 10YR6/6 黄褐色土細小2%混入
 - 15 10YR2/1 黑色土 粘性土 糙まり密 草根入る 10YR6/6-6/8 明黄褐色土細小2%混入 10YR4/4 黄褐色土細小粒混入
 - 16 10YR2/1 黑色土 粘性土 糙まり密 草根入る 10YR3/3 黑褐色土細小粒混入 10YR4/4 黄褐色土細小粒混入
 - 17 10YR3/3 黑褐色土 粘性土 糙まり密 草根入る 10YR6/3 ～5 黄褐色土細小粒混入
 - 18 10YR3/1 黑褐色土 粘性土 糙まり密 草根入る 10YR5/6 黄褐色土細小粒混入

第36図 C区 1号堅穴住居跡(1)

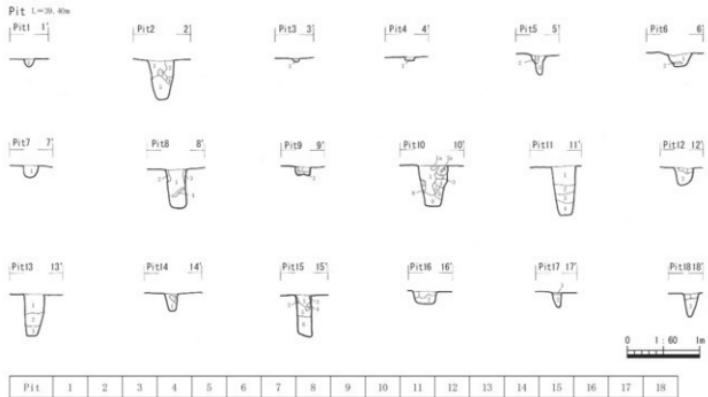


- 図 a-a'・b-b'**
- 1 10YR2/1 黒色土 粘性強 繊毛り極めて密 草根入る 土器片入る
 - 2 7.5YR3/2 暗赤褐色土 粘性中 繊毛り極めて密 草根入る 灰化物極小～極大多量入る
 - 3 10YR4/6 棕色土 粘性強 繊毛り極めて密 草根・木根入る
 - 4 10YR4/4 棕色土 粘性強 繊毛り極めて密 草根・木根入る



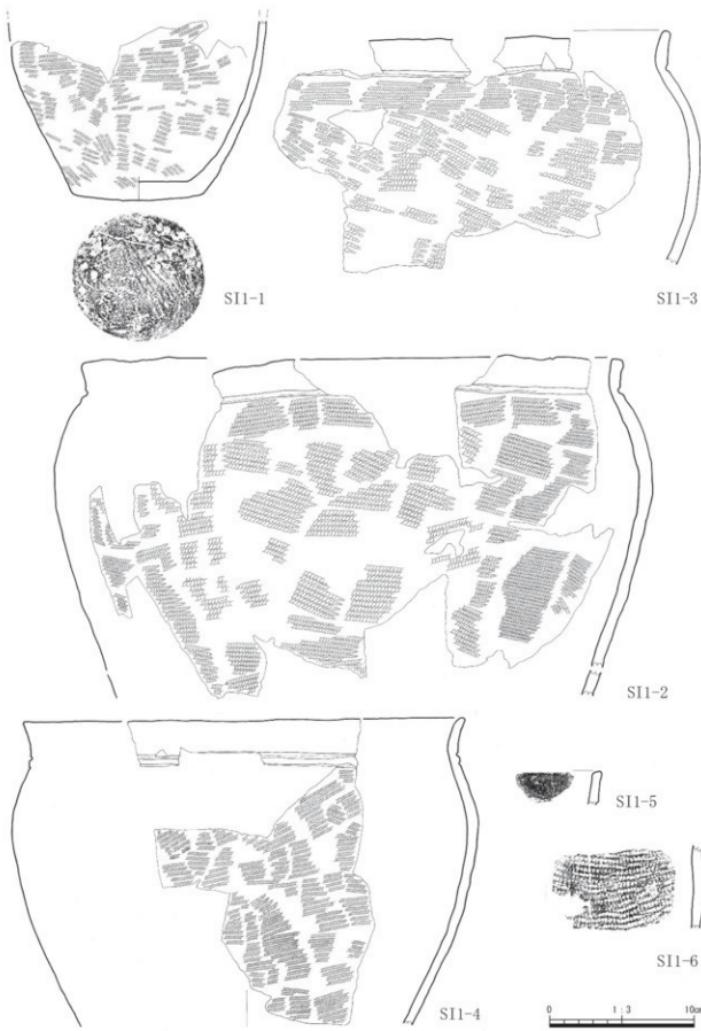
- 土壤 I-I'**
- 1 2.5YR4/8 暗褐色土 粘性弱 繊毛り極めて密 草根入る
 - 2 7.5YR3/2 暗褐色土 粘性やや中 繊毛り極めて密 草根入る
- 土壤 2-2'**
- 1 2.5YR4/8 暗褐色土 粘性弱 繊毛り極めて密 草根入る
 - 2 7.5YR2/1 黑色土 粘性強 繊毛り極めて密 草根入る
 - 2.5YR3/0 暗褐色土 粘性強 繊毛り極めて密 草根入る
- 土壤 3-3'**
- 1 2.5YR4/8 暗褐色土 粘性弱 繊毛り極めて密 草根入る
 - 2 7.5YR2/1 黑色土 粘性強 繊毛り極めて密 草根入る 灰化物極小～中粒多量入る
- 土壤 4-4'**
- 1 2.5YR4/8 暗褐色土 粘性弱 繊毛り極めて密 草根入る
 - 2 7.5YR2/2 黑色土 粘性やや中 繊毛り極めて密 草根入る
- 土壤 5-5'**
- 1 2.5YR4/8 暗褐色土 粘性弱 繊毛り極めて密 草根入る
 - 2 7.5YR3/3 暗赤褐色土 粘性中 繊毛り極めて密 草根入る
- 土壤 6-6'**
- 1 2.5YR4/8 暗褐色土 粘性弱 繊毛り極めて密 草根入る
 - 2 7.5YR4/4 暗赤褐色土 粘性弱 繊毛り極めて密 草根入る
 - 3 7.5YR5/2 暗褐色土 粘性弱 繊毛り極めて密 草根入る
- 土壤 7-7'**
- 1 2.5YR4/8 暗褐色土 粘性弱 繊毛り極めて密 草根入る
 - 2 7.5YR2/2 暗褐色土 粘性弱 繊毛り極めて密 草根入る
 - 3 7.5YR2/1 黑色土 粘性弱 繊毛り極めて密 草根入る 灰化物極小～中粒多量入る

第37図 C区 1号堅穴住居跡 (2)

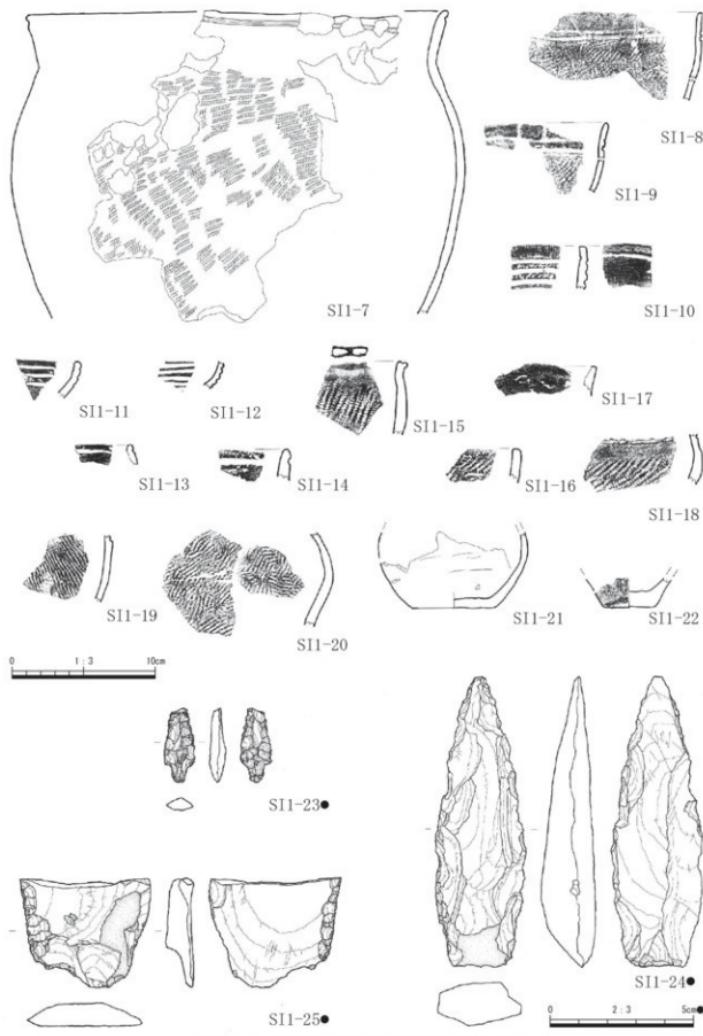


Pit	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
	深さ(cm)	11	54	4	6	26	20	17	54	11	57	67	23	58	24	59	17	21	32
Pit1	1	10YE2/1 黒色土 粘性強 縫まり密 草根入る																	
Pit2	2	10YE2/2 黄褐色土 粘性強 縫まり弱 草根入る 10YE4/4 4.6 黄褐色土 構成大粒 1%混入 腐化物少・中・蛇形多量入る																	
Pit3	3	10YE2/2 黑色土 粘性強 縫まり弱 草根入る 10YE4/1 黄褐色土 粘性強 縫まり弱 草根入る 10YE5/6 黄褐色土 小粒 0.5%混入 5 10YE3/1 黑色土 粘性強 縫まり中 草根入る 5 10YE3/6 黄褐色土 小粒 0.5%混入																	
Pit4	4	10YE2/1 黑色土 粘性強 縫まり密 草根入る 10YE3/3 黄褐色土 小粒 1%混入																	
Pit5	5	10YE2/1 黑色土 粘性強 縫まり密 草根入る 10YE3/6 黄褐色土 小粒 0.5%混入																	
Pit6	6	10YE5/8 黄褐色土 粘性弱 縫まり極めて密 草根入る 7 10YE4/4 黄褐色土 粘性弱 縫まり極めて密 草根入る 8 10YE5/8 黄褐色土 粘性弱 縫まり極めて密 草根入る 9 10YE2/1 黑色土 粘性強 縫まり密 草根入る																	
Pit7	10	10YE2/2 黄褐色土 粘性強 縫まり極めて密 草根入る 10YE5/6 黄褐色土 小粒 0.5%混入																	
Pit8	11	10YE4/4 黄褐色土 粘性強 縫まり強 細胞壁で密 草根入る 10YE5/6 黄褐色土 小粒 0.5%混入																	
Pit9	12	10YE4/4 黄褐色土 粘性強 縫まり強 細胞壁で密 草根入る 10YE5/6 黄褐色土 小粒 0.5%混入																	
Pit10	13	10YE4/4 黄褐色土 粘性強 縫まり強 細胞壁で密 草根入る 10YE5/6 黄褐色土 小粒 0.5%混入																	
Pit11	14	10YE4/4 黄褐色土 粘性強 縫まり強 細胞壁で密 草根入る 10YE5/6 黄褐色土 小粒 0.5%混入																	
Pit12	15	10YE4/4 黄褐色土 粘性強 縫まり強 細胞壁で密 草根入る 10YE5/6 黄褐色土 小粒 0.5%混入																	
Pit13	16	10YE4/4 黄褐色土 粘性強 縫まり強 細胞壁で密 草根入る 10YE5/6 黄褐色土 小粒 0.5%混入																	
Pit14	17	10YE4/4 黄褐色土 粘性強 縫まり強 細胞壁で密 草根入る 10YE5/6 黄褐色土 小粒 0.5%混入																	
Pit15	18	10YE4/4 黄褐色土 粘性強 縫まり強 細胞壁で密 草根入る 10YE5/6 黄褐色土 小粒 0.5%混入																	
Pit16	19	10YE4/4 黄褐色土 粘性強 縫まり強 細胞壁で密 草根入る 10YE5/6 黄褐色土 小粒 0.5%混入																	
Pit17	20	10YE4/4 黄褐色土 粘性強 縫まり強 細胞壁で密 草根入る 10YE5/6 黄褐色土 小粒 0.5%混入																	
Pit18	21	10YE4/4 黄褐色土 粘性強 縫まり強 細胞壁で密 草根入る 10YE5/6 黄褐色土 小粒 0.5%混入																	

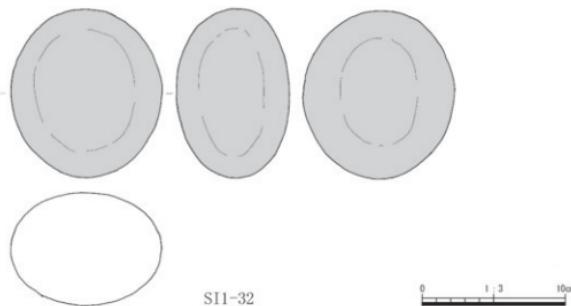
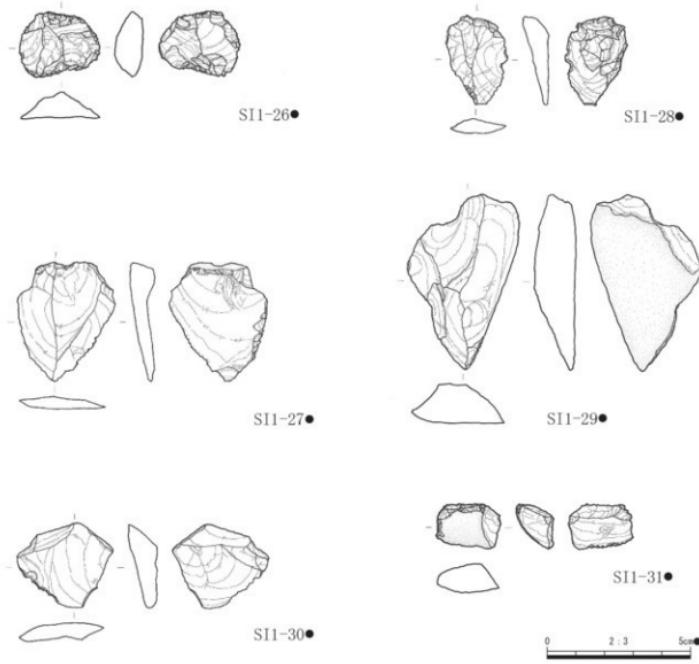
第38図 C区1号堅穴住居(3)



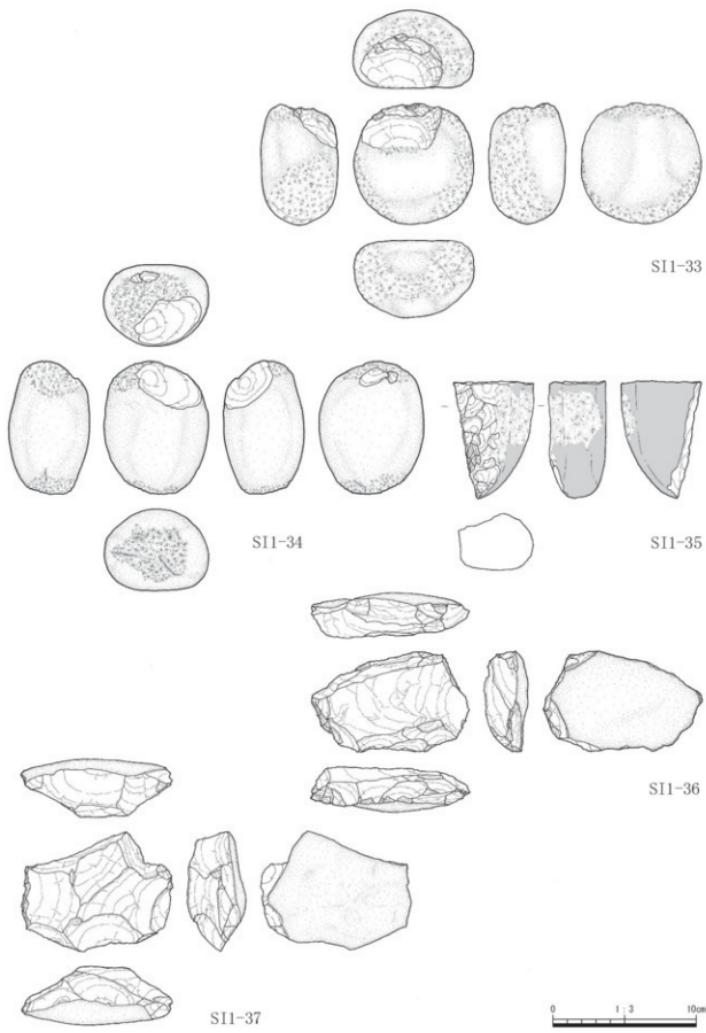
第39図 C区 1号堅穴住居跡出土遺物(1)



第40図 C区 1号堅穴住居跡出土遺物(2)



第41図 C区 1号堅穴住居跡出土遺物(3)



第42図 C区 1号堅穴住居跡出土遺物(4)

2号墳穴住居跡（第43～45図、写真図版46～48）

K11 グリッド北東隅、住居跡の一部は調査区外に位置する。規模は東一西9.20m×南一北7.70m以上、床面積は52.19m²以上、平面形は推定で円形である。底面は地山を床面とし、壁はやや外傾しながら立ち上がり、壁の高さは南壁で最大24cmである。8層に分層され、堆積土は自然堆積の様相を示す。

住居跡内ではピットが5基検出された。主柱穴はPit1・2・3・4と考えられる。壁周溝は住居聖際に掘削されているが、全周するかは不明である。周溝幅は19cm～34cm、深さは10cm～35cmである。周溝内ピットの規模は、長径8cm～50cm、深さは2cm～18cmである。

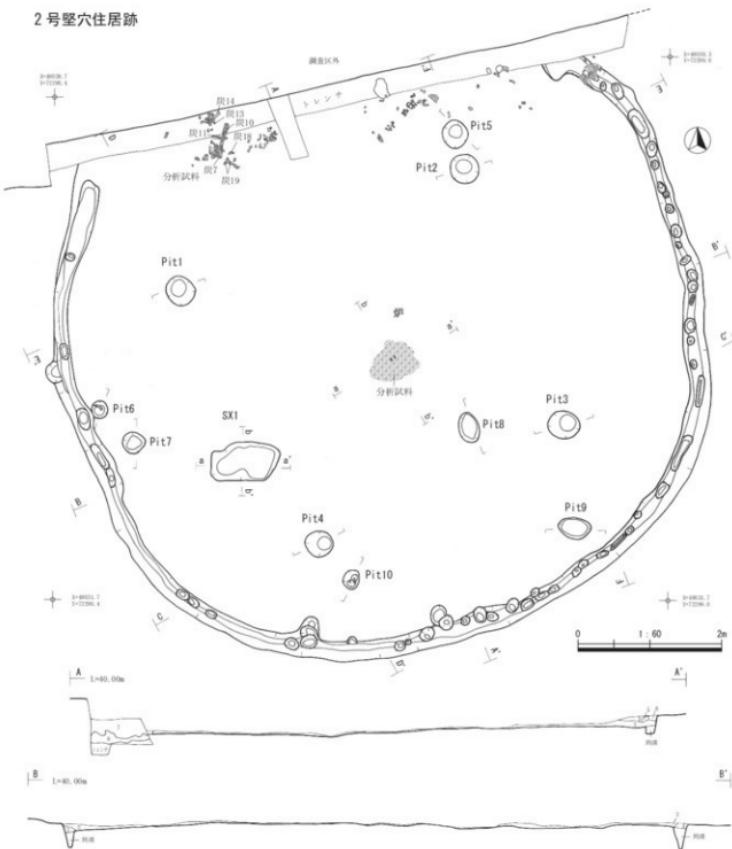
住居跡中央に地床炉を検出した。規模は長軸70cm、短軸52cm、焼土の厚さは最大で10cmである。

焼失住居であったとみられ、北壁付近で構築材と考えられる炭化材が検出されている。

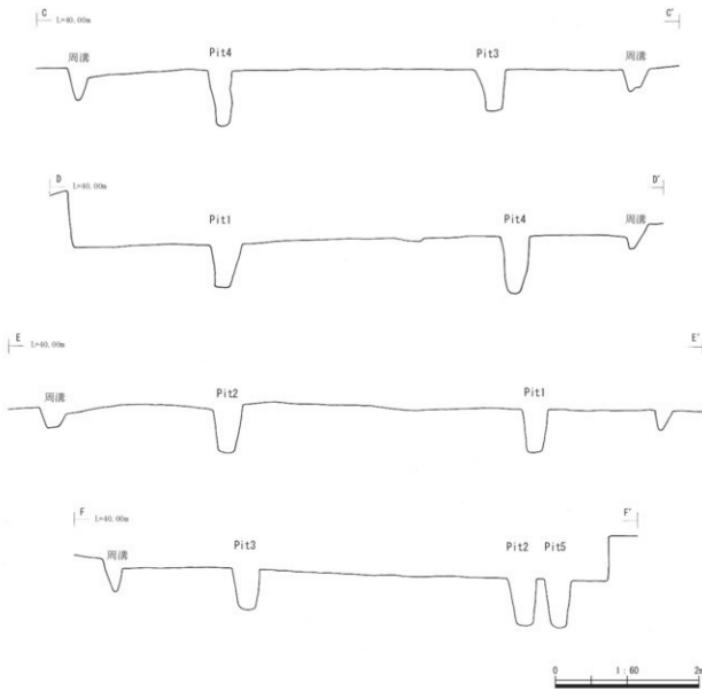
出土遺物は、弥生時代前期の土器及び石器が出土している。土器はSI2-5の甕がPit6の第1層、それ以外のSI2-1～10は堆積土から出土している。SI2-1は高环の口縁部～胴部で底部～脚部が欠損している。外面は平行沈線、内面にも沈線が施され、内外面ともに沈線施文後に磨かれている。SI2-2は蓋の頭部～胴部で、頭部には刺突がみられ、胴部は繩文施文後に沈線が施され、沈線間は縦文が磨り消されている。SI2-3の甕は、口縁部内面に沈線が施され、口縁部外面と内面全体が磨かれている。全体的に繩文施文後に口縁部直下と胴部上位に平行沈線を施文し、その後沈線の繩文が磨り消されている。沈線間は瘤が欠落した痕跡が残る。SI2-4の甕は繩文施文後に口縁部直下に平行沈線を施し、その後口縁部と沈線直下まで磨かれしており、そのため一部繩文が磨り消されている。口縁部内面にも沈線が施され、その後磨かれている。SI2-5の甕は口唇部に山形突起がみられる。繩文施文後口縁部直下に平行沈線が施文されたあと磨かれ、内外面ともに炭化微粒物の付着がみられる。SI2-7・SI2-8は沈線間に刺突がみられる。SI2-10の甕はSI2-3と接合できなかったが、同一個体の可能性がある。

石器は堆積土からスクレーパー（SI2-14・SI2-15）、ビエスキーキー（SI2-16・SI2-17）、二次加工剥片（SI2-18～SI2-20）、微細剥離片（SI2-21）、磨石（SI2-22・SI2-23）、敲磨石（SI2-24・SI2-25）、台石（SI2-26・SI2-27）、石棒（SI2-28）が出土している。SI2-14は片面加工のスクレーパーで、腹面側に二次加工を施し一面に直線状の刃部を形成する。SI2-15はスクレーパーの欠損品で、背面側に二次加工を施し刃部が作り出されている。SI2-22の磨石は円錐の全面が磨かれ、SI2-23の磨石は扁平な円錐の表裏面のみが磨かれている。SI2-26・SI2-27の台石は光沢のある磨面である。SI2-28は石棒で、棒状の礫を研磨し、側面を敲打整形したとみられる。その他図示はしないがフレーク・チップ類が67点出土している。（第46～48図、写真図版49・50）

2号堅穴住居跡

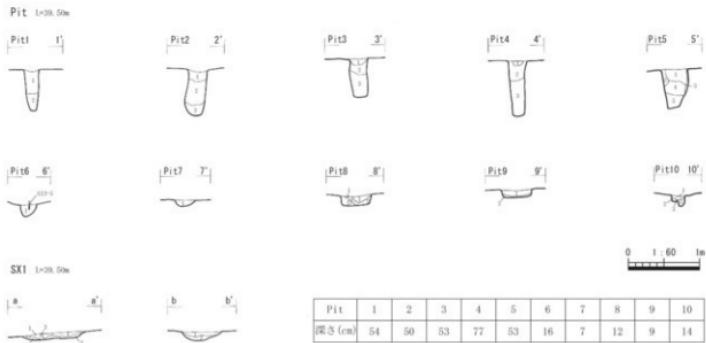


第43図 C区 2号堅穴住居跡(1)



- 図 a-a'-b-b'
- 1 SW1/1.7 黒色土 粘性弱 線まり中、草根入る。既往物標小～極大多量入る
 - 2 SW4/9.0 黑褐色土 粘性弱 線まり極めて密、草根入る。
 - 3 10TKJ/2 黑褐色土 粘性弱 線まり極めて密、非常に多く線まっている。草根入る
 - 4 10TKJ/4 黑褐色土 粘性弱 線まり極めて密、一部線まりがなく粗くなっている所もある。草根入る
 - 5 10TKJ/3 黑褐色土 粘性強 線まり極めて密、草根入る
 - 6 10TKJ/7.0 黑褐色土 粘性強 線まり極めて密、草根入る（未標記）
 - 7 10TKJ/4 黑褐色土 粘性強 線まり密、草根入る
 - 8 10TKJ/2 黑褐色土 粘性強 線まり極めて密、草根入る

第44図 C区 2号堅穴住居跡 (2)

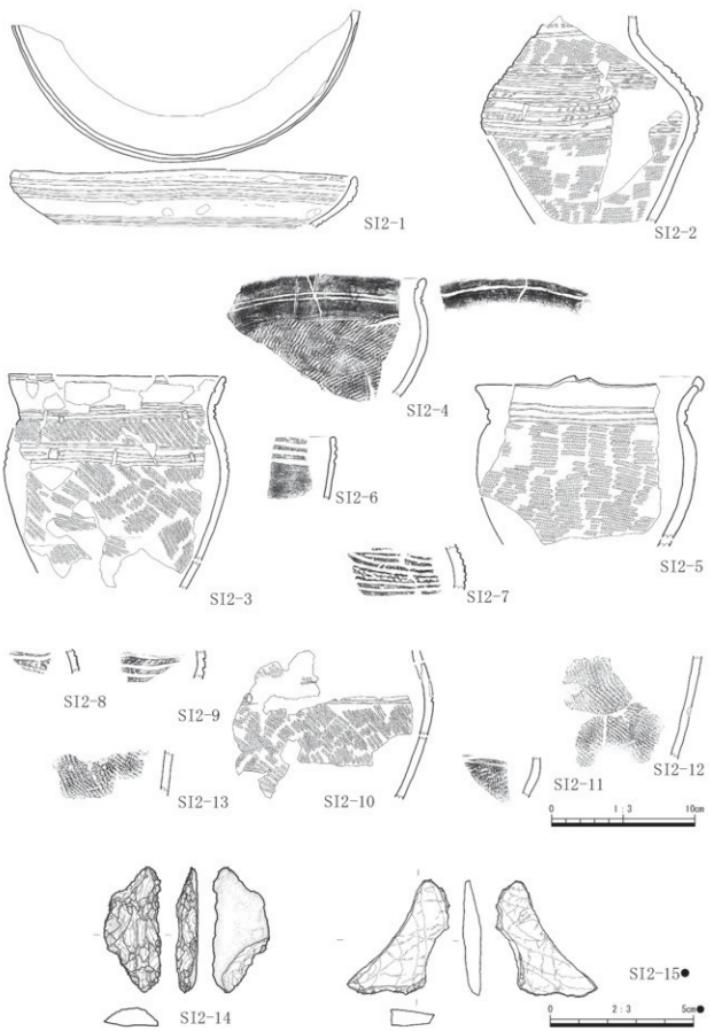


- Pit 1**
- 10YR2/1 黒褐色土 粘性強 縞まり密 草根入る 10YR4/6 黄褐色土 10YR5/6 黄褐色土
 - 10YR6/6 明黄褐色土極小~大粒 10%混入 10YR4/4 黄褐色土 3cm×2cmブロック7個入
 - 10YR2/1 黒褐色土 粘性強 縞まり密 草根入る 10YR5/4 に黒褐色土 10YR5/6 黄褐色土極小・小粒7%混入
- Pit 2**
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性強 縞まり密 草根入る 10YR6/6 黄褐色土小粒 2%混入
 - 10YR3/2 黑褐色土 粘性強 縞まり密 草根入る 10YR5/6 黄褐色土極小2%混入
 - 10YR2/2 黑褐色土 粘性強 縞まり密 草根入る 10YR2/7 黑褐色土 粘性強 縞まり密 草根入る
- Pit 3**
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性強 縞まり極めて密 草根入る 10YR5/6 黄褐色土極小2%混入
 - 10YR3/3 黑褐色土 粘性強 縞まり極めて密 草根入る 10YR5/6 黄褐色土極小1%混入
 - 10YR5/6 黄褐色土極小2%混入
- Pit 4**
- 10YR2/2 黒褐色土 粘性強 縞まり極めて密 草根入る 10YR4/4 黄褐色土 2.5cm×2cmブロック左上側に混入
 - 10YR3/1 黑褐色土 粘性強 縞まり密 草根入る 10YR5/6 黄褐色土極小~小粒2%混入 10YR6/8 明黄褐色土 6cm×4cmブロック左上側に混入
 - 10YR3/2 黑褐色土 粘性強 縞まり中 草根入る
- Pit 5**
- 10YR2/3 黑褐色土 粘性強 縞まり密 草根入る 10YR6/8 明黄褐色土極小~極大10%混入 10YR1.7/1 黑褐色土 7cm×3cmブロック混入
 - 10YR2/2 黑褐色土 粘性強 縞まり密 草根入る 10YR6/8 明黄褐色土極小~大粒2%混入
 - 10YR3/3 黑褐色土 粘性強 縞まり密 草根入る 10YR7.6 明黄褐色土極小~極大2%混入
 - 10YR3/2 黑褐色土 粘性強 縞まり中 草根入る 10YR7.6 明黄褐色土極小~極大2%混入
 - 10YR6/2 明黄褐色土 極大10%混入
 - 5 10YR3/2 黑褐色土 粘性強 縞まり密 草根入る 10YR5/6 黄褐色土 極小~大粒15%混入
- Pit 6**
- 10YR3/2 黑褐色土 粘性強 縞まり極めて密 草根入る 10YR6/8 明黄褐色土極小2%混入
- Pit 7**
- 10YR3/1 黑褐色土 粘性強 縞まり極めて密 草根入る 10YR6/6 明黄褐色土 2cm×1cm・10YR3/4 墓褐色土 4cm×1.5cmブロック混入
- Pit 8**
- 10YR3/3 黑褐色土 粘性強 縞まり極めて密 草根入る 10YR7/6 明黄褐色土極小~小粒3%混入 10YR3/3 墓褐色土極大3%混入
 - 10YR4/4 黄褐色土 粘性強 縞まり極めて密 草根入る 10YR7/6 明黄褐色土極小~小粒2%混入
 - 3 10YR3/3 墓褐色土 粘性強 縞まり密 草根入る 10YR7.6 明黄褐色土極小~小粒2%混入
- Pit 9**
- 10YR2/2 黑褐色土 粘性強 縞まり密 草根入る 10YR6/6 7.6%明黄褐色土極小~中粒10%混入
 - 2 10YR3/3 黑褐色土 粘性強 縞まり極めて密 草根入る 10YR6/6 7.6%明黄褐色土極小~小粒3%混入 10YR1.7/1 黑褐色大粒混入
- Pit 10**
- 1 10YR3/1 黑褐色土 粘性強 縞まり密 草根入る 10YR6/6 7.6%明黄褐色土極小~中粒10%混入
 - 3 10YR2/3 墓褐色土 粘性強 縞まり極めて密 草根入る 10YR7/6 明黄褐色土極小2%混入 化物物小~大粒多量入

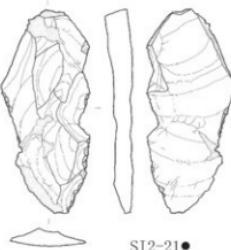
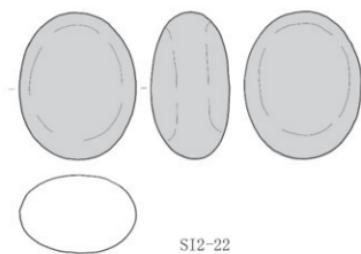
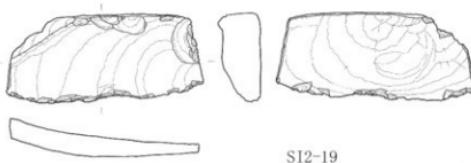
SX 1-a'-b'-b'

- 1 10YR2/2 黑褐色土 粘性強 縞まり極めて密 草根入る 10YR4/4 黄褐色土 10YR6/6 明黄褐色土極小~小粒2%混入
- 2 10YR3/2 黑褐色土 粘性強 縮まり極めて密 草根入る 10YR6/6 明黄褐色土極小2%混入
- 3 10YR5/6 黄褐色土 粘性強 縮まり粗 草根入る

第45図 C区 2号堅穴住居跡(3)

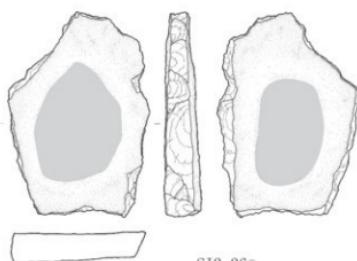
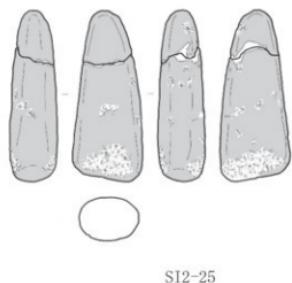
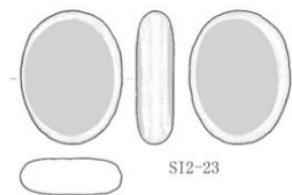


第46図 C区 2号堅穴住居跡出土遺物(1)

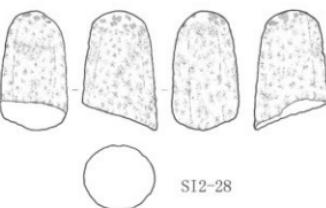
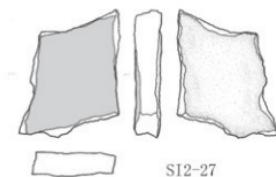


0 1:3 10cm

第47図 C区2号堅穴住居跡出土遺物(2)



0 1 6 20cm



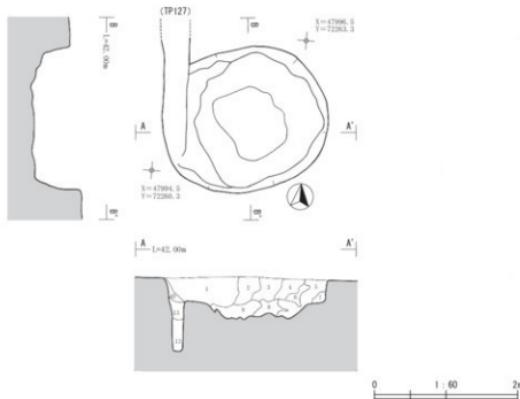
0 1 3 10cm

第48図 C区 2号堅穴住居跡出土遺物(3)

(2) 土坑跡

SK65 土坑 (第49図、写真図版51)

110グリッド北西側に位置する。TP127と重複している。平面形はほぼ円形で、規模は開口部で長径推定228cm×短径195cm、底部で長径推定99cm×短径84cm、深さは最深部で65cmを測る。底面は平坦である。底部から壁は、西壁は外傾して立ち上がり開口部へ至り、東壁は直に立ち上がり中央からやや外傾気味に開口部へ至る。短軸断面形は逆台形を呈する。擾乱坑の可能性がある。SK65がTP127を切るプランで検出され、新旧関係はSK65のほうが新しい。12層に分層され、黒色土、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。



SK65

- 1 10YR2/1 黒色土 粘性強 繰まり密 草根入る 10YR5.6 黄褐色土・10YR7.6 明黄褐色土極少・小粒2%混入
- 2 10YR3/1 黑褐色土 粘性強 繰まり密 草根入る 10YR6.8・7/6 明黄褐色土・10YR7.6 黄褐色土極少・小粒10%混入
- 3 10YR3/2 黑褐色土 粘性強 繰まり密 草根入る 10YR6.8 黄褐色土・10YR7.6 明黄褐色土極少・小粒7%混入
- 4 10YR5.6 黄褐色土 粘性強 繰まり密で少 塵土入る 10YR7.6 明黄褐色土・10YR7.6 黄褐色土極少・小粒7%混入
- 5 10YR2/1 黑色土 粘性強 繰まり密 草根入る 10YR6.6 明黄褐色土極少2%混入
- 6 10YR3/2 黑褐色土 粘性強 繰まり密 草根入る 10YR6.8・7/6 明黄褐色土・10YR7.6 黄褐色土極少・小粒2%混入
- 7 10YR3/3 黑褐色土 粘性強 繰まり密で少 塘土入る 10YR6.8 黄褐色土極少・小粒2%混入
- 8 10YR2/2 黑褐色土 粘性強 繰まり密 塘土入る 10YR6.6 黄褐色土・10YR7.6 黄褐色土極少・大粒15%混入
- 9 10YR2/3 黑褐色土 粘性強 繰まり密 塘土入る 10YR6.6 黄褐色土・10YR6.6 6.6%明黄褐色土極少・大粒20%混入
- 10 10YR2/4 黑褐色土 粘性強 繰まり密 草根入る 10YR7.6 黄褐色土極少・小粒2%混入
- 11 10YR2/5 黑色土 粘性強 繰まり密 草根入る 10YR6.6 黄褐色土極少・小粒2%混入 10YR4/4 黄褐色土極少2%混入
- 12 10YR2/7 黑褐色土 粘性強 繰まり中 草根入る 10YR5.6 黄褐色土極少1%混入

第49図 C区 土坑 SK65

(3) 溝状土坑

TP116溝状土坑（第50図、写真図版51）

J13グリッド南西隅に位置し、等高線に対して平行する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-81.5°-Wを示す。規模は開口部で長軸337cm×短軸25cm、底部で長軸306cm×短軸7cm、深さは中央部で62cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面はやや凹凸がみられる。短軸断面形はU字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。3層に分層され、黒色土、黒褐色土、黄褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP117溝状土坑（第50図、写真図版51）

J10グリッド北東側隅に位置し、等高線に対して直交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-8.5°-Wを示す。規模は開口部で長軸298cm×短軸54cm、底部で長軸281cm×短軸10cm、深さは中央部で83cmを測る。開口部の長軸両端の比高差は27cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。短軸側は両壁とも開口部付近に軽い段を形成する。短軸断面形はY～T字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。5層に分層され、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP118溝状土坑（第50図、写真図版52）

J10グリッド中央に位置し、等高線に対して平行する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-76°-Wを示す。規模は開口部で長軸357cm×短軸38cm、底部で長軸399cm×短軸8cm、深さは中央部で98cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側は両壁ともオーバーハングして立ち上がる。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。4層に分層され、黒色土、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP119溝状土坑（第50図、写真図版52）

J10グリッド南西側に位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-32°-Wを示す。規模は開口部で長軸380cm×短軸52cm、底部で長軸380cm×短軸11cm、深さは中央部で110cmを測る。開口部の長軸両端の比高差は14cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側南東壁はオーバーハングして立ち上がる。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。5層に分層され、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP120溝状土坑（第51図、写真図版52）

J10グリッド中央に位置し、等高線に対して直交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-8°-Wを示す。規模は開口部で長軸356cm×短軸37cm、底部で長軸398cm×短軸14cm、深さは中央部で84cmを測る。開口部の長軸両端の比高差は32cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側は両壁ともオーバーハングして立ち上がる。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。4層に分層され、黒色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP121溝状土坑（第51図、写真図版53）

J10グリッド南東側に位置し、等高線に対して直交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-2°-Wを示す。規模は開口部で長軸400cm×短軸37cm、底部で長軸431cm×短軸7cm、深さは中央部で100cmを測る。開口部の長軸両端の比高差は24cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側は両壁ともオーバーハングして立ち上がる。短軸断面形はU～Y字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。5層に分層され、黒色土、暗褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP122溝状土坑（第51図、写真図版53）

J10グリッド南東側に位置し、等高線に対して直交する。長軸南側は調査区外へ延びる。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-8°-Wを示す。規模は開口部で長軸残存186cm×短軸42cm、底部で長軸残存169cm×短軸17cm、深さは中央部で82cmを測る。開口部の長軸両端の比高差は23cmを測る。短軸断面形はU～Y字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。7層に分層され、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP123溝状土坑（第51図、写真図版53）

J10グリッド南東側に位置し、等高線に対して直交する。長軸南側は調査区外へ延びる。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-40°-Wを示す。規模は開口部で長軸残存102cm×短軸29cm、底部で長軸残存96cm×短軸8cm、深さは中央部で77cmを測る。開口部の長軸両端の比高差は18cmを測る。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。4層に分層され、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP124溝状土坑（第52図、写真図版54）

J10グリッド南側、I10グリッド北側に跨り位置し、等高線に対して直交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-13°-Wを示す。規模は開口部で長軸358cm×短軸51cm、底部で長軸370cm×短軸14cm、深さは中央部で106cmを測る。開口部の長軸両端の比高差は36cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側は両壁ともオーバーハンジで立ち上がる。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。6層に分層され、黒褐色土、黒色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP125溝状土坑（第52図、写真図版54）

I10グリッド北側隅に位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-42°-Wを示す。規模は開口部で長軸332cm×短軸31cm、底部で長軸338cm×短軸13cm、深さは中央部で66cmを測る。開口部の長軸両端の比高差は27cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側は両壁ともオーバーハンジして立ち上がる。短軸断面形はU字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。2層に分層され、黒色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP126溝状土坑（第52図、写真図版54）

I10グリッド北西側に位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-48°-Wを示す。規模は開口部で長軸346cm×短軸37cm、底部で長軸312cm×短軸9cm、深さは中央部で81cmを測る。開口部の長軸両端の比高差は18cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。3層に分層され、黒色土、黒褐色土を主体とする。遺構検出面より繩文土器片2点、遺構内堆積土第1層より2点出土している。そのうち2点を掲載した。TP126-1・TP126-2はいずれも深鉢形土器の胸部片である。（第55図、写真図版59）

TP127溝状土坑（第52図、写真図版55）

I10グリッド北西側に位置し、等高線に対して直交する。長軸南側はSK65と重複している。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-7°-Wを示す。規模は開口部で長軸残存314cm×短軸41cm、底部で長軸404cm×短軸12cm、深さは中央部で101cmを測る。開口部の長軸両端の比高差は27cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側北壁は僅かにオーバーハンジして立ち上がる。短軸断面形はY字状を呈する。TP127がSK65に切られるプランで検出され、新旧関係はSK65が新しい。堆積土は自然堆積の様相を示す。6層に分層され、黒色土、黒褐色土を主体とする。図示はしないが、遺構内堆積土第1層より繩文土器片4点、第5層より繩文土器片1点出土している。

TP128溝状土坑（第53図、写真図版55）

J9グリッド南東側に位置し、等高線に対して直交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-9°-Wを示す。規模は開口部で長軸386cm×短軸58cm、底部で長軸388cm×短軸13cm、深さは中央部で125cmを測る。開口部の長軸両端の比高差は21cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側は両壁ともオーバーハングして立ち上がる。短軸断面形はほぼU字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。6層に分層され、黒色土、黒褐色土を主体とする。遺構内堆積土第1層より繩文土器片1点出土している。TP128-1は深鉢形土器の胴部片である。（第55図、写真図版59）

TP129溝状土坑（第53図、写真図版55）

I9グリッド東側に位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-73°-Eを示す。規模は開口部で長軸303cm×短軸33cm、底部で長軸327cm×短軸8cm、深さは中央部で78cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側は両壁ともオーバーハングして立ち上がる。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。3層に分層され、黒色土、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP130溝状土坑（第53図、写真図版56）

I9グリッド南東側に位置し、等高線に対して斜交する。長軸南東側は調査区外へ延びる。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-66°-Wを示す。規模は開口部で長軸残存309cm×短軸39cm、底部で長軸残存276cm×短軸9cm、深さは中央部で64cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。3層に分層され、黒色土、黒褐色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

TP131溝状土坑（第53図、写真図版56）

I9グリッド南東側に位置し、等高線に対して斜交する。長軸南東側は調査区外へ延びる。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-62.5°-Wを示す。規模は開口部で長軸残存285cm×短軸21cm、底部で長軸残存308cm×短軸9cm、深さは中央部で71cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側北西壁はオーバーハングして立ち上がる。短軸断面形はU字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。3層に分層され、黒色土、黒褐色土を主体とする。遺構内堆積土第2層より繩文土器片1点出土している。TP131-1は深鉢形土器の胴部片である。（第55図、写真図版59）

TP132溝状土坑（第53図、写真図版56）

I9グリッド南側に位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-79°-Wを示す。規模は開口部で長軸388cm×短軸37cm、底部で長軸391cm×短軸13cm、深さは中央部で73cmを測る。開口部の長軸両端の比高差は14cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側南東壁はオーバーハングして立ち上がる。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。3層に分層され、黒色土、黒褐色土を主体とする。遺構検出面より繩文土器片2点、遺構内堆積土第1層より1点出土している。そのうち1点を掲載した。TP132-1は深鉢形土器の胴部片である。（第55図、写真図版59）

TP133溝状土坑（第54図、写真図版57）

H9グリッド北西側隅に位置し、等高線に対して直交する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-49.5°-Wを示す。規模は開口部で長軸329cm×短軸31cm、底部で長軸328cm×短軸7cm、深さは中央部で57cm、最深部は89cmを測る。開口部の長軸両端の比高差は24cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側南東壁はオーバーハングして立ち上がる。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。2層に分層され、黒色土、黒褐色土を主体とする。遺構内堆積土第1層より繩文土器片3点、第2層より1点出土している。そのうち3点を掲載した。TP133-1～TP133-3はいずれも深鉢形土器の胴部片である。（第55図、写真図版59）

TP134溝状土坑（第54図、写真図版57）

H9グリッド北側に位置し、等高線に対して斜交する。長軸東側は調査区外へ延びる。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-85.5°-Wを示す。規模は開口部で長軸残存208cm×短軸22cm、底部で長軸残存200cm×短軸7cm、深さは中央部で51cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側西壁はオーバーハングして立ち上がる。短軸断面形はU字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。3層に分層され、黒色土、黒褐色土を主体とする。図示はしないが、遺構内堆積土第3層より土器片1点出土している。

TP135溝状土坑（第54図、写真図版57）

H9グリッド南西側に位置し、等高線に対して斜交する。長軸東側は調査区外へ延びる。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-75°-Eを示す。規模は開口部で長軸残存225cm×短軸31cm、底部で長軸残存202cm×短軸8cm、深さは中央部で56cm、最深部は77cmを測る。開口部の長軸両端の比高差は16cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。3層に分層され、黒色土を主体とする。遺構内からの出土遺物はない。

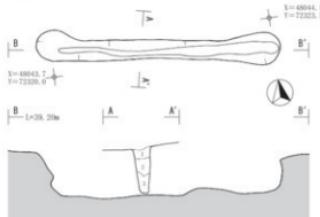
TP136溝状土坑（第54図、写真図版58）

18グリッド南東側、19グリッド南西側に跨り位置し、等高線に対して斜交する。平面形は細長楕円形で長軸方向はN-69°-Wを示す。規模は開口部で長軸308cm×短軸22cm、底部で長軸296cm×短軸8cm、深さは中央部で61cmを測る。開口部の長軸両端の比高差は10cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。短軸断面形はY字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。2層に分層され、黒色土を主体とする。遺構内堆積土第1層より繩文土器片11点、第2層より2点、堆積土中（層位不明）より3点出土している。そのうち7点を掲載した。TP136-1～TP136-7は深鉢形土器の胴部片である。（第55図、写真図版59）

TP137溝状土坑（第54図、写真図版58）

H8グリッド北側、H8グリッド南側に跨り位置し、等高線に対して平行する。平面形は細長楕円形で、長軸方向はN-63°-Wを示す。規模は開口部で長軸328cm×短軸30cm、底部で長軸322cm×短軸8cm、深さは中央部で81cmを測る。底部は八戸火山灰層を基底とし、底面は平坦である。長軸側南東壁はオーバーハングして立ち上がる。短軸断面はU字状を呈する。堆積土は自然堆積の様相を示す。4層に分層され、黒褐色土、黒色土を主体とする。遺構内堆積土第1層より繩文土器片1点出土している。TP137-1は深鉢形土器の胴部片である。（第55図、写真図版59）

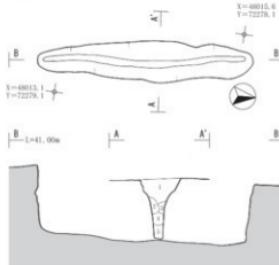
TP116



TP116

- 1 10YR2/1 黒色土 粘性強 繊毛り密 草根入る
- 2 10YR2/1 黒褐色土 粘性強 繊毛り密 草根入る
- 3 10YR5/6 黄褐色土 粘性やや中 繊毛り極めて弱 草根入る
- 4 10YR 3/1 黑褐色土 6 cm × 6 cm ブロック右側に混入
- 5 10YR 3/1 黑褐色土 10 cm × 3 cm ブロック左側に混入

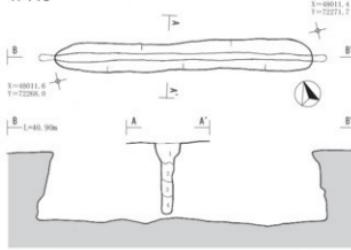
TP117



TP117

- 1 10YR 3/1 黑褐色土 粘性強 繊毛り極めて弱 草根入る
- 2 10YR4/4 黄褐色土 + 10YR5/6 黄褐色土土塊小・小粒2%混入
- 3 10YR5/3 黄褐色土 粘性強 繊毛り極めて密 草根入る
- 4 10YR5/3 黄褐色土 粘性強 繊毛り中 草根入る
- 5 10YR5/3 黄褐色土 粘性強 繊毛り密 草根入る
- 6 10YR5/6 黄褐色土塊小粒2%混入
- 7 10YR5/1 黑褐色土 粘性強 繊毛り中 草根入る
- 8 10YR5/6 黄褐色土塊小粒3%混入

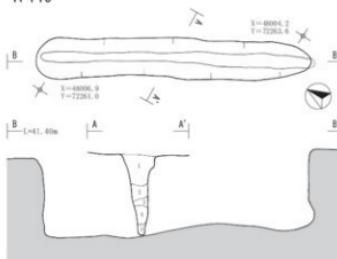
TP118



TP118

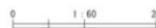
- 1 10YR3/1 黑褐色土 粘性強 繊毛り極めて弱 草根入る
- 2 10YR4/4 黄褐色土 + 10YR5/6 黄褐色土土塊小・小粒2%混入
- 3 10YR5/3 黄褐色土 7 cm × 4 cm × 5 cm × 4 cm × 3 cm × 2.5 cm ブロック混入
- 4 10YR5/3 黄褐色土 10 cm × 10 cm ブロック右側に混入
- 5 10YR5/2 黑褐色土 粘性強 繊毛り中 草根入る
- 6 10YR5/3 黄褐色土 粘性強 繊毛り中 草根入る
- 7 10YR5/6 黄褐色土塊小粒3%混入
- 8 10YR5/7 黑褐色土 粘性強 繊毛り中 草根入る
- 9 10YR6/4 黄褐色土塊小粒2%混入

TP119



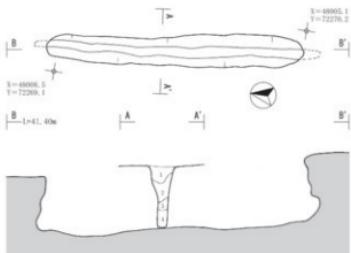
TP119

- 1 10YR2/1 黑色土 粘性強 繊毛り極めて弱 草根入る
- 2 10YR2/3 + 3/4 黑褐色土 小粒2%混入 10YR3/3 黄褐色土 3 cm × 2 cm ブロック右側に混入
- 3 10YR2/2 黑褐色土 5 cm × 2 cm ブロック左側に混入
- 4 10YR3/1 黑褐色土 粘性強 繊毛り密 草根入る
- 5 10YR4/4 黄褐色土 + 10YR5/4 にじみ 黄褐色土塊小粒3%混入
- 6 10YR5/3 黄褐色土 10 cm × 10 cm ブロック右側に混入
- 7 10YR5/4 黄褐色土 10 cm × 10 cm ブロック左側に混入
- 8 10YR5/6 黄褐色土 塵状小粒5%混入
- 9 10YR2/1 黑色土 粘性強 繊毛り中 草根入る 10YR6/6 明黄褐色土塊小粒1%混入
- 10 10YI/7/1 黑色土 粘性強 繊毛り中 草根入る 10YR6/6 明黄褐色土塊小粒1%混入

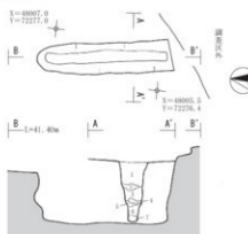


第50図 C区 溝状土坑 TP116～TP119

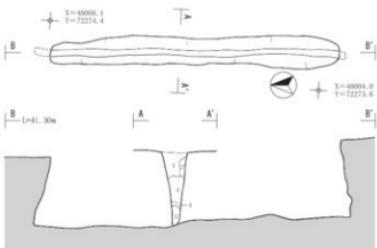
TP120



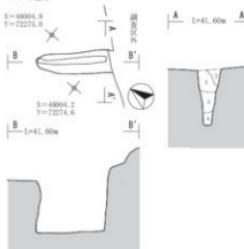
TP122



TP121



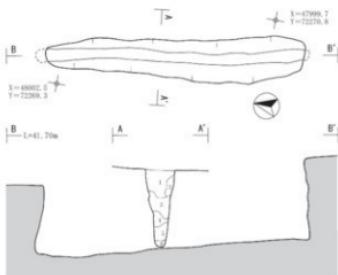
TP123



第51図 C区 溝状土坑TP120～TP123

0 1 60 2m

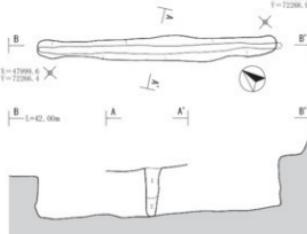
TP124



TP124

- 1 10YR2/1 黒色土 粘性強 繰まり中 草根入る
10YR2/6 S/M 黄褐色土・10YR6/6 明黄褐色土極小・小粒2%混入 10YR3/2
- 2 10YR3/1 黑褐色土 粘性強 繰まり中 草根入る
- 3 10YR3/2 黑褐色土 粘性強 繰まり中 草根入る
10YR3/6 S/M 黄褐色土極小・中粒2%混入
- 4 10YR4/4 黄褐色土 粘性強 繰まり粗 草根入る
10YR5/6 黄褐色土 4.5cm×3cm×2cmブロック混入
- 5 10YR5/6 黄褐色土 粘性強 繰まり粗 草根入る
10YR5/6 黄褐色土極小・小粒2%混入
- 6 10YR3/1 黑褐色土 粘性強 繰まり粗 草根入る
10YR5/6 黄褐色土 6cm×3cm板状ブロック下方に混入

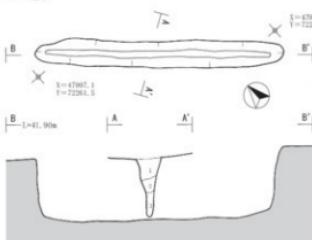
TP125



TP125

- 1 10YR2/1 黒色土 粘性強 繰まり粗 草根入る
10YR3/1 黑色土 粘性強 繰まり粗 草根入る
10YR4/4 黄褐色土極小2%混入

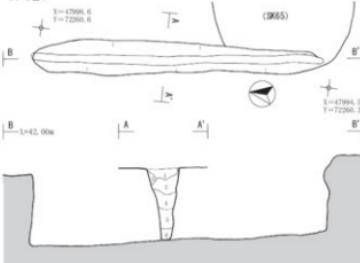
TP126



TP126

- 1 10YR2/1 黒色土 粘性強 繰まり中 草根入る
10YR5/8 黄褐色土極小2%混入
- 2 10YR3/1 黑褐色土 粘性強 繰まり中 草根入る
- 3 10YR3/1 黑褐色土 粘性強 繰まり粗 草根入る

TP127



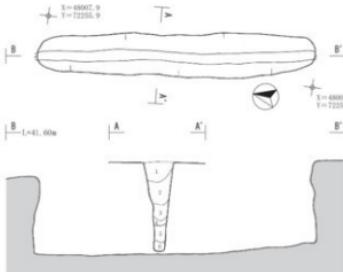
TP127

- 1 10YR2/1 黒色土 粘性強 繰まり極めて密 草根入る
10YR5/6 M/S 黄褐色土極小・小粒2%混入
- 2 10YR3/1 黑褐色土 粘性強 繰まり密 草根入る
10YR5/6 M/S 黄褐色土極小2%混入
- 3 10YR3/1 黑褐色土 粘性強 繰まり極めて密 草根入る
10YR5/6 黄褐色土極小1%混入
- 4 10YR2/1 黑色土 粘性強 繰まり密 草根入る
10YR5/6 S/M 黄褐色土極小・小粒2%混入
- 5 10YR5/6 黄褐色土 3cm×3cm×3cm×2cm×3.5cm×2.5cmブロック混入
10YR5/6 黄褐色土 3cm×3cm×3cm×2cm×3.5cm×2.5cm板状混入
- 6 10YR1/7 黑色土 粘性強 繰まり粗 草根入る
10YR5/6 6.8M 黄褐色土極小・小粒2%混入



第52図 C区 溝状土坑 TP124～TP127

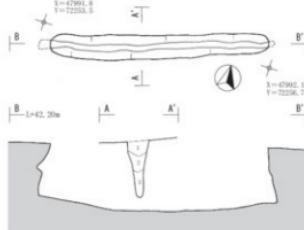
TP128



TP128

- 1 10YR2/1 黒褐色土・粘性強・縫まり密 草根入る
10YR6/6 黄褐色土・小粒2%混入
- 2 10YR3/3 黒褐色土・5 cm × 2 cm ブロック下部に混入
黒褐色土・粘性強・縫まり密 草根入る
- 3 10YR3/3 黒褐色土・粘性強・縫まり密 草根入る
10YR3/7 黒褐色土・粘性強・縫まり密 草根入る
10YR5/8 黄褐色土・10YR6/8 黄褐色土・土塊大粒2%混入
黄褐色土 9 cm × 4 cm ブロック混入
- 4 10YR5/6 黄褐色土・5 cm × 長さ 10 cm 坂状ブロック下方に混入
黒褐色土・小粒3%混入
- 5 10YR3/1 黒褐色土・粘性強・縫まり密 草根入る
- 6 10YR3/6, 5/8 黄褐色土・土塊小・中粒10%混入
10YR1.7/1 黑色土・粘性強・縫まり密 草根入る

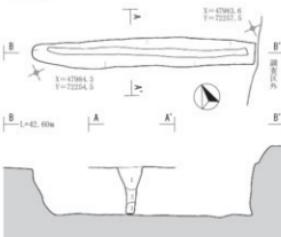
TP129



TP129

- 1 10YR1/1 黒褐色土・粘性強・縫まり密 草根入る
10YR6/8 明黄褐色土・小粒2%混入
- 2 10YR2/1 黑色土・粘性強・縫まり密で密 草根入る
10YR5/6 黄褐色土・10YR6/8 明黄褐色土・小粒・大粒3%混入
- 3 10YR2/2 黑色土・粘性強・縫まり密 草根入る

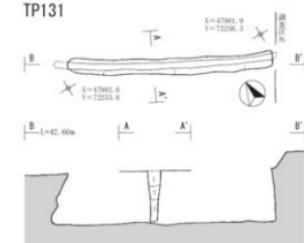
TP130



TP130

- 1 10YR2/1 黑褐色土・粘性強・縫まり密で密 草根入る
10YR4/4 に2点 黄褐色土・土塊2%混入
- 2 10YR2/2 黑色土・粘性強・縫まり中 草根入る
10YR5/6 黄褐色土・小粒1%混入
- 3 10YR1.7/6 黑色土・粘性強・縫まり粗 草根入る

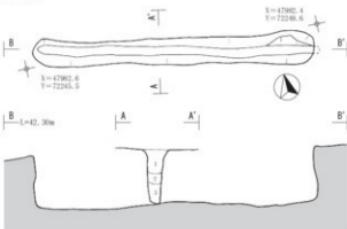
TP131



TP131

- 1 10YR2/1 黑褐色土・粘性強・縫まり密 草根入る
10YR4/4 黄褐色土・小粒1%混入
- 2 10YR2/2 黑色土・粘性強・縫まり密 草根入る
- 3 10YR1.7/1 黑色土・粘性強・縫まり粗 草根入る

TP132



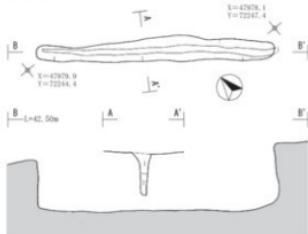
TP132

- 1 10YR2/1 黑褐色土・粘性強・縫まり密 草根入る
- 2 10YR3/1 黑褐色土・粘性強・縫まり粗 草根入る
- 3 10YR1.7/1 黑色土・粘性強・縫まり中 草根入る

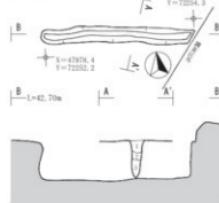
0 1 60 2m

第53図 C区 溝状土坑 TP128～TP132

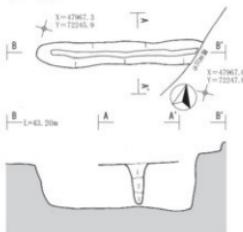
TP133



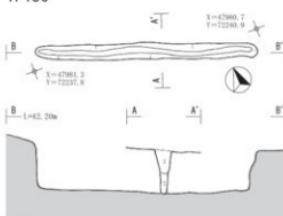
TP134



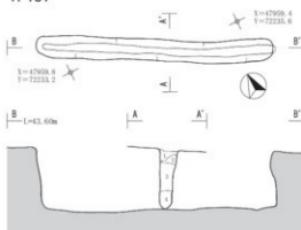
TP 135



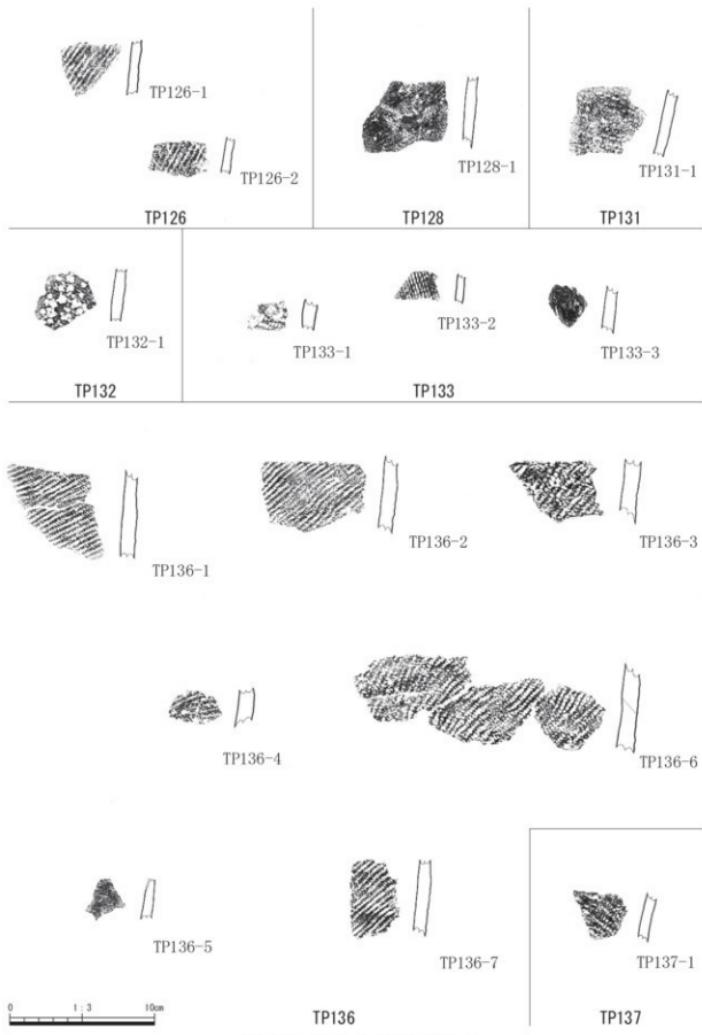
TP136



TP137



第 54 図 C 区 溝状土坑 TP133～TP137



第55図 C区 遺構内出土遺物

VI. 遺構外出土遺物

検出された遺構と遺物については各調査区毎に記述したものであるが、遺構外出土遺物については、A区～C区より出土した遺物をまとめて整理を行い本章にまとめた。出土した全遺物は縄文土器、弥生土器、土製品、石器、石製品、その他である。縄文土器はコンテナ（42×32×10cm）約23箱分、重量にして35.4kg、弥生土器はコンテナ（42×32×10cm）約1箱分、重量にして0.8kg、石器は縄石器を主体にコンテナ（42×32×10cm）約14箱分、総重量にして112.8kg出土している。

1. 土器

出土した土器は粗製の縄文土器が多数を占め、また、小破片のため接合を試みても器形を復元できるものは少なく、完形品はない。縄文土器については、土器の特徴から縄文時代早期、中期、後期のものに分け、粗製土器・底部資料は一括した。さらに後期のものは文様の特徴から2類に分けて掲載した。

(1) 縄文土器

第Ⅰ群：縄文時代早期中葉に位置づけられる土器（№1～13 第56図、写真図版60）

1～13はB区のIB、IHグリッドから出土したものである。1・2は口縁部の隆帯に疑似絡条体圧痕を施し、同圧痕は口唇部にも施される。隆帯より下は貝殻復縁連続波状文が施される。隆帯直下には貝殻腹縁連続波状文上に鰐歯状の沈線が2条みられる。内面は平滑である。3～12は貝殻腹縁連続波状文・貝殻腹縁押し引き文が施される。

第Ⅱ群：縄文時代中期末葉に位置づけられる土器（№14～19 第56図、写真図版60）

縄文時代中期末葉に位置づけられる土器である。すべて同一個体とみられる土器片で、2号屋外炉近辺で出土したものである。14～18は隆帯貼り付け後に縄文が施される。

第Ⅲ群：縄文時代後期初頭～前葉に位置づけられる土器

縄文時代後期初頭～前葉の特徴をもつ土器で、沈線区画後に磨消縄文が充填されるもの、隆帯文や沈線文が施されるものに分類した。

第1類：磨消縄文が施されるもの（№20～37 第56・57図、写真図版60・61）

20～37は縄文施後に沈線による区画が施され、磨消縄文が充填されている。20は口縁部の平行沈線直下のフック状の沈線区画後に、磨消縄文が充填されている。24は波状口縁で、波頂部の口唇に刺突がみられる。28は入組状の沈線区画が施される。

第2類：隆帯文、沈線文が施されるもの（№38～81 第57・58図、写真図版61・62）

38～81は隆帯の貼り付け、沈線による文様が施されるものである。39は隆帯の貼り付けによる縦位区画が施されるもので、隆帯上には工具が不明な圧痕が施され、隆帯両脇は沈線区画と磨消縄文がみられる。40は横位の隆帯が貼り付けられ、隆帯上には竹管状の工具とみられる円形の刺突が施される。39と40は同一個体とみられる。42は小型の壺で吊り下げ状突起がつく。土器の上端の断面の状況から切断蓋付壺の可能性がある。46～81はR24グリッドの試掘トレーン内、ほぼ同一箇所からの出土したもので、大型の壺とみられる同一個体の土器であるが、復元には至らなかった。沈線文や隆帯の貼付がみられ、赤色の塗彩が残る破片もある。

第IV群土器：粗製土器・底部資料

折返口縁の土器、撚糸文の土器、縄文地文の口縁部片、底部資料に分類して掲載した。

第1類：折返口縁のもの（No.82～84 第59図、写真図版63）

82・83は折返部をRL横位に、折返部直下はRL縦位に斜綱文を施文している。84は折返部とその直下とも無文である。

第2類：撚糸文が施されるもの（No.85・86 第59図、写真図版63）

85は深鉢の口縁部片、86は胴部～底部片で同一個体とみられ、網目状撚糸文が施される。

第3類：縄文地文の口縁部のもの（No.87～101 第59・60図、写真図版63・64）

87～101は縄文地文の粗製土器の口縁部で、特徴的なものを抽出し図化した。口唇部の形態は平坦なもの（89～94）、丸みを帯びるもの（95～98）、やや折り返し風なもの（99・100）、口唇部が屈曲し庇状のもの（101）などがある。

第4類：底部資料（No.102～119 第60・61図、写真図版64・65）

土器の底部を器種、年代、型式などの分類をせず一括して掲載した。底面の文様などについて、102は網代痕、103～105は木葉痕、106～109は擦過痕がみられる。

（2）弥生土器（No.120～133 第61図、写真図版65）

弥生土器を一括して図化した。120～131はB区U22グリッド試掘トレンドから出土したもので、No.120～126は同一個体の甕とみられる。口縁部に沈線が施され、120・121は口唇部に波状突起がつく。頭部の沈線より下は縄文が施文される。127～130は同一個体の甕とみられる。口唇部直下と頭部に沈線が施され、頭部の沈線より下は縄文が施文される。131の底部は縄文原体の状況から120～126の甕と同一個体と考えられる。

2. 土製品（No.134・135 第61図、写真図版65）

円盤状土製品が2点出土している。土器片の周縁を打ち欠き円盤状に器形を整えている。134は土器底部片の可能性がある。135は撚糸文が施される鉢類の胴部片を加工したものである。

3. 石器

出土した石器は剥片石器に対して礫石器の出土量が多い。剥片石器23点、石核1点、礫石器76点を図化し掲載した。剥片石器は定型的な形状、二次加工痕や使用痕から石斧、石錐、敲石、磨石、敲磨石、凹石、礫器の器種名を設けて分類した。その他二次加工の痕跡がある剥片で、いずれの器種にも分類されないものを二次加工剥片、微細剥離痕が連続していく使用痕と考えられる剥片を微細剥離痕のある剥片として掲載した。

礫石器については、形状、形態、二次加工痕、調整痕、使用痕から石斧、石錐、敲石、磨石、敲磨石、凹石、礫器の器種名を設けて分類した。その他二次加工の痕跡や調整の痕跡がある礫で、いずれの器種にも分類できないものや該当しないものは二次加工痕を有する礫として掲載した。

（1）石鎚（No.136～147 第62図、写真図版66）

12点出土した。136～138は平基無茎、139は平基有茎、140は凹基有茎、141～144は凸基有茎、145～147は尖基である。石質は139がチャート、それ以外は頁岩である。

（2）尖頭器（No.148 第62図、写真図版66）

1点のみの出土である。両面調整されており、全面が繰かい二次加工剥離面で覆われて素材面が残されていない。先端部及び基部が欠損している。石質は頁岩である。

(3) 石匙 (No. 149 第62図、写真図版66)

1点のみの出土である。つまみ部が欠損しているが、刃部の状況から石匙と考えられる。つまみ部が剥片の長軸方向に位置し、先端が尖る形状のものとみられる。石質は頁岩である。

(4) ピエス・エスキュー (No. 150～152 第62・63図、写真図版66)

対向する両側辺に、階段状またはリングの密な剥離や打減痕が認められるものを本器種とし図化したもので、150～152は3点とも1対の剥離である。石質は150・151がチャートである。152は砂岩で、台形状の大型の剥片の短辺側両端に微細剥離痕が観察される。

(5) 二次加工剥片 (No. 153～155 第63図、写真図版66)

3点出土し図化したものである。いずれも二次加工による連続した剥離がみられるが、刃部とは認め難い剥片である。153・154は連続剥離に使用痕とみられる微細剥離痕も確認されることから、スクレーパー類に分類される可能性がある。

(6) 微細剥離痕のある剥片 (No. 156～158 第63図、写真図版66)

微細剥離が確認できる剥片が8点出土しているが、連続した微細剥離がみられる3点を図化し、掲載した。156は側縁腹面側に微細剥離がみられ、157は剥片周縁に断続的に微細剥離痕がみられる。158は短軸側の側縁に階段状の微細剥離がみられるもので、ピエス・エスキューが破損した石器の可能性がある。

(7) 石核 (No. 159 第64図、写真図版67)

チャートの半割離を素材とした石核で、求心状に剥片剥離を進行させている。

(8) 石斧 (No. 160～178 第64～66図、写真図版67・68)

石斧は製作技法により、磨製石斧、細かい敲打成形による石斧、打製石斧の大きく3つに分けることができる。しかし磨製石斧の未成品と考えられるものや磨製石斧の再利用とみられるもの、細かい敲打成形の石斧の一部に磨きがみられる石斧、刃部、基部のみの出土で全体の成形方法が把握できないものもあり、分類せず一括して掲載した。

160・161は磨製石斧で、161は刃部のみで基部が欠損している。162～166は敲打による成形で、162は敲打成形後、平面中央部に磨きがみられる。163～166は古い研磨面が一部認められることから磨製石斧の転用と推定される。

167～178は打製石斧である。167は大型の片面加工のもので、裏面に自然面を残す。168は刃部先端に自然面が残る。169は基部が欠損した刃部のみで、古い研磨面が一部認められることから、磨製石斧の転用と推定される。170～172は小型のもので、刃部の成形が認められるので石斧とした。170は両面加工であるが、一部に自然面を残す。171は扁平な鍔を素材とし、片面加工で裏面は自然面を残す。172は片面の刃部と側面の一部を加工し、自然面を多く残す。173～177は刃部が欠損した基部で、173は古い研磨面が一部認められることから、磨製石斧の転用と推測され、側面には敲打による調整がみられる。174は両面加工で、両面と側面の一部に敲打痕が認められる。176・177は片面加工で、裏面は自然面を残す。178は刃部が欠損した石斧とした。

(9) 石錘 (No. 179 第66図、写真図版68)

1点のみの出土である。ハンレイ岩の扁平な鍔の対になる2か所に敲打による抉りがみられるものである。

(10) 敲石 (No. 180～214 第66～73図、写真図版68～72)

円錐や扁平な鍔の一部に敲打痕がみられるものを敲石として一括した。研磨や磨るという行為が加わった可能性のものもある。面的な敲打痕が一端や両端にみられるもの、3か所以上みられるもの、面的な構成ではないが、敲打痕の集中が複数認められるものなどの分類が可能であるが一括して掲載した。

180～184は鍔の一側辺に敲打の痕跡がみられるものである。185～190は鍔の長軸側の両端に敲打の痕跡がみられる。

192～204は面的な敲打痕や敲打痕の集中箇所が複数みられる。203は偏平な縦の表面中央に敲打が集中し、裏面は全体的に敲打の痕跡がみられるが比較的中央部に集中している。凹石の分類に入る可能性もあるが、凹みが弱いので敲石に分類した。204は扁平な円形の縦の表面の中央を中心に敲打痕がみられる。205～207は敲石の欠損品である。

(11) 磨石 (No. 208～214 第72・73図、写真図版72)

縦の一部が磨痕跡がみられる石器である。208は花崗岩の割れ口の全面に磨痕跡がある。209～214は長円縦の側面のみに磨痕跡がある。209～213は1側面、214は2側面に磨痕跡がみられる。

(12) 敲磨石 (No. 215 第73図、写真図版72)

磨石、敲石は使用痕が単独で観察されることから器種設定したものであるが、215は偏平な円形の縦の中央に敲打痕がある。敲石の範疇であるが、側面の一部に光沢のある磨きがみられるので敲磨石とした。

(13) 縮器 (No. 216～221 第73～75図、写真図版72・73)

円錐基調の自然縦の一端に、連続的な打撃を加えて打ち欠き、刃部状の銳利な部分を作り出しているものを縮器とした。216～218は両側からの剥離がみられる。219～221は扁平な円縦の片面に連続的な剥離により銳利な部分が作り出され、裏面は自然面を残す。

(14) 二次加工痕を有する縦 (No. 222～232 第75～77図、写真図版73・74)

222～232は二次加工の痕跡を有する縦で、石斧や鍛器に分類しなかったものを一括した。222は刃部と想定される両側からの連続剥離を伴うもので、打製石斧あるいは鍛器の分類に入る可能性もある。223～225は連続的な剥離がみられ、縮器の範疇で捉えられる可能性があり、226～229も剥離の連続性は低いが、銳利な部分が作り出されており、縮器の範疇で捉えられる可能性がある。228は自然縦の一端に刃部を想定したような剥離がみられ、石斧状の石器の可能性がある。231は重量6.83kg、大型の偏平な梢円形縦の端部に連続剥離による刃部状の加工がみられる。232は砂岩の方形状の縦の周縁を加工したもので、2号屋外炉の炉石No.3の加工痕跡と類似しており、炉石として使用された可能性がある。

(15) 石皿・台石類 (No. 233～236 第77・78図、写真図版74・75)

233～236は大型の縦に磨痕跡や敲打の痕跡がみられるものである。233は中央の凹みに磨痕跡がみられる。

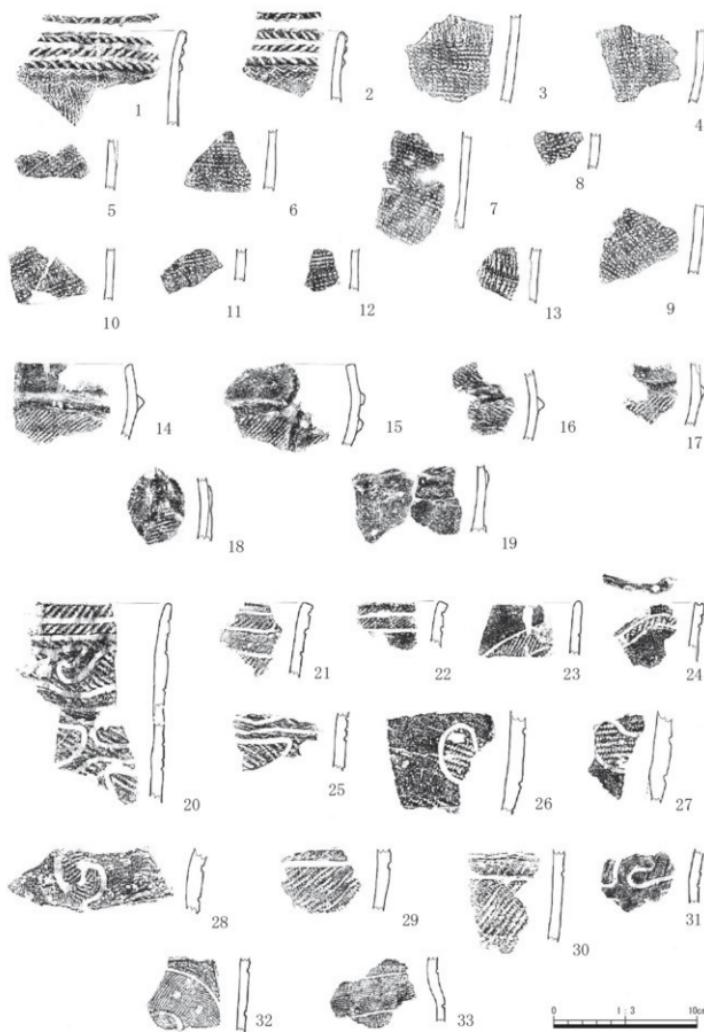
234は磨痕跡と敲打痕がみられる。235は偏平な円形の縦片面全体に光沢のある磨痕跡がみられる。236は断面が台形基調の花崗岩の縦片面全面に磨痕跡がみられる。

4. 石製品 (No. 237～240 第78図、写真図版75)

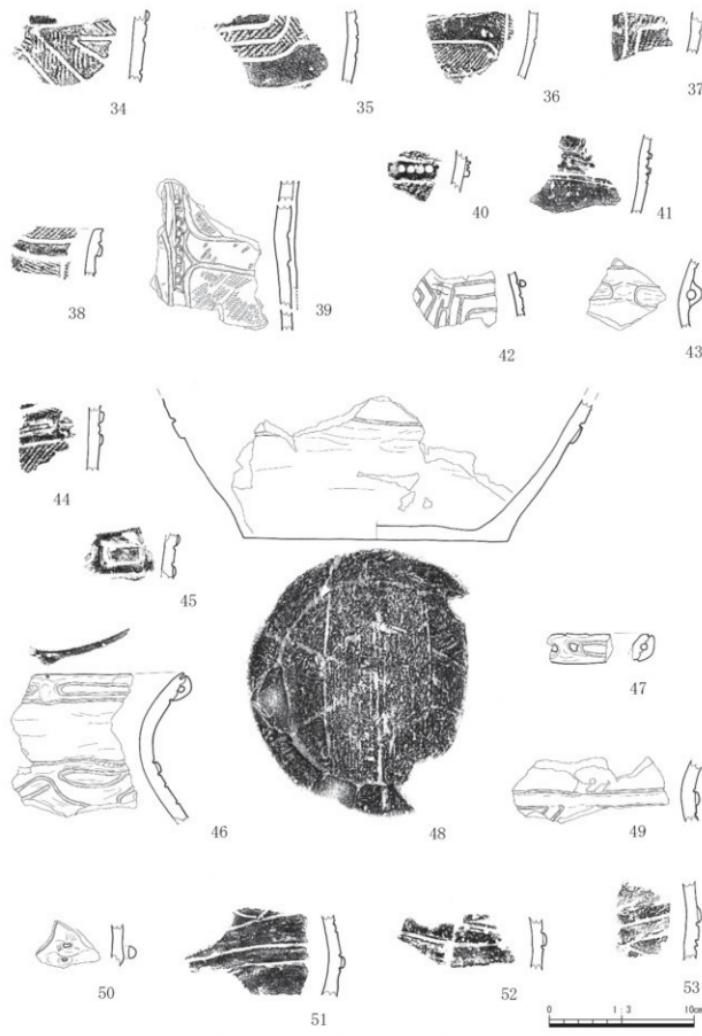
石棒、円盤状石製品が出土した。237は石棒の欠損品であるが、剥離による調整や磨きがみられる。238～240は円盤状石製品で、縁辺部を打ち欠き円盤状に成形している。

5. その他 (No. 241 第78図、写真図版75)

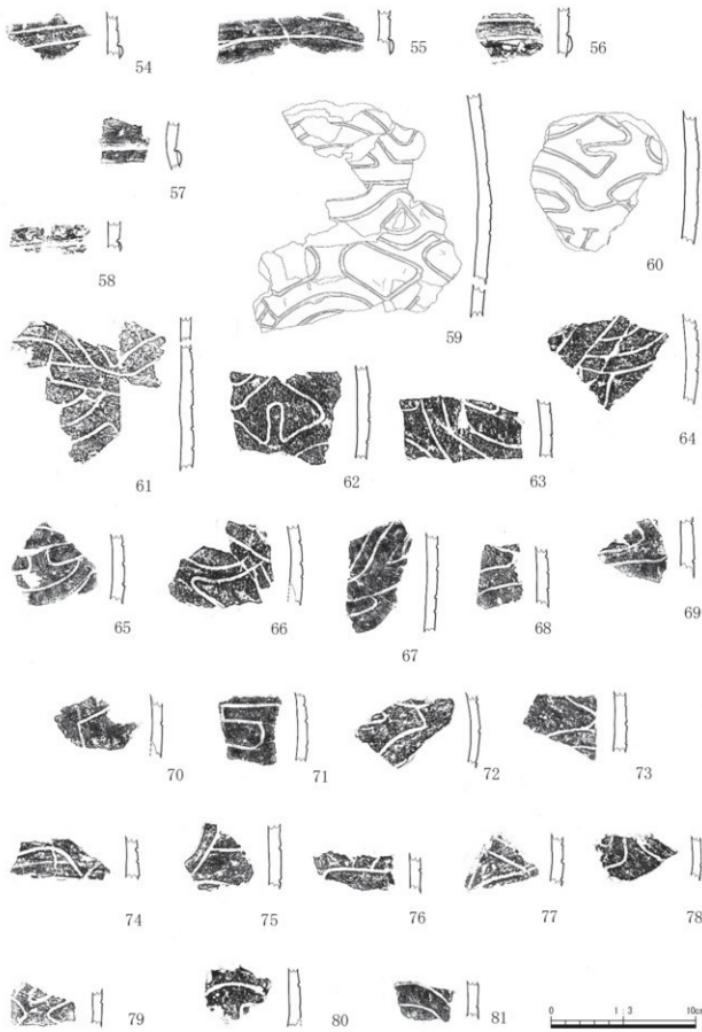
軽石が1点出土している。新生代第四紀十和田火山のものである。加工痕や使用痕は確認されていない。



第56図 遺構外出土遺物 土器 1~33

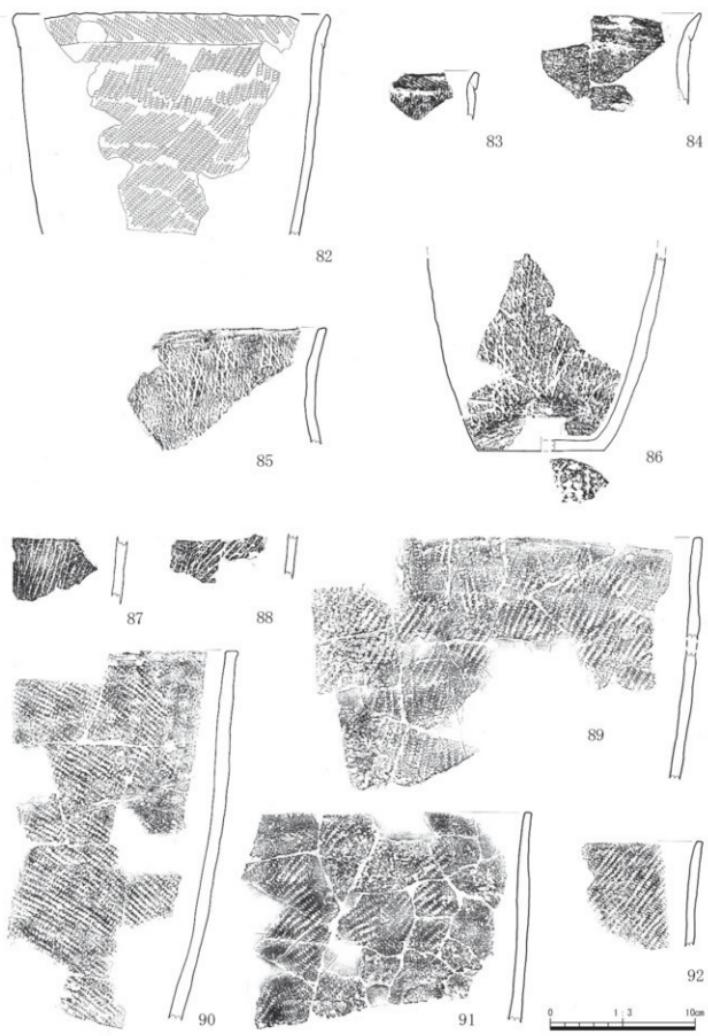


第57図 遺構外出土遺物 土器34~53

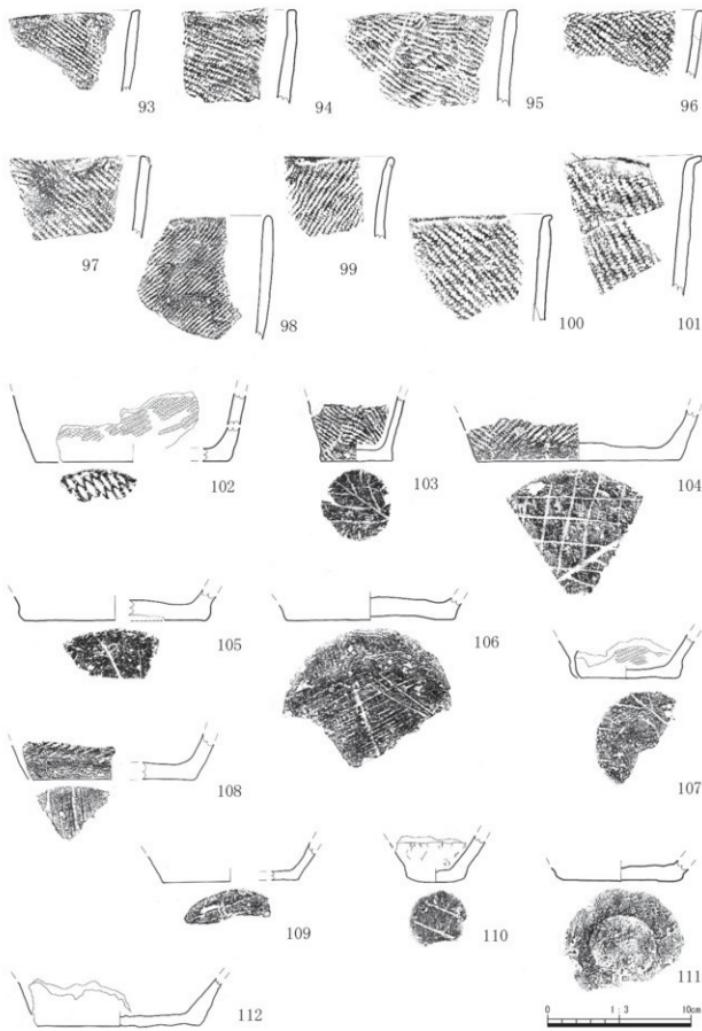


第58図 遺構外出土遺物 土器54~81

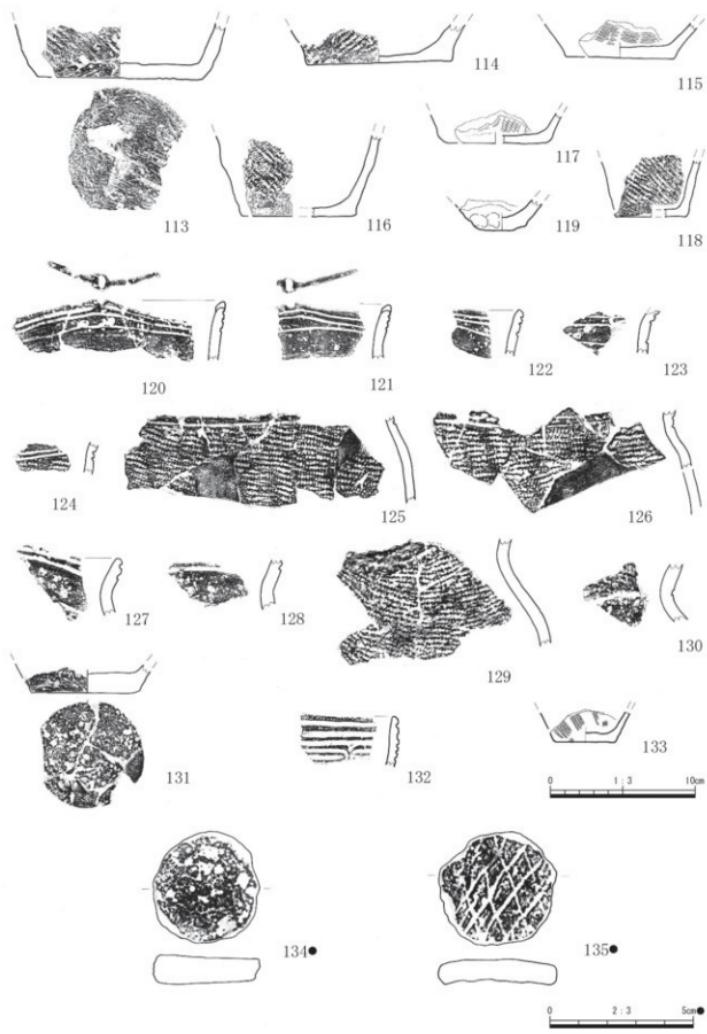




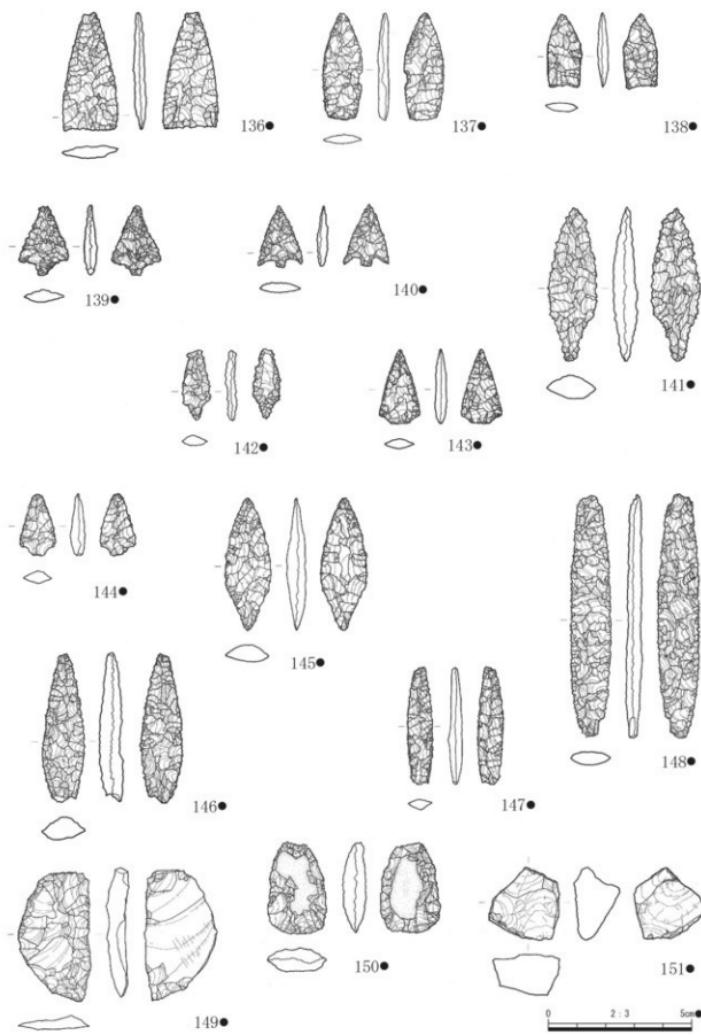
第59図 遺構外出土遺物 土器82~92



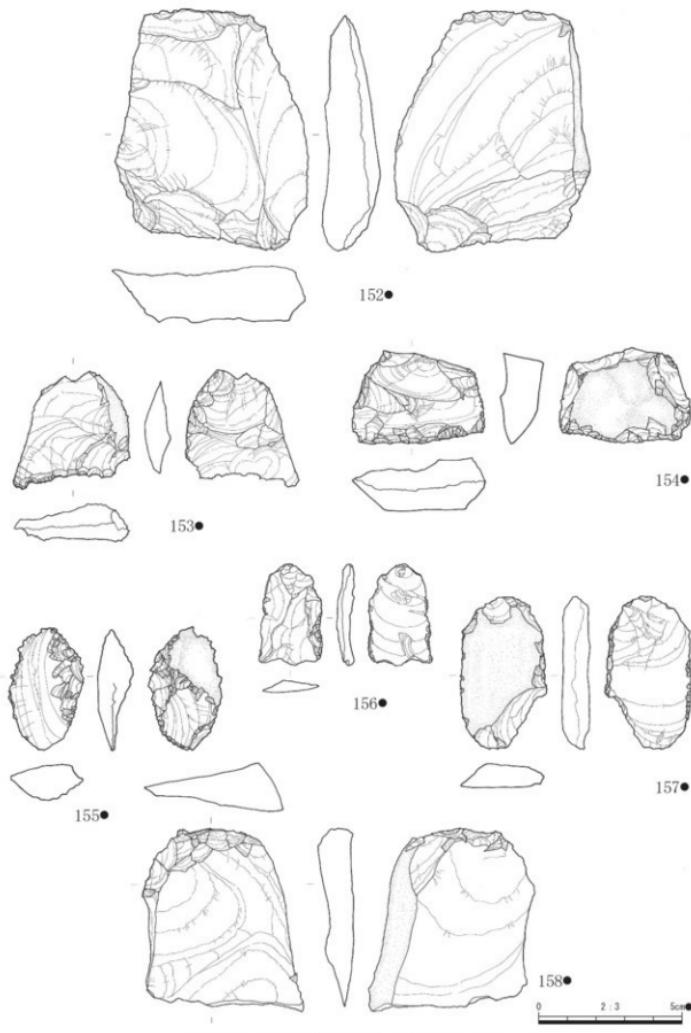
第60図 遺構外出土遺物 土器93~112



第61図 遺構外出土遺物 土器113~133 土製品134・135



第62図 遺構外出土遺物 石器136~151



第63図 遺構外出土遺物 石器152~158



159



161



160



163



162



165



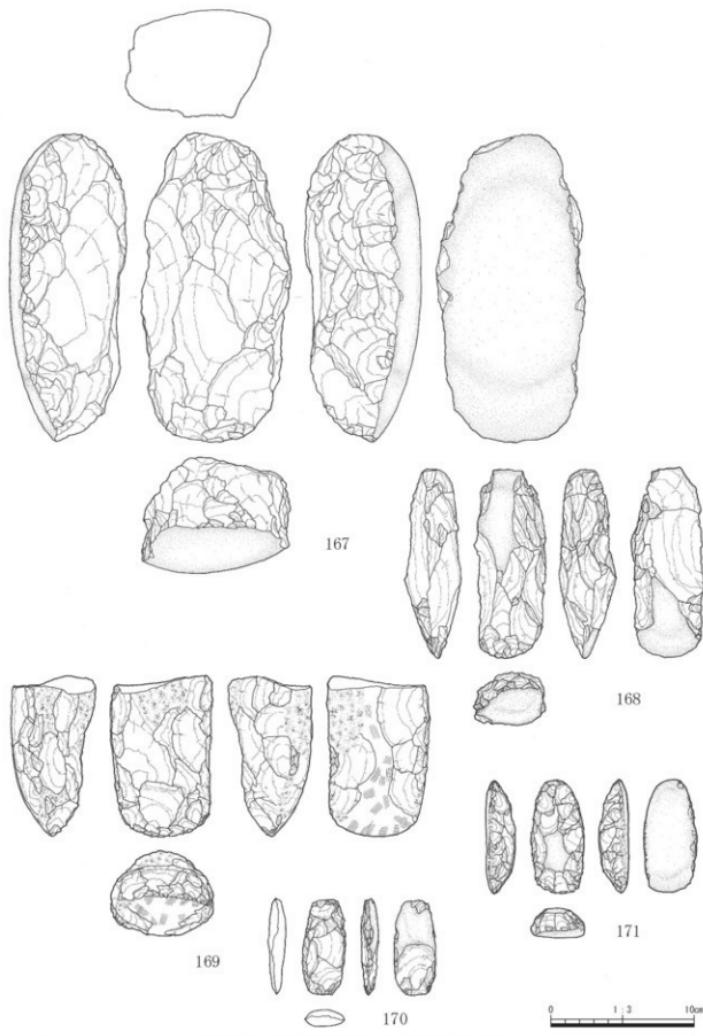
164



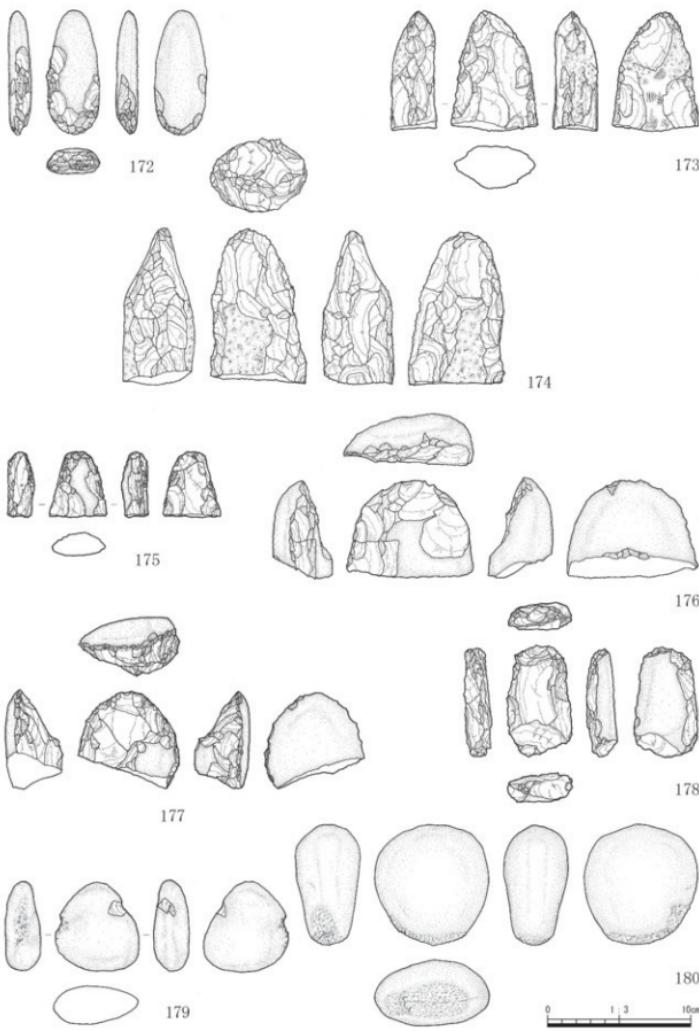
166



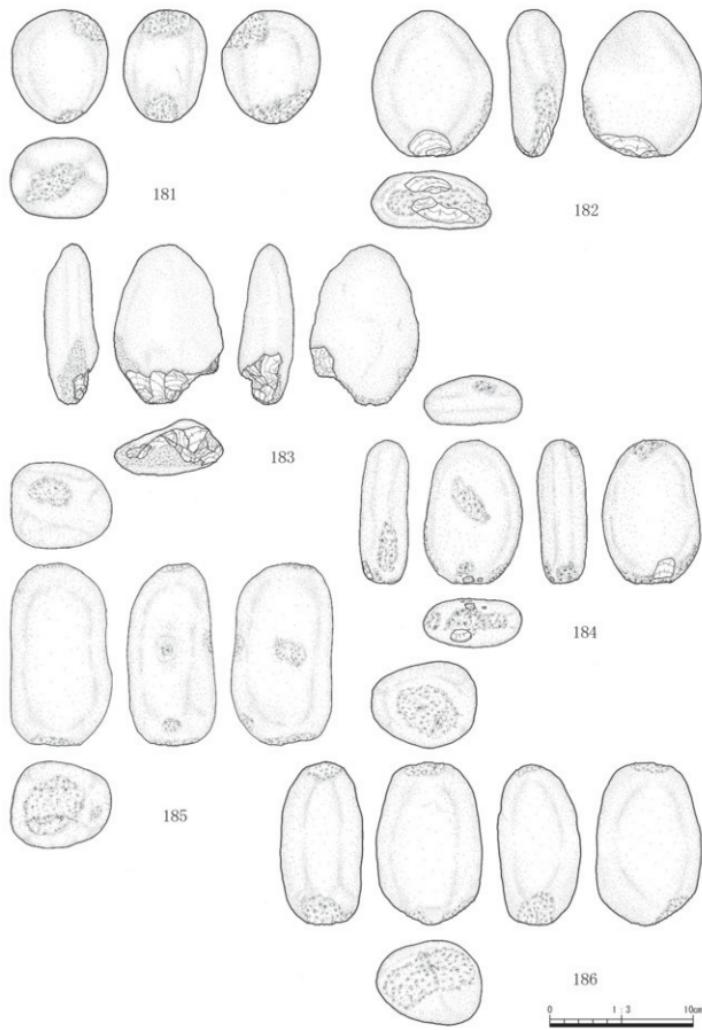
第64図 遺構外出土遺物 石器159～166



第65図 遺構外出土遺物 石器167~171

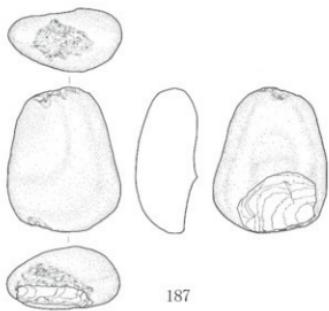


第66図 遺構外出土遺物 石器172～180

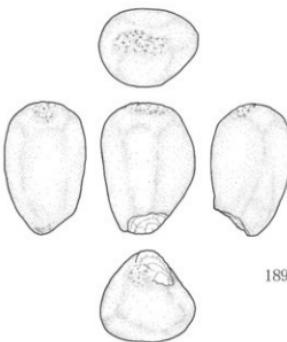


第67図 遺構外出土遺物 石器181~186

0 1 3 10cm



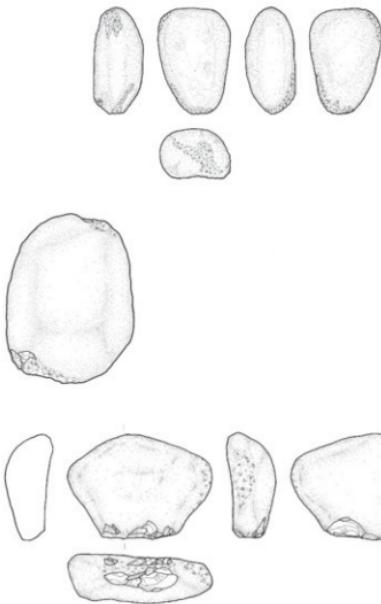
187



189



188



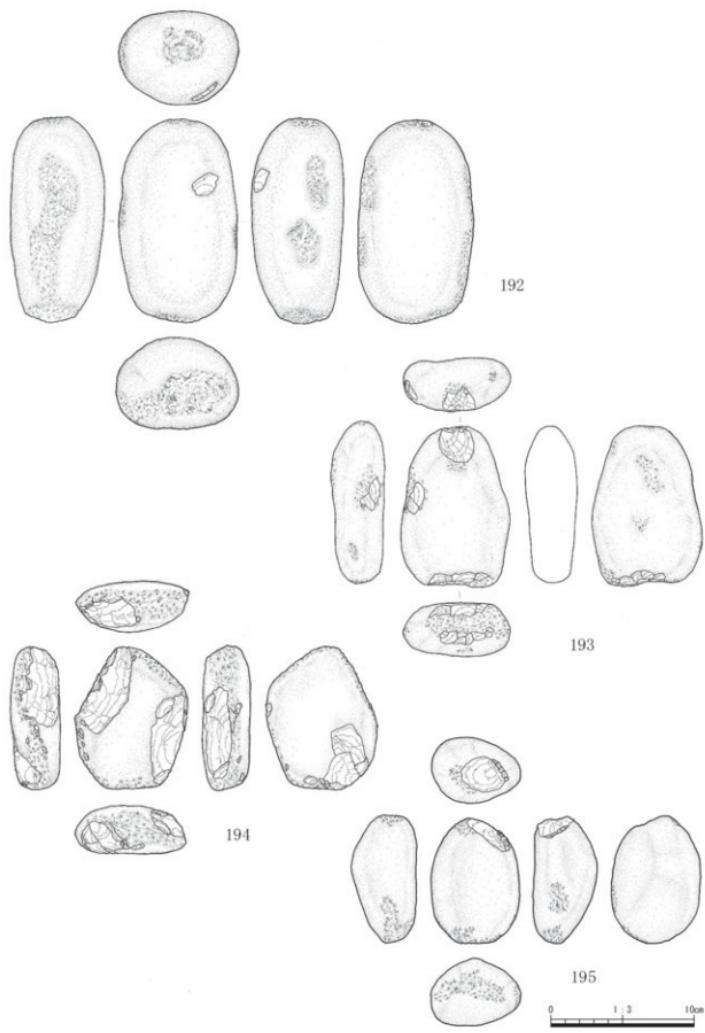
190



191



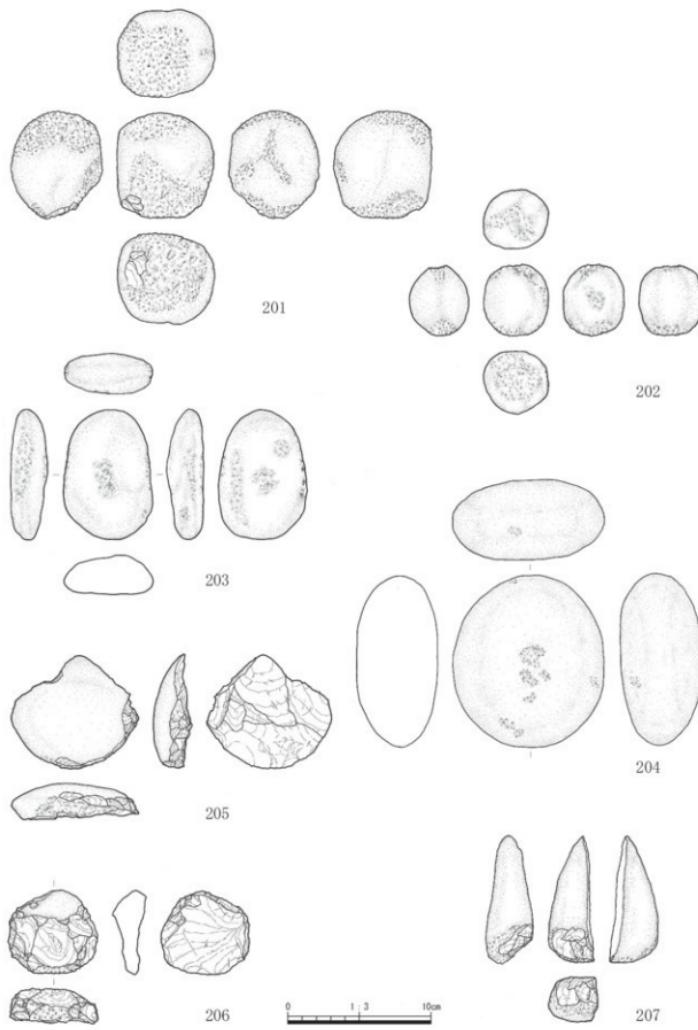
第68図 遺構外出土遺物 石器187～191



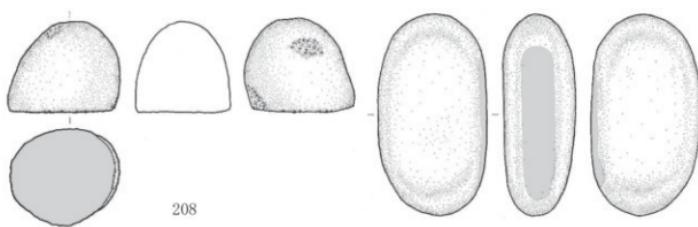
第69図 遺構外出土遺物 石器192~195



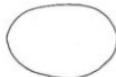
第70図 遺構外出土遺物 石器196~200



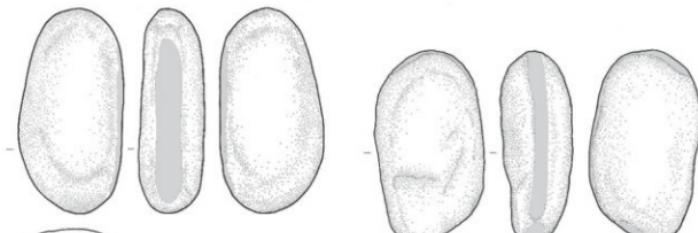
第71図 遺構外出土遺物 石器201～207



208



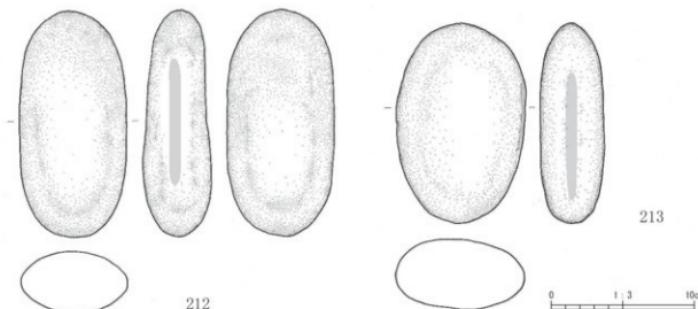
209



210



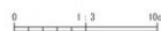
211



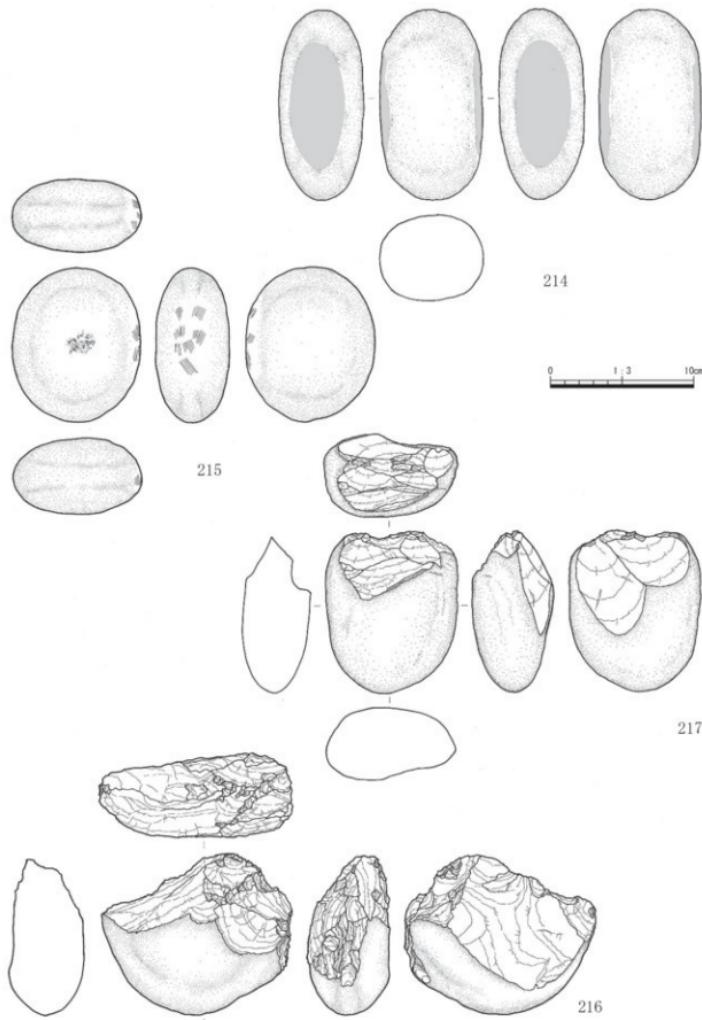
212



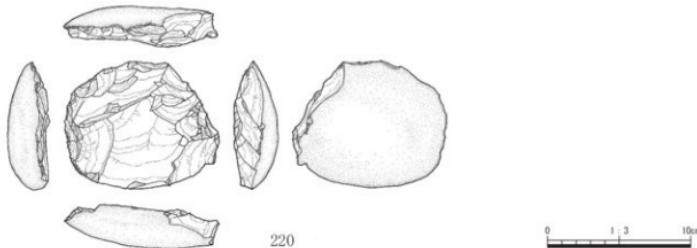
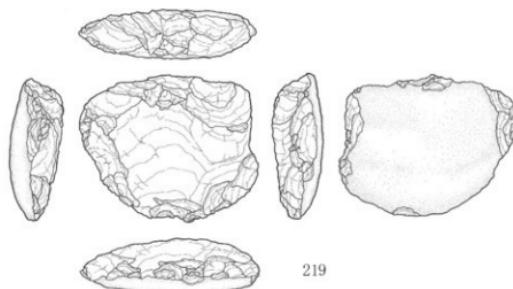
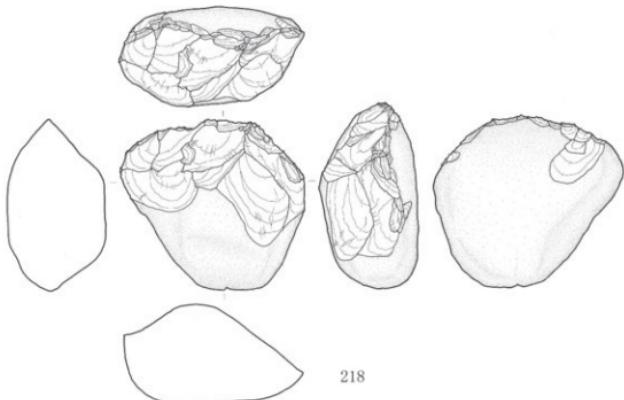
213



第72図 遺構外出土遺物 石器208～213

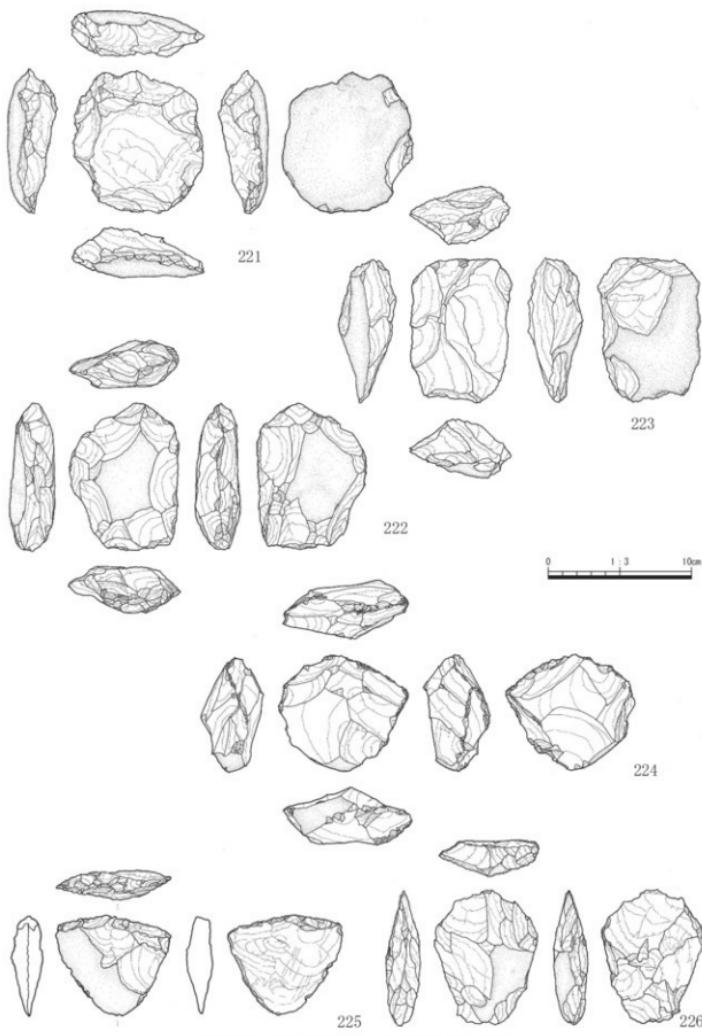


第73図 遺構外出土遺物 石器214~217

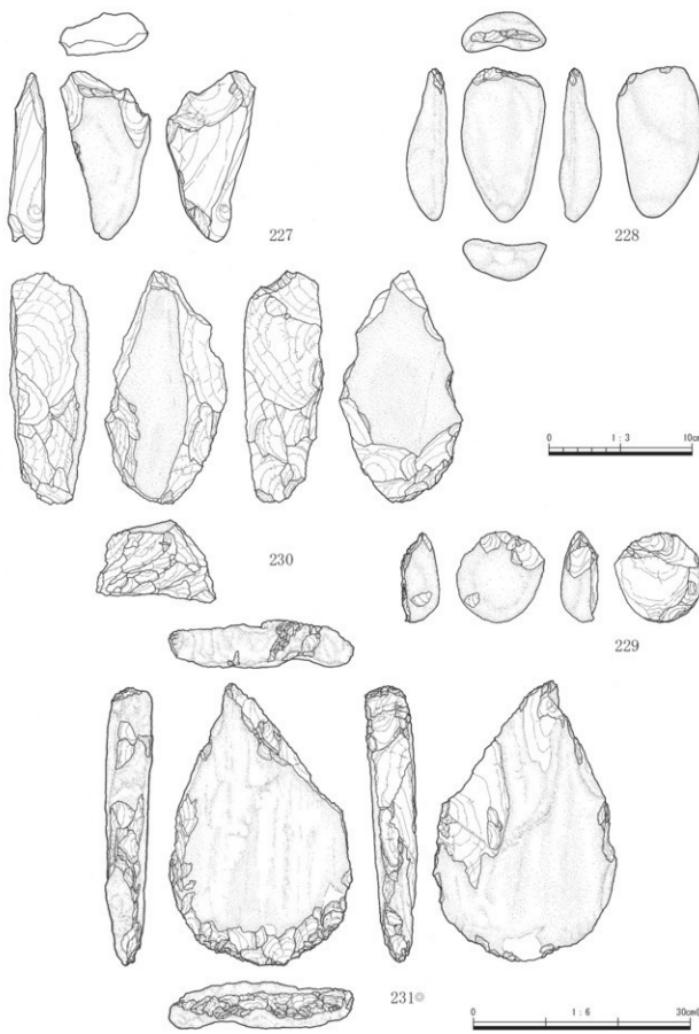


0 1 3 10cm

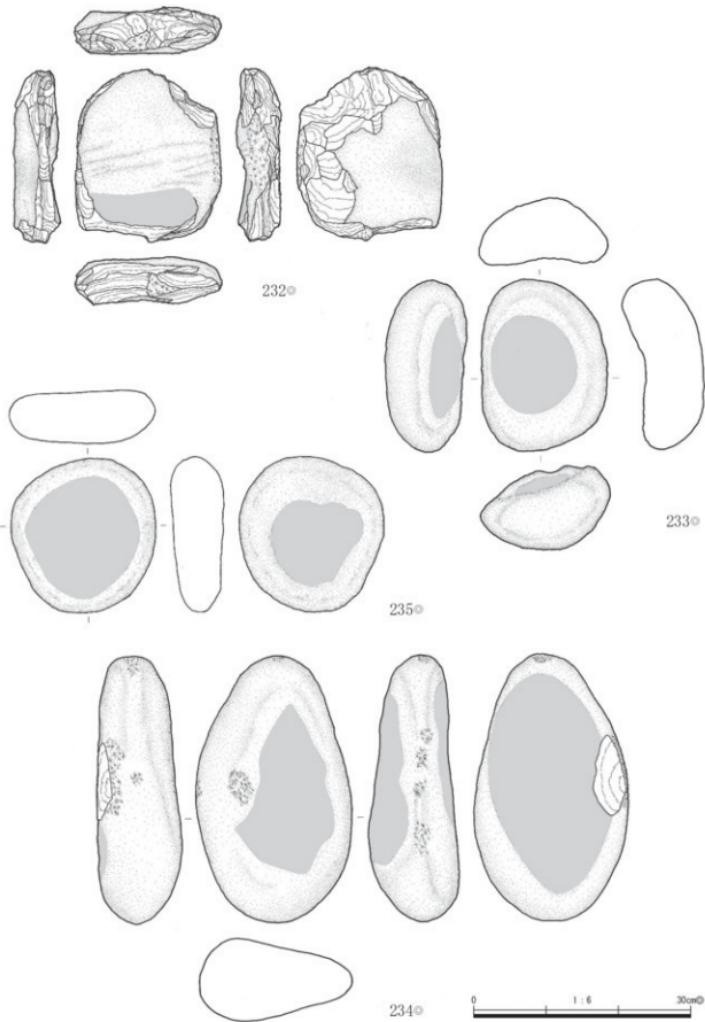
第74図 遺構外出土遺物 石器218～220



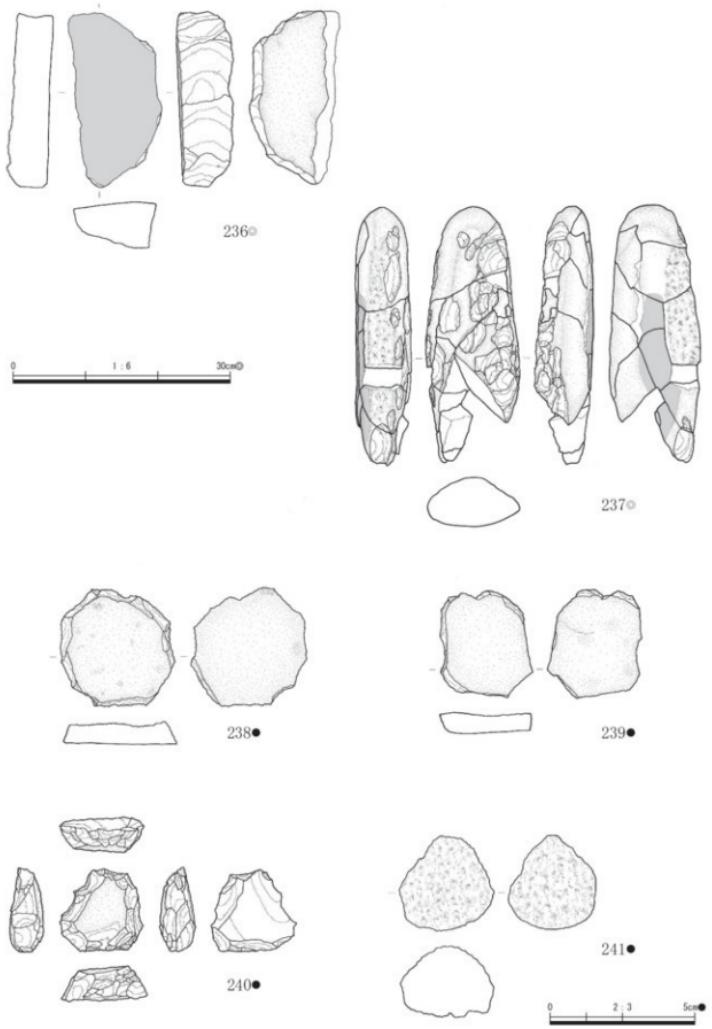
第75図 遺構外出土遺物 石器221～226



第76図 遺構外出土遺物 石器227~231



第77図 遺構外出土遺物 石器232~235



第78図 遺構外出土遺物 石器236・237 石製品238～240 その他241

第2表 造構一覧表(1)

区	造構名	國	版	写真0088 位置(グリップ)	備考		
A	2号集石	7	6	V27	13個の直角彫、移出のものが多く、ほとんどの褐色に変色している		
区	造構名	國	版	写真0088 位置(グリップ)	規格(cm)	規格(cm)	備考
B	1号造水井	9	10	P18	長軸 56	短軸 51	平面形 方形
B	2号造水井	11	10・11	Q18	74	55	方形 石面から軸に用ひ砂石あり
区	造構名	國	版	写真0088 位置(グリップ)	規格(cm)	規格(cm)	備考
B	1号濾水井	33	34	V22・V23	全長 (698)	幅 最大54 最小36	深さ 西側は築造区外へ延びる
B	2号濾水井	34	34	V22	459	最大28 最小22	平面形「く」の字状
区	造構名	國	版	写真0088 位置(グリップ)	規格(cm)	規格(cm)	備考
C	1号砂石引取	36～38	39～42	K10・K11	長軸 8.8	短軸 7.0	深さ 最大28
C	2号砂石引取	43～45	46～48	K11	9.2	(7.7)	平面形 横円形 円形 44.92 (52.19) 地底砂

区	漁場名	圖版	写真SNR	位置(ダツフ)	開口部	規 模 (cm)	平面形	長軸/短軸比率	備 考
B	S856	13	13	V23	92×74	82×68	深 さ 30	円 形	1.24
B	S857	13	13	T23	112×104	108×104	38	円 形	1.08
B	S858	14	13	T23	164×148	163×152	120	円 形	1.11
B	S859	14	13	T21	106×105	84×76	38	円 形	1.01
B	S860	14	14	R20	112×105	82×72	43	円 形	1.07
B	S861	15	14	R18	67×63	109×90	底深部32	円 形	1.06
B	S862	15	14	R18	118×100	77×68	27	円 形	1.18
B	S863	15	14	018	107×45	103×43	8	長軸形	2.38
B	S864	15	15	M16,N16	108×102	104×90	52	円 形	1.06
C	S865	49	51	110	628×195	590×195	底深部65	<円 形>	<1.17>
A	TP57	6	5	U25	126×475	360×76	384×14	細長四角形	4.74
A	TP59	6	5	T26,T26	413×66	446×16	111	細長四角形	N~42°~E
B	TP60	16	15	T24	369×72	409×11	90	細長四角形	N~65°~W
B	TP61	16	15	T24	354×48	278×6	98	細長四角形	N~53°~W
B	TP62	17	16	T24	303×49	80	106	細長四角形	6.75
B	TP63	17	16	S24	346×50	329×11	94	細長四角形	N~28.5°~W
B	TP64	17	16	S23,S24	372×70	378×8	110	細長四角形	N~23°~W
B	TP65	17	17	U23	366×155	354×12	92	細長四角形	6.31
B	TP66	18	17	U23	350×71	334×8	113	細長四角形	N~60°~W
B	TP67	18	17	U23	359×69	336×17	110	細長四角形	N~33°~W
B	TP68	18	18	U23,T23	360×56	393×12	97	細長四角形	N~36°~E
B	TP69	18	18	S23	440×70	432×14	104	細長四角形	N~45°~W
B	TP70	19	18	U22	346×53	336×12	102	細長四角形	N~83.5°~W
B	TP71	19	19	U22	282×72	256×10	98	細長四角形	N~47.5°~W
B	TP72	19	19	U22	366×102	314×8	119	細長四角形	N~73°~E
B	TP73	19	19	U22,T22	404×50	374×13	124	細長四角形	N~54°~W
B	TP74	20	20	S22	288×57	288×14	70	細長四角形	N~77°~E
B	TP75	20	20	S22	307×62	354×6	68	細長四角形	N~53°~W
B	TP76	20	20	R23,R22	376×92	396×13	130	細長四角形	4.09
B	TP77	20	21	Q22	406×78	406×10	128	細長四角形	N~88°~E
B	TP78	21	21	U21	(242)×50	(176)×10	98	細長四角形	5.21
							(4.84)	N~37.5°~W	長軸北東側は底深部へ伸びる

第2表 遺構一覧表(2)

第2表 遺構一覧表(3)

区	遺構名	国	県	写真(位置(グリッド))	規 横 (cm)	規 高 (cm)	平面 形	長軸 / 断面比率	長軸方向	備 考
B	TP79	21	21	T21	370 × 79	266 × 5	深 さ 底 面	106	細長柱形	4.68 N~86°~W
B	TP80	21	22	T21	254 × 48	320 × 9	細長柱形	88	細長柱形	6.13 N~32.5°~W
B	TP81	21	22	T21	377 × 64	346 × 14	細長柱形	125	細長柱形	5.89 N~38.5°~W
B	TP82	22	22	T21	245 × 47	337 × 8	細長柱形	120	細長柱形	7.34 N~26.5°~E
B	TP83	22	23	S21	264 × 56	338 × 13	細長柱形	118	細長柱形	6.32 N~11.5°~E
B	TP84	22	23	R21	292 × 58	255 × 6	細長柱形	106	細長柱形	4.86 N~74°~E
B	TP85	22	23	S20	326 × 63	338 × 4	細長柱形	92	細長柱形	5.59 N~85°~W
B	TP86	23	24	S20	346 × 82	317 × 4	細長柱形	101	細長柱形	4.22 N~45.5°~W
B	TP87	23	24	R20,S21	460 × 40	411 × 9	細長柱形	109	細長柱形	10.60 N~76°~E
B	TP88	23	24	T19	(225) × 74	(214) × 8	細長柱形	114	細長柱形	N~66.5°~W
B	TP89	23	25	R20,E20	376 × 90	366 × 20	細長柱形	178	細長柱形	4.18 N~26.5°~E
B	TP90	24	25	P20	322 × 60	332 × 26	細長柱形	86	細長柱形	4.03 N~89°~W
B	TP91	24	25	S19	366 × 79	328 × 12	細長柱形	111	細長柱形	4.51 N~16°~E
B	TP92	24	26	R19	353 × 63	324 × 9	細長柱形	107	細長柱形	5.60 N~45.5°~W
B	TP93	24	26	R19	418 × 86	458 × 5	細長柱形	128	細長柱形	4.86 N~46°~E
B	TP94	25	26	Q19	364 × 155	292 × 11	細長柱形	106	細長柱形	5.53 N~40.5°~E
B	TP95	25	27	P19	354 × 48	296 × 8	細長柱形	94	細長柱形	6.75 N~42°~E
B	TP96	25	27	P19	353 × 66	320 × 7	細長柱形	98	細長柱形	5.35 N~65°~E
B	TP97	25	27	S18	(686) × 101	311 × 15	長楕円形	147	(長楕円形)	(2.65) N~69°~E
B	TP98	26	28	S18,S19	416 × 74	442 × 57	細長柱形	111	細長柱形	5.62 N~44.5°~E
B	TP99	26	28	R18	345 × 62	340 × 14	細長柱形	103	細長柱形	5.56 N~18°~E
B	TP100	26	28	Q18,R18	317 × 123	323 × 16	長楕円形	152	長楕円形	2.58 N~7°~E
B	TP101	27	29	O18	317 × 115	294 × 22	長楕円形	125	長楕円形	2.76 N~7°~E
B	TP102	27	29	M18	(350) × 82	387 × 13	細長柱形	137	細長柱形	(4.27) N~21.5°~E
B	TP103	27	29	M18	347 × 78	348 × 7	細長柱形	127	細長柱形	4.45 N~17°~E
B	TP104	28	30	U17,L18	442 × 88	488 × 15	細長柱形	142	細長柱形	5.02 N~86.5°~W
B	TP105	28	30	Q17	368 × 59	342 × 17	細長柱形	120	細長柱形	4.47 N~12.5°~W
B	TP106	28	30	Q17	370 × 32	364 × 12	細長柱形	67	細長柱形	11.96 N~30°~E
B	TP107	29	31	P17	240 × 94	167 × 17	長楕円形	78	長楕円形	2.55 N~6°~W
B	TP108	29	31	O17	247 × 91	199 × 7	長楕円形	140	長楕円形	2.71 N~12.5°~E
B	TP109	29	31	N17,017	281 × 67	253 × 8	細長柱形	115	細長柱形	4.19 N~18.5°~E
B	TP110	29	32	N17	253 × 73	323 × 10	細長柱形	117	細長柱形	3.47 N~37°~E

区	漁場名	圖版	写真SNR	位置(ダツフ)	規 模 (cm)	開 口 部	底 面	深 さ	平 面 形	長軸 / 底面比率	長軸方向	備 考
B	TP111	30	32	X17	284 × 104	201 × 41	111	長楕円形	2.73	N~23.5°-E		
B	TP112	30	32	M17	315 × 96	242 × 16	148	細長楕円形	3.21	N~9°-E		
B	TP113	30	33	M17,L17	270 × 84	277 × 15	127	細長楕円形	3.21	N~23°-E		
B	TP114	31	33	O16	(362) × 83	(316) × 14	130	細長楕円形	(3.64)	N~68.5°-W	長軸北側は調査区外へ延びる	
B	TP115	31	33	M16	312 × 102	312 × 10	131	細長楕円形	3.06	N~5.5°-W		
C	TP116	50	51	L13	307 × 25	206 × 7	62	細長楕円形	13.48	N~81.5°-W		
C	TP117	50	51	J10	298 × 54	281 × 10	83	細長楕円形	5.62	N~8.5°-W		
C	TP118	50	52	J10	357 × 38	309 × 8	98	細長楕円形	9.39	N~76°-W		
C	TP119	50	52	J10	380 × 52	380 × 11	110	細長楕円形	7.31	N~32°-W		
C	TP120	51	52	J10	356 × 37	308 × 14	84	細長楕円形	9.62	N~8°-W		
C	TP121	51	53	J10	400 × 37	431 × 7	100	細長楕円形	10.81	N~2°-W		
C	TP122	51	53	J10	(186) × 42	(169) × 17	82	細長楕円形	(4.43)	N~8°-W	長軸南側は調査区外へ延びる	
C	TP123	51	53	J10	(162) × 29	(96) × 8	77	細長楕円形	(3.52)	N~40°-W	長軸南側は調査区外へ延びる	
C	TP124	52	54	J10,110	358 × 51	370 × 14	106	細長楕円形	7.02	N~13°-W		
C	TP125	52	54	J10	322 × 31	328 × 13	66	細長楕円形	10.71	N~42°-W		
C	TP126	52	54	J10	346 × 37	312 × 9	81	細長楕円形	9.35	N~48°-W		
C	TP127	52	55	J10	(314) × 41	404 × 12	101	細長楕円形	(7.66)	N~7°-W	切り合え、(SM64 → TP127)	
C	TP128	53	55	J9	386 × 58	388 × 13	125	細長楕円形	6.66	N~9°-W		
C	TP129	53	55	J9	303 × 33	327 × 8	78	細長楕円形	9.18	N~72°-E		
C	TP130	53	56	J9	(300) × 39	(276) × 9	64	細長楕円形	(17.92)	N~66°-W	長軸南側は調査区外へ延びる	
C	TP131	53	56	J9	(285) × 21	(308) × 9	71	細長楕円形	(13.74)	N~62.5°-W	長軸南側は調査区外へ延びる	
C	TP132	53	56	J9	388 × 37	391 × 13	73	細長楕円形	10.49	N~79°-W		
C	TP133	54	57	H9	329 × 31	328 × 7	57	細長楕円形	10.61	N~49.5°-W		
C	TP134	54	57	H9	(268) × 22	(200) × 7	51	細長楕円形	(9.45)	N~85.5°-W	長軸南側は調査区外へ延びる	
C	TP135	54	57	H9	(225) × 31	(202) × 8	56	細長楕円形	(7.26)	N~75°-E	長軸南側は調査区外へ延びる	
C	TP136	54	58	H9	308 × 22	296 × 8	61	細長楕円形	14.00	N~69°-W		
C	TP137	54	58	H8	328 × 39	322 × 8	81	細長楕円形	10.93	N~63°-W		

第2表 遺構一覧表(4)

1号竖穴住居跡

No.	图 号	出土地点・層位 * (E.G.)	口径 (cm)	深度 (cm)	外 面	内 面	色調		地 質	備 考	分 類
							外面	内面			
S1-1	39	43	印	-	(12.2) 9.2	裏・体部・底部 LR.楕円位・斜位	10.0E-3 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	10.0E-3 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	頁岩	外表面は黒褐色と褐青色 -	-
S1-2	39	43	印	-	(12.6) 12.7	裏・口縁部・体部 LR.楕円位・斜位	10.0E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	10.0E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	頁岩	外表面は黒褐色と褐青色 -	-
S1-3	39	43	印	-	(16.1)	裏・口縁部・体部 LR.楕円位・斜位	7.5E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	7.5E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	頁岩	外表面は黒褐色と褐青色 -	-
S1-4	39	43	印	-	(21.2)	裏・口縁部・体部 LR.楕円位・斜位	7.5E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	7.5E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	頁岩	外表面は黒褐色と褐青色 -	-
S1-5	39	43	印	-	-	裏・口縁部 裏	10.0E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	10.0E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	頁岩	外表面は黒褐色と褐青色 -	-
S1-6	39	43	印	-	-	裏・体部 裏	7.5E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	7.5E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	頁岩	外表面は黒褐色と褐青色 -	-
S1-7	40	43	海積土	-	-	裏・口縁部・体部 口唇部下充填、口縫部 : 『ガホ』、LR.楕円・斜位	10.0E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	10.0E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	頁岩	外表面は黒褐色と褐青色 -	-
S1-8	40	43	海積土	-	-	裏・口縁部・体部 口唇部 : 『ガホ』、LR.楕円・斜位	10.0E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	10.0E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	頁岩	外表面は黒褐色と褐青色 -	-
S1-9	40	43	海積土	-	-	裏・口縁部・体部 口唇部 : 『ガホ』、LR.楕円・斜位	10.0E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	10.0E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	頁岩	外表面は黒褐色と褐青色 -	-
S1-10	40	43	海積土	-	-	裏・口縁部・体部 口唇部 : 『ガホ』、LR.楕円・斜位	10.0E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	10.0E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	頁岩	外表面は黒褐色と褐青色 -	-
S1-11	40	43	地上上7	-	-	裏・口縁部・体部 口唇部 : 『ガホ』、LR.楕円・斜位	10.0E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	10.0E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	頁岩	外表面は黒褐色と褐青色 -	-
S1-12	40	44	海積土	-	-	裏・口縁部・体部 口唇部 : 『ガホ』、LR.楕円・斜位	10.0E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	10.0E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	頁岩	外表面は黒褐色と褐青色 -	-
S1-13	40	44	海積土	-	-	裏・口縁部・体部 口唇部 : 『ガホ』、LR.楕円・斜位	10.0E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	10.0E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	頁岩	外表面は黒褐色と褐青色 -	-
S1-14	40	44	海積土	-	-	裏・口縁部・体部 口唇部 : 『ガホ』、LR.楕円・斜位	10.0E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	10.0E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	頁岩	外表面は黒褐色と褐青色 -	-
S1-15	40	44	海積土	-	-	裏・口縁部・体部 口唇部 : 『ガホ』、LR.楕円・斜位	7.5E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	7.5E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	頁岩	外表面は黒褐色と褐青色 -	-
S1-16	40	44	海積土	-	-	裏・口縁部・体部 口唇部 : 『ガホ』、LR.楕円・斜位	10.0E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	10.0E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	頁岩	外表面は黒褐色と褐青色 -	-
S1-17	40	44	海積土	-	-	裏・口縁部・体部 口唇部 : 『ガホ』、LR.楕円・斜位	10.0E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	10.0E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	頁岩	外表面は黒褐色と褐青色 -	-
S1-18	40	44	海積土	-	-	裏・口縁部・体部 口唇部 : 『ガホ』、LR.楕円・斜位	5.0E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	5.0E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	頁岩	外表面は黒褐色と褐青色 -	-
S1-19	40	44	海積土	-	-	裏・口縁部・体部 口唇部 : 『ガホ』、LR.楕円・斜位	7.5E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	7.5E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	頁岩	外表面は黒褐色と褐青色 -	-
S1-20	40	44	海積土	-	-	裏・口縁部・体部 口唇部 : 『ガホ』、LR.楕円・斜位	10.0E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	10.0E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	頁岩	外表面は黒褐色と褐青色 -	-
S1-21	40	44	海積土	-	(5.7)	裏・体部～底部 口唇部 : 『ガホ』、LR.楕円・斜位	7.5E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	7.5E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	頁岩	良好な状態 外表面は黒褐色と褐青色 -	-
S1-22	40	44	海積土	-	(3.5)	底部 口唇部 : 『ガホ』、LR.楕円・斜位	7.5E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	7.5E-2 12.5E-2 黄褐色 12.5E-2 黄褐色	頁岩	良好な状態 外表面は黒褐色と褐青色 -	-

第3表 土器観察表(1)

2号竖穴住居跡

No	図 版 真 写 し C点 出土地点・層位	口径 (cm)	開高 (cm)	直径 (cm)	器種・層位	外 面	内 面	色 調	施 工	備 考	分 類
S1-1	49 瓦組上	32.0	13.9	-	窓井・口縁部	ミガキ、光沢、内面光沢	ミガキ、光沢、内面光沢	3W54.4 7.5W4.3	無地	良好	-
S1-2	49 瓦組上	-	-	-	窓井・窓・層位	窓井・軒先、瓦組、LR層位・窓・層位・利根、軒先、斜面文、瓦組	ナード	5.5W4.4 12.5W3.8	無地	外面部は焼物と塗り重ね	-
S1-2	49 瓦組上	-	11.0	-	窓・口縁部・体部	口縁部・窓・軒先、瓦組下・瓦組、窓井・窓・利根、軒先、斜面文	X1.0	12.5W3.8	無地	良好	-
S1-2	49 瓦組上	15.0	13.0	-	窓・口縁部・体部	口縁部・窓・軒先、瓦組上・瓦組、窓井・窓・利根、軒先、斜面文	ミガキ	3W54.4 7.5W4.3	無地	外面部は焼物と塗り重ね	-
S1-3	49 瓦組上	-	-	-	窓・口縁部・体部	窓井・平行光沢、口縁部・ミガキ、内面光沢	ミガキ	7.5W5.4 12.5W4.4	無地	良好	-
S1-4	49 ピット6 第3層	36.0	11.0	-	窓・口縁部・体部	口縁部・山形模様、窓井・平行光沢、LR層位・斜 面	ミガキ	2.5W5.4 7.5W4.2	無地・織紋	外面部は焼物と塗り重ね	-
S1-4	49 瓦組上	-	-	-	窓・口縁部	口縁	ミガキ	2.5W5.4 7.5W4.3	無地	良好	-
S1-5	49 瓦組上	-	-	-	窓・体部	口縁、軒先	ミガキ	10W4.2	無地・織紋	良好	-
S1-6	49 瓦組上	-	-	-	窓・体部	口縁、軒先	ミガキ	10W4.2	無地・織紋	良好	-
S1-7	49 瓦組上	-	-	-	窓・体部	口縁、軒先	ミガキ	10W4.2	無地・織紋	良好	-
S1-8	49 瓦組上	-	-	-	窓・体部	口縁、軒先	ミガキ	10W4.2	無地・織紋	良好	-
S1-9	49 瓦組上	-	-	-	窓・体部	口縁	ナード	2.5W5.4 7.5W4.3	無地	良好	-
S1-10	49 瓦組上	-	10.2	-	窓・体部	口縁、LR層位	ミガキ	2.5W5.4 7.5W4.3	無地・織紋	良好	-
S1-11	49 瓦組上	-	-	-	窓・体部	口縁、LR層位	ナード	2.5W5.4 7.5W4.2	無地・織紋	良好	-
S1-12	49 瓦組上	-	-	-	窓・体部	LR層位	ミガキ	2.5W5.4 10W4.2	無地	良好	-
S1-13	49 瓦組上	-	-	-	窓・体部	LR層位	ミガキ	2.5W5.4 7.5W4.1	無地	良好	-

第3表 土器観察表(2)

1号层外夯

No	图 号	出士地点·层位 * B区	口径 (cm)	芯高 (cm)	芯径·厚度 (cm)	外		内		色·调		地 质 状 况	分 类	
						面	面	面	面	面	面			
SX	10	11	沙外夯土	(27.6	(28.4)	-	泥块·口缘略厚·脚印	LR.层位	是地层标志	土灰·黄褐	10%灰·白	10%灰·白	内外混杂物·粗砂	R-3
I-1										12-35·深褐色	12-35·深褐色	12-35·深褐色	内外混杂物·粗砂	R-3
SX	10	11	沙外夯土	-	-	-	泥块·口缘略厚	LR.层位		灰褐	10%灰·白	10%灰·白	灰褐	R-3
I-2										12-35·深褐色	12-35·深褐色	12-35·深褐色	灰褐	R-3
SX	10	11	沙外夯土	-	-	-	泥块·脚印	LR.层位		灰褐	10%灰·白	10%灰·白	灰褐	R-3
I-3										12-35·深褐色	12-35·深褐色	12-35·深褐色	灰褐	R-3
SX	10	11	沙内夯土	-	-	-	泥块·脚印	HL.层位		灰褐	10%灰·白	10%灰·白	灰褐	R-3
I-4										12-35·深褐色	12-35·深褐色	12-35·深褐色	灰褐	R-3
SX	10	11	沙内夯土	-	-	-	泥块·脚印	LR.层位		灰褐	10%灰·白	10%灰·白	灰褐	R-3
I-5										12-35·深褐色	12-35·深褐色	12-35·深褐色	灰褐	R-3
SX	10	11	沙外夯土	-	-	-	泥块·脚印	LR.层位		灰褐	10%灰·白	10%灰·白	灰褐	R-3
I-6										12-35·深褐色	12-35·深褐色	12-35·深褐色	灰褐	R-3
SX	10	11	沙外夯土	-	-	-	泥块·脚印	HL.层位		灰褐	10%灰·白	10%灰·白	灰褐	R-3
I-7										12-35·深褐色	12-35·深褐色	12-35·深褐色	灰褐	R-3
SX	10	11	沙外夯土	-	-	-	泥块·脚印	HL.层位		灰褐	10%灰·白	10%灰·白	灰褐	R-3
I-8										12-35·深褐色	12-35·深褐色	12-35·深褐色	灰褐	R-3

2号层外夯

No	图 号	出士地点·层位 * B区	口径 (cm)	芯高 (cm)	芯径·厚度 (cm)	外		内		色·调		地 质 状 况	分 类	
						面	面	面	面	面	面			
SX	12	12	69.9%层位上	-	-	-	泥块·脚印	HL.层位		灰褐	10%灰·白	10%灰·白	灰褐	R-4
I-1										12-35·深褐色	12-35·深褐色	12-35·深褐色	灰褐	R-4
SX	12	12	69.9%层位上	-	-	-	泥块·脚印	LR.?		灰褐	10%灰·白	10%灰·白	灰褐	R-4
I-2										12-35·深褐色	12-35·深褐色	12-35·深褐色	灰褐	R-4

第3表 土器觀察表(3)

造構内

No.	固 化 真 實 度	穿 出 上 地 點 • 層 位	口 徑 (cm)	間 高 (cm)	直 徑 (cm)	器 種 • 層 位	外 面		內 面		色 調		地 質 說 明	備 考	分 類
							外 面	內 面	外 面	內 面	外 面	內 面			
81-1	8.2	35 厘米 S061	第1層	-	-	沉林・樹根	深褐色	黑褐色	灰褐色	深褐色	黑褐色	黑褐色	褐色	土	N
IP-1	6	35 厘米	TF78 第3層	-	-	沉林・口徑25	黑褐色	黑褐色	灰褐色	黑褐色	黑褐色	黑褐色	褐色	土	N
IP-2	6	35 厘米	TF78 第1層	-	-	沉林・樹根	黑褐色	黑褐色	灰褐色	黑褐色	黑褐色	黑褐色	褐色	土	N
IP-3	6	35 厘米	TF78 第2層	-	-	沉林・口徑25	黑褐色	黑褐色	灰褐色	黑褐色	黑褐色	黑褐色	褐色	土	N
IP-4	6	35 厘米	TF79 第1層	-	-	沉林・口徑25	黑褐色	黑褐色	灰褐色	黑褐色	黑褐色	黑褐色	褐色	土	N
IP-5	6	35 厘米	TF79 第2層	-	-	沉林・樹根	黑褐色	黑褐色	灰褐色	黑褐色	黑褐色	黑褐色	褐色	土	N
IP-6	6	35 厘米	TF77 第6層	-	-	沉林・樹根	黑褐色	黑褐色	灰褐色	黑褐色	黑褐色	黑褐色	褐色	土	N
IP-7	32	35 厘米	TF77 潟場帶	-	-	沉林・口徑25	黑褐色	黑褐色	灰褐色	黑褐色	黑褐色	黑褐色	褐色	土	N
IP-8	32	35 厘米	TF77 潟場帶	-	-	沉林・樹根	黑褐色	黑褐色	灰褐色	黑褐色	黑褐色	黑褐色	褐色	土	N
IP-9	32	35 厘米	TF77 潟場帶	-	-	沉林・樹根	黑褐色	黑褐色	灰褐色	黑褐色	黑褐色	黑褐色	褐色	土	N
IP-10	32	35 厘米	TF77 潟場帶	-	-	沉林・樹根	黑褐色	黑褐色	灰褐色	黑褐色	黑褐色	黑褐色	褐色	土	N
IP-11	32	35 厘米	TF77 潟場帶	-	-	沉林・樹根	黑褐色	黑褐色	灰褐色	黑褐色	黑褐色	黑褐色	褐色	土	N
IP-12	32	35 厘米	TF77 潟場帶	-	-	沉林・樹根	黑褐色	黑褐色	灰褐色	黑褐色	黑褐色	黑褐色	褐色	土	N
IP-13	32	35 厘米	TF77 潟場帶	-	-	沉林・樹根	黑褐色	黑褐色	灰褐色	黑褐色	黑褐色	黑褐色	褐色	土	N
IP-14	32	35 厘米	TF79 第4層	-	-	沉林・樹根	黑褐色	黑褐色	灰褐色	黑褐色	黑褐色	黑褐色	褐色	土	N
IP-15	32	35 厘米	TF05 第1層	-	-	沉林・樹根	黑褐色	黑褐色	灰褐色	黑褐色	黑褐色	黑褐色	褐色	土	N
IP-16	32	35 厘米	TF05 第1層	-	-	沉林・樹根	黑褐色	黑褐色	灰褐色	黑褐色	黑褐色	黑褐色	褐色	土	N
IP-17	32	35 厘米	TF05 第1層	-	-	沉林・樹根	黑褐色	黑褐色	灰褐色	黑褐色	黑褐色	黑褐色	褐色	土	N
IP-18	32	35 厘米	TF05 第1層	-	-	沉林・樹根	黑褐色	黑褐色	灰褐色	黑褐色	黑褐色	黑褐色	褐色	土	N
IP-19	32	35 厘米	TF05 第1層	-	-	沉林・樹根	黑褐色	黑褐色	灰褐色	黑褐色	黑褐色	黑褐色	褐色	土	N
IP-20	32	35 厘米	TF05 第1層	-	-	沉林・樹根	黑褐色	黑褐色	灰褐色	黑褐色	黑褐色	黑褐色	褐色	土	N
IP-21	32	35 厘米	TF05 第1層	-	-	沉林・樹根	黑褐色	黑褐色	灰褐色	黑褐色	黑褐色	黑褐色	褐色	土	N
IP-22	32	35 厘米	TF05 第1層	-	-	沉林・樹根	黑褐色	黑褐色	灰褐色	黑褐色	黑褐色	黑褐色	褐色	土	N
IP-23	32	35 厘米	TF05 第1層	-	-	沉林・樹根	黑褐色	黑褐色	灰褐色	黑褐色	黑褐色	黑褐色	褐色	土	N
IP-24	32	35 厘米	TF05 第2層	-	10.7	沉林・底部 (1)	深褐色	深褐色	深褐色	深褐色	深褐色	深褐色	褐色	土	N
IP-25	32	35 厘米	TF05 第2層	-	-	沉林・樹根	深褐色	深褐色	深褐色	深褐色	深褐色	深褐色	褐色	土	N
IP-26	32	35 厘米	TF05 第2層	-	-	沉林・樹根	深褐色	深褐色	深褐色	深褐色	深褐色	深褐色	褐色	土	N
IP-27	32	35 厘米	TF05 第2層	-	-	沉林・樹根	深褐色	深褐色	深褐色	深褐色	深褐色	深褐色	褐色	土	N
IP-28	32	35 厘米	TF06 第1層	-	-	沉林・口徑25	深褐色	深褐色	深褐色	深褐色	深褐色	深褐色	褐色	土	N
IP-29	32	35 厘米	TF06 第1層	-	-	沉林・樹根	深褐色	深褐色	深褐色	深褐色	深褐色	深褐色	褐色	土	N
IP-30	32	35 厘米	TF06 第1層	-	-	沉林・樹根	深褐色	深褐色	深褐色	深褐色	深褐色	深褐色	褐色	土	N
IP-31	32	35 厘米	TF06 第1層	-	-	沉林・樹根	深褐色	深褐色	深褐色	深褐色	深褐色	深褐色	褐色	土	N
IP-32	35 厘米	TF06 第1層	-	-	-	沉林・樹根	深褐色	深褐色	深褐色	深褐色	深褐色	深褐色	褐色	土	N

第3表 土器觀察表(4)

第3表 土器觀察表(5)

No	圖 號	出土地點・層位 (cm)	口徑 (cm)	底徑 (cm)	高 (cm)	器種・形狀	外 面		內 面		色 調	胎 土	燒 成	分 類
							外 面	內 面	外 面	內 面				
112-3	32	EMK T112 第4層	-	-	-	深杯・口緣部 H.L.層位	+	108.1	7.5107.2	無砂・繩紋	白	N-3		
115-1	32	EMK T115 第4層	-	-	-	深杯・側部 H.L.層位・次級	+	108.3	108.2	無砂・繩紋	白	N		
115-2	32	EMK T115 第4層	-	-	-	深杯・側部 H.L.層位	+	108.2	108.2	無砂・繩紋	白	N		
115-3	32	EMK T115 第4層	-	-	-	深杯・側部 H.L.層位	+	108.2	108.2	無砂・繩紋	白	N		
115-4	32	EMK T115 第4層	-	-	-	深杯・側部 H.L.層位	+	108.1	7.5107.1	無砂・繩紋	白	N		
126-1	33	CK T126 第1層	-	-	-	深杯・側部 H.L.0段多角・屬位	?	109.1	109.2	無砂・繩紋	白	N		
126-2	33	CK T126 第1層	-	-	-	深杯・側部 H.L.0段多角・屬位	+	109.2	109.2	無砂・繩紋	白	N		
128-1	33	CK T128 第1層	-	-	-	深杯・側部 黑文?	+	109.3	7.5107.3	無砂・繩紋	白	N		
127-1	33	CK T131 第1層	-	-	-	深杯・側部 黑文?	+	109.2	7.5107.2	無砂・繩紋	白	N		
127-2	33	CK T132 第1層	-	-	-	深杯・側部 黑文?	+	109.2	7.5107.2	無砂・繩紋	白	N		
127-3	33	CK T133 第1層	-	-	-	深杯・側部 黑文?	+	109.1	109.1	無砂・繩紋	白	N		
127-4	33	CK T133 第1層	-	-	-	深杯・側部 黑文?	+	109.2	7.5107.1	無砂・繩紋	白	N		
127-5	33	CK T136 第1層	-	-	-	深杯・側部 H.L.0段多角・屬位	?	109.2	2.5106.2	無砂・繩紋	白	N		
126-1	35	CK T126 第1層	-	-	-	深杯・側部 H.L.0段多角・屬位	?	109.2	2.5106.3	無砂・繩紋	白	N		
126-2	35	CK T126 第1層	-	-	-	深杯・側部 H.L.0段多角・屬位	?	109.2	2.5106.3	無砂・繩紋	白	N		
126-3	35	CK T126 第1層	-	-	-	深杯・側部 H.L.0段多角・屬位	?	109.2	2.5106.3	無砂・繩紋	白	N		
126-4	35	CK T126 第1層	-	-	-	深杯・側部 H.L.0段多角・屬位	?	109.2	2.5106.2	無砂・繩紋	白	N		
126-5	35	CK T126 第1層	-	-	-	深杯・側部 H.L.0段多角・屬位	?	109.2	2.5106.2	無砂・繩紋	白	N		
126-6	35	CK T126 第1層	-	-	-	深杯・側部 H.L.0段多角・屬位	?	109.2	2.5106.2	無砂・繩紋	白	N		
126-7	35	CK T126 第1層	-	-	-	深杯・側部 H.L.0段多角・屬位	?	109.2	2.5106.2	無砂・繩紋	白	N		
127-1	35	CK T137 第1層	-	-	-	深杯・側部 上輪窓側?	+	109.1	7.5107.1	無砂・繩紋	白	N		

外構造

No.	固 定 器 質	出上地点・層位 (cm)	口徑 (cm)	周長 (cm)	深度 (cm)	器種・層位	外 面		內 面		色調		地 質 成 分 組 合
							外 面	内 面	外 面	内 面	輪 土	砂 土	
1	56	CE. 18. 3層	-	-	-	深孔・口緣部 頂部：高水門正X、頂部：船形引進文、 頂部：船形引進文、且底板接觸印引進文	口 輪 土	口 輪 土	2.5M/2	7.5M/5	黑砂	粗砂	良
2	56	CE. 18. 3層	-	-	-	深孔・口緣部 頂部：高水門正X、頂部：船形引進文、 頂部：船形引進文、且底板接觸印引進文	口 輪 土	口 輪 土	2.5M/1	10M/1	黑砂	細砂	良
3	56	CE. 18. 3層	-	-	-	深孔・側部 頂部：高水門正X、 且底板接觸印引進文	口 輪 土	口 輪 土	10M/2	10M/2	黑砂	粗砂	良
4	56	CE. 18. 2層	-	-	-	深孔・側部 頂部：高水門正X、 且底板接觸印引進文	口 輪 土	口 輪 土	2.5M/1	10M/1	黑砂	細砂	良
5	56	CE. 18. 3層	-	-	-	深孔・側部 頂部：高水門正X、 且底板接觸印引進文	口 輪 土	口 輪 土	2.5M/1	10M/1	黑砂	細砂	良
6	56	CE. 18. 2層	-	-	-	深孔・側部 頂部：高水門正X、 且底板接觸印引進文	口 輪 土	口 輪 土	2.5M/1	10M/1	黑砂	細砂	良
7	56	CE. 18. 2層	-	-	-	深孔・側部 頂部：高水門正X、 且底板接觸印引進文	口 輪 土	口 輪 土	10M/1	10M/1	黑砂	細砂	良
8	56	CE. 18.	-	-	-	深孔・側部 頂部：高水門正X、 且底板接觸印引進文	口 輪 土	口 輪 土	10M/2	10M/1	黑砂	粗砂・細 砂	良
9	56	CE. 19. 2層	-	-	-	深孔・側部 頂部：高水門正X、 且底板接觸印引進文	口 輪 土	口 輪 土	2.5M/1	10M/1	黑砂	粗砂	良
10	56	CE. 19. 2層	-	-	-	深孔・側部 頂部：高水門正X、 且底板接觸印引進文	口 輪 土	口 輪 土	2.5M/1	10M/1	黑砂	粗砂	良
11	56	CE. 19. 3層	-	-	-	深孔・側部 頂部：高水門正X、 且底板接觸印引進文	口 輪 土	口 輪 土	2.5M/1	10M/1	黑砂	細砂	良
12	56	CE. 19. 3層	-	-	-	深孔・側部 頂部：高水門正X、 且底板接觸印引進文	口 輪 土	口 輪 土	2.5M/1	10M/1	黑砂	細砂	良
13	56	CE. 19. 表上中	-	-	-	深孔・側部 頂部：高水門正X、 且底板接觸印引進文	口 輪 土	口 輪 土	2.5M/2	10M/2	黑砂	粗砂・細 砂	良
14	56	CE. 01. 道路表面外 部	-	-	-	深孔・口緣部 淺帶：BL(0 深 8cm) 層位	口 輪 土	口 輪 土	2.5M/3	7.5M/4	黑砂	細砂	良
15	56	CE. 01. 道路表面外 部	-	-	-	深孔・口緣部 淺帶：BL(0 深 8cm) 層位	口 輪 土	口 輪 土	2.5M/3	10M/7	黑砂	粗砂	良
16	56	CE. 01. 道路表面外 部	-	-	-	深孔・側部 淺帶：BL(0 深 8cm) 層位	口 輪 土	口 輪 土	2.5M/3	10M/7	黑砂	粗砂	良
17	56	CE. 01. 道路表面外 部	-	-	-	深孔・側部 淺帶：BL(0 深 8cm) 層位	口 輪 土	口 輪 土	2.5M/3	10M/7	黑砂	細砂	良
18	56	CE. 01. 道路表面外 部	-	-	-	深孔・側部 淺帶：BL(0 深 8cm) 層位	口 輪 土	口 輪 土	10M/2	10M/1	黑砂	粗砂	良
19	56	CE. 01. 道路表面外 部	-	-	-	深孔・側部 淺帶：BL(0 深 8cm) 層位	口 輪 土	口 輪 土	10M/2	10M/1	黑砂	細砂	良
20	56	CE. 01. 道路表面外 部	-	-	-	深孔・口緣部 淺帶：BL(0 深 8cm) 層位	口 輪 土	口 輪 土	10M/1	10M/1	黑砂	細砂	良
21	56	CE. S17. 4層	-	-	-	深孔・口緣部 淺帶：BL(0 深 8cm) 層位、光面灰土、新開闢 面	口 輪 土	口 輪 土	10M/2	10M/2	黑砂	細砂	良
22	56	SE. S21. 3層	-	-	-	深孔・口緣部 淺帶：BL(0 深 8cm) 層位	口 輪 土	口 輪 土	2.5M/4	10M/4	黑砂	粗砂	良

第3表 土器觀察表(6)

第3表 土器觀察表(7)

No	圖 號	出土地點・層位 (cm)	口徑 (cm)	深度 (cm)	器種・形狀	外 面		內 面		色 調		胎 土	燒 成	備 考	分 類
						外 面	內 面	外 面	內 面	外 面	內 面				
23	56	60 CK 18 2層	-	-	深杯・口緣部 BL.1層位, 沈圓底, 壁面微凹(先燒)	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	N3.0	褐紅	直立	圓
24	56	60 CK 16 美模	-	-	深杯・口緣部 BL.0層位, 壁面微凹(先燒) BL.0(貯多量) 層位, 沈圓底, 壁面微凹(先燒)	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	N3.0	褐紅	直立	圓
25	56	60 CK 16 2層	-	-	深杯・側部 BL.0(貯多量) 層位, 沈圓底, 壁面微凹(先燒)	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	N3.0	褐紅	直立	圓
26	56	60 CK 16 2層	-	-	深杯・側部 BL.0(貯多量) 層位, 沈圓底, 壁面微凹(先燒)	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	N3.0	褐紅	直立	圓
27	56	60 CK 16 2層	-	-	深杯・側部 BL.0(貯多量) 層位, 沈圓底, 壁面微凹(先燒)	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	N3.0	褐紅	直立	圓
28	56	60 CK 19 美上中	-	-	深杯・側部 BL.0(貯多量) 層位, 沈圓底, 壁面微凹(先燒)	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	N3.0	褐紅	直立	圓
29	56	60 CK 19 美 2層	-	-	深杯・側部 BL.0(貯多量) 層位, 沈圓底, 壁面微凹(先燒)	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	N3.0	褐紅	直立	圓
30	56	60 CK S17 木頭	-	-	深杯・側部 BL.0(貯多量) 層位, 沈圓底, 壁面微凹(先燒)	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	N3.0	褐紅	直立	圓
31	56	60 CK R24 試驗下+	-	-	深杯・側部 BL.0(試驗) 層位, 沈圓底, 壁面微凹(先燒)	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	N3.0	褐紅	直立	圓
32	56	60 CK 16 2層	-	-	深杯・側部 BL.0(試驗) 層位, 沈圓底, 壁面微凹(先燒)	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	N3.0	褐紅	直立	圓
33	56	60 CK 18 2層	-	-	深杯・側部 BL.0(試驗) 層位, 沈圓底, 壁面微凹(先燒)	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	N3.0	褐紅	直立	圓
34	57	61 CK C9 美上中	-	-	深杯・側部 BL.0(貯多量) 層位, 沈圓底, 壁面微凹(先燒)	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	N3.0	褐紅	直立	圓
35	57	61 CK 16 美上中	-	-	深杯・側部 BL.0(試驗) 層位, 沈圓底, 壁面微凹(先燒)	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	N3.0	褐紅	直立	圓
36	57	61 CK 19 美上中	-	-	深杯・側部 BL.0(試驗) 層位, 沈圓底, 壁面微凹(先燒)	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	N3.0	褐紅	直立	圓
37	57	61 CK 19 美上中	-	-	深杯・側部 BL.0(試驗) 層位, 沈圓底, 壁面微凹(先燒)	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	N3.0	褐紅	直立	圓
38	57	61 CK R17 木頭中	-	-	深杯・口緣部 浅盤, 直底(先燒), 北圓	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	N3.0	褐紅	直立	圓
39	57	61 CK S17 4層	-	-	深杯・側部 浅盤, 口緣部, 沈圓底, 壁面微凹(先燒)	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	N3.0	褐紅	直立	圓
40	57	61 CK S17 4層	-	-	深杯・側部 浅盤, 四周均突	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	N3.0	褐紅	直立	圓
41	57	61 CK M6 4層	-	-	盞 浅盤, 沈圓	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	N3.0	褐紅	直立	圓
42	57	61 CK R24 試驗上+	-	-	盞 浅盤, 直底(先燒)	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	N3.0	褐紅	直立	圓
43	57	61 CK 19 木頭中	-	-	盞 浅盤, 直底(先燒)	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	N3.0	褐紅	直立	圓
44	57	61 CK G8 美上中	-	-	盞 浅盤, 沈圓	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	±2.5	N3.0	褐紅	直立	圓

No	國名	寫真	出土地点・層位	器種・部位	外 面 (cm)	内 面 (cm)	色 調	土 壤	備 考	文 獻
45	67	61	GK (9) 表・中	-	-	-	灰砂・側部	灰砂	燒砂・燒	■ 2
46	67	61	GK (9) 表・中	-	-	-	灰砂・側部	灰砂	燒砂・燒	■ 2
47	67	61	シチ	灰砂・側部	-	-	灰砂・側部	灰砂	燒砂・燒	良好
48	67	61	シチ	灰砂・側部	-	-	灰砂・側部	灰砂	燒砂・燒	良好
49	67	61	シチ	灰砂・側部	-	-	灰砂・側部	灰砂	燒砂・燒	良好
50	67	61	シチ	灰砂・側部	-	-	灰砂・側部	灰砂	燒砂・燒	良好
51	67	61	シチ	灰砂・側部	-	-	灰砂・側部	灰砂	燒砂・燒	良好
52	67	61	シチ	灰砂・側部	-	-	灰砂・側部	灰砂	燒砂・燒	良好
53	67	61	シチ	灰砂・側部	-	-	灰砂・側部	灰砂	燒砂・燒	良好
54	58	62	シチ	灰砂・側部	-	-	灰砂・側部	灰砂	燒砂・燒	良好
55	58	62	シチ	灰砂・側部	-	-	灰砂・側部	灰砂	燒砂・燒	良好
56	58	62	シチ	灰砂・側部	-	-	灰砂・側部	灰砂	燒砂・燒	良好
57	58	62	シチ	灰砂・側部	-	-	灰砂・側部	灰砂	燒砂・燒	良好
58	58	62	シチ	灰砂・側部	-	-	灰砂・側部	灰砂	燒砂・燒	良好
59	58	62	シチ	灰砂・側部	-	-	灰砂・側部	灰砂	燒砂・燒	良好
60	58	62	シチ	灰砂・側部	-	-	灰砂・側部	灰砂	燒砂・燒	良好
61	58	62	シチ	灰砂・側部	-	-	灰砂・側部	灰砂	燒砂・燒	良好
62	58	62	シチ	灰砂・側部	-	-	灰砂・側部	灰砂	燒砂・燒	良好
63	58	62	シチ	灰砂・側部	-	-	灰砂・側部	灰砂	燒砂・燒	良好
64	58	62	シチ	灰砂・側部	-	-	灰砂・側部	灰砂	燒砂・燒	良好
65	58	62	シチ	灰砂・側部	-	-	灰砂・側部	灰砂	燒砂・燒	良好
66	58	62	シチ	灰砂・側部	-	-	灰砂・側部	灰砂	燒砂・燒	良好

第3表 土器觀察表(8)

第3表 土器觀察表(9)

No	圖 號	出土地點・層位	口径 (cm)	深度 (cm)	外 面	內 面	色・調		胎・土	燒 成	備 考	分 類
							外 面	內 面				
67	82	IKK-2741 灰褐色土	-	-	素・刷毛	光澤	7.076/2	黑(0-褐色)・綠	灰	7.076/1	黑(0-褐色)・綠	灰
68	82	IKK-2742 灰褐色土	-	-	素・刷毛	光澤	7.076/2	黑(0-褐色)・綠	灰	7.076/1	黑(0-褐色)・綠	灰
69	82	IKK-2743 灰褐色土	-	-	素・刷毛	光澤	7.076/2	黑(0-褐色)・綠	灰	7.076/1	黑(0-褐色)・綠	灰
70	82	IKK-2744 灰褐色土	-	-	素・刷毛	光澤	7.076/2	黑(0-褐色)・綠	灰	7.076/1	黑(0-褐色)・綠	灰
71	82	IKK-2745 灰褐色土	-	-	素・刷毛	光澤	7.076/2	黑(0-褐色)・綠	灰	7.076/1	黑(0-褐色)・綠	灰
72	82	IKK-2746 灰褐色土	-	-	素・刷毛	光澤	7.076/2	黑(0-褐色)・綠	灰	7.076/1	黑(0-褐色)・綠	灰
73	82	IKK-2747 灰褐色土	-	-	素・刷毛	光澤	7.076/2	黑(0-褐色)・綠	灰	7.076/1	黑(0-褐色)・綠	灰
74	82	IKK-2748 灰褐色土	-	-	素・刷毛	光澤	7.076/2	黑(0-褐色)・綠	灰	7.076/1	黑(0-褐色)・綠	灰
75	82	IKK-2749 灰褐色土	-	-	素・刷毛	光澤	7.076/2	黑(0-褐色)・綠	灰	7.076/1	黑(0-褐色)・綠	灰
76	82	IKK-2750 灰褐色土	-	-	素・刷毛	光澤	7.076/2	黑(0-褐色)・綠	灰	7.076/1	黑(0-褐色)・綠	灰
77	82	IKK-2751 灰褐色土	-	-	素・刷毛	光澤	7.076/2	黑(0-褐色)・綠	灰	7.076/1	黑(0-褐色)・綠	灰
78	82	IKK-2752 灰褐色土	-	-	素・刷毛	光澤	7.076/2	黑(0-褐色)・綠	灰	7.076/1	黑(0-褐色)・綠	灰
79	82	IKK-2753 灰褐色土	-	-	素・刷毛	光澤	7.076/2	黑(0-褐色)・綠	灰	7.076/1	黑(0-褐色)・綠	灰
80	82	IKK-2754 灰褐色土	-	-	素・刷毛	光澤	7.076/2	黑(0-褐色)・綠	灰	7.076/1	黑(0-褐色)・綠	灰
81	82	IKK-2755 灰褐色土	-	-	素・刷毛	光澤	7.076/2	黑(0-褐色)・綠	灰	7.076/1	黑(0-褐色)・綠	灰
82	83	IKK-2756 RIB+RIB 美	22.0 (15.2)	-	深灰・口部近～底部 折底口緣・口部深	折底口緣・底部深	10.06/2	黑(0-褐色)・綠	灰	10.06/1	黑(0-褐色)・綠	灰
83	83	IKK-2757 RIB 美	-	-	深灰・口部深	折底口緣・底部深	10.06/2	黑(0-褐色)・綠	灰	10.06/1	黑(0-褐色)・綠	灰
84	83	IKK-2758 RIB 美	-	-	深灰・口部深	折底口緣・底部深	10.06/2	黑(0-褐色)・綠	灰	10.06/1	黑(0-褐色)・綠	灰
85	83	IKK-2759 RIB 美	-	-	深灰・口部深	折底口緣・底部深	10.06/2	黑(0-褐色)・綠	灰	10.06/1	黑(0-褐色)・綠	灰
86	83	IKK-2760 RIB 美	-	(13.7) 9.7	(3.0) 深灰・口部近～底 部深・口部深	折底口緣・底部深	10.06/2	黑(0-褐色)・綠	灰	10.06/1	黑(0-褐色)・綠	灰
87	83	IKK-2761 RIB 美	-	-	深灰・口部深	折底口緣・底部深	10.06/2	黑(0-褐色)・綠	灰	10.06/1	黑(0-褐色)・綠	灰
88	83	IKK-2762 RIB 美	-	-	深灰・口部深	折底口緣・底部深	10.06/2	黑(0-褐色)・綠	灰	10.06/1	黑(0-褐色)・綠	灰

第3表 土器觀察表(10)

No	圖 號	穿 出 土 點 地 點	層 位	口徑 (cm)	厚度 (cm)	直徑 (cm)	器種·層位	外 面		內 面		色 調		燒 成	備 考	分 類
								外 面	內 面	外 面	內 面	外 面	內 面			
89	63	ISK 上中	Q17 4層	-	-	-	深灰·口直腹~側面 HL層位	深灰	黑	深灰	黑	7.5106.1 10.08.2	10.08.2 黑砂·細砂·圓	良	R-3	
90	79	ISK 上中	R16 4層	黃	-	-	深灰·口直腹~側面 HL層位	深灰	黑	深灰	黑	10.06.1 7.5106.2	10.06.2 黑砂·細砂·圓	良	R-3	
91	79	ISK 上	Q17·Q18 4層	4	-	-	深灰·口直腹~側面 HL層位	深灰	黑	深灰	黑	10.06.1 7.5106.2	10.06.2 黑砂·細砂·圓	良	R-3	
92	79	ISK 上	R20 4層	-	-	-	深灰·口直腹 HL(含多)層位	深灰	黑	深灰	黑	5.05.1 2.5106.1	5.05.1 黑砂·細砂·圓	良	R-3	
93	60	ISK 中	S17 4層	-	-	-	深灰·口直腹 HL層位	深灰	黑	深灰	黑	5.05.1 2.5106.1	5.05.1 黑砂·細砂·圓	良	R-3	
94	60	ISK 中	R16 4層	-	-	-	深灰·口直腹 HL層位	深灰	黑	深灰	黑	7.5106.1 7.5106.2	7.5106.1 黑砂·細砂·圓	良	R-3	
95	60	ISK 中	Q18 4層	青綠·邊緣出面	-	-	深灰·口直腹 HL層位	深灰	黑	深灰	黑	7.5106.1 7.5106.2	7.5106.1 黑砂·細砂·圓	良	R-3	
96	60	ISK 中	Q18 4層	-	-	-	深灰·口直腹 HL層位	深灰	黑	深灰	黑	7.5106.3 2.5106.2	7.5106.3 黑砂·細砂·圓	良	R-3	
97	60	ISK 中	Q18 4層	青綠·邊緣出面	-	-	深灰·口直腹 HL層位	深灰	黑	深灰	黑	5.05.1 2.5106.1	5.05.1 黑砂·細砂·圓	良	R-3	
98	60	ISK 中	Q18 2層	黃綠·黃土色	-	-	深灰·口直腹 HL(含多)層位	深灰	黑	深灰	黑	7.5106.1 7.5106.2	7.5106.1 黑砂·細砂·圓	良	R-3	
99	60	ISK 中	S18 4層	-	-	-	深灰·口直腹 HL(含多)層位	深灰	黑	深灰	黑	10.06.2 10.06.2	10.06.2 黑砂·細砂·圓	良	R-3	
100	60	ISK 中	Q17 4層	-	-	-	深灰·口直腹 HL層位	深灰	黑	深灰	黑	7.5106.2 7.5106.2	7.5106.2 黑砂·細砂·圓	良	R-3	
101	60	ISK 中	Q18 2層	黃綠·黃土色	-	-	深灰·口直腹 HL層位	深灰	黑	深灰	黑	7.5106.2 7.5106.2	7.5106.2 黑砂·細砂·圓	良	R-3	
102	60	ISK 中	Q17 4層	-	(1.6)	底部	深灰·口直腹~側面 HL(含多)層位	深灰	黑	深灰	黑	1.5106.3 2.5106.2	1.5106.3 黑砂·細質	良	R-4	
103	60	ISK 中	Q18 4層	-	(4.8)	底部	深灰·底面·木質質	深灰	黑	深灰	黑	10.06.2 2.5106.2	10.06.2 黑砂·細質	良好	R-4	
104	60	ISK 中	18 2層	-	(6.0)	底部	深灰·側面·底面·木質質	深灰	黑	深灰	黑	10.06.2 2.5106.2	10.06.2 黑砂·細質	良好	R-4	
105	60	ISK 中	18 2層	-	(13.9)	底部	深灰·底面·木質質	深灰	黑	深灰	黑	7.5106.2 2.5106.2	7.5106.2 黑砂·細質	良	R-4	
106	60	ISK 中	19 2層	-	(11.1)	底部	深灰·底面·木質質	深灰	黑	深灰	黑	10.06.2 2.5106.2	10.06.2 黑砂·細質	良	R-4	
107	60	ISK 中	R19 4層	-	(7.4)	底部	深灰·底面·斷邊質	深灰	黑	深灰	黑	10.06.2 2.5106.2	10.06.2 黑砂·斷邊質	良	R-4	
108	60	ISK 中	19 2層	-	(3.9)	底部	深灰·底面·斷邊質	深灰	黑	深灰	黑	2.5106.1 2.5106.2	2.5106.1 黑砂·斷邊質	良	R-4	
109	60	ISK 中	19 2層	-	(9.4)	底部	深灰·底面·斷邊質	深灰	黑	深灰	黑	2.5106.1 2.5106.2	2.5106.1 黑砂·斷邊質	良好	R-4	
110	60	ISK 中	J10 2層	-	(3.3)	3.5	底部	深灰·底面·斷邊質	深灰	黑	深灰	黑	7.5106.2 2.5106.2	7.5106.2 黑砂·底面·斷邊質	良好	R-4

第3表 土器觀察表 (11)

No	圖 號	出土地點・層位	口径 (cm)	器高 (cm)	外 形	色 調	內 面		燒 土	燒 成 度	備 考	分 類
							外 面	內 面				
111	60	64 CK 110 美上中	-	(8.0) 8.8	直筒	黑(0-1) 暗紅	+/-	+/-	黑(0-1) 暗紅	良	正面上有魚紋	N-4
112	60	64 CK 109 美上中	-	(10.6) 9.4	直筒	黑(0-1) 暗紅	+/-	+/-	黑(0-1) 暗紅	良	正面上有魚紋	N-4
113	61	64 CK 517 4層	-	(11.4) 9.9	直筒	黑(0-1) 暗紅	+/-	+/-	黑(0-1) 暗紅	良	正面上有魚紋	N-4
114	61	65 CK 518 5層	-	(10.9) 9.9	直筒	黑(0-1) 暗紅	+/-	+/-	黑(0-1) 暗紅	良	正面上有魚紋	N-4
115	61	65 CK 110 美上中	-	(7.4) 7.0	直筒	黑(0-1) 暗紅	+/-	+/-	黑(0-1) 暗紅	良	正面上有魚紋	N-4
116	61	65 CK 917 4層	-	(7.8) 7.3	直筒	黑(0-1) 暗紅	+/-	+/-	黑(0-1) 暗紅	良	正面上有魚紋	N-4
117	61	65 CK 1-122 風	-	(8.5) 8.0	直筒	黑(0-1) 暗紅	+/-	+/-	黑(0-1) 暗紅	良	正面上有魚紋	N-4
118	61	65 CK 418 4層	-	(5.6) 5.0	直筒	黑(0-1) 暗紅	+/-	+/-	黑(0-1) 暗紅	良	正面上有魚紋	N-4
119	61	65 CK 518 4層	-	3.4	直筒	黑(0-1) 暗紅	+/-	+/-	黑(0-1) 暗紅	良好	無	N-4
120	61	65 CK 122 風上中	-	-	直筒	黑(0-1) 暗紅	+/-	+/-	黑(0-1) 暗紅	良好	無	-
121	61	65 CK 122 風上中	-	-	直筒	黑(0-1) 暗紅	+/-	+/-	黑(0-1) 暗紅	良好	無	-
122	61	65 CK 122 風上中	-	-	直筒	黑(0-1) 暗紅	+/-	+/-	黑(0-1) 暗紅	良好	無	-
123	61	65 CK 122 風上中	-	-	直筒	黑(0-1) 暗紅	+/-	+/-	黑(0-1) 暗紅	良好	無	-
124	61	65 CK 122 風上中	-	-	直筒	黑(0-1) 暗紅	+/-	+/-	黑(0-1) 暗紅	良好	無	-
125	61	65 CK 122 風上中	-	-	直筒	黑(0-1) 暗紅	+/-	+/-	黑(0-1) 暗紅	良好	無	-
126	61	65 CK 122 風上中	-	-	直筒	黑(0-1) 暗紅	+/-	+/-	黑(0-1) 暗紅	良好	無	-
127	61	65 CK 122 風上中	-	-	直筒	黑(0-1) 暗紅	+/-	+/-	黑(0-1) 暗紅	良好	無	-
128	61	65 CK 122 風上中	-	-	直筒	黑(0-1) 暗紅	+/-	+/-	黑(0-1) 暗紅	良好	無	-
129	61	65 CK 122 風上中	-	-	直筒	黑(0-1) 暗紅	+/-	+/-	黑(0-1) 暗紅	良好	無	-
130	61	65 CK 122 風上中	-	-	直筒	黑(0-1) 暗紅	+/-	+/-	黑(0-1) 暗紅	良好	無	-
131	61	65 CK 122 風上中	-	(1.1) 1.7	直筒	黑(0-1) 暗紅	+/-	+/-	黑(0-1) 暗紅	良好	無	-
132	61	65 美上中	-	-	直筒	黑(0-1) 暗紅	+/-	+/-	黑(0-1) 暗紅	良好	無	-
133	61	65 CK 122 風上中	-	4.2	直筒	黑(0-1) 暗紅	+/-	+/-	黑(0-1) 暗紅	良好	無	-

外構造

No.	固 形 質	写 出 上 地 点 ・ 留 在 所 (cm)	重 量 (g)	種 別		外 面	内 面	色 調		胎 土	燒 成	備 考	分 類
				外 面	内 面			外 面	内 面				
131	61	165 -2手 106 試驗上- 1 1.1×1.1	1.0	12.4	打鑿狀土壤品 無文	ナフ	ナフ	2.515 黃灰	2.515 黃灰	無G-粗砂	良	深鉛紅褐色用	IV
132	61	165 -2手 106 試驗上- 1 1.1×1.1	0.7	14.3	打鑿狀土壤品 留有火燒文	ナフ	ナフ	101E5.2 灰褐色	101E5.2 灰褐色	無G-粗砂	良	深鉛紅褐色用	IV

第4表 土製品觀察表

1号堅穴住居跡

No.	図 号	出土地点・層位 No. & 層 高	器 種	石 質	地 質	生 成 年 代	長 さ (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	備 考
S1-23	41	44 場土 1-23	石器	頁岩	北上山地(櫻井内面)	中生代 白堊紀初期 に「變成」	(2.51)	1.02	0.52	1.20
S1-24	40	44 場土 1-24	尖頭器	ホルンブリルス	北上山地(櫻井内面)	中生代 白堊紀初期 に「變成」	10.02	3.13	1.89	57.70
S1-25	40	44 場土 1-25	尖頭器 スクレーパー	頁岩	北上山地(櫻井内面)	中生代 白堊紀初期 に「變成」	(3.62)	(4.48)	(0.91)	12.10
S1-26	41	44 場土 1-26	尖頭器 ビニカルス(スキーク-3A)	珪質砂岩	北上山地(櫻井内面)	中生代 白堊紀初期 に「變成」	2.19	2.77	0.95	4.90
S1-27	41	44 場土 1-27	二次加熱片	頁岩	北上山地(櫻井内面)	中生代 白堊紀初期 に「變成」	4.09	3.35	0.84	7.40
S1-28	41	44 場土 1-28	二次加熱片	頁岩	北上山地(櫻井内面)	中生代 白堊紀初期 に「變成」	(2.90)	2.03	0.77	3.80
S1-29	41	44 場土 1-29	二次加熱片	ホルンブリルス	北上山地(櫻井内面)	中生代 白堊紀初期 に「變成」	5.92	3.38	1.41	26.80
S1-30	41	44 場土 1-30	圓錐彎削片	頁岩	北上山地(櫻井内面)	中生代 白堊紀初期 に「變成」	2.80	2.99	0.85	6.20
S1-31	41	44 場土 1-31	刮片	頁岩	北上山地(櫻井内面)	中生代 白堊紀初期 に「變成」	1.48	2.18	1.22	4.40
S1-32	41	45 場土 1-32	磨石	アライト 付近	北上山地Ⅲ带 久慈谷地(櫻井内 面)	中生代 白堊紀初期 に「變成」	11.02	10.49	7.81	1301.90
S1-33	45	45 場土 1-33	敲擊石	ノック石	ノック石	中生代 白堊紀初期 に「變成」	8.32	8.26	5.35	648.20
S1-34	45	45 場土 1-34	敲擊石	ノック石	ノック石	中生代 白堊紀初期 に「變成」	9.15	7.25	5.62	651.10
S1-35	42	45 場土 1-35	敲擊石	カルシトーン	北上山地(櫻井内面)	中生代 白堊紀初期 に「變成」	(8.00)	(5.51)	(3.03)	261.90
S1-36	42	45 場土 1-36	敲擊石	ホルンブリルス	北上山地(櫻井内面)	中生代 白堊紀初期 に「變成」	6.96	10.77	3.67	267.00
S1-37	42	45 場土 1-37	敲擊石	ホルンブリルス	北上山地(櫻井内面)	中生代 白堊紀初期 に「變成」	7.65	10.26	4.03	307.80

第5表 石器観察表(1)

2号堅穴住居跡 石器

No	図版 写真	出土地点・層位 # C.IX	器種	石質	産地	生年代	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重 量 (g)	備考
S1-14	49	夷根土	スクレーフ... チヤード	花崗岩	越山地(櫛岳西面)	中生代初期	8.61	3.84	1.45	48.10	
S1-16	49	夷根土	スクレーフ... チヤード	花崗岩	越山地(櫛岳西面)	中生代初期	3.65	2.64	0.62	5.60	
S1-15	49	夷根土	スクレーフ... チヤード	花崗岩	越山地(櫛岳西面)	中生代初期	2.94	3.32	0.70	6.50	
S1-17	49	夷根土	ピエスカスキ... チヤード	花崗岩	越山地(櫛岳西面)	中生代初期	1.99	2.24	0.62	2.50	
S1-17	49	夷根土	ピエスカスキ... チヤード	花崗岩	越山地(櫛岳西面)	中生代初期	4.20	4.96	0.81	12.80	
S1-18	49	夷根土	二次加工断片	花崗岩	越山地(櫛岳西面)	中生代 自由記初期 に変成	5.96	13.53	2.88	217.20	
S1-19	49	夷根土	二次加工断片	ホルンブリュ... ク	越山地(櫛岳西面)	中生代 自由記初期 に変成	4.80	10.53	2.31	142.50	
S1-17	50	夷根土	二次加工断片	ホルンブリュ... ク	越山地(櫛岳西面)	中生代初期	6.95	3.02	0.82	16.20	
S1-17	50	夷根土	微細加工断片	花崗岩	越山地(櫛岳西面)	中生代 自由記初期	10.21	8.07	5.42	666.00	
S1-17	50	夷根土	磨石	花崗岩	越山地(櫛岳西面)	中生代 久喜砂体(櫛岳内) 有光	9.21	7.01	2.56	277.80	
S1-22	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
S1-23	48	夷根土	磨石	アラクイド	越山地 II 帶 久喜砂体(櫛岳内) 有光	中生代 自由記初期	—	—	—	—	—
S1-24	48	夷根土	花崗岩	ノツクケ岩体	越山地 II 帯 久喜砂体(櫛岳内) 有光	中生代 自由記初期	(11.63)	(4.88)	(3.28)	287.60	
S1-25	48	夷根土	花崗岩	カルシ	越山地 II 帯 久喜砂体(櫛岳内) 有光	中生代 自由記初期	6.20	7.43	2.42	151.80	
S1-26	48	夷根土	台石	花崗岩	越山地 II 帯 久喜砂体(櫛岳内) 有光	中生代 自由記初期	27.56	19.22	5.10	3691.20	
S1-27	48	夷根土	台石	花崗岩	越山地 II 帯 久喜砂体(櫛岳内) 有光	中生代 自由記初期	(7.27)	(6.47)	(1.83)	154.90	
S1-28	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

2号堅穴住居跡 石製品

No	図版 写真	出土地点・層位 # C.IX	器種	石質	産地	生年代	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重 量 (g)	備考
S1-48	50	夷根土	石棒	細粒閃长岩 有光	越山地Ⅱ帶 久喜砂体(櫛岳内) 有光	中生代 自由記初期	(7.35)	(3.03)	(1.02)	270.50	

第5表 石器観察表(2)・第6表 石製品観察表(1)

1号屋外场

No.	图 号	写 真 高 度	出 土 地 点 及 层 位	器 种	石 质	质 地	生 成 年 代	长 度 (cm)	幅 (cm)	厚 度 (cm)	重 量 (g)	備 考
SN-10	11	1.9	砂石 No. 1	石墨	花岗岩磨片	北山地Ⅲ带(砾石带)	中生代 自砾石带	44.30	35.40	11.00	24,200.00	
SN-11	11	1.9	砂石 No. 1	石墨	花岗岩磨片	北山地Ⅲ带(砾石带)	中生代 自砾石带	44.30	35.40	11.00	24,200.00	

2号屋外场

No.	图 号	写 真 高 度	出 土 地 点 及 层 位	器 种	石 质	质 地	生 成 年 代	长 度 (cm)	幅 (cm)	厚 度 (cm)	重 量 (g)	備 考
SN-12	12	1.9	砂石 No. 1	石墨	花岗岩磨片	北山地Ⅲ带(砾石带)	中生代 自砾石带	54.90	32.30	11.80	34,400.00	
SN-13	12	1.9	砂石 No. 3	石墨	花岗岩磨片 二次加温至有 气泡	北山地Ⅲ带(砾石带)	下明	18.80	15.00	5.40	1320.00	
SN-14	12	1.9	砂石 No. 3	石墨	花岗岩磨片	北山地Ⅲ带(砾石带)	下明	18.80	15.00	5.40	1320.00	

第5表 石器觀察表(3)

遺構外 石器

No.	層 次	質 量	出土地点・層位	器 種	石 質	產 地	生 成年 代	長 Δ (cm)	幅 (cm)	厚 Δ (cm)	重 量 (g)	備 考
136	62	66	BK. R22-2層	石器	頁岩	北山地(櫛古部)	中生代 三葉~ジヨ	(0.94)	1.92	0.45	2.99	
137	62	66	BK. 016-2層	石器	頁岩	北山地(櫛古部)	中生代 三葉~ジヨ	(0.66)	1.37	0.35	1.90	
138	62	66	BK. S21-1層 中	石器 土器	頁岩	北山地(櫛古部)	中生代 三葉~ジヨ	2.52	1.17	0.37	1.10	
139	62	66	BK. R22-2層	石器	チヤー卜	北山地(櫛古部)	中生代 三葉~ジヨ	(2.35)	1.15	0.55	1.30	
140	62	66	BK. M18	石器	頁岩	北山地(櫛古部)	中生代 三葉~ジヨ	2.09	1.53	0.34	8.80	
141	62	66	BK. 018-2層	石器	頁岩	北山地(櫛古部)	中生代 三葉~ジヨ	5.23	1.69	0.85	6.10	
142	62	66	BK. L12-2層	石器	頁岩	北山地(櫛古部)	中生代 三葉~ジヨ	(2.37)	0.97	0.35	6.90	
143	62	66	BK. N17-1層	石器	頁岩	北山地(櫛古部)	中生代 三葉~ジヨ	2.53	1.28	0.20	1.10	
144	62	66	BK. N17	石器	頁岩	北山地(櫛古部)	中生代 三葉~ジヨ	(2.09)	1.19	0.46	1.00	
145	62	66	BK. 018-4層	石器	頁岩	北山地(櫛古部)	中生代 三葉~ジヨ	4.54	1.57	0.63	3.60	
146	62	66	BK. S20-4層	石器	頁岩	北山地(櫛古部)	中生代 三葉~ジヨ	(0.11)	1.44	0.84	5.10	
147	62	66	BK. 018	石器	頁岩	北山地(櫛古部)	中生代 三葉~ジヨ	(3.98)	0.85	0.48	1.40	
148	62	66	BK. 017	石器	頁岩	北山地(櫛古部)	中生代 三葉~ジヨ	(0.28)	1.39	0.57	7.60	
149	62	66	BK. S20-2層	石器	頁岩	北山地(櫛古部)	中生代 三葉~ジヨ	(0.48)	2.53	0.71	8.10	
150	62	66	BK. R16-2層	石器	チエス・ア・ヌス-2A-2B-チヤー卜	北山地(櫛古部)	中生代 三葉~ジヨ	3.10	2.04	0.81	5.90	
151	62	66	BK. Q18	石器	チエス・ア・ヌス-2A-2B-チヤー卜	北山地(櫛古部)	中生代 三葉~ジヨ	2.45	2.45	1.64	8.60	
152	63	66	BK. R12-2層	石器	チエス・ア・ヌス-2A-2B-チヤー卜	北山地(櫛古部)	中生代 三葉~ジヨ	8.28	6.74	1.95	122.70	
153	63	66	BK. R17-2層	石器	チエス・ア・ヌス-2A-2B-チヤー卜	北山地(櫛古部)	中生代 三葉~ジヨ	3.97	4.01	0.86	15.30	
154	63	66	BK. R16	石器	チエス・ア・ヌス-2A-2B-チヤー卜	北山地(櫛古部)	中生代 三葉~ジヨ	3.22	4.61	1.83	26.10	
155	63	66	BK. R14	石器	チエス・ア・ヌス-2A-2B-チヤー卜	北山地(櫛古部)	中生代 三葉~ジヨ	4.18	2.63	1.27	11.10	
156	63	66	BK. M16	石器	チエス・ア・ヌス-2A-2B-チヤー卜	北山地(櫛古部)	中生代 三葉~ジヨ	3.45	2.11	0.62	3.50	
157	63	66	BK. 019	石器	チエス・ア・ヌス-2A-2B-チヤー卜	北山地(櫛古部)	中生代 三葉~ジヨ	5.20	2.96	0.94	17.30	
158	63	66	BK. 011-2層	石器	チエス・ア・ヌス-2A-2B-チヤー卜	北山地(櫛古部)	中生代 三葉~ジヨ	6.30	5.58	1.66	59.20	
159	64	67	BK. R17-4層	石器	チエス・ア・ヌス-2A-2B-チヤー卜	北山地(櫛古部)	中生代 三葉~ジヨ	5.89	6.82	2.41	102.90	
160	64	67	BK. Q17	石器	チエス・ア・ヌス-2A-2B-チヤー卜	北山地(櫛古部)	中生代 三葉~ジヨ	9.16	3.53	1.26	67.20	
161	64	67	BK. Q18-2層	石器	チエス・ア・ヌス-2A-2B-チヤー卜	北山地(櫛古部)	中生代 三葉~ジヨ	(4.72)	12.29	43.40	刀頭先端部	

第5表 石器観察表(4)

第5表 石器観察表(5)

No	圖 號	出土地點・層位	器 種	石 質	形 狀	產 地	生 成年 代	長 さ (mm)	幅 (mm)	厚 さ (mm)	備 考	
162	64	61 BK. Y32. 2層	弧形トレ 石斧	泥灰岩	不明	古代 北山地Ⅱ带 北山地Ⅲ带	古代 オカルドビズ 瓦片	4.78	3.21	280.00	無壓欠落	
163	64	61 BK. 表上中	石斧	泥灰岩	不明	古代 北山地Ⅱ带 北山地Ⅲ带	古代 オカルドビズ 瓦片	4.11	2.70	138.50	無壓欠落	
164	64	61 BK. T23. 3層	石斧	DA.岩	波打ルメイ岩	古代 北山地Ⅱ带 北山地Ⅲ带	古代 オカルドビズ 瓦片	6.07	5.20	600.00	無壓欠落	
165	64	61 BK. 018. 4層	石斧	DA.岩	波打ルメイ岩	古代 北山地Ⅱ带 北山地Ⅲ带	古代 オカルドビズ 瓦片	6.24	4.72	13.65	151.90	無壓欠落
166	64	61 BK. 2層	石斧	DA.岩	波打ルメイ岩	古代 北山地Ⅱ带 北山地Ⅲ带	古代 オカルドビズ 瓦片	6.08	4.71	13.50	138.90	無壓欠落
167	65	67 BK. 3層	石斧	DA.岩	波打ルメイ岩 ～横山角石	古代 北山地Ⅱ带 北山地Ⅲ带	古代 オカルドビズ 瓦片	10.12	8.03	2.06	10	
168	65	67 BK. 4層	石斧	DA.岩	波打ルメイ岩 ～横山角石	古代 北山地Ⅱ带 北山地Ⅲ带	古代 オカルドビズ 瓦片	13.26	4.83	3.96	10.00	
169	65	67 BK. 表上中	石斧	DA.岩	波打ルメイ岩 ～横山角石	古代 北山地Ⅱ带 北山地Ⅲ带	古代 オカルドビズ 瓦片	16.73	7.02	5.70	651.00	無壓欠落
170	65	67 2層	石斧	DA.岩	波打ルメイ岩 ～横山角石	古代 北山地Ⅱ带 北山地Ⅲ带	古代 オカルドビズ 瓦片	6.57	3.01	1.30	20.40	
171	65	67 BK. 表上中	石斧	燧灰岩	波打ルメイ岩 ～横山角石	古代 北山地Ⅱ带 北山地Ⅲ带	古代 オカルドビズ 瓦片	7.26	3.69	2.03	82.50	
172	66	67 BK. R23. 3層	弧形トレ 石斧	DA.岩	波打ルメイ岩 ～横山角石	古代 北山地Ⅱ带 北山地Ⅲ带	古代 オカルドビズ 瓦片	8.55	3.68	1.54	73.80	
173	66	67 BK. 4層	石斧	DA.岩	波打ルメイ岩 ～横山角石	古代 北山地Ⅱ带 北山地Ⅲ带	古代 オカルドビズ 瓦片	8.19	6.91	13.08	174.60	無壓欠落
174	66	67 BK. 519. 2層	石斧	DA.岩	波打ルメイ岩 ～横山角石	古代 北山地Ⅱ带 北山地Ⅲ带	古代 オカルドビズ 瓦片	10.48	6.03	15.03	150.00	無壓欠落
175	66	67 CK. 1.12. 2層	石斧	DA.岩	波打ルメイ岩 ～横山角石	古代 北山地Ⅱ带 北山地Ⅲ带	古代 オカルドビズ 瓦片	14.48	3.93	1.76	37.40	無壓欠落
176	66	67 BK. 223. 3層	石斧	DA.岩	波打ルメイ岩 ～横山角石	古代 北山地Ⅱ带 北山地Ⅲ带	古代 オカルドビズ 瓦片	6.69	4.03	240.00	無壓欠落	
177	66	67 BK. R16. 3層	弧形トレ 石斧	DA.岩	波打ルメイ岩 ～横山角石	古代 北山地Ⅱ带 北山地Ⅲ带	古代 オカルドビズ 瓦片	7.50	4.33	1.94	161.00	無壓欠落
178	66	68 BK. 2層	石斧	燧灰岩	波打ルメイ岩 ～横山角石	古代 北山地Ⅱ带 北山地Ⅲ带	古代 オカルドビズ 瓦片	6.11	5.79	2.65	147.50	
179	66	68 BK. R23. 3層	石斧	波打ルメイ岩 ～横山角石	波打ルメイ岩 ～横山角石	古代 北山地Ⅱ带 北山地Ⅲ带	古代 オカルドビズ 瓦片	8.31	7.82	4.45	480.00	
180	66	68 BK. 518. 4層	石斧	燧灰岩	波打ルメイ岩 ～横山角石	古代 北山地Ⅱ带 北山地Ⅲ带	古代 オカルドビズ 瓦片	7.84	6.65	5.69	450.00	
181	67	68 BK. S20	範石	波打ルメイ岩 ～横山角石	波打ルメイ岩 ～横山角石	古代 北山地Ⅱ带 北山地Ⅲ带	古代 オカルドビズ 瓦片	10.08	8.32	3.96	590.00	
182	67	68 BK. R16. 表上中	範石	波打ルメイ岩 ～横山角石	波打ルメイ岩 ～横山角石	古代 北山地Ⅱ带 北山地Ⅲ带	古代 オカルドビズ 瓦片	11.11	7.66	3.69	630.00	
183	67	68 BK. 018. 4層	範石	波打ルメイ岩 ～横山角石	波打ルメイ岩 ～横山角石	古代 北山地Ⅱ带 北山地Ⅲ带	古代 オカルドビズ 瓦片	9.96	6.71	3.40	620.00	
184	67	68 BK. 518. 木根中	範石	波打ルメイ岩 ～横山角石	波打ルメイ岩 ～横山角石	古代 北山地Ⅱ带 北山地Ⅲ带	古代 オカルドビズ 瓦片	12.59	7.01	6.12	1,060.00	
185	67	68 BK. 表上中	範石	波打ルメイ岩 ～横山角石	波打ルメイ岩 ～横山角石	古代 北山地Ⅱ带 北山地Ⅲ带	古代 オカルドビズ 瓦片	11.10	7.20	5.74	860.00	
186	67	68 BK. R18. 4層	範石	波打ルメイ岩 ～横山角石	波打ルメイ岩 ～横山角石	古代 北山地Ⅱ带 北山地Ⅲ带	古代 オカルドビズ 瓦片	10.01	7.82	4.28	540.00	

第五表 石器観察表(6)

No	図版 写真	出土地点・層位	器種	石質	産地	生成年代	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重 量 (g)	備 考
188	69 CES K10 表土中	鐵石	チベット	石英岩	北山地 I (久須音体)	中生代 白亜紀前	11.72	8.76	6.62	1,260.00	
189	69 CES K10 表土中	鐵石	チベット	石英岩	北山地 I (久須音体)	中生代 白亜紀前	9.06	6.41	5.70	660.00	
190	69 CES S17 4層	鐵石	チベット	石英岩	ノックガル体	中生代 白亜紀前	7.32	5.05	3.40	210.00	
191	69 CES R23 3層	鐵石	チベット	石英岩	北山地 III (ノックガル体)	中生代 白亜紀前	7.20	10.00	3.39	400.00	
192	69 AEC W27	鐵石	チベット	石英岩	北山地 III (ノックガル体)	中生代 白亜紀前	14.00	8.19	6.44	1,110.00	
193	69 CES K18 2層	鐵石	チベット	石英岩	北山地 III (ノックガル体)	中生代 白亜紀前	11.13	7.63	3.75	560.00	
194	69 CES K18 2層	鐵石	チベット	石英岩	北山地 III (ノックガル体)	中生代 白亜紀前	9.87	7.80	3.42	480.00	
195	69 CES R17 4層	鐵石	チベット	石英岩	ノックガル体	中生代 白亜紀前	8.60	6.12	4.20	310.00	
196	70 CES R16 3層	鐵石	チベット	石英岩	北山地 III (ノックガル体)	中生代 白亜紀前	7.30	6.05	5.70	370.00	
197	70 CES R17 3層	鐵石	チベット	石英岩	北山地 III (ノックガル体)	中生代 白亜紀前	6.81	6.59	2.99	240.00	
198	70 CES R17 3層	鐵石	チベット	石英岩	北山地 III (ノックガル体)	中生代 白亜紀前	7.72	8.13	4.47	520.00	
199	71 CES R18 木原中	鐵石	チベット	石英岩	ノックガル体	中生代 白亜紀前	10.77	8.58	2.85	470.00	
200	71 CES M17 4層	鐵石	チベット	石英岩	北山地 III (ノックガル体)	中生代 白亜紀前	13.10	7.32	4.20	560.00	
201	71 CES M15 木原中	鐵石	チベット	石英岩	北山地 III (ノックガル体)	中生代 白亜紀前	7.40	6.73	6.16	450.00	
202	71 CES R17 木原中	鐵石	チベット	石英岩	北山地 III (ノックガル体)	中生代 白亜紀前	4.92	4.52	4.29	130.00	
203	71 CES R19 4層	鐵石	チベット	石英岩	北山地 III (ノックガル体)	中生代 白亜紀前	9.00	6.12	2.75	200.00	
204	71 AEC U26 4層	鐵石	チベット	石英岩	北山地 I (久須音体)	中生代 白亜紀前	11.83	10.51	5.67	1,030.00	
205	71 CES R12 3層	鐵石	チベット	石英岩	ノックガル体	中生代 白亜紀前	7.92	8.76	2.71	260.00	
206	72 CES S19 3層	鐵石	チベット	石英岩	北山地 III (ノックガル体)	中生代 白亜紀前	6.77	6.12	2.21	114.70	
207	72 CES S19 4層	鐵石	チベット	石英岩	ノックガル体	中生代 白亜紀前	6.77	(3.06)	(3.21)	113.40	
208	72 CES O18 4層	鐵石	チベット	花崗岩	北山地 III (ノックガル体)	中生代 白亜紀前	6.31	7.68	6.67	440.00	
209	72 CES R16 3層	鐵石	チベット	石英岩	北山地 I (久須音体)	中生代 白亜紀前	13.90	7.69	4.23	800.00	
210	72 CES R16 3層	鐵石	チベット	砂岩	北山地 III (ノックガル体)	中生代 三疊紀～侏羅紀	14.23	7.19	4.55	680.00	
211	72 CES Q17-Q18 3層	鐵石	チベット	砂岩	ノックガル体	中生代 白亜紀前	13.30	7.50	4.99	830.00	
212	72 CES R16 4層	鐵石	チベット	はん岩	北山地 I (久須音体)	中生代 白亜紀前	15.66	7.50	4.77	840.00	
213	72 CES R17 4層	鐵石	チベット	砂岩	北山地 III (ノックガル体)	中生代 三疊紀～侏羅紀	13.80	8.90	4.42	830.00	

第5表 石器観察表(7)

No	層 高	出土地点・部位	器 種	石 質	原 地	生 成年 代	長 さ (cm)	幅 (cm)	厚 さ (mm)	備 考
214	73	IK8 M18 4層	磨石	砂岩	北山地(櫻谷西面)	中生代	13.10	7.10	5.90	630.00
215	73	IK8 2号 2層	鐵鉗石 鉗子	花崗岩	北山地(櫻谷西面) 有孔(鉗子)	中生代	10.60	8.94	5.17	720.00
216	73	IK8 1号 2層	鉗子	砂岩	北山地(櫻谷西面)	中生代	10.83	13.18	5.57	990.00
217	73	IK8 917 4層	研磨器	ホルンフェルス	北山地(櫻谷西面)	中生代	11.10	9.14	5.57	710.00
218	73	IK8 017 4層	研磨器	砂岩	北山地(櫻谷西面)	中生代	11.72	12.95	7.12	1,180.00
219	73	IK8 P19 4層	研磨器	砂岩	北山地(櫻谷西面) 有孔(鉗子)	中生代	9.98	11.82	3.46	530.00
220	73	IK8 2号 121 1号	鉗子	砂岩	北山地(櫻谷西面)	中生代	8.76	10.67	3.05	290.00
221	75	IK8 109 3層	研磨器	ホルンフェルス	北山地(櫻谷西面)	中生代	9.80	8.90	3.40	260.00
222	75	IK8 123 3層	鉗子	ホルンフェルス	北山地(櫻谷西面)	中生代	10.22	7.52	3.16	270.00
223	75	IK8 Q17 3層	弓箭頭	石器	北山地(櫻谷西面)	中生代	9.97	6.52	3.25	250.00
224	75	IK8 S21 3層	弓箭頭	石器	北山地(櫻谷西面)	中生代	12.10	3.75	1.50	250.00
225	75	IK8 S20 4層	弓箭頭	石器	北山地(櫻谷西面)	中生代	6.64	7.95	1.82	90.00
226	75	IK8 S24 K24 3層	鉗子	ホルンフェルス(原鉗子)	北山地(櫻谷西面)	中生代	9.24	7.01	2.36	140.00
227	76	IK8 123 木組中	弓箭頭	石器	北山地(櫻谷西面)	中生代	11.12	5.67	2.37	176.00
228	76	IK8 1号 2層	弓箭頭	石器	北山地(櫻谷西面)	中生代	10.26	5.66	2.53	190.00
229	76	IK8 道標輪山中	弓箭頭	ホルンフェルス	北山地(櫻谷西面)	中生代	6.15	5.89	2.49	110.00
230	76	IK8 123 3層 木組	弓箭頭	石器	北山地(櫻谷西面)	中生代	16.09	8.81	5.46	270.00
231	76	IK8 827	弓箭頭	石器	北山地(櫻谷西面)	中生代	37.80	25.40	6.40	6,350.00
232	77	表土中	弓箭頭	石器	櫻園(原保村付近)	不明	23.90	20.25	6.45	3,080.00
233	77	IK8 表土中	石皿	花崗岩	北山地(原保村付近)	中生代	23.60	17.30	8.20	5,950.00
234	77	IK8 1号 1層	石皿	花崗岩	北山地(原保村付近)	中生代	37.00	21.60	11.40	13,600.00
235	77	IK8 K11 表土中	石皿	花崗岩	北山地(原保村付近)	中生代	21.20	20.10	7.10	4,810.00
236	78	IK8 N19	石皿	花崗岩	北山地(原保村付近)	中生代	23.90	(11.90)	(15.70)	29,900.00

遺構外 石製品

No	図 版	写 真	出土地点・層位	器 種	石 質	産 地	生 成年 代	長 さ (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	重 量 (g)	備 考
237	78	15	IGK-123・124 表土中	石棒	砂岩	淀山地(櫛古西面)	中生代 三疊～シル	33.5(50)	12.50	7.30	3,150(30)	
238	78	15	IGK-116 チ・296	試掘トレン 円盤状石製品	花崗岩	淀山地Ⅲ(櫛古西面) 剖面	白亜紀後 白亜紀初期	4.00	3.94	0.79	10.50	
239	78	15	IGK-116 チ・296	試掘トレン 円盤状石製品	頁岩	淀山地(櫛古西面)	中生代 三疊～シル	3.71	3.28	0.75	15.50	
240	78	15	IGK-119 チ・296	試掘トレン 円盤状石製品	頁岩	淀山地(櫛古西面)	中生代 三疊～シル	2.92	3.08	1.27	12.30	

遺構外 その他

No	図 版	写 真	出土地点・層位	器 種	石 質	産 地	生 成年 代	長 さ (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	重 量 (g)	備 考
241	78	15	IGK-123	砾石	花崗岩	和田(火山)	新生代 第四紀 十 世紀	3.26	3.20	2.43	5.00	